

仙台市文化財調査報告書第 411 集

# 西台畠遺跡第 4・5・7 次調査

—仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書VII—

2013 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

独立行政法人 都市再生機構



仙台市文化財調査報告書第 411 集

# 西台畠遺跡第 4・5・7 次調査

—仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書VII—

2013 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

独立行政法人 都市再生機構





第4次調査(V区西半)古墳時代～古代面全景(東から)



第5次調査(V区)SD61全景(南東から)



第5次調査(V区)SD61遺物(E-060)出土状況(北東から)



SD61出土遺物(第3～第5・第7次調査) 右下 把手付中空内面硯(径10.30cm)

## 序 文

仙台市の文化財保護行政の推進につきまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちの残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら、次の世代に引き継いでいくことは、これからの方々の「まちづくり」に欠かせない大切なことと考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺」の西側で都市整備が進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴う発掘調査の中で、平成 13・17・19 年に実施された西台畠遺跡の第 4・5・7 次発掘調査の成果をまとめたものです。あすと長町土地区画整理事業に係する調査報告書としては、これが 7 冊目となります。

西台畠遺跡は、昭和 32 年、煉瓦工場地内の粘土採掘中に弥生土器が発見され、東北大学の伊東信雄先生により出土状況の調査が行われ、遺跡の所在が明らかになりました。この時の資料は、弥生時代中期の仙台平野における葬制を考える上で重要な資料となっており、学史的にも注目される遺跡であります。

区画整理事業に伴う発掘調査は平成 10 年から開始され、古墳時代後期から奈良時代までとしては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。ここに報告する調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、仙台市では、平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分に発生した東日本大震災からの復興に向か、「ともに前へ仙台～3・11からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。未曾有の大震災から 2 年を迎えたが、復興はまだ道半ばといえます。

そうした中、本報告書の刊行にあたりまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成 25 年 3 月

仙台市教育委員会

教育長 青沼一民



## 例　　言

- 1.本書は、「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴い仙台市教育委員会が実施した西台烟遺跡における発掘調査のうち、2000～2007年に実地した、第4次(V区西側・個人住宅調査)、第5次調査(V区下層調査・17街区範囲確認調査)、第7次調査(17街区)および、第3次調査の一部(V区東側)、平成15年度に行った個人住宅調査の成果を収録したものである。
- 2.本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、国際文化財株式会社が行なった。
- 3.本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 工藤 信一郎、黒田 翁章の監理の下、遺構図トレス、出土遺物の登録・実測およびトレス・写真撮影、執筆、編集に至るまでの作業を国際文化財株式会社が担当した。
- 4.本書の執筆・図版作成は、第1章・第3章を工藤 信一郎、第2章・第4章を長林 大(国際文化財株式会社、以下同じ)が担当した。第5章の遺構事実記載、石器を除く遺物事実記載は、第1節・2節を長林 大、第3節1を土 任隆、第3節2・3・4節を田口 雄一が担当した。石器事実記載は横井 奏が担当した。第6章は、工藤 信一郎、長林 大、田口 雄一が担当し、土 任隆が協力した。編集は、長林 大が担当し、土 任隆、田口 雄一が協力した。
- 5.石器・石製品の石材の同定については、荒井 格、黒田 翁章(仙台市教育委員会生涯学習部文化財課)の指導を受けながら、横井 奏が行なった。
- 6.発掘調査および、整理作業に際し、以下のの方々から多くの御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(五十音順・敬称略)  
和泉(旧姓伊勢)和歌子、伊藤 玄三、今泉 隆雄、岡田 茂弘、(故)工藤 雅樹、桑原 滋郎、進藤 秋輝、須藤 隆早坂 春一、藤沼 邦彦、松本 秀明、宮本 長二郎、渡部 育子
- 7.本書の調査成果については、これまで現地説明会資料や古代城柵官衙遺跡検討会などにおいて、その内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
- 8.調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　例

- 1.第1図・第3図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1:10,000、「仙台」1:50,000を使用した。
- 2.遺構図中の座標値は、世界測地系「平面直角座標第X系」を基準としている。図中および本文記載の方位北は、基本座標北を基準としているが、それ以外の図に関しては別途、以下に示した方位を表示した。  
**(A) 方位**
- 3.本文中の土色の記載には「新版 標準土色帖」2000年度版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
- 4.断面図の数値は、海拔高度(T.P)を示す。
- 5.調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。  
SA:材木列 SD:溝跡 SE:井戸跡 SI:堅穴住居跡・堅穴遺構 SK:土坑 SM:小溝状遺構群 SR:河川跡  
SX:性格不明遺構 Pit:ピット
- 6.堅穴住居跡における主軸方位の算出、壁面呼称の基準については『西台烟遺跡第1・2次調査』(仙台市教委2010b)に準じた。

7. 遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。



柱痕跡



被熱範囲

8. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別毎にアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたり遺物記号Kの後に小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。

- A: 繩文土器 B: 弥生土器 C: 土師器(非クロ口調整) D: 土師器(クロ口調整) E: 須恵器 F: 軒丸瓦 G: 平瓦  
Ka: 打製石器 Kc: 碓石器 Kd: 石製品 N: 金属製品 P: 土製品

9. 遺物実測図の縮尺は、打製石器は2/3、このほかは1/3とした。

10. 土師器の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のものについては、その都度図中に示した。



黒色処理

11. 土師器の器種および部位呼称、計測位置は『西台畠遺跡第1・2次調査』(仙台市教委 前掲)に準じた。

12. 本書における石器の器種分類については、『西台畠遺跡第1・2次調査』(仙台市教委 前掲)に準じた。

13. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



節理



摩滅



磨痕



敲打痕



火ハネ



加热処理



火熱による  
黒変



二重バティナ

14. 遺構・遺物の観察表内における括弧付の計測地値は、土器類の各径について推定、その他については残存値を示す。

15. 揭載した遺物写真の縮尺は原則として遺物実測図に準じた。但し、その縮尺での掲載が困難な場合は、適宜縮尺を変更した。

16. 本文中の「灰白色火山灰」(山田・庄司 1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中心部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。

山田一郎・庄司貞雄 1980『宮城県に分布する灰白色火山灰』『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979』

仙台市教育委員会 2000『沿岸遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史 2003『古代東北の広域テフラをめぐる問題-十和田aと白頭山(長白山)を中心に-』『日本律令の展開』吉川弘文館

## 目 次

卷頭カラー写真	
序文	
例言	
凡例	
第1章 調査にいたる経過	1
第1節 調査事由	1
第2節 調査要項	1
(1)第3次調査(平成12年度)調査体制	2
(2)第4次調査(平成13年度)調査体制	2
(3)第5次調査(平成17年度)調査体制	2
(4)第7次調査(平成19年度)調査体制	2
(5)調査報告書作成体制(平成23年度)	2
第3節 個人住宅調査及び遺構確認調査について	3
(1)個人住宅調査について(第4次調査ほか)	3
(2)遺構確認調査(第5次調査)	4
第2章 遺跡の立地と環境	5
第3章 調査の方法と概要	6
第1節 調査の方法	6
(1)調査区の設定	6
第2節 調査概要	7
(1)調査経過	7
(2)測量基準・図面の作成	7
(3)遺物の取り上げ・調査記録の作成	7
(4)遺構登録番号	8
(5)調査報告書作成作業	8
第4章 基本層序	8
第5章 検出遺構と出土遺物	23
第1節 個人住宅建設を対象とした調査	23
第2節 確認調査で検出された遺構	26
第3節 古墳時代～中世の遺構と遺物	28
1.古代～中世の遺構と遺物	28
(1)竪穴遺構	31

(2) 挖立柱建物跡	33
(3) 溝跡	41
(4) 井戸跡	46
(5) 土坑	48
(6) ピット	54
(7) 性格不明遺構	62
(8) 小溝状遺構群	63
(9) 河川跡	64
2. 古墳時代～古代の遺構と遺物	65
(1) 積穴住居跡	65
(2) 材木列跡	255
(3) 溝跡	257
(4) 土坑	282
(5) ピット	284
(6) 性格不明遺構	288
(7) 小溝状遺構群	289
3. 遺構外出土遺物	292
(1) 土師器	292
(2) 須恵器	293
(3) 上製品	293
(4) 石製品	293
(5) 刃片石器	293
(6) 碠石器	293
第4節 縄文時代～弥生時代の遺構と遺物: IV層～XIV層の調査	298
1. 検出遺構	298
(1) VIa層上面検出遺構	298
(2) Xb層上面検出遺構	301
2. 出土遺物	301
(1) VIa層出土遺物	301
(2) VII層出土遺物	301
(3) X層出土遺物	303
(4) 層位不明出土遺物	303
第6章 総括	308
第1節 出土遺物	308
1.1期: 縄文時代晚期の遺物	309
(1) 1bⅠ期: 縄文時代晚期初頭～前葉	309
(2) 1bⅣ期: 縄文時代晚期末葉	309
(3) 1bⅢ期: 縄文時代晚期	309
(4) 石器	312

2.2期:弥生時代中期の遺物	312
(1)2期:弥生時代中期の土器	312
(2)石器	312
3.3期:古墳時代前期の土器	312
4.4～5期:古墳時代後期～奈良時代の土器	313
(1)4a期:住社式期新段階の土器	314
(2)4b期:栗廻式期の土器	315
(3)5a期:郡山I期官衙期の土器	315
(4)5b期:郡山II期官衙期の土器	323
第2節 検出遺構	324
1.1～2期:縄文時代後期～弥生時代中期	324
2.3期:古墳時代前期	324
3.4～5期:古墳時代後期～奈良時代	325
(1)竪穴住居跡について	325
1)分布	325
2)主軸方位	327
3)平面形状・規模	327
4)カマド	328
5)その他の施設	328
4.6～7期:平安時代～中世	328
5.区画施設について	334
6.西台畠遺跡出土の陶器について	337
第3節 まとめ	338

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図	3	第12図 個人住宅調査D・E区平面・断面図	24
第2図 個人住宅調査・確認調査トレーニング配置図	4	第13図 個人住宅調査F区平面・断面図	25
第3図 西台畠遺跡と周辺の遺跡	5	第14図 4～7トレーニング	27
第4図 調査区・グリッド配置図	6	第15図 8・9トレーニング	28
第5図 基本順序V区(1)	11・12	第16図 VI区IV層上面遺構配置図(古代～中世)	29
第6図 基本順序V区(2)	13・14	第17図 17街区IV層上面遺構配置図	
第7図 基本順序V区(3)・17街区(1)	15・16	(古代～中世)(1)	30
第8図 基本順序17街区(2)	17・18	第18図 17街区IV層上面遺構配置図(古代～中世)(2)	31
第9図 基本順序柱状模式図(南北ライン)	20	第19図 SI107竪穴遺構	32
第10図 基本順序柱状模式図 (南北・東西ライン)	21・22	第20図 SI107竪穴遺構出土遺物	33
第11図 個人住宅調査A～C区平面図	23	第21図 SI108竪穴遺構・出土遺物	34
		第22図 SB5掘立柱建物跡	35

第23図 SB6掘立柱建物跡(1) .....	36
第24図 SB6掘立柱建物跡(2) .....	37
第25図 SB7掘立柱建物跡 .....	38
第26図 SB8掘立柱建物跡 .....	39
第27図 SB9掘立柱建物跡(1) .....	40
第28図 SB9掘立柱建物跡(2) .....	41
第29図 VI区溝跡 .....	42
第30図 17街区溝跡 .....	43
第31図 溝跡出土遺物(1) .....	44
第32図 溝跡出土遺物(2) .....	45
第33図 溝跡出土遺物(3) .....	46
第34図 SK67井戸跡 .....	46
第35図 SK67井戸跡出土遺物 .....	47
第36図 SK124井戸跡 .....	47
第37図 VI区土坑(1) .....	48
第38図 VI区土坑(2)・17街区土坑(1) .....	49
第39図 17街区土坑(2) .....	50
第40図 17街区土坑(3) .....	51
第41図 17街区土坑(4) .....	52
第42図 土坑出土遺物 .....	54
第43図 ピット出土遺物 .....	54
第44図 VI区ピット .....	55
第45図 17街区ピット(1) .....	56
第46図 17街区ピット(2) .....	57
第47図 17街区ピット(3) .....	58
第48図 性格不明遺構 .....	62
第49図 小溝状遺構群 .....	63
第50図 河川跡 .....	64
第51図 河川跡出土遺物 .....	65
第52図 VI区IV層上面遺構配置図 (古墳時代～古代) .....	66
第53図 17街区IV層上面遺構配置図 (古墳時代～古代) .....	67・68
第54図 VI区下層調査IV層検出遺構配置図 (古墳時代～古代) .....	69
第55図 SI70豎穴住居跡(1) .....	71
第56図 SI70豎穴住居跡(2) .....	72
第57図 SI70豎穴住居跡出土遺物(1) .....	73
第58図 SI70豎穴住居跡出土遺物(2) .....	74
第59図 SI71豎穴住居跡 .....	75
第60図 SI72豎穴住居跡 .....	76
第61図 SI72豎穴住居跡出土遺物 .....	78
第62図 SI73豎穴住居跡(1) .....	81
第63図 SI73豎穴住居跡(2) .....	82
第64図 SI73豎穴住居跡出土遺物(1) .....	84
第65図 SI73豎穴住居跡出土遺物(2) .....	85
第66図 SI73豎穴住居跡出土遺物(3) .....	86
第67図 SI73豎穴住居跡出土遺物(4) .....	87
第68図 SI74豎穴住居跡 .....	88
第69図 SI75豎穴住居跡 .....	90
第70図 SI75豎穴住居跡出土遺物 .....	91
第71図 SI76豎穴住居跡(1) .....	93
第72図 SI76豎穴住居跡(2) .....	94
第73図 SI76豎穴住居跡(3) .....	95
第74図 SI76豎穴住居跡出土遺物(1) .....	96
第75図 SI76豎穴住居跡出土遺物(2) .....	97
第76図 SI76豎穴住居跡出土遺物(3) .....	98
第77図 SI76豎穴住居跡出土遺物(4) .....	99
第78図 SI77豎穴住居跡(1) .....	100
第79図 SI77豎穴住居跡(2) .....	101
第80図 SI77豎穴住居跡(3) .....	102
第81図 SI77豎穴住居跡(4) .....	103
第82図 SI77豎穴住居跡出土遺物 .....	104
第83図 SI78豎穴住居跡 .....	106
第84図 SI78豎穴住居跡出土遺物(1) .....	107
第85図 SI78豎穴住居跡出土遺物(2) .....	108
第86図 SI79豎穴住居跡(1) .....	109
第87図 SI79豎穴住居跡(2)・出土遺物 .....	110
第88図 SI80豎穴住居跡(1) .....	113
第89図 SI80豎穴住居跡(2) .....	114
第90図 SI80豎穴住居跡(3) .....	115
第91図 SI80豎穴住居跡(4) .....	116
第92図 SI80豎穴住居跡出土遺物(1) .....	117
第93図 SI80豎穴住居跡出土遺物(2) .....	118
第94図 SI80豎穴住居跡出土遺物(3) .....	119
第95図 SI80豎穴住居跡出土遺物(4) .....	120
第96図 SI81豎穴住居跡(1) .....	123
第97図 SI81豎穴住居跡(2) .....	124

第98図	SI81竪穴住居跡出土遺物(1) ······	126
第99図	SI81竪穴住居跡出土遺物(2) ······	127
第100図	SI81竪穴住居跡出土遺物(3) ······	128
第101図	SI81竪穴住居跡出土遺物(4) ······	129
第102図	SI81竪穴住居跡出土遺物(5) ······	130
第103図	SI81竪穴住居跡出土遺物(6) ······	131
第104図	SI81竪穴住居跡出土遺物(7) ······	132
第105図	SI82竪穴住居跡(1) ······	134
第106図	SI82竪穴住居跡(2) ······	135
第107図	SI82竪穴住居跡出土遺物(1) ······	136
第108図	SI82竪穴住居跡出土遺物(2) ······	137
第109図	SI83竪穴住居跡(1) ······	138
第110図	SI83竪穴住居跡(2) ······	139
第111図	SI84竪穴住居跡(1) ······	140
第112図	SI84竪穴住居跡(2)・出土遺物(1) ······	141
第113図	SI84竪穴住居跡出土遺物(2) ······	142
第114図	SI85竪穴住居跡 ······	143
第115図	SI85竪穴住居跡出土遺物 ······	144
第116図	SI86竪穴住居跡(1) ······	146
第117図	SI86竪穴住居跡(2) ······	147
第118図	SI86竪穴住居跡(3) ······	148
第119図	SI86竪穴住居跡出土遺物 ······	149
第120図	SI87竪穴住居跡(1) ······	151
第121図	SI87竪穴住居跡(2) ······	152
第122図	SI87竪穴住居跡出土遺物(1) ······	153
第123図	SI87竪穴住居跡出土遺物(2) ······	154
第124図	SI87竪穴住居跡出土遺物(3) ······	155
第125図	SI88竪穴住居跡 ······	157
第126図	SI88竪穴住居跡出土遺物(1) ······	158
第127図	SI88竪穴住居跡出土遺物(2) ······	159
第128図	SI89竪穴住居跡(1) ······	160
第129図	SI89竪穴住居跡(2) ······	161
第130図	SI89竪穴住居跡出土遺物 ······	162
第131図	SI90竪穴住居跡 ······	163
第132図	SI90竪穴住居跡出土遺物 ······	164
第133図	SI91竪穴住居跡 ······	165
第134図	SI92竪穴住居跡 ······	166
第135図	SI92竪穴住居跡出土遺物 ······	167
第136図	SI93竪穴住居跡(1) ······	168
第137図	SI93竪穴住居跡(2)・出土遺物 ······	169
第138図	SI94竪穴住居跡(1) ······	170
第139図	SI94竪穴住居跡(2) ······	171
第140図	SI95竪穴住居跡(1) ······	172
第141図	SI95竪穴住居跡(2) ······	173
第142図	SI95竪穴住居跡出土遺物 ······	174
第143図	SI101竪穴住居跡 ······	175
第144図	SI102竪穴住居跡・出土遺物 ······	177
第145図	SI103竪穴住居跡 ······	178
第146図	SI103竪穴住居跡出土遺物 ······	179
第147図	SI104竪穴住居跡 ······	181
第148図	SI104竪穴住居跡出土遺物(1) ······	182
第149図	SI104竪穴住居跡出土遺物(2) ······	183
第150図	SI105竪穴住居跡(1) ······	184
第151図	SI105竪穴住居跡(2) ······	185
第152図	SI105竪穴住居跡出土遺物 ······	187
第153図	SI106竪穴住居跡 ······	188
第154図	SI109竪穴住居跡(1) ······	190
第155図	SI109竪穴住居跡(2) ······	191
第156図	SI109竪穴住居跡出土遺物(1) ······	192
第157図	SI109竪穴住居跡出土遺物(2) ······	193
第158図	SI109竪穴住居跡出土遺物(3) ······	194
第159図	SI110竪穴住居跡(1) ······	196
第160図	SI110竪穴住居跡(2) ······	197
第161図	SI110竪穴住居跡出土遺物(1) ······	198
第162図	SI110竪穴住居跡出土遺物(2) ······	199
第163図	SI111竪穴住居跡 ······	201
第164図	SI111竪穴住居跡出土遺物(1) ······	202
第165図	SI111竪穴住居跡出土遺物(2) ······	203
第166図	SI111竪穴住居跡出土遺物(3) ······	204
第167図	SI112竪穴住居跡 ······	205
第168図	SI113竪穴住居跡(1) ······	207
第169図	SI113竪穴住居跡(2) ······	208
第170図	SI113竪穴住居跡出土遺物(1) ······	209
第171図	SI113竪穴住居跡出土遺物(2) ······	210
第172図	SI113竪穴住居跡出土遺物(3) ······	211
第173図	SI113竪穴住居跡出土遺物(4) ······	212
第174図	SI114竪穴住居跡 ······	213
第175図	SI114竪穴住居跡出土遺物 ······	214

第176図	SI115竪穴住居跡	215
第177図	SI115竪穴住居跡出土遺物(1)	217
第178図	SI115竪穴住居跡出土遺物(2)	218
第179図	SI116竪穴住居跡	219
第180図	SI116竪穴住居跡出土遺物	220
第181図	SI117竪穴住居跡(1)	221
第182図	SI117竪穴住居跡(2)	222
第183図	SI117竪穴住居跡出土遺物	223
第184図	SI118竪穴住居跡(1)	225
第185図	SI118竪穴住居跡(2)	226
第186図	SI118竪穴住居跡出土遺物(1)	227
第187図	SI118竪穴住居跡出土遺物(2)	228
第188図	SI119竪穴住居跡(1)	229
第189図	SI119竪穴住居跡(2)	230
第190図	SI119竪穴住居跡出土遺物	231
第191図	SI120竪穴住居跡(1)	233
第192図	SI120竪穴住居跡(2)	234
第193図	SI120竪穴住居跡出土遺物	235
第194図	SI121竪穴住居跡(1)	237
第195図	SI121竪穴住居跡(2)	238
第196図	SI121竪穴住居跡出土遺物(1)	239
第197図	SI121竪穴住居跡出土遺物(2)	240
第198図	SI122竪穴住居跡(1)	241
第199図	SI122竪穴住居跡(2)	242
第200図	SI122竪穴住居跡出土遺物(1)	243
第201図	SI122竪穴住居跡出土遺物(2)	244
第202図	SI123竪穴住居跡	245
第203図	SI124竪穴住居跡	246
第204図	SI125竪穴住居跡(1)	247
第205図	SI125竪穴住居跡(2)	248
第206図	SI125竪穴住居跡出土遺物	249
第207図	SI126竪穴住居跡	250
第208図	SI126竪穴住居跡出土遺物	251
第209図	SI127竪穴住居跡	252
第210図	SI127竪穴住居跡出土遺物	253
第211図	SI128竪穴住居跡	254
第212図	SI128竪穴住居跡出土遺物	255
第213図	木材例	256
第214図	木材例出土遺物	257
第215図	SD61溝跡(1)	259
第216図	SD61溝跡(2)・遺物出土状況(1)	260
第217図	SD61溝跡(3)・遺物出土状況(2)	261
第218図	SD61溝跡出土遺物(1)	264
第219図	SD61溝跡出土遺物(2)	265
第220図	SD61溝跡出土遺物(3)	266
第221図	SD61溝跡出土遺物(4)	267
第222図	SD61溝跡出土遺物(5)	268
第223図	SD61溝跡出土遺物(6)	269
第224図	SD61溝跡出土遺物(7)	270
第225図	SD61溝跡出土遺物(8)	271
第226図	SD61溝跡出土遺物(9)	272
第227図	SD61溝跡出土遺物(10)	273
第228図	SD61溝跡出土遺物(11)	274
第229図	SD61溝跡出土遺物(12)	275
第230図	SD61溝跡出土遺物(13)	276
第231図	SD61溝跡出土遺物(14)	277
第232図	SD61溝跡出土遺物(15)	278
第233図	SD61溝跡出土遺物(16)	279
第234図	SD61溝跡出土遺物(17)	280
第235図	SD74～76・78溝跡・SD75出土遺物	281
第236図	土坑(1)	282
第237図	土坑(2)	283
第238図	V区下層調査・17街区検出ピット(1)	284
第239図	17街区検出ピット(2)	285
第240図	性格不明遺構(1)	288
第241図	性格不明遺構(2)	289
第242図	小溝状遺構群	290
第243図	小溝状遺構群出土遺物	291
第244図	遺構外出土遺物(1)	294
第245図	遺構外出土遺物(2)	295
第246図	遺構外出土遺物(3)	296
第247図	遺構外出土遺物(4)	297
第248図	遺構外出土遺物(5)	298
第249図	V区・17街区Vla層水田跡	299
第250図	17街区Vla層炭化物範囲	300
第251図	17街区Xb層上面検出遺構・出土遺物	302
第252図	Vla層・VIIa層出土遺物	
	VIIb層出土遺物(1)	304

第253図	VIIb層出土遺物(2)	305
第254図	VIIb層・X層・Xb層出土遺物	306
第255図	層位不明出土遺物	307
第256図	下層調査区縄文土器集成	310
第257図	下層調査区弥生土器集成	311
第258図	3期豎穴住居跡土器集成	313
第259図	4～5期豎穴住居跡土器集成(1)	316
第260図	4～5期豎穴住居跡土器集成(2)	317
第261図	4～5期豎穴住居跡土器集成(3)	318
第262図	4～5期豎穴住居跡土器集成(4)	319
第263図	4～5期豎穴住居跡土器集成(5)	320
第264図	4～5期豎穴住居跡土器集成(6)	321
第265図	4～5期豎穴住居跡土器集成(7)	322
第266図	4～5期豎穴住居跡土器集成(8)	323
第267図	4～5期豎穴住居跡の 重複関係模式図	329・330
第268図	4～5期豎穴住居跡変遷図	331・332
第269図	4～5期豎穴住居跡の規模	333
第270図	4～5期豎穴住居跡の床面標高	333
第271図	郡山官衙西辺と西台畠遺跡	335・336
第272図	西台畠遺跡出土の陶器	338

## 写真図版目次

写真図版1	調査区全景・基本層序(1)	345
写真図版2	基本層序(2)	346
写真図版3	基本層序(3)・個人住宅調査(1)	347
写真図版4	個人住宅調査(2)・作業風景・ 古代～中世面全景(1)	348
写真図版5	古代～中世面全景(2)	349
写真図版6	豎穴道構・掘立建物跡(1)	350
写真図版7	掘立建物跡(2)・溝跡(1)	351
写真図版8	溝跡(2)	352
写真図版9	溝跡(3)・井戸跡・土坑(1)	353
写真図版10	土坑(2)	354
写真図版11	土坑(3)	355
写真図版12	土坑(4)	356
写真図版13	土坑(5)	357
写真図版14	土坑(6)・小溝状遺構群・河川跡	358
写真図版15	古墳時代～古代面全景(1)	359
写真図版16	古墳時代～古代面全景(2)	360
写真図版17	古墳時代～古代面全景(3)	361
写真図版18	豎穴住居跡(1)	362
写真図版19	豎穴住居跡(2)	363
写真図版20	豎穴住居跡(3)	364
写真図版21	豎穴住居跡(4)	365
写真図版22	豎穴住居跡(5)	366
写真図版23	豎穴住居跡(6)	367
写真図版24	豎穴住居跡(7)	368
写真図版25	豎穴住居跡(8)	369
写真図版26	豎穴住居跡(9)	370
写真図版27	豎穴住居跡(10)	371
写真図版28	豎穴住居跡(11)	372
写真図版29	豎穴住居跡(12)	373
写真図版30	豎穴住居跡(13)	374
写真図版31	豎穴住居跡(14)	375
写真図版32	豎穴住居跡(15)	376
写真図版33	豎穴住居跡(16)	377
写真図版34	豎穴住居跡(17)	378
写真図版35	豎穴住居跡(18)	379
写真図版36	豎穴住居跡(19)	380
写真図版37	豎穴住居跡(20)	381
写真図版38	豎穴住居跡(21)	382
写真図版39	豎穴住居跡(22)	383
写真図版40	豎穴住居跡(23)	384
写真図版41	豎穴住居跡(24)	385
写真図版42	豎穴住居跡(25)	386
写真図版43	豎穴住居跡(26)	387
写真図版44	豎穴住居跡(27)	388
写真図版45	豎穴住居跡(28)	389
写真図版46	豎穴住居跡(29)	390
写真図版47	豎穴住居跡(30)	391
写真図版48	豎穴住居跡(31)	392
写真図版49	豎穴住居跡(32)	393

写真図版50 穫穴住居跡(33) .....	394
写真図版51 穫穴住居跡(34) .....	395
写真図版52 穫穴住居跡(35)・材木列(1) .....	396
写真図版53 材木列(2)・区画施設溝跡(1) .....	397
写真図版54 区画施設溝跡(2)・溝跡・土坑(1) .....	398
写真図版55 土坑(2) .....	399
写真図版56 土坑(3) .....	400
写真図版57 土坑(4)・性格不明遺構 .....	401
写真図版58 小溝状遺構群・水田跡(1) .....	402
写真図版59 水田跡(2)・VIa層炭化物範囲 遺物出土状況 .....	403
写真図版60 穫穴遺構出土遺物・溝跡出土遺物(1) .....	404
写真図版61 溝跡出土遺物(2)・井戸跡・土坑 ピット・河川跡出土遺物 空穴住居跡出土遺物(1) .....	405
写真図版62 穫穴住居跡出土遺物(2) .....	406
写真図版63 穫穴住居跡出土遺物(3) .....	407
写真図版64 穫穴住居跡出土遺物(4) .....	408
写真図版65 穫穴住居跡出土遺物(5) .....	409
写真図版66 穫穴住居跡出土遺物(6) .....	410
写真図版67 穫穴住居跡出土遺物(7) .....	411
写真図版68 穫穴住居跡出土遺物(8) .....	412
写真図版69 穫穴住居跡出土遺物(9) .....	413
写真図版70 穫穴住居跡出土遺物(10) .....	414
写真図版71 穫穴住居跡出土遺物(11) .....	415
写真図版72 穫穴住居跡出土遺物(12) .....	416
写真図版73 穫穴住居跡出土遺物(13) .....	417
写真図版74 穫穴住居跡出土遺物(14) .....	418
写真図版75 穫穴住居跡出土遺物(15) .....	419
写真図版76 穫穴住居跡出土遺物(16) .....	420
写真図版77 穫穴住居跡出土遺物(17) .....	421
写真図版78 穫穴住居跡出土遺物(18) .....	422
写真図版79 穫穴住居跡出土遺物(19) .....	423
写真図版80 穫穴住居跡出土遺物(20) .....	424
写真図版81 穫穴住居跡出土遺物(21) .....	425
写真図版82 穫穴住居跡出土遺物(22) .....	426
写真図版83 穫穴住居跡出土遺物(23) .....	427
写真図版84 穫穴住居跡出土遺物(24) .....	428
写真図版85 穫穴住居跡出土遺物(25) .....	429
写真図版86 穫穴住居跡出土遺物(26) .....	430
写真図版87 穫穴住居跡出土遺物(27) 材木列・溝跡出土遺物(1) .....	431
写真図版88 溝跡出土遺物(2) .....	432
写真図版89 溝跡出土遺物(3) .....	433
写真図版90 溝跡出土遺物(4) .....	434
写真図版91 溝跡出土遺物(5) .....	435
写真図版92 溝跡出土遺物(6) .....	436
写真図版93 溝跡出土遺物(7) .....	437
写真図版94 溝跡出土遺物(8) .....	438
写真図版95 溝跡出土遺物(9)・性格不明遺構 小溝状遺構群・遺構外出土遺物(1) .....	439
写真図版96 遺構外出土遺物(2) .....	440
写真図版97 遺構外出土遺物(3)・VIa層・VIIa層 出土遺物・VIIb層出土遺物(1) .....	441
写真図版98 VIIb層出土遺物(2)・X層・Xb層 出土遺物・層位不明出土遺物 .....	442

# 第1章 調査にいたる経過

## 第1節 調査事由

「仙台市あすと長町土地区画整理事業」は、仙台市太白区長町に計画された「長町地区新都市整備計画」に伴い実施されることになった事業である。事業計画地内には、周知の遺跡として西台畠遺跡・郡山遺跡が所在していたが、長町駅東遺跡は、計画区域の大半を占める旧国鉄貨物ヤード跡地における遺跡の存在の有無、範囲等を把握するために平成3年及び4年に実施された確認調査によって新たに発見された遺跡である。

その後、仙台市教育委員会と事業主体者である住宅・都市整備公団(現独立行政法人都市再生機構)は本事業の施行に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、事業地内の計画路線にかかる西台畠遺跡・長町駅東遺跡及び郡山遺跡の一部について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は事業計画の進行に合わせて実施することとし、平成10年に西台畠遺跡の調査から開始した。第1次調査に伴う遺構範囲確認調査の結果、調査対象区域には古代～中世の遺構が比較的良好な状態で確認されることと、下層には弥生時代の遺物包含層も確認されたことから、今後の調査の実施について住宅・都市整備公団と協議を行った。その結果、東側の区画道路計画部分であるⅠ区とⅡ区の調査を先行させ、その後環状線計画部分であるⅢ区と街区道路交差点となるⅤ区東の調査を行い、最期に街区道路部分であるⅥ区西の調査を実施することになった。

### 西台畠遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調査区	調査成果	所収報告書
昭和57年度 (1982)	-	遺跡北西部・病院建設に伴う調査	河川跡	仙台市文化財 調査報告書 第57集
平成10年度 (1998)	第1次調査	I・II・Ⅴ・Ⅵ区 遺構範囲確認調査	竪穴住居跡31軒、柱立柱建物跡4棟、溝跡、土坑 中世層敷区画溝、井戸跡、弥生時代遺物包含層	仙台市文化財 調査報告書 第359集
平成11年度 (1999)	第2次調査	Ⅲ区南・Ⅳ・Ⅴ区下層 遺構範囲確認調査	竪穴住居跡34軒、溝跡、土坑 弥生時代遺物包含層、土器埋設遺構、土礫層 竪穴住居跡、溝跡、ピット	仙台市文化財 調査報告書 第359集
平成12年度 (2000)	第3次調査	Ⅰ区北・Ⅴ区東 Ⅱ区北張区・Ⅲ区	竪穴住居跡4軒、柱立柱建物跡、溝跡、土坑 竪穴住居跡25軒、竪穴遺構、溝跡、井戸跡、土坑 弥生時代遺物包含層	仙台市文化財 調査報告書 第359集
平成13年度 (2001)	第4次調査	Ⅵ区西	竪穴住居跡18軒、柱立柱建物跡1棟、溝跡	本音
平成17年度 (2005)	第5次調査	Ⅴ区下層調査 17街区遺構範囲確認調査	溝跡、弥生時代水田跡 竪穴住居跡、溝跡	本音
平成19年度 (2007)	第6次調査	個人住宅建設	竪穴住居跡2軒、溝跡2条、土坑	仙台市文化財 調査報告書 第326集
	第7次調査	17街区南側区画道路	竪穴住居跡26軒、柱立柱建物跡3棟、材木列1条、溝跡、土坑 弥生時代水田跡、遺物包含層	本音
平成24年度 (2012)	第8次調査	26街区・高齢者福祉施設建設に伴う調査	竪穴住居跡3軒、溝跡、土坑、弥生時代遺物包含層	仙台市文化財 調査報告書 第409集

## 第2節 調査要項

遺跡名称:西台畠遺跡(宮城県遺跡地名番号01005)

所在地:仙台市太白区郡山2丁目

調査原因:仙台市あすと長町土地区画整理事業の施行に伴う埋蔵文化財の事前調査

(1)第3次調査(平成12年度)調査体制

①区画整理事業の施行に伴う調査

調査期間:2000年(平成12年)4月17日～12月22日

調査主体:仙台市教育委員会

調査担当:仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査係 工藤信一郎 教諭 豊村幸弘

調査面積:V区東 450m<sup>2</sup> I区北払張区100m<sup>2</sup>・II区北払張区420m<sup>2</sup>・III区2,600m<sup>2</sup>・IV区東払張区170m<sup>2</sup>

(2)第4次調査(平成13年度)調査体制

①区画整理事業の施行に伴う調査

調査期間:2001年(平成13年)4月16日～7月17日

調査主体:仙台市教育委員会

調査担当:仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査係 工藤信一郎 文化財教諭 藤井勝哉

調査面積:VI区西 550m<sup>2</sup>

②個人住宅建築に伴う調査

調査期間:2001年(平成13年)7月9日～7月26日

調査主体:仙台市教育委員会

調査担当:仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査係 吉岡恭平 渡部 紀 教諭 豊村幸弘

文化財教諭 吉田和正 文化財教諭 村上秀樹

調査面積:110m<sup>2</sup>

(3)第5次調査(平成17年度)調査体制

調査期間:2005年(平成17年)5月23日～9月30日

調査主体:仙台市教育委員会

調査担当:仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査係 工藤信一郎 文化財教諭 大倉秀之

文化財教諭 浅野克樹

調査組織:株式会社シン技術コンサル 主任調査員 吉澤 学 調査員 松本欣士

調査面積:V区下層調査 440m<sup>2</sup> 確認調査 480m<sup>2</sup>

(4)第7次調査(平成19年度)調査体制

調査期間:2007年(平成19年)8月24日～2008年(平成20年)1月30日

調査主体:仙台市教育委員会

調査担当:仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査係 工藤信一郎 文化財教諭 佐々行信

調査組織:株式会社シン技術コンサル 主任調査員 吉澤 学 調査員 長谷川 徹

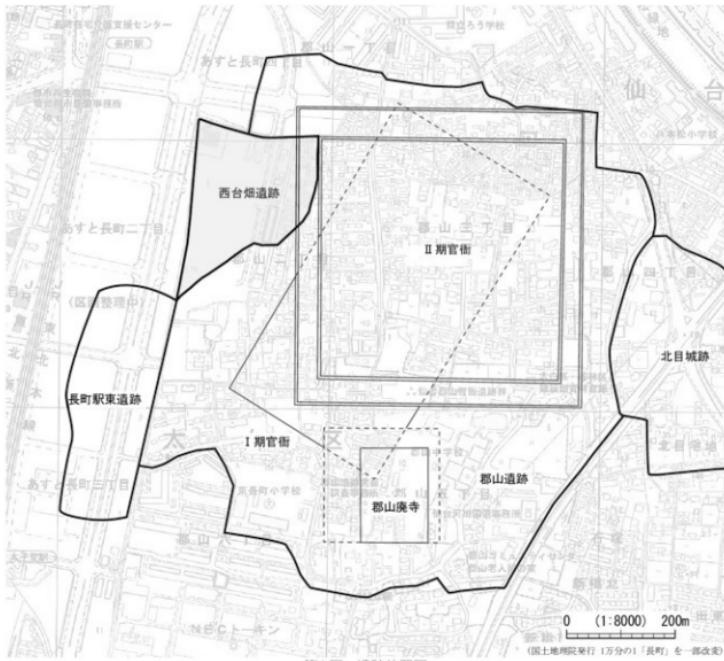
調査面積:1,590m<sup>2</sup>

(5)調査報告書作成体制(平成23年度)

整理担当:仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係 工藤信一郎 黒田智章

整理組織:国際文化財株式会社東北支店

主任調査員 長林 大 調査員 土 任隆 調査補助員 田口雄一



### 第3節 個人住宅調査及び遺構確認調査について

第4次調査及び平成15年度に併せて6軒の個人住宅調査と、第5次調査の一部として事業街区予定地を対象とした遺構確認調査を実施している。ここでは調査経緯について述べることとし、調査成果については、第5章で後述する。

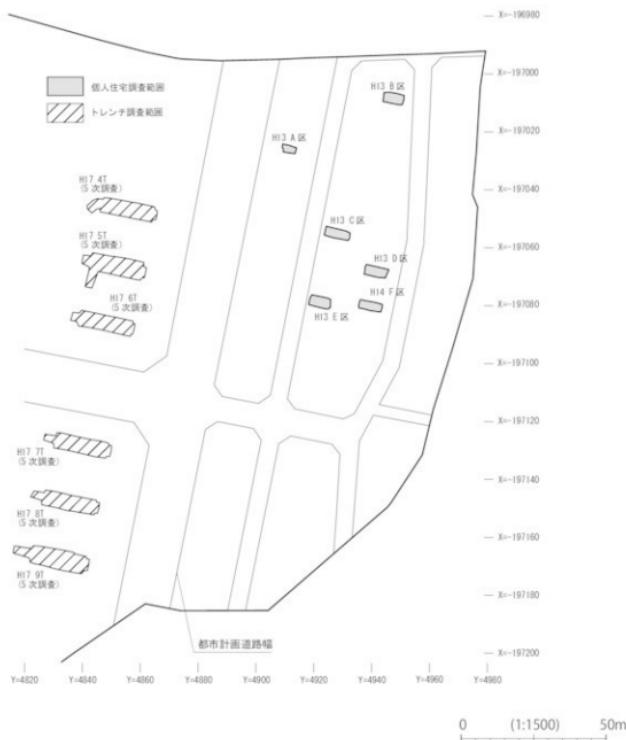
#### (1)個人住宅調査について(第4次調査ほか)

平成10年に開始した西台遺跡の調査のうち、先行して調査を実施した東半部については、事業地内に居住する住民の方々の集団移転用地として、道路整備と並行して宅地造成が進み、仮設地も行われ、平成13年からの供用開始が予定されていた。宅地整備に向けた都市基盤整備公団との協議の中で、年度内に30数件の建築計画ができる見通しあることが明らかになったことから、調査の実施方法等について協議を行った。本来個人専有住宅に伴う調査については公費負担が原則であるが、これらの計画全てが調査となった場合、仙台市の年間予算に匹敵する規模であり、また事業地内調査を優先して対応することも不可能であることから、事業を円滑に進めるため調査経費については公団が負担し、第4次調査の一部として調査体制を整備することになった。供用開始に伴い、個人住宅建築に伴う協議が複次だされ、最終的には6軒の建築計画に対して調査を行うことになった。

## (2) 道構確認調査(第5次調査)

第4次調査までの調査成果から、粘土探掘やレンガ・石炭ガラの廃棄等による影響は受けているものの、調査対象区域内に広範囲に道構面が遺っていることが確認された。区画整理事業に伴う発掘調査については、道路計画部分を対象としているが、17街区の事業用地部分の造成工事により道構面が削平されないよう、事業用地部分を対象に道構確認調査を実施し、道構面の状況や確認レベル(標高)を確認し、その成果を事業計画に反映させることになった。

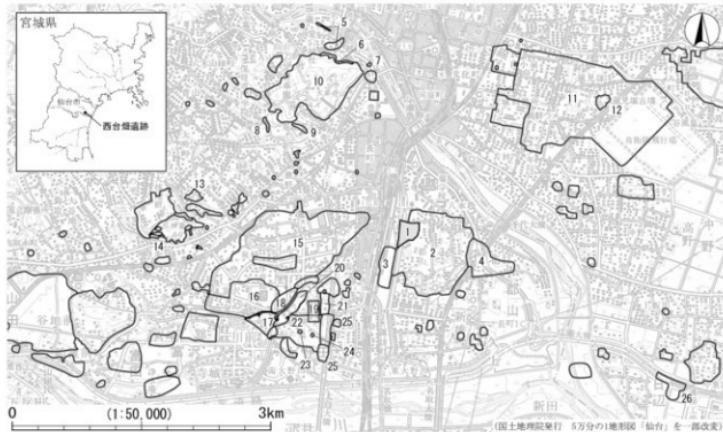
当初調査区を9ヶ所設定していたが、換地予定地権者の同意が得られなかった1～3トレンチを除く6ヶ所の調査を実施した。調査は、重機により道構確認面まで掘り下げを行い、その後人手により道構検出作業を行った。調査記録としては、道構検出状況写真の撮影、調査区平面図の作成、レベル記入を行った。



第2図 個人住宅調査・確認調査トレンチ配置図

## 第2章 遺跡の立地と環境

西台畠遺跡は、仙台市南東部、太白区郡山二丁目に拡がる遺跡で、面積は6,226m<sup>2</sup>におよぶ。広瀬川と名取川に挟まれた沖積地(郡山低地)の東側、標高11mの自然堤防上に立地する。本遺跡の東には多賀城以前の陸奥国府跡と考えられる郡山遺跡(国史跡)が、南西には本遺跡と共に郡山遺跡の官衙と関連する長町駅東遺跡が隣接する。本遺跡を含めたこれらの遺跡からは、近年の発掘調査により繩文時代～中世にかけての遺構・遺物が多数確認され、郡山低地東部における各時代の様相が明らかになりつつある。なお、本遺跡の歴史的環境の詳細は『西台畠遺跡第1・2次調査』(仙台市教委2010b)を参照されたい。



No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	西台畠遺跡	自然堤防	官衙跡・集落跡・墓地	縄文(後)・弥生(中)・ 飛鳥・奈良・平安・中世
2	郡山遺跡	自然堤防	官衙跡・寺跡・水田跡・ 墓地	縄文(後)・弥生(中)・ 飛鳥・奈良・平安・中世
3	長町駅東遺跡	自然堤防	官衙跡・集落跡・ 水田跡・墓地	縄文(後)・弥生(中)・ 飛鳥・奈良・平安・中世
4	北日城跡	自然堤防	城跡・集落跡・水田 跡	縄文(後)・弥生・古墳・ 飛鳥・奈良・平安・近世
5	愛宕山穴(4基)	丘陵斜面	古墳(後)・奈良	
6	大年寺跡(6基)	丘陵斜面	横穴墓群	古墳(後)
7	京極寺跡(6基)	丘陵斜面	横穴墓群	古墳(後)
8	二ツ沢塚(6基)	丘陵斜面	横穴墓群	古墳(後)
9	度ヶ崎塚(6基)	丘陵斜面	横穴墓群	古墳(後)・奈良
10	度ヶ崎跡	丘陵	墓地	中世
11	南小笠跡	自然堤防	屋敷跡・集落跡	弥生・古墳・飛鳥・奈良・ 平安・中世
12	道見塚古墳	自然堤防	前方後円墳・散布地	弥生・古墳(後)・奈良
13	土手内遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳・ 奈良・平安

No.	遺跡名	立地	種別	時代
-----	-----	----	----	----

第3図 西台畠遺跡と周辺の遺跡

## 第3章 調査の方法と概要

### 第1節 調査の方法

#### (1) 調査区の設定

第1次調査に先行する遺構確認調査により古代から中世の遺構面が確認された地点について、重機により道路予定範囲までの拡張を行った。調査区名称は調査対象区域の東側となる調査区をI区とし、VII区までの本調査区を設定した後、第1次調査の中で各調査区の遺構検出作業を行ない、遺構分布の広がりと残存状況の確認を行った。



調査開始2年目の平成11年4月に、調査対象地内に環境基準値を超える汚染土壤が存在していることが明らかになり、発掘調査を一時中断して汚染土壤のすきとり作業を実施することになった。その後、調査の再開に向けて住宅・都市整備公団側と協議した結果、すきとり作業により遺構面が露出したⅠ区北側とⅢ区東側についても、道路計画地外ではあるが調査対象に加えることにした。

## 第2節 調査概要

### (1)調査経過

第1次調査は、Ⅰ区及びⅡ区北側とⅣ区東側の古代面までの調査と、遺構の残存状況が悪く遺構分布の希薄なⅥ区・Ⅷ区を対象に調査を行った。第2次調査は、Ⅱ区南側及びⅣ区西側を対象とした調査と、前年度古代面までの調査となっていたⅠ区及びⅣ区の下層調査を行った。

第3次調査は、Ⅱ区北側の下層調査とⅢ区の古代面から下層調査、環状線整備工事の関係から先行させたことになったⅤ区東について、古代面までの調査を実施した。なお、第3次調査として実施したⅠ区北側拡張区及び道路計画の設計変更に伴うⅣ区東側拡張区の調査成果については、第1・2次報告書において報告している。

第4次調査は、街区道路部分であるⅤ区のうち、前年度調査を行っていたⅤ区東の西側を対象に古代面までの調査を実施した(Ⅴ区西)。平成13年度は事業地内での調査を2班体制で行うことになり、西台畠遺跡の調査と並行して、郡山遺跡第144次調査と長町駅東遺跡第1次調査を行うことになった。調査について都市基盤整備公団と協議した結果、郡山遺跡と長町駅東遺跡の調査を優先させることになり、Ⅴ区の調査については古代面までとし、下層調査については、次年度以降に行うことになった。

第5次調査は、Ⅴ区の下層調査と調査区北壁際で調査していたSD61溝跡部分についてトレンチ状に拡張し、規模と断面形状の確認を行った。また、今後の造成計画等の資料を得るために17街区で遺構確認調査を実施し、遺構面の状況や遺構検出面の標高値を確認した。なお第5次調査から、調査について民間調査組織に委託して実施している。

第7次調査は、街区道路を対象にⅤ区の西側で調査を実施し、集落の西辺を区画している可能性がある河川跡と並行して伸びる木本列を確認した。また、第1～第6次調査までは、旧国鉄資材センター敷地内での調査であったが、第7次調査区は、昭和30年代に煉瓦工場があった場所であり、昭和32年に西台畠遺跡が発見される経緯となった調査地点に近接していると考えられた。

### (2)測量基準・図面の作成

測量については、第4次調査までは、計画道路幅18mである環状線(Ⅲ区)のセンターラインを基準として、調査対象区域全体に方眼設定し、その後基準点測量を実施し「平面直角座標系第X系」に位置づけているが、第5・第7次調査については、基準点設定時に「平面直角座標系第X系」に位置づけている。

図面上のグリッド名称については15m方眼とし、調査区北西から東に向かってアルファベットで表示し、南に向かって算用数字により表示した(第4図)。所在位置を示す場合は、北西角の点をグリッド番号として使用している。遺構図面の作成については、調査区内を5×10m単位に分割し、図面番号を付し、平面区配図(1/20)の作成を行った。

### (3)遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、作図単位とした平面区配図の番号を利用し取り上げている。特に必要と認められ

た遺物については、詳細な出土状態図とレベルを記録している。

整理作業の段階で、主な遺構については遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

#### (4) 遺構登録番号

遺構登録番号については、第4次調査までは調査年度毎に遺構番号を付していたことから、整理作業時に検出遺構の整理を行い、その後通し番号に変更している。第5・第7次調査については、調査時点から通し番号により登録している。これまで各種の報告会等での資料では、調査時の遺構番号を使用していたが、今回の報告書では、その整理された遺構番号を使用している。

#### (5) 調査報告書作成作業

調査報告書作成に伴う整理作業について、出土遺物の基礎整理(水洗・註記・接合・修復)、弥生土器の拓本・断面実測、遺構図面基礎整理、記録写真整理までを仙台市が行い、その後国際文化財株式会社が、出土遺物の登録・実測図作成、遺構・遺物図版の作成及び原稿執筆を行った。その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行っている。特に、石器・弥生土器・土師器・須恵器等の遺物実測図及び遺構・遺物トレース図については、仙台市あずと長町関係遺跡発掘調査事務所において点検を行った。

### 第4章 基本層序

西台畠遺跡の一部は、昭和30年代には煉瓦工場の粘土探掘地、その後は国鉄仙台資材センターとして利用されていた経緯があり、本書所収の各発掘調査区においても当時の土取りや整地等の影響が著しい箇所が多い。各調査区の現地標高は、10.9～11.6mを測る。

各調査区が上記の状況にあることから、基本層序の図化は擾乱の影響が少ない残存状況の良好な壁面にて行い、第1・2次、第3次調査の記録を基に基本層序の把握を行っている。その際、一部で個別に上位から下位に層名を付した箇所があることから、整理段階で対応関係を照合し、第1・2次、第3次調査の成果を含めた上で、遺跡全体の層序名を一部振り直した。本書では、この振り直した層名を使用している。

また、V区下層調査および17街区の東側のVI層上面において水田耕作土が確認され、東西・南北方向の畦畔と水田区画を検出している。そのため、稲作の有無の検討を目的としてV区において土壤サンプルを採取している。この分析結果は、『西台畠遺跡第3次調査』(仙台市教委2011 第6章第2節)において報告・掲載しているが、分析結果の報文は調査時の層名で記されていることを付しておく。本書での各基本層と土壤サンプル採取における層名の対照については、第4章第6図を参照されたい。

基本層序は、第3次調査においてI～XII層まで大別分層されている。今次調査では、そのうち大別分層I～XII層を確認した。一部の大別分層は、土質や混入物等の差異により細別される。ただし、地点により層序や層厚等の状況は様々であるため、同一層でも細別分層の記録が可能であった箇所とそうでない箇所が存在する。また、地点によっては大別分層の欠落も見られたため、第4章第9図には、第1・2次、第3次、第8次調査と今次調査の基本層序の柱状模式図を示した。なお、17街区東側においてXV層以下の確認のために行った下層調査(トレンチ2)は湧水の影響により調査が困難であったため、壁面の目視による確認・写真撮影と模式図(第4章第8図)を作成し、調査を終了している。

今次調査における基本層序を概観すると、I層は近・現代の整地層である。II層は、中世から近世にかけての耕作土・水田土壤である。III層は、中世の遺構検出面および古代の遺物包含層である。IV層～VII層については、今次調査区では第3次調査と同様に、地点によりわずかな起伏や傾斜が見られるものの、概ね水平に近い堆積状況を呈

する。IV層は、今次調査における古墳時代～古代の遺構検出面であり、第1・2次、第3次調査においては、IVd層を主体とし、弥生時代中期前葉～中葉に位置付けられる土器が多量に出土している。この時期の遺物の出土はVII層まで認められている。なお、今次調査ではVI層上面において弥生時代の水田耕作土(VIa'層)を検出している。IX層以下は、上位層と同様に、地点によりわずかな起伏や傾斜が見られるものの、概ね水平に近い堆積状況を呈する。第1・2次、第3次調査では、X-XI層から縄文時代後期中葉～晚期中葉に位置付けられる遺物が出土している。XI～XIII層は縄文時代以前の自然堆積層である。

以下、各層の特徴について記載する。

I層：V区・17街区(以下、本章では「両調査区」と記載する)で確認された。近・現代の整地層で現表土である。層厚は8～279cmを測る。

II層：両調査区で確認された。黒褐色～にぶい黄褐色を基調とする微粒砂～粘土質シルトで、一部グライ化が認められる。中世以降の耕作土・水田土壤である。層厚は4～16cmを測る。

III層：V区でのみ確認された。暗褐色を基調とするシルトで、焼土や酸化鉄を含む古代の遺物包含層である。また、本調査ではV区の西側でIIIa、IIIb層の2層に細分されることが確認された。層厚は6～30cmを測る。

IV層：両調査区で確認された。黒褐色～明黄褐色を基調とする砂質シルト～粘土である。I区(第1次調査)で確認された細分層(IVa～IVg層)のうち、IVa～IVe層が確認された。さらに、今次調査では色調と土性の違いにより、IVa層は(a層・a'層・a1層・a2層)、IVb層は(b層・b'層・b1層・b2層)、IVd層は(d層・d'層・d1層・d2層)にそれぞれ細分される。また、第1・2次、第3次調査ではIVd層を主体とし、弥生時代中期前葉～中葉に位置付けるれる土器を中心とした多量の遺物が出土しているが、今次調査では出土していない。層厚は6～108cmを測る。

V層：両調査区で確認された。にぶい黄橙色～明黄褐色を基調とする微粒砂～粘土である。II区北抵張部(第3次調査)の一部では、a・bの2層に細分されることが確認されている。第1・2次調査においては遺物が少量出土しているが、今次調査では出土していない。層厚は3～27cmを測る。

VI層：両調査区で確認された。黒褐色～明黄褐色を基調とする砂質シルト～粘土である。第1・2次、第3次調査では、a・b層の2層に細別されることが確認されていたが、今次調査の17街区の東側の一部において新たにVIc層が確認された。さらに色調と土性の違いによりVIa層は(a層・a'層・a1層・a2層)に細別される。また、今次調査ではV区下層調査と17街区の東側のVIa'層上面において弥生時代の水田跡を検出している。弥生時代中期前葉～中葉に位置付けるれる遺物が少量出土している。層厚は3～60cmを測る。

VII層：両調査区で確認された。黒褐色ないし褐灰色を基調とするシルト質粘土ないし粘土質シルト・粘土である。第1・2次、第3次調査ではa・bの2層に細分されることが確認されているが、今次調査では確認されていない。17街区では植生痕をVII層として細分している。弥生時代中期前葉～中葉、縄文時代晚期中葉～後葉に位置付けるれる遺物が少量出土している。層厚は7～54cmを測る。

VIII層：両調査区で確認された。褐灰色～にぶい黄褐色を基調とする微粒砂～粘土質シルトである。第1・2次、第3次調査ではa・b層の2層に細分されることが確認されているが、今次調査では新たにVIIIc層が確認された。第1・2次調査では石器、第3次調査では縄文時代後期中葉～晚期後葉に位置付けるれる遺物が出土しているが、今次調査では遺物は出土していない。層厚は8～75cmを測る。

IX層：両調査区で確認された。褐色～明褐色を基調とする微粒砂ないし細粒砂で、径1～4cmの小礫や酸化鉄を含む。層厚は2～41cmを測る。

X層：両調査区で確認された。黒色～にぶい黄褐色を基調とする粘土である。第1・2次、第3次調査ではa～c層の3層に細分されることが確認されている。今次調査ではXc層は確認されていないが、色調と土性の違い

によりXa層は(a層・a'層)、Xb層は(b層・b'層)に細分され、Xb'層は植生痕である。縄文時代後期中葉～晩期中葉に位置付けられる遺物が少量出土している。層厚は10～66cmを測る。

XI層：両調査区で確認された。灰黄褐色～明緑灰色を基調とする微粒砂～粘土である。第1・2次、第3次調査では、縄文時代後期中葉～晩期中葉に位置付けられる遺物が少量出土しているが、今次調査では出土していない。層厚は6～44cmを測る。

XII層：両調査区で確認された。灰黄褐色～緑灰色を基調とする微粒砂～シルト質粘土である。第1・2次、第3次調査では縄文晩期中葉以前と考えられる遺物が出土しているが、今次調査では出土していない。層厚は17～62cmを測る。

XIII層：両調査区で確認された。黄褐色ないし明青灰色を基調とする砂ないしシルトである。層厚は6～45cmを測る。

XIV層：両調査区で確認された。灰色を基調とする砂質シルトないしシルト質粘土である。層厚は2～27cmを測る。

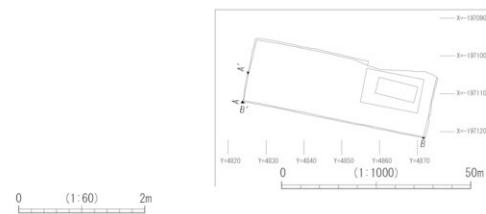
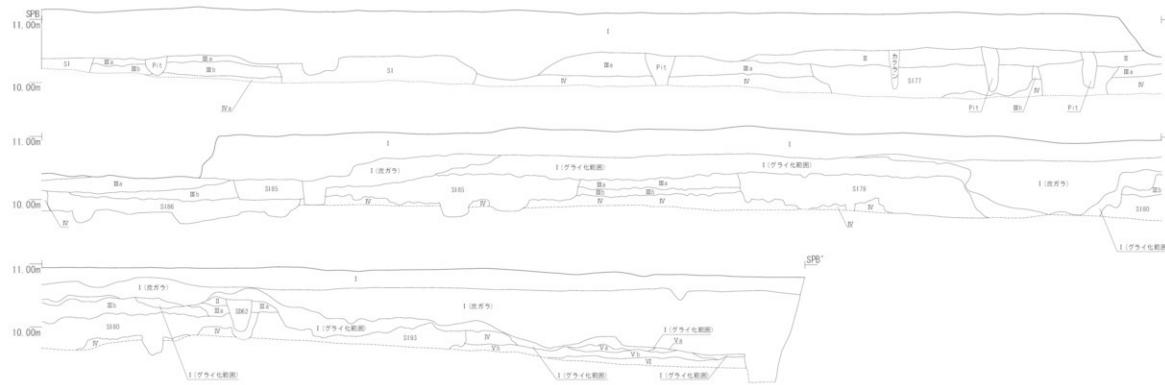
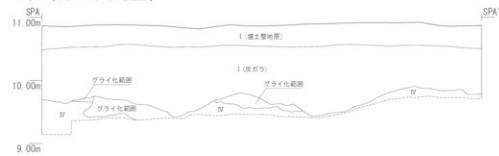
XV層：17街区でのみ確認された。灰色を基調とする粘土である。層厚は8～20cmを測る。

XVI層：17街区でのみ確認された。黒色を基調とする粘土である。層厚は14～27cmを測る。

XVII層：17街区でのみ確認された。暗灰色を基調とする砂質シルトである。層厚は3～27cmを測る。

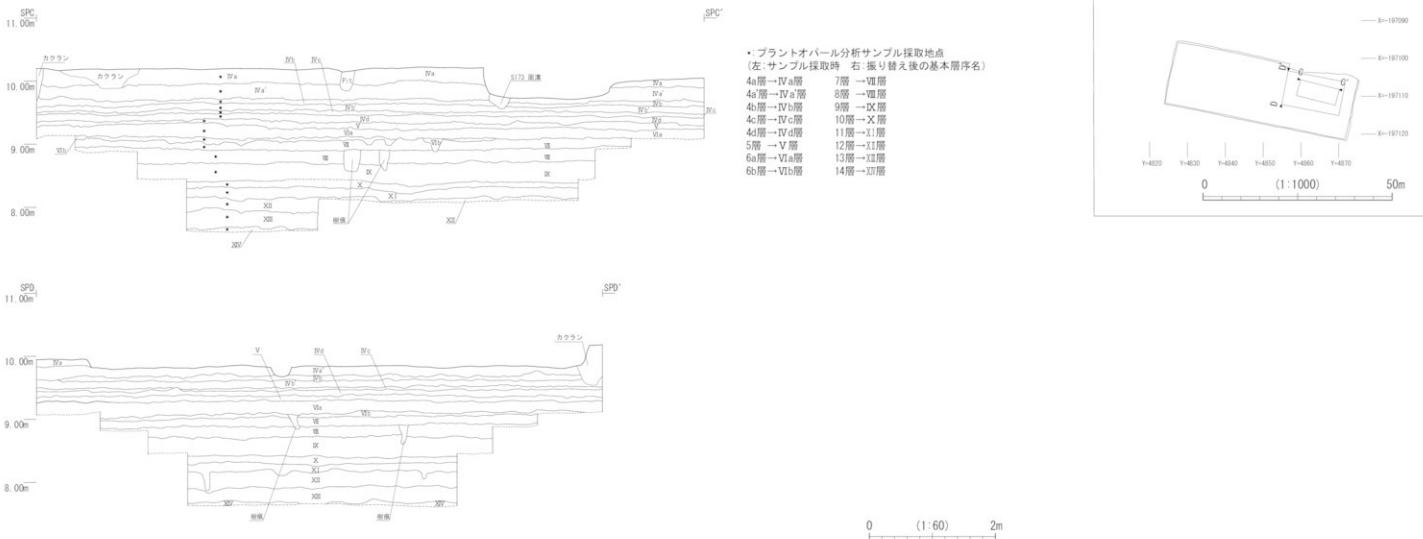
XVIII層：17街区でのみ確認された。暗赤褐色を基調とする砂礫である。層厚は45～90cmを測る。

V区(第4次調査)

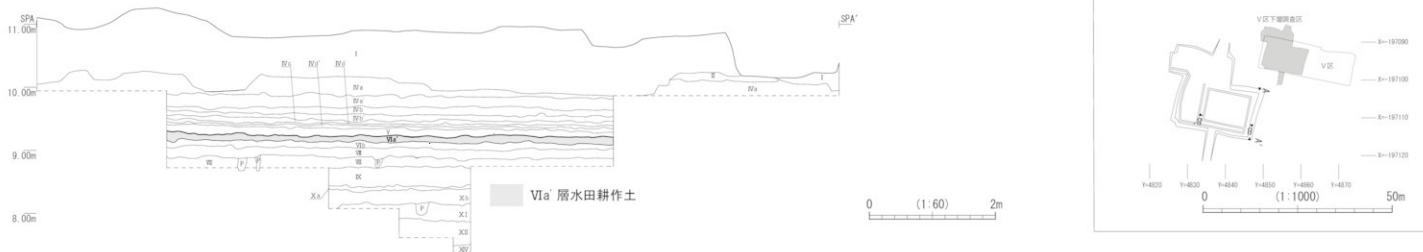


第5図 基本層序 V区(1)

## V区(第4次調査)

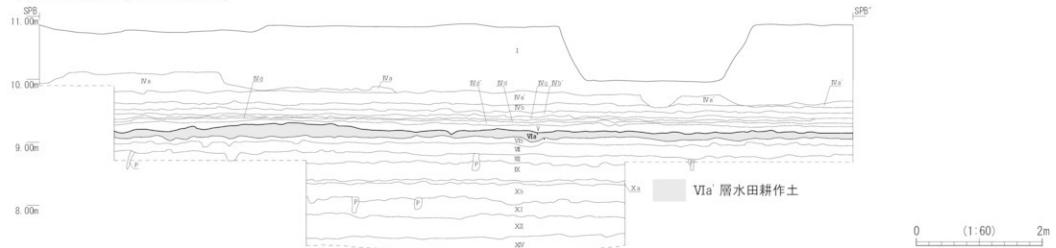


## V区下層調査区(第5次調査)

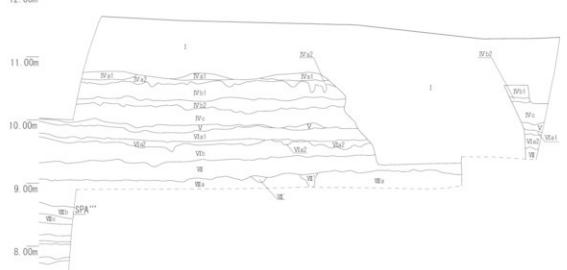
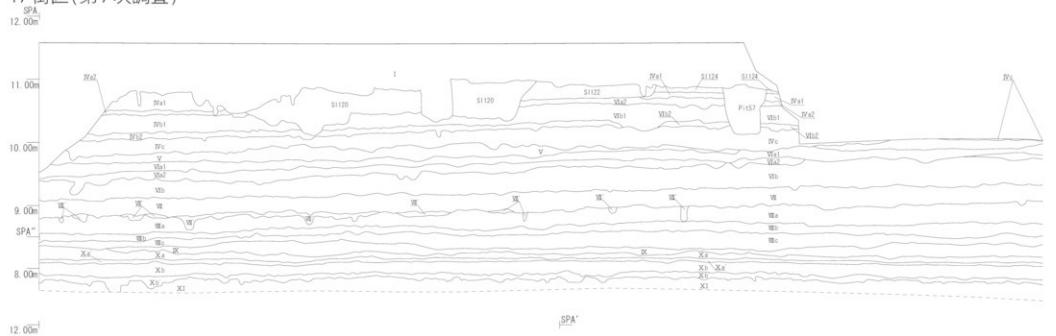


第6図 基本層序 V区(2)

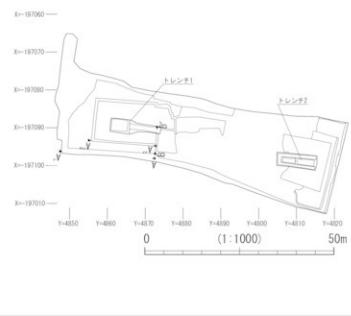
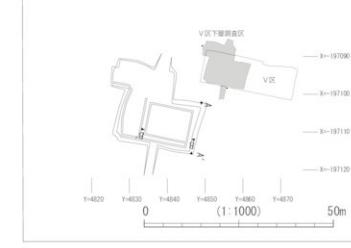
V区下層調査(第5次調査)



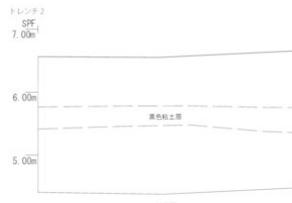
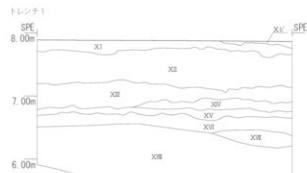
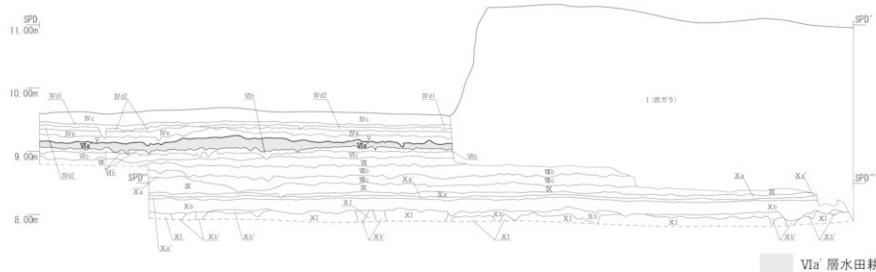
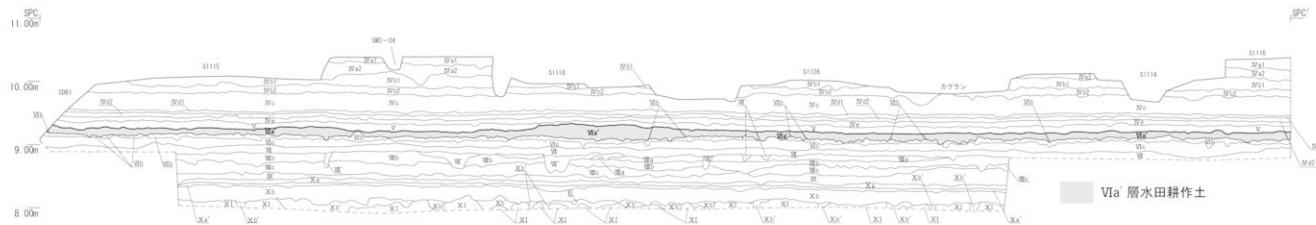
17街区(第7次調査)



第7図 基本層序 V区(3)-17街区(1)

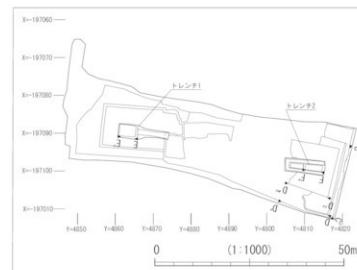


17街区(第7次調査)



0 (1:60) 2m

第8図 基本層序 17街区(2)



部位	土色	土性	土性	参考
I	-	-	-	樹化鉄
II	10YR2/3	暗褐色	シルト	礫・粘・樹化鉄をわずかに含む。
IIIa	10YR2/3	黒褐色	粘土質粘土	遺伝小ブロックを含む。
IIIb	10YR3/4	暗褐色	シルト	灰褐色・プロトク・マンガルを含む。
IV	10YR4/4	黒褐色	粘土質粘土	10YR4/3に似る褐色・プロトク・マンガルを含む。
V	10YR4/2	灰褐色	粘土質粘土	10YR4/4と同様を含む。
VIa	10YR4/3	似・暗褐色	粘土質粘土	10YR4/4と同様を含む。
VIb	10YR4/4	褐色	粘土質粘土	10YR4/3に似る暗褐色・プロトクを多量に含む。

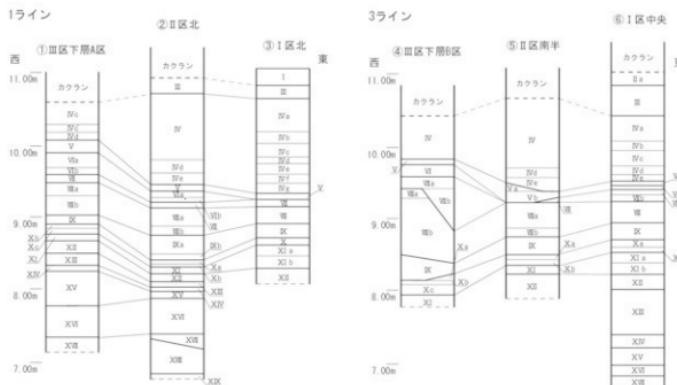
部位	土色	土性	土性	参考
IVa	10YR5/6	黃褐色	粘土質粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
IVa'	10YR4/4	褐色	シルト質粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
IVb	10YR5/4	似・黃褐色	粘土質粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
IVb'	10YR4/4	褐色	シルト質粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
IVc	10YR5/6	黃褐色	シルト質粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
IVd	10YR3/2	黒褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
V	10YR4/6	似・黃褐色	シルト質粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
VIa	10YR4/2	灰褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
VIb	10YR6/3	似・黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
VIc	10YR6/4	褐色	シルト質粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
VIe	10YR5/3	似・黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
VIe'	10YR4/3	似・黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
X	10YR6/3	似・黃褐色	砂	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を含む。
XI	10YR4/2	灰褐色	粘土	木部を帶び、10YR4/3に似る褐色上・プロトク・マンガル・樹化鉄を斑状に含む。
XII	10YR5/2	灰褐色	シルト質粘土	木部を・マンガル・樹化鉄を斑状に含む。
XII	2.5YR6/4	黃褐色	砂	木部を・マンガル・樹化鉄を斑状に含む。
XIV	7.5YR6/1	灰褐色	砂質粘土	木部と・樹化鉄を斑状に含む。

部位	土色	土性	土性	参考
IVa	10YR5/6	黃褐色	粘土質粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
IVa'	10YR5/3	似・黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
IVb	10YR6/4	似・黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
IVb'	10YR5/3	似・黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
IVc	10YR6/6	黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
IVd	10YR6/6	黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
IVe	10YR5/3	似・黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
V	10YR6/6	明褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
VIa	10YR4/2	灰褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。(水田耕作上)
VIb	10YR6/3	似・黃褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
VIe	10YR4/3	褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
VII	10YR6/1	褐灰色	シルト	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
X	10YR6/2	灰褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
Xa	2.5YR6/2	灰褐色	粘料	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
Xb	10YR3/2	黑褐色	粘土	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
XI	10YR6/3	似・黃褐色	シルト	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
XII	2.5YR6/3	似・褐色	粘料	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。
XIV	10YR6/3	褐灰色	シルト	10YR4/2・10YR5/3・10YR2/2・10YR4/3に似る褐色を斑状に含む。

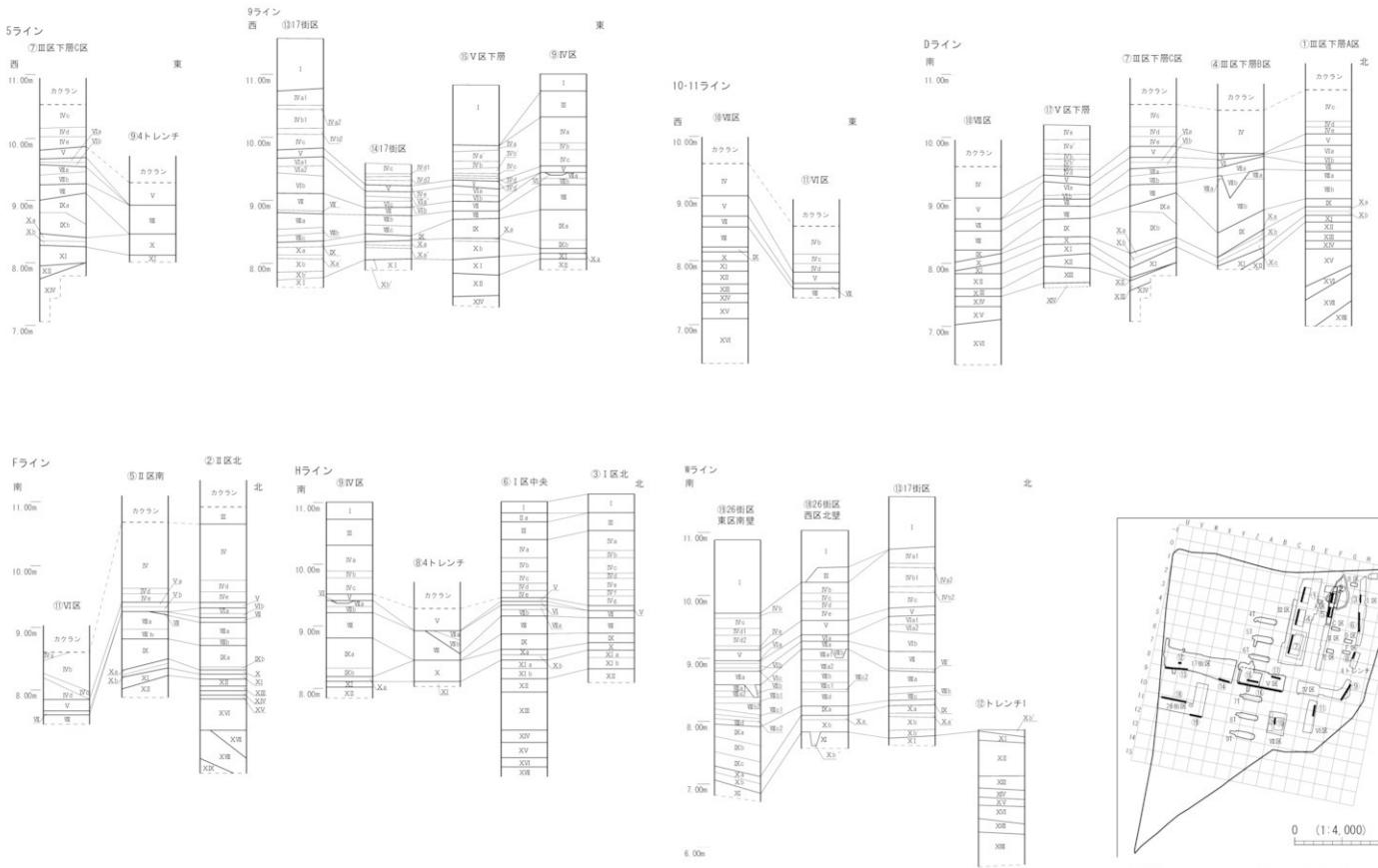
部位	土色	土性	土性	参考
I	10YR5/4	似・暗褐色	粘料砂	地盤を斑状に少量・炭化物跡を斑状に含む。大手がグライ化する。
N/a1	10YR4/4	褐色	研磨シルト	径 = 10~20mmの褐色小ブロックを少量含む。
N/a2	10YR4/2	灰褐色	シルト	炭化物を少量含む。
N/b1	10YR5/3	似・黃褐色	シルト	炭化物を少量含む。
N/b2	10YR4/2	灰褐色	シルト	炭化物を少量含む。炭化物跡を斑状に含む。
IVc	10YR5/6	黃褐色	シルト	炭化物を少量含む。炭化物跡を斑状に含む。
V	7.5YR5/8	明褐色	粘料砂	炭化物を斑状に多量・白色の色塊を斑状に含む。
VIIa1	10YR3/2	黑褐色	粘土質粘土	径 = 20mmの黒色・白・ロート・オフホワイトを少量含む。西側は褐色化する。(植物付着)
VIIa2	10YR5/3	似・黃褐色	粘土質粘土	炭化物・小トゲ・瓦礫等を多量に含む。炭化物跡を斑状に含む。西側は褐色化する。(植物付着)
Wb	7.5YR4/6	似・褐色	砂	炭化物を斑状に多量・白色の色塊を斑状に含む。西側は褐色化する。
Wc	7.5YR4/6	褐色	砂	炭化物を斑状に多量・白色の色塊を斑状に含む。西側は褐色化する。(植物付着)
Wd	7.5YR4/2	黑褐色	粘土質粘土	炭化物を斑状に多量・白色の色塊を斑状に含む。西側は褐色化する。(植物付着)
Wd'	10YR4/2	黑褐色	粘土質粘土	炭化物を斑状に多量・白色の色塊を斑状に含む。西側は褐色化する。(植物付着)
Wd''	10YR4/3	似・黃褐色	粘土質粘土	炭化物・灰白色シルトを斑状に多量に含む。大手がグライ化する。
Wd'''	10YR4/2	灰褐色	シルト	炭化物・灰白色シルトを斑状に多量に含む。大手がグライ化する。
Wd''''	10YR4/2	灰褐色	粘料砂	炭化物・細粒砂・粘料砂を多量に含む。大手がグライ化する。
IX	7.5YR4/4	褐色	粘料砂	Xaと同様に炭化物跡を斑状に含む。
Xa	7.5YR4/8	褐色	粘土	炭化物跡を互層状に含む。
Xe	10YR3/1	黑褐色	粘土	Xaと同様に炭化物跡を斑状に含む。
Xb	N-2	褐色	粘土	炭化物跡を互層状に含む。細・厚壁。(植物付着)
Xb'	N-2	褐色	Xb付	Xb付とXb'付の土上。(植生)
XI	10YR7/1	明褐色	粘料砂	一帯に灰白色シルトを斑状に含む。

17街区下層基本層柱状模式図 C-C' D-D' E-E'			
部位	土色	土性	参考
N-a1	10YR5/4	にじく-黃褐色	砂質シルト 灰化色シルトを斑状に多量に含む。
N-a2	10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト 上部に灰褐色土、下部に粘土土をそれぞれ層状に含む。
N-b1	10YR6/4	にじく-黃褐色	シルト 灰化色シルトを多量に含む。
N-b2	7.5YR4/2	灰褐色	粘土質シルト 上部に灰褐色土、下部に粘土土を斑状に含む。
V-c	10YR6/4	にじく-黃褐色	粘土質シルト 灰化色シルトを多量に含む。
V-d	10YR7/3	灰褐色	粘土質シルト 灰化色シルトを斑状に、一部に灰化色シルトブロックを含む。
R-e2	10YR7/6	明褐色	シルト 褐色のシルトを斑状に、一部に灰褐色シルトを斑状に含む。
R-e	10YR4/3	褐色	粘土質シルト 褐色のシルトを多量に含む。
V	10YR7/4	にじく-黃褐色	シルト 灰化色シルトを斑状に、灰化色土を斑状に含む。(木田跡河岸上では褐色土に変色する。)
Vl-a'	7.5YR4/3	褐色	粘土質シルト 褐色のシルトを多量に含む。
Vl-b	10YR6/6	明褐色	粘土質シルト 褐色のシルトを斑状に。
Vl-c	7.5YR4/1	褐色	粘土質シルト 褐色のシルトを多量に含む。
Vl-d	10YR3/1	灰褐色	粘土 褐色の土を斑状に、灰化色土を少量、和田川を飛来して含む。
Vl-e	10YR3/3	灰褐色	粘土 褐色の土を斑状の上部に、褐色の土を多量に含む。(植生地)
Vla	2.5YR6/1	赤褐色	粘土 褐色の土を斑状に、灰化色土を少量、和田川を飛来して含む。
Vlb	2.5YR5/1	赤褐色	粘土 褐色の土を斑状に、灰化色土を少量、和田川を飛来して含む。
Vlc	2.5YR7/2	赤褐色	粘土 褐色の土を斑状に、灰化色土を少量、和田川を飛来して含む。
R	7.5YR5/6	明褐色	粘土 和田川を斑状、且つ20cm程で東西に分かれる。
Xa	7.5Y7/1	灰白色	粘土 褐色地に褐色シルトを斑状に多量に含む。
Xe	7.5Y5/3	褐色	粘土 褐色の土を斑状に含む。
Xb	N-2	黑色	粘土 褐色の土を斑状、和田川を飛来して含む。(植物付近)
Xb	N-3	暗灰色	粘土 Xb側上とX1側上との接続上。(植生地)
X1	7.5Y7/2	灰白色	砂粒砂 一部に黒色シルトを斑状に含む。

17街区上層基本層柱状模式図 E-E'			
部位	土色	土性	参考
X1	10GY7/1	明褐色	砂質粘土 一部に黒色シルトを斑状に含む。
XE	10GY6/1	褐色	砂質シルト 灰化色シルトを斑状に多量、灰化物を少量含む。下部は粘性が強くなる。
XII	10BG7/1	明褐色	シルト 褐色シルトを斑状に多量に含む。
XV	N5/0	褐色	粘土質シルト XII側は褐色地に多量に含む。
XV	N4/0	褐色	粘土 褐色の土を斑状に多量、最大10mm程度の礫を飛来して含む。
XVI	N3/0	褐色	粘土 褐色の土を斑状、且つ50mm程度の礫を飛来して含む。
XII	N3/0	褐色	砂粒砂 和田川を斑状、且つ100mm程度の礫を飛来して含む。
XE	2YR3/4	明褐色	砂質シルト 最大100mm程度の礫を斑状に含む。酸化物の浸透にて変色。



第9図 基本層序柱状模式図(南北ライン)



第10図 基本層序柱状模式図(南北・東西ライン)

## 第5章 検出遺構と出土遺物

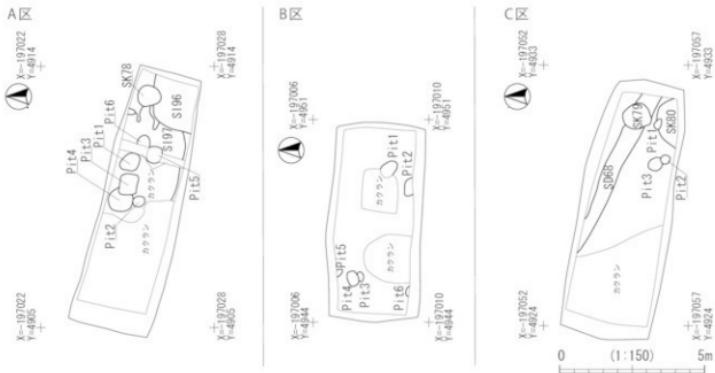
前章でも触れたように、本遺跡は近・現代の擾乱による影響を受けている箇所が多く、調査区によって自然堆積層や、遺構・遺物の残存状況は異なる。こうした状況と第1・2次、第3次調査の調査成果(仙台市教委2010b・2011)を踏まえ、今回の各本調査に着手した。

V区・17街区はともに、近・現代の擾乱の影響により、第1・2次調査で中世の遺構検出面とした基本層Ⅲ層が殆ど残存していない状況であった。そのため基本層Ⅳ層上面において、最初の遺構検出作業を行った。検出された遺構は、重複関係、堆積状況、出土遺物から古代～中世と古墳時代～古代の遺構とし、調査段階において平面区割り図を分けて作成した。古代～中世の遺構として竪穴遺構、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑、河川跡、ピット、性格不明遺構、小溝状遺構群が検出され、古墳時代～古代の遺構は竪穴住居跡や、区画施設と考えられる木本列・溝跡、溝跡、土坑、ピット、性格不明遺構、小溝状遺構群を検出している。これら、各調査区のⅣ層上面において検出した遺構の調査終了後、Ⅳ層以下を対象とした下層調査を行った。なお、V区の西側の下層調査は第5次調査(2005年)において行っている。また、この調査では、V区(第3次・第4次調査)の北側においてわずかな範囲を検出した東西方向に延びる区画施設と考えられるSD 61の範囲を確認するため、一部調査区を拡張し調査を行っている。これらの各調査区で行った下層調査は弥生時代以前の遺構・遺物の残存状況の確認とその記録保存を目的として行い、V区下層調査(第5次調査)のVI層上面では弥生時代の水田跡が新たに確認された。さらに、17街区東側のVI層上面においても水田跡が確認されたことにより、水田域が東側に拡がることが確認された。

以下、本章では第4・5・7次の調査成果に加え、第4次調査に伴う個人住宅建設を対象とした調査成果、平成15年度(2003年)に行なった個人住宅建設に伴う調査成果、第5次調査において実施した17街区遺構範囲確認調査の成果を含め、古代～中世、古墳時代～古代、縄文時代～弥生時代の各時代別に報告する。

### 第1節 個人住宅建設を対象とした調査(第11～13図)

本節では、第4次調査に伴う個人住宅建設(A～E区)を対象とした調査と平成15年度(2003年)に行なった個人住宅建設(F区)に伴う調査で検出した遺構について記述する。調査は建築予定範囲を対象とした6箇所に調査区(A～F区)を設定し、調査を行った。以下、各調査区ごとに記載する。

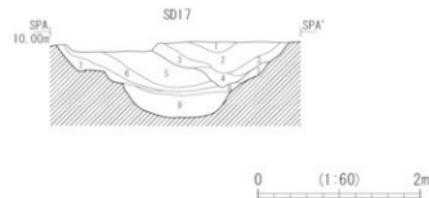
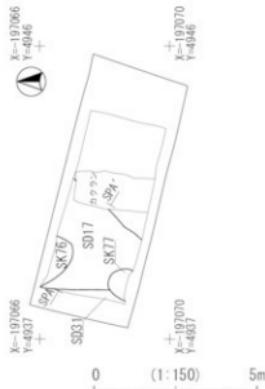


第11図 個人住宅調査 A～C区平面図

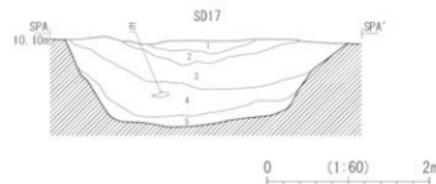
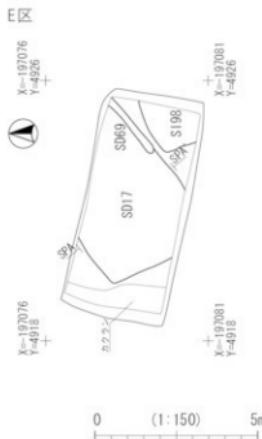
A区：西側は搅乱の影響により失われており、調査区東側でのみ竪穴住居跡2軒、土坑1基、ピット6基が検出された。竪穴住居跡はSI96よりSI97が古く、SI97は東壁にカマドを伴う竪穴住居跡である。土坑とピットは竪穴住居跡の重複関係から古代～中世に属する遺構であると考えられる。

B区：ピット6基が検出された。調査区の東側と西側で検出されたが、時期は不明である。

D区

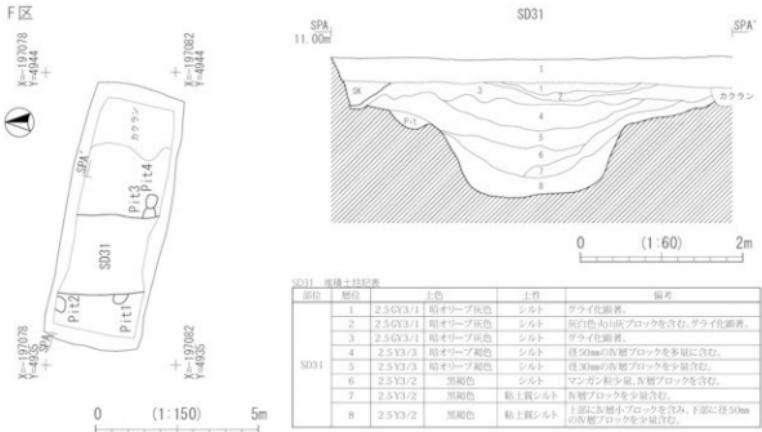


SD17 墓場土跡記録表				
部位	地層	上色	土性	
1	10YR4/2	灰黃褐色	シルト	墨縁ブロック・炭化物を少額含む。
2	10YR4/2	褐色	シルト	往10～20cmの墨縁ブロックを少額、炭化物を僅に含む。
3	10YR5/2	灰黃褐色	シルト	墨縁ブロック・炭化物を少量含む。
4	10YR4/2	褐色	シルト	往10～20cmの墨縁ブロックを少額、炭化物を僅に含む。
5	10YR7/4	に赤い黃褐色	シルト	10YR4/1褐色炭化物ブロックを含む。
6	10YR5/1	褐色	粘土質シルト	墨縁ブロックを少量、墨縁分岐を含む。
7	10YR4/1	褐色	シルト	墨縁ブロックを少量含む。
8	10YR7/1	灰白色	粘土質シルト	10YR4/1褐色炭化物シルトブロックを含む。
9	10YB6/3	に赤い黃褐色	シルト	10YR4/1褐色炭化物シルトブロックを含む。



SD17 墓場土跡記録表				
部位	地層	上色	土性	
1	10YR5/6	黃褐色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色シルトブロックを挿入、木炭粉・マンガン粉・炭化物を含む。
2	10YB4/2	褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黒褐色粘土質シルトブロック・木炭粉・炭化物・マンガノ粉を含む。
3	10YR3/1	黑褐色	シルト質粘土	10YR4/2褐色炭化物・マンガノ粉・炭化物を含む。既述: 10YR4/4褐色炭化物を挿入に含む。
4	10YR5/4	に赤い黃褐色	砂質シルト	10YR4/2褐色炭化物小ブロック・炭化鉄塊・マンガノ粉・木炭粉を含む。
5	10YB5/3	に赤い黃褐色	粘土	10YR3/2黒褐色粘土質シルト・炭化鉄塊・マンガノ粉・木炭粉を含む。

第12図 個人住宅調査 D-E区平面・断面図



第13図 個人住宅調査 F区平面・断面図

C区：西側は搅乱の影響により失われており、調査区中央より東側で、溝跡1条、土坑2基、ピット3基を検出した。溝跡は東西方向に延び、検出した範囲の規模は、長さ594cm、上端幅65～72cmを測り、方向はN-26°-Wである。溝跡とSK79は重複関係にあるものの、それぞれの遺構の時期は不明である。

D区：東側は搅乱の影響により失われており、調査区の西側でのみ溝跡2条、土坑2基を検出した。溝跡はSD17とSD31が重複しており、SD31が新しい。SD17は、規模や位置関係から第1・2次調査(仙台市教委2010b)のI区調査区の南側で検出したSD17と同一の北東から南西に延びる溝跡である。堆積土は9層に分層され、1～4層は灰黄褐色シルト、5層にはぶい黄褐色シルト、6～8層は褐灰色シルト・灰白色土を主体とするシルトないし粘土質シルト、9層にはぶい黄褐色シルトである。また、平面の検出時では確認されなかったが、断面の観察から、I区(仙台市教委2010b)で検出した状況と同様に、4層から上層は溝の掘り直しが行われた可能性が考えられる。検出した範囲の規模は、長さ318cm、上端幅288cmを測り、方向はN-48°-Eである。なお、後述するE区においても、同様の規模と位置関係を有する溝跡(SD17)を検出しており、各調査区において検出した規模から区画施設の可能性が考えられる。このSD17と重複するSD31は、調査区西壁直下の一部で東の肩のみが確認されたが、本調査区の北側に位置する第3次調査(仙台市教委2011)II区北抵張区において検出した大溝(SD31)と第1・2次調査(仙台市教委2010b)の確認調査(トレントチ)において検出された大溝(SD31)、また、同調査の南側に位置するIV区の東側において検出された大溝(SD31)と直線上に並ぶことから、北から南に延びる郡山II期官衙外溝の一部であると考えられる溝跡である。堆積土は2層に分層され、1層は灰黄褐色シルト、2層は褐灰色シルトである。検出した範囲の規模は、長さ174cm、上端幅30cm、方向はN-1°-Eである。このSD31は後述するF区においても検出されている。また、SD17と重複するSK76・77は、重複関係から古代～中世に属する遺構であると考えられる。

E区：竪穴住居跡1軒、溝跡2条を検出した。竪穴住居跡は調査区南東端部一部を検出した。溝跡は、SD69とSD17が重複しており、SD69が新しい。SD69は調査区の東側で検出し、北東から南西方向に直線的に延び、調査区中央付近で収束する。検出した範囲の規模は、長さ210cm、上端幅24cmを測り、方向はN-40°-Eである。このSD69と重複するSD17はD区において既述したように、北東から南西に延びる区画施設と考えられる溝跡である。

また、このSD 17は本調査区内の南側で収束することが確認された。堆積土は5層に分層され、1層は黄褐色粘土質シルト、2層は褐灰色粘土質シルト、3層は黒褐色シルト質粘土、4・5層はにぶい黄褐色を主体とする砂質シルトないし粘土である。本調査区内で検出したSD 17の平面と断面状況からは掘り直しの痕跡は確認されていない。検出した範囲の規模は、長さ384cm、上端幅360cmを測り、方向はN-40°-Eである。この区画施設と考えられるSD 17が西台畠遺跡内の各調査において検出された全総長は約44mを測る。なお、このSD 17と重複するSD 69は、重複関係から古代～中世に属する遺構であると考えられる。

F区：溝跡1条、ピット4基を検出した。溝跡はD区において既述したように、規模と位置関係から南北方向に延びる郡山II期官衙外溝の一部である。堆積土は8層からなり、1～3層は暗オリーブ灰色を主体とするシルトで、4・5層は暗オリーブ褐色を主体とするシルト、6～8層は黒褐色を主体とする粘土質シルトである。検出した範囲の規模は、長さ258cm、上端幅246cmを測り、方向はN-1°-Wである。この郡山II期官衙外溝のSD 31が西台畠遺跡内の各調査において検出された全総長は約114.8mを測る。なお、SD 31と同検出面で検出したピットはSD 31と重複関係にあるP1・3が古墳時代～古代に属すると考えられるが、重複関係のないP2・4の時期については不明である。

## 第2節 確認調査で検出された遺構（第14・15図）

第1章3節に既述しているように、第5次調査において行った17街区遺構範囲確認調査では6箇所にトレンチ(4～9トレンチ)を設定し、確認調査を行っている。本節では、各トレンチ内において検出された遺構について記述する。また、各トレンチより土師器・須恵器が少量出土しているが、図化できる遺物はなかった。

4トレンチ：竪穴住居跡2軒、溝跡6条、土坑6基、ピット1基が検出された。竪穴住居跡は、調査区西側において重複して検出され、南側に位置する竪穴住居跡は北壁から煙道が延びる。溝跡は南北方向に延びるもののが2条、東西方向に延びるもののが4条検出された。検出した範囲の規模は、長さ75～460cm、上端幅35～125cmを測る。溝跡、ピットの一部は住居跡と重複することから古代～中世に属する遺構と考えられるが、その他の重複関係のない遺構については、時期は不明である。

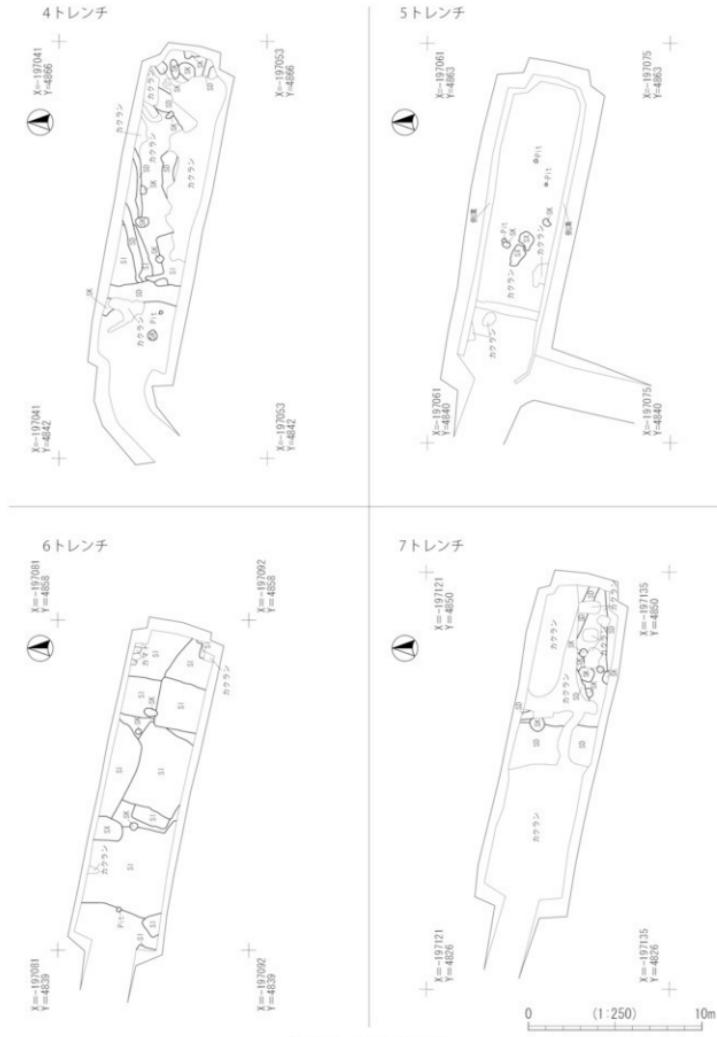
5トレンチ：土坑2基、ピット3基、性格不明遺構2基を検出した。いずれも調査区中央付近において検出されたが、時期は不明である。

6トレンチ：竪穴住居跡11軒、土坑3基、ピット1基、性格不明遺構1基を検出した。竪穴住居跡は調査区内全域で検出され、それぞれが重複関係にある。北東端部において検出した竪穴住居跡は、一部にカマドの袖が検出されたことから北壁にカマドが付設された竪穴住居跡であることが確認された。また、土坑、ピット、性格不明遺構は竪穴住居跡との重複関係から、概ね古代～中世に属する遺構であると考えられる。

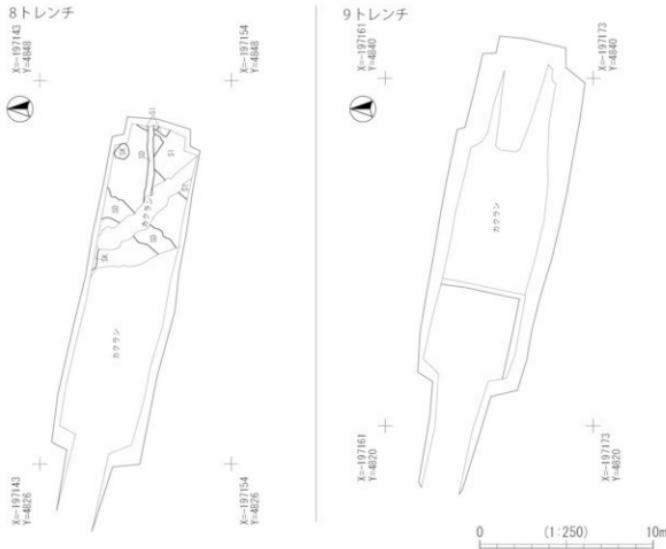
7トレンチ：擾乱の影響が大部分に及んでいたものの、調査区東側で、溝跡4条、土坑7基を検出した。溝跡は南北と東西方向に延びるものを作成され2条ずつ検出した。検出した範囲の規模は、長さ75～460cm、上端幅40～260cmを測る。溝跡、土坑はそれぞれ重複関係を持つものの、いずれも時期は不明である。

8トレンチ：擾乱の影響が大部分に及んでいたものの、調査区東側で、竪穴住居跡3軒、溝跡2条、土坑2基を検出した。竪穴住居跡は東側で検出し、それぞれが重複関係を持つ。南側で検出した竪穴住居跡は北壁から煙道が延びる。溝跡は、南北方向、東西方向に延びる溝跡をそれぞれ1条ずつ検出した。検出した範囲の規模は、長さ440～500cm、上端幅40～150cmを測る。溝跡は竪穴住居跡と重複することから古代～中世に属する遺構と考えられるが、土坑は重複関係がないことから時期は不明である。

9トレンチ：擾乱の影響により、遺構は検出されなかつた。



第14図 4~7トレンチ



第15図 8・9トレンチ

### 第3節 古墳時代～中世の遺構と遺物：IV層上面の調査(第16～248図)

#### 1.古代～中世の遺構と遺物(第16～51図)

本項では、基本層IV層上面で検出した遺構のうち、重複関係や遺構の観察所見等から当該期と考えられる遺構および遺構内出土遺物について報告する。該当する遺構は、竪穴遺構2軒、掘立柱建物跡5棟、溝跡8条、井戸跡2基、土坑38基、ピット140基、性格不明遺構2基、小溝状遺構群2群、河川跡1条である(第16～51図)。

遺構内からは、土師器、須恵器、金属製品、石製品、礫石器が出土しているが、大半が堆積土からの出土であり、出土状況から明確に遺構に伴うと考えられる遺物は、SK97底面出土の高环1点のみである。そのほかの遺物は、埋没過程での流入と考えられる。

また、遺構外からは中世陶器の破片が極少量出土しているが、図化できるような遺物はなかった。

今次調査の成果をみる限りでは、17街区東半に竪穴遺構および掘立柱建物跡のまとまりがみられ、周辺に居住域が拡がっていたと考えられる。

以下、当該期と考えられる遺構および出土遺物について、遺構の種別ごとに報告する。

なお、竪穴遺構と掘立柱建物跡については個別に報告し、その他の遺構については一括記載とし、規模や堆積土等の属性は観察表にまとめて示している。また、土坑とピットの区別に明確な基準ではなく、遺構検出時に比較的大きいものを土坑、小さいものをピットとして調査している。本書においては、整理段階で遺構番号を振り替えた竪穴遺構、掘立柱建物跡、溝跡、土坑を除き、基本的には調査時に付した遺構記号および番号をそのまま使用している。



第16図 V区IV層上面遺構配置図(古代～中世)



第17図 17街区IV層上面造構配置図(古代～中世)(1)



第18図 17街区IV層上面遺構配置図(古代～中世)(2)  
(1) 竪穴遺構(第19～21図)

17街区から2軒検出した。カマドを伴わないことから竪穴遺構とした。古代の竪穴住居跡に比べ規模は小さく、主柱穴は壁際に沿って配置される。これらの特徴と、後述する掘立柱建物跡に隣接することから中世に属すると考えられる。

#### SI107 竪穴遺構(第19・20図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-7・8グリッドに位置する。

【重複】 SI108、P51～53と重複関係にあり、これらより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北330cm、東西339cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 西壁基準でN-2°-Eである。

【堆積土】 大別4層、細別5層に分層された。1～4層は竪穴遺構堆積土で、黒褐色シルト・暗褐色粘土質シルトを主体とし、IV層ブロックを含む。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大33cmを測る。

【床面】 平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から9基検出した。P1～8は、壁際に沿って配置され、P9は建物中央に位置し、P8を除き柱痕跡が確認された。これらのことから、検出したピットは、いずれも主柱穴に相当すると考えられる。

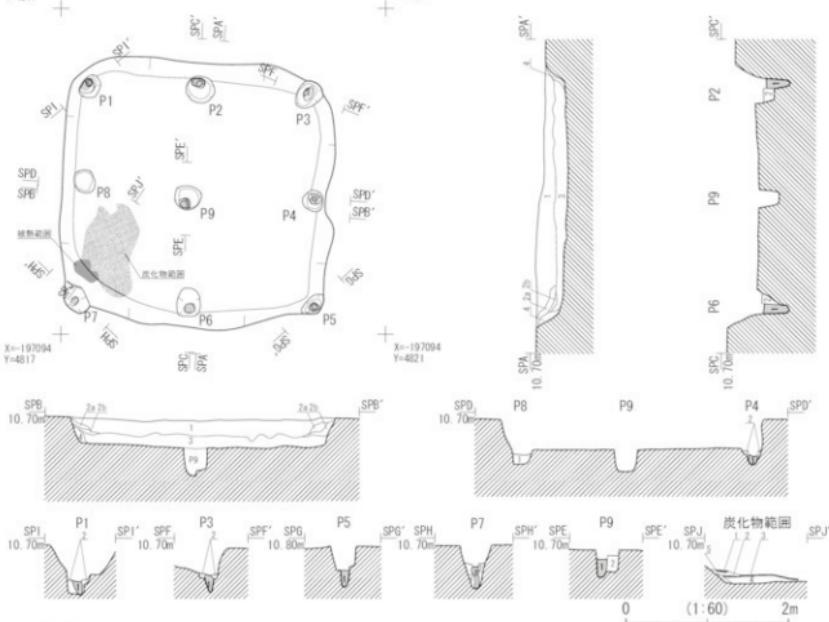
【出土遺物】 土師器1点、須恵器1点、礫石器1点を掲載した(第20図)。いずれも、堆積土からの出土で、本遺構に伴う遺物はない。

1は、土師器高环の环部である。口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を持ち、内面は黒色処理される。2は須恵器環で、体部から口縁部は直線的に外傾し、底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。3は、扁平礫を素材とする敲

石である。下端部及び右側縁部に敲打痕が確認される。上半部及び左側縁部を欠損し、欠損後の使用痕跡は確認されない。

X=197090  
Y=4817

X=197090  
Y=4821



SI107 垂直土孔記録表

部位	射位	土色	土性	備考
炭化物 堆積 堆積上	1 2a 2b 3 4	7.5 YR3/1 に赤い斑状色 10YR2/2 10YR4/6 に赤い斑状色	シルト シルト シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	10 ~ 20mmの褐色シルトブロックを多量、炭化物粒を微量に含む。 10mmの赤い斑状ブロックを多量に含む。 10mmの褐色シルトブロックを少量含む。 10 ~ 20mmの褐色シルトブロックを多量、炭化物粒を微量に含む。 10 ~ 20mmの褐色シルトブロックを少量含む。
	5	10YR4/3	シルト	
	6	10YR3/1 に赤い斑状色	シルト	
	7	10YR2/1 10YR3/4	シルト 砂質シルト	10mmの褐色シルトブロックを少量含む。(柱鉛跡) 5 ~ 10mmの黒いルートブロックを少量含む。
	8	10YR2/2 10YR3/4	シルト 砂質シルト	10mmの褐色シルトブロックを少量含む。(柱鉛跡)
P1	1 2	10YR3/2 10YR3/4	シルト 砂質シルト	褐色シルトを斑状に混在含む。(柱鉛跡)
P2	1 2	10YR2/2 10YR3/4	シルト 砂質シルト	褐色シルトブロックを少量含む。
P3	1 2	10YR2/1 10YR3/4	シルト シルト	10mmの褐色シルトブロックを少量含む。(柱鉛跡)
P4	1 2	10YR3/2 10YR2/2	シルト シルト	10mmの褐色シルトブロックを少量含む。(柱鉛跡)
P5	1 2	10YR2/2 10YR3/2	シルト シルト	5mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。
P6	1 2	10YR2/1 10YR3/6	シルト 粘土質シルト	10mmの褐色シルトブロックを多量、炭化物粒を微量に含む。(柱鉛跡) 10 ~ 30mmの褐色シルトブロックを多量に含む。
P7	1 2	10YR2/1 10YR3/2	シルト シルト	方削工具を少し削った跡を微量に含む。(柱鉛跡)
P8	1	10YR3/3	シルト	10mmの褐色シルトブロックを少量含む。
P9	1 2	10YR2/2 10YR3/3	シルト シルト	炭化物粒を微量に含む。(柱鉛跡)

SI107 施設堆積土孔記録表

部位	射位	土色	土性	備考
炭化物 分布範囲	1	2.5 YR6/8	褐色	シルト 堆積を多量、黒色シルト少量、炭化物粒を微量に含む。
	2	10YR4/3	に赤い斑状色	シルト 10mmの褐色シルトブロックを少量含む。
	3	10YR2/1	黒色	粘土質シルト 炭化物粒多量、5mmルートブロックを少量含む。
	4	10YR4/6	褐色	粘土質シルト 方削ブロックを多量、黒褐色シルトを含む。
	5	10YR4/3	に赤い斑状色	粘土質シルト 10 ~ 20mmの褐色シルトブロックを多量に含む。
P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト 褐色シルトを斑状に混在含む。(柱鉛跡)
P2	1	10YR3/4	黒褐色	シルト 5 ~ 10mmの黒いルートブロックを少量含む。
P3	1	10YR2/2	黒褐色	シルト 10mmの褐色シルトブロックを少量含む。
P4	1	10YR3/2	黒褐色	シルト 10mmの褐色シルトブロックを少量含む。(柱鉛跡)
P5	1	10YR2/2	黒褐色	シルト 5mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。
P6	1	10YR2/1	黒色	シルト 10mmの褐色シルトブロックを多量、炭化物粒を微量に含む。(柱鉛跡)
P7	1	10YR2/1	黒色	シルト 方削工具を少し削った跡を微量に含む。(柱鉛跡)
P8	1	10YR3/3	黒褐色	シルト 炭化物粒を微量に含む。
P9	1 2	10YR2/2 10YR3/3	黒褐色 シルト	炭化物粒を微量に含む。(柱鉛跡)

第19図 SI107 穴内遺構

SI107 積物調査表				SI107 積物調査表			
遺物名	平面形	周囲(cm)	深さ(cm)	遺物名	平面形	周囲(cm)	深さ(cm)
P1	不整円形	30×24	18	P6	楕円形	30×30	33
P2	円形	36×33	30	P7	不整円形	33×27	30
P3	楕円形	42×30	21	P8	不整円形	42×27	12
P4	不整円形	27×27	18	P9	不整円形	33×30	21
P5	楕円形	33×24	21				

1(堆積土下層)

3(堆積土)

2(堆積土)

0 (1:3) 10cm

回数 番号	登録 番号	縦横(cm)	調査区	出土地	壁面	種別	断面	部位	法面(cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 回数
									(1面)	(2面)	(3面)				
1	C-245	17面X	SI107	堆積土下層	土質部	高床	1面 一休	(1.1)	-	(2.4)	(1面)アーチ 体ノハリX	砂ぼき	内面黒色処理	60	
2	E062	17面G	SI107	堆積土	泥炭部	坪	1面 一底	(15.8)	(8.2)	3.5	3面 底・頂輪・切引・へりか	砂ぼき調査	1面部: 内外面自然剥離 若	60	
3	E-017	17面X	SI107	堆積土	泥炭部	坪	1面 一底	(7.9)	(7.2)	3.3	[169.94] 壁吹き	壁(2面)程度強、刃物有り、火候あり		60	

第20図 SI107竪穴遺構出土遺物

### SI108 竪穴遺構(第21図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-7グリッドに位置する。北西・南東コーナー付近は重複遺構(SI 107)と擾乱により失われている。

【重複】 SI107と重複関係にあり、これより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北219cm、東西228cmを測る。平面形状は、方形と推定される。

【方向】 南壁基準でN-82°-Wである。

【堆積土】 3層に分層された。いずれも竪穴遺構堆積土で、黒褐色シルトを主体とし、IV層ブロックを含む。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大15cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から5基検出した。いずれも壁際に沿って配置され、P 3～5では柱痕跡が確認された。P 1～5は、主柱穴に相当すると考えられる。

【出土遺物】 須恵器1点、土製品1点、金属製品3点を掲載した(第21図)。

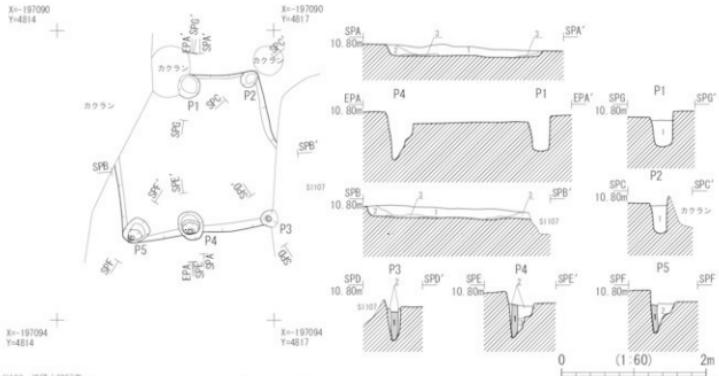
1・2・5は堆積土から、3・4は床面上から出土である。1は、須恵器蓋である。カエリを持たず、口縁部と体部の境は棱を持ち、口縁部は外傾する。2は、側面3箇所に磨面を持つ須恵器の胴部片である。3～5は刀子である。

### (2)掘立柱建物跡(第22～28図)

V区で1棟、17街区で4棟検出した。17街区東端では、SB 6～8が重複、または隣接して検出された。また、これら掘立柱建物の北側には、竪穴遺構が2軒検出されており居住に関係する遺構のまとまりがみられる。

### SB5掘立柱建物跡(第22図)

V区中央、B-8グリッドに位置する。検出した柱穴は6基で、南北2間×東西3間の東西棟建物跡として検出された。本掘立柱建物跡の桁行を基準とした軸方位はN-80°-Wである。各柱穴のうち、P 6・7・12はSI 78と重複関係にあ



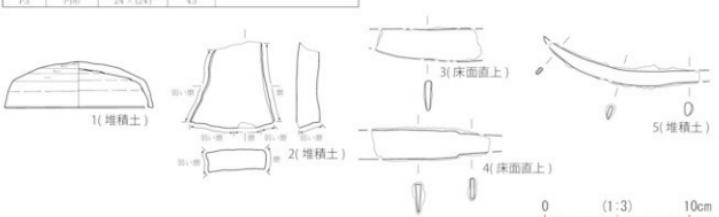
層位	層位	土色	土性	備考
1	10YR3/1	黒褐色	シルト	径10～20mmの石墨ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	径1mmの石墨ブロックを少量含む。
3	10YR4/4	褐色	シルト	径20～30mmの黑色シルトブロックを少量含む。

SI108 堆積堆積・柱状図表

層位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/2	黒褐色	シルト 径5～10mmの石墨ブロックを少量含む。
P2	1	10YR4/1	黒褐色	シルト 径1～5mmの石墨ブロックを少量、炭化物を微量に含む。(付註脚)
P3	2	10YR4/3	灰褐色	シルト 径5mmの黒色シルトブロックを少量、炭化物を微量に含む。
P4	1	10YR2/3	黒褐色	シルト 径10～20mmの石墨ブロックを多量、炭化物を微量に含む。(付註脚)
	2	10YR2/1	黒色	シルト 細かいシルトを少量含む。
	3	10YR4/3	灰褐色	シルト 径1mmの黒色シルトブロックを多量に含む。(付註脚)
P5	1	10YR2/3	黒褐色	シルト 径1mmの石墨ブロックを少量含む。(付註脚)
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト 径10～30mmの黒色シルトブロックを少量、砂土を微量に含む。

SI108 堆積堆積・柱状図表

層位名	平面形	周長(cm)	深さ(cm)	備考
P1	不整円形	33 × 33	30	
P2	梢円形	27 × 21	30	
P3	円形	24 × (24)	45	

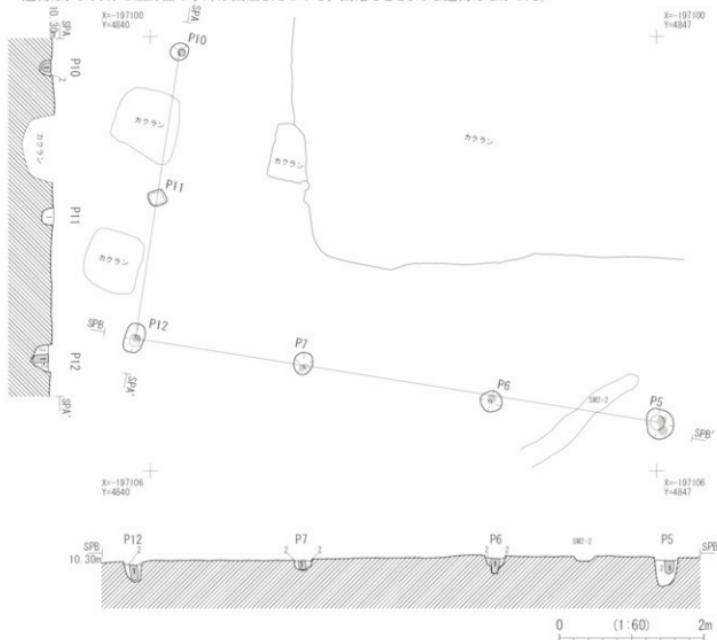


層位 番号	基盤 番号	調査孔	出土地	層位	種別	鉱種	部位	深度(m)			外山調整	内山調整	備考	写真 番号
								(上段)	(中段)	(下段)				
1	E-063	17面X	SI108	堆積土	鉱脈	基盤	天井	1.02	(10.2)	-	3.2	3%調査	3%調査	60
					鉱脈	基盤	今段	1.02	1.02	1.02	天井(1.02)から1.02	特微・備考	724 725	
2	P-023	17面X	SI108	堆積土	上鉱脈	鉱脈	天井	5.9	5.8	1.4	64.9	2%調査	鉱脈3箇所に押出、外山(1.02)附近	60
					鉱脈	基盤	今段	5.9	5.8	1.4	64.9	2%調査	鉱脈3箇所に押出、外山(1.02)附近	60
3	N-012	17面X	SI108	堆積土	全鉱脈	刀子	天井	(7.3)	2.3	0.6	(29.6)	0.9%	0.9%	60
4	N-011	17面X	SI108	堆積土	全鉱脈	刀子	天井	(8.6)	(2.2)	(0.9)	(25.3)	0.9%	0.9%	60
5	N-015	17面X	SI108	堆積土	全鉱脈	刀子	天井	(10.4)	(1.6)	(0.5)	(13.9)	0.9%	0.9%	60

第21図 SI108 穫穴構造・出土遺物

り、これより新しい。桁行は総長732cm、柱間寸法は西から234cm、264cm、240cm、梁行は総長396cm、柱間寸法は北から210cm、198cmを測る。柱穴の規模は長軸27~45cm、短軸24~39cm、検出面からの深さ12~36cmを測る。平面形状は円形ないし方形・長方形、断面形状は筒形を基調とする。柱痕跡は、P5~7・10・12で確認された。

遺物は、P11から土師器の小片が出土したのみで、図化できるような遺物はなかった。



(22) 遺物埋蔵土跡記画

部位	標位	土色	土性	備考
P5	1	10YR2/2	黒褐色	船上鉢シルト
	2	10YR3/3	褐褐色	船上鉢シルト
P6	1	10YR3/3	褐褐色	船上鉢シルト
	2	10YR3/3	褐褐色	シルト
P7	1	10YR2/2	黒褐色	船上鉢シルト
	2	10YR3/3	褐褐色	シルト
P10	1	10YR2/2	黒褐色	シルト
	2	10YR3/3	褐褐色	船上鉢シルト
P11	1	10YR2/2	黒褐色	シルト
P12	1	10YR2/2	黒褐色	船上鉢シルト
	2	10YR3/4	褐褐色	船上鉢シルト

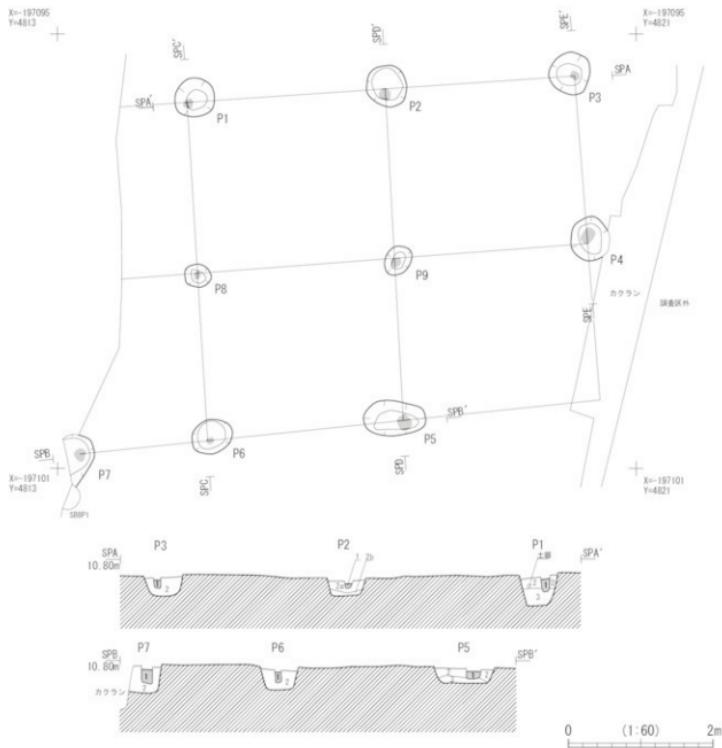
第22図 SBS5掘立柱建物跡

### SB6掘立柱建物跡(第23・24図)

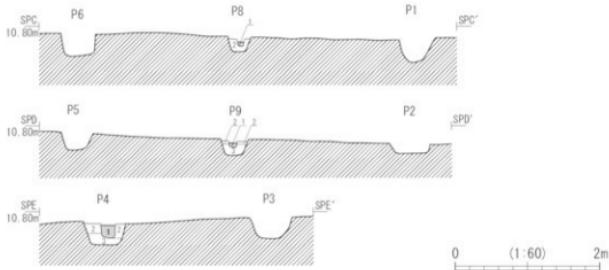
17街区東半、Z-8グリッドに位置する。検出した柱穴は9基で、南北2間、東西3間の東西棟総柱建物として検出された。

本掘立柱建物跡の桁行を基準とした軸方位はN-85°-Eである。各柱穴のうちP7は、SB8-P1と重複関係にあり、これより古い。また、SB7とは重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。桁行は総長744cm、柱間寸法は西から180cm、270cm、276cm、梁行は総長450cm、柱間寸法は北から228cm、216cmを測る。柱穴の規模は長軸39～87cm、短軸30～60cm、検出面からの深さ15～39cmを測る。平面形状は、円形ないし梢円形、断面形状は逆台形を基調とする。柱痕跡は、全ての柱穴で確認された。

遺物は、P5を除く柱穴から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるような遺物はなかった。



第23図 SB6掘立柱建物跡(1)



SB6 墓門構造土目記表				備考
番号	部位	土色	性状	備考
P1	1 10YR2/3	黒褐色	シルト	径10mmのV型柱孔を多層に含む。(柱頭跡)
	2 10YR3/4	暗褐色	シルト	径5～10mmの黒色シルトブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	3 10YR3/4	暗褐色	シルト	径10mmの黒色シルトブロックを多量に含む。(柱頭跡)
P2	1 10YR2/2	黒褐色	シルト	径10mmの黒色シルトブロックを多量に含む。(柱頭跡)
	2a 10YR3/2	黒褐色	シルト	径10mmの黒色シルトブロックを多量に含む。(柱頭跡)
	2b 10YR3/2	黒褐色	シルト	径10mmの黒色シルトブロックを多量に含む。(柱頭跡)
P3	1 10YR3/1	黒褐色	シルト	径5mmのV型柱孔を少量含む。(柱頭跡)
	2 10YR4/4	褐色	粘土質シルト	径10mmの褐色シルトブロックを少量含む。
	3 10YR2/2	黒褐色	シルト	径5mmのV型柱孔を少量含む。(柱頭跡)
P4	1 10YR3/2	黒褐色	シルト	径10～20mmのV型柱孔を多層に含む。(柱頭跡)
	2 10YR4/3	にじみ・黒褐色	シルト	径10～20mmの黒色シルトブロックを多量に含む。
	3 10YR4/3	にじみ・黒褐色	シルト	径10mmのV型柱孔を多層に含む。(柱頭跡)
P5	1 10YR3/2	黒褐色	シルト	径5～10mmの黒色シルトブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	2 10YR4/3	にじみ・黒褐色	シルト	径5～10mmの黒色シルトブロックを多量、炭化物を微量に含む。(柱頭跡)
	3 10YR3/4	暗褐色	シルト	径10mmのV型柱孔を少量含む。(柱頭跡)
P6	1 10YR4/2	褐色	シルト	径10mmの黒色シルトブロックを多層に含む。(柱頭跡)
	2 10YR4/6	褐色	シルト	径10～20mmの黒色シルトブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	3 10YR3/1	黒褐色	シルト	径10mmのV型柱孔を少量、砂土を微量に含む。(柱頭跡)
P7	1 10YR3/1	黒褐色	シルト	径10～20mmの黒色シルトブロックを多層に含む。(柱頭跡)
	2 10YR4/3	にじみ・黒褐色	シルト	V型ブロックを少量、砂土を微量に含む。(柱頭跡)
	3 10YR3/1	黒褐色	シルト	黒シルトブロックを少量含む。
P8	1 10YR4/2	灰褐色	シルト	径5mmのV型柱孔を少量含む。
	2 10YR3/1	黒褐色	シルト	径5～10mmのV型柱孔を少量含む。
	3 10YR3/4	黒褐色	シルト	砂土・炭化物を微量に含む。

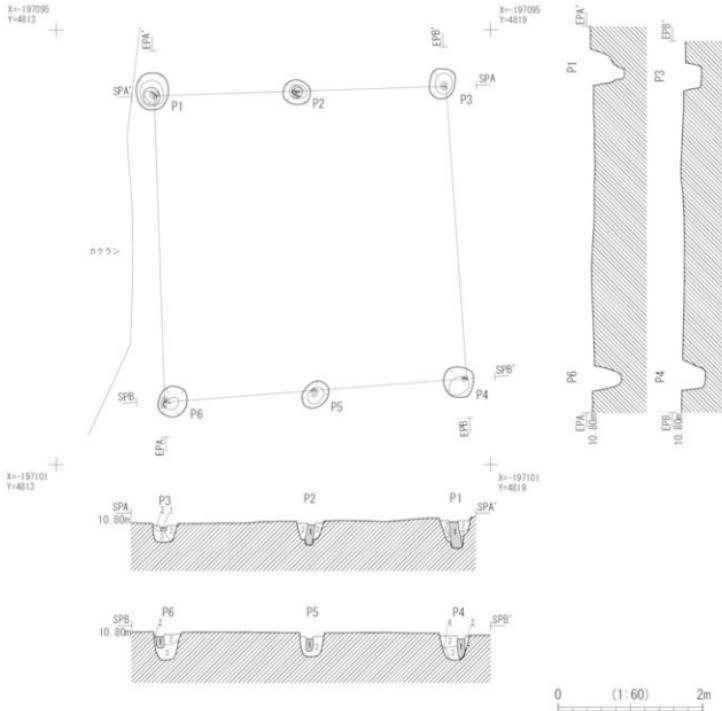
SB6 挖立柱建物跡(2)				備考
造形名	平面形	周囲(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	57 × 54	39	
P2	不整円形	60 × 54	21	
P3	不整円形	60 × 60	24	
P4	楕円形	63 × 54	30	
P5	楕円形	87 × 48	15	

第24図 SB6 挖立柱建物跡(2)

#### SB7 挖立柱建物跡(第25図)

17街区東半、Z-8グリッドに位置する。検出した柱穴は6基で、南北1間、東西2間の東西棟建物として検出された。本掘立柱建物跡の桁行を基準とした軸方位はN-86°-Eである。各柱穴に重複関係は認められない。また、SB6とは重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。桁行は長総420cm、柱間寸法は西から210cm、213cm、梁行は総長426cm、柱間寸法は426cmを測る。柱穴の規模は長軸39～51cm、短軸33～48cm、検出面からの深さ24～39cmを測る。平面形状は円形、断面形状は筒形・箱形を基調とする。柱痕跡は、全ての柱穴で確認された。

遺物は、全ての柱穴から土器師・須恵器の破片が出土したが、図化できるような遺物はなかった。



(d) 地質構造+柱記載表

井位	年月	土色	土性	備考
P1	1 10YR3/2	黒褐色	シルト	古層ブロックを少量含む。(柱直線)
	2 10YR4/4	黒褐色	シルト	往5cmの層厚に黒褐色を少量、炭化物類を微量に含む。
	3 10YR4/4	黒褐色	シルト	往5cmの層厚に黒褐色を少量、炭化物類を微量に含む。
P2	1 10YR2/1	黒色	シルト	往10cmの層厚ブロックを少量含む。(柱直線)
	2 10YR4/3	灰黒色	シルト	往5cmの層厚ブロックを少量含む。
P3	1 10YR3/1	黒褐色	シルト	往5～10cmの層厚ブロックを多量に含む。(柱直線)
	2 10YR4/3	黒褐色	粘土質シルト	往10cmの層厚ブロックを少量に含む。
P4	1 10YR3/3	黒褐色	シルト	往10～20cmの黒褐色シルブロックを多量、炭化物類を微量に含む。
	2 10YR4/4	黒色	シルト	往10～30cmの黒褐色シルブロックを多量、炭化物類を微量に含む。
	3 10YR3/2	黒褐色	シルト	往10cmの黒色シルブロックを少量含む。
P5	1 10YR3/4	灰黒色	粘土質シルト	往5cmの黒色シルブロックを少量含む。
	2 10YR4/4	黒色	シルト	往5～10cmの層厚ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。(柱直線)
P6	1 10YR2/1	黒褐色	シルト	往10cmの層厚ブロックを少量含む。(柱直線)
	2 10YR3/3	黒褐色	シルト	黒色シルトを少量、炭化物類を微量に含む。
	3 10YR2/2	黒褐色	シルト	往10cmの層厚ブロックを少量含む。

(e) 柱記載表

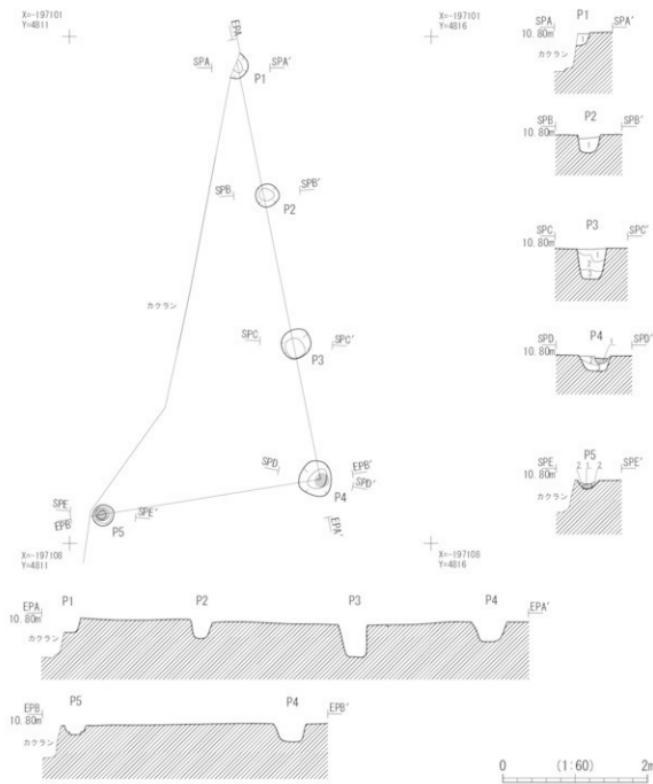
測点名	平面形	周長(cm)	深さ(cm)	備考	測点名	平面形	周長(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	51×48	39		P4	楕円形	48×45	33	
P2	楕円形	39×36	30		P5	楕円形	48×33	27	
P3	楕円形	48×39	24		P6	楕円形	45×39	30	

第25図 SB7掘立柱建物跡

### SB8掘立柱建物跡(第26図)

17街区東半、Z-8・9グリッドに位置する。北西半は、擾乱により失われている。検出した柱穴は5基で、南北3間以上、東西1間以上の南北棟建物として検出された。本掘立柱建物跡の桁行を基準とした軸方位はN-11°-Wである。各柱穴のうちP1は、SB6-P7と重複関係にありこれより新しい。桁行は総長588cm、柱間寸法は北から186cm、222cm、186cm、梁行は総長306cm、柱間寸法は306cmを測る。柱穴の規模は長軸30~51cm、短軸18~45cm。検出面からの深さ6~48cmを測る。平面形状は円形、断面形状は逆台形・皿状を基調とする。柱痕跡は、P4・5で確認された。

遺物は、P2~4から土師器・須恵器の破片が出土したが、図化できるような遺物はなかった。



第26図 SB8掘立柱建物跡

SB8 地盤堆積土柱記録					
部位	層位	土色	土性		備考
P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	径10mmの角質プロックを多量に含む。
P2	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	径10~20mmの角質プロックを多量、炭化物粒を微量に含む。
P3	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	古層プロックを多量に含む。
	2	10YR4/3	にじみ・薄褐色	シルト	径5mmの角質プロックを多量、黑色シルトプロック・炭化物粒を微量に含む。
	3	10YR2/2	灰褐色	シルト	径5mmの角質プロックを多量、炭化物粒を微量に含む。
P4	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	径5mmの角質プロックを多量、炭化物粒を微量に含む。
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト	径5mmの角質プロックを多量、炭化物粒を微量に含む。
	3	10YR4/2	灰褐色	シルト	径5mmの角質プロックを多量、炭化物粒を微量に含む。
P5	1	10YR2/1	褐色	シルト	径5mmの角質プロックを多量に含む(初期段)
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	黑色シルトを微弱に少量含む。

TB9 遺物探査表

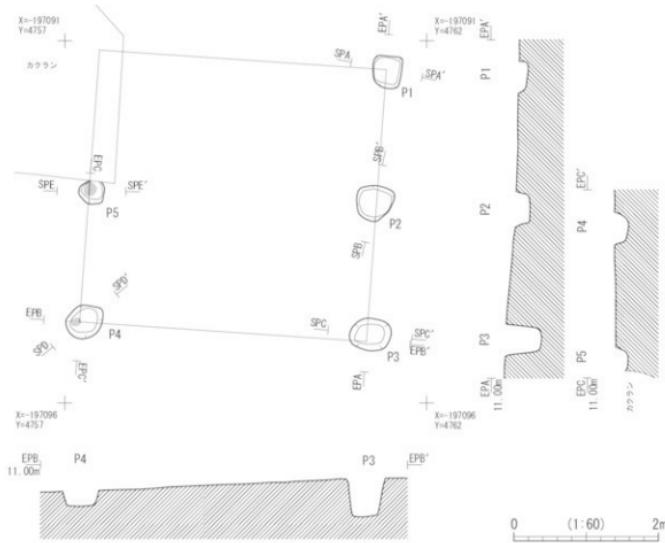
遺物名	平面形	周囲(cm)	深さ(cm)	層位
P1	不規	36×(18)	15	
P2	円形	33×33	21	
P3	円形	45×39	48	

## SB9 振立柱建物跡(第27・28図)

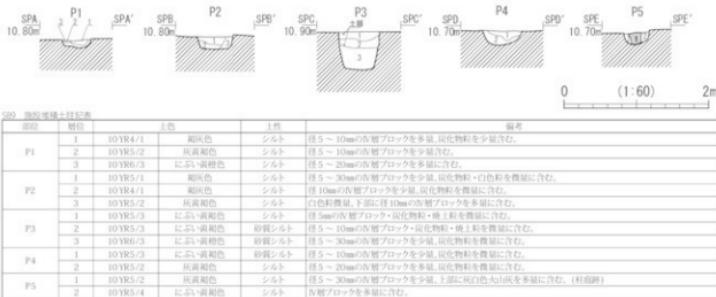
17街区西半、V-8グリッドに位置する。検出した柱穴は5基で、南北2間、東西1間の東西棟建物として検出された。

本振立柱建物跡の桁行を基準とした軸方位はN-87°-Wである。各柱穴に重複関係は認められない。また、建物範囲ではSK 110+111・113+127、Pit 64+77+78と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。桁行は総長378cm、柱間寸法は北から186cm、192cm、梁行は総長396cm、柱間寸法は396cmを測る。柱穴の規模は長軸36~57cm、短軸36~51cm、検出面からの深さ9~54cmを測る。平面形状は円形ないし方形、断面形状は箱型・逆台形を基調とする。柱痕跡は、P4・5で確認された。

遺物は、P2~4から土師器の破片が少量出土したが、図化できるような遺物はなかった。



第27図 SB9 振立柱建物跡(1)



第28図 SB9掘立柱建物跡(2)

### (3) 溝跡(第29～33図)

V街区で6条、17街区で2条検出した。V街区で検出したSD 64・65・66は東西方向、SD 62・63・67は南北方向に並走するという特徴がみられる。東西方向のSD 64は南北方向のSD 62と重複関係にあり、SD 62が新しい。また、南北方向のSD 62と63も重複関係にあり、SD 63が新しい。

17街区で検出したSD 72は河川跡の埋没後に、河川跡の東側の斜面に沿って検出された。また、断面観察から掘り直しが認められた。SD 73は、規模は大きく異なるがSD 72と同方向に延びる。これら並走する溝が、2条もしくは3条単位で同時存在であったのか、時期差があったのかは不明である。

これら8条の溝跡の検出した範囲の規模は、長さは最小でSD 73の98cm、最長がSD 72の1218cm、上端幅が21～120cm、深さ3～78cmを測る。平面形状は、わずかに湾曲するSD 72を除き、直線的に延びる。方向は、東西方向に延びるSD 64・65・66はN-67～68°-W、南北方向に延びるSD 62・63・67はN-12～29°-E、北東から南西に延びるSD 72・73はN-40～46°-Eである。断面形状は、逆台形もしくは「U」字形を呈し、底面はおむね平坦である。

遺物は、SD 64・73を除く溝跡から土師器・須恵器・礫石器が出土した。このうち、SD 63から土師器1点、須恵器蓋1点、SD 65から土師器高环1点、SD 66から土師器环1点・甕1点、須恵器壺1点・甕3点、礫石器1点、SD 67から須恵器環1点、SD 72から須恵器环1点を掲載した(第31～33図)。

第31図-1・2は土師器環で、扁平に内湾する部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と部体の境は外面に段を持ち、内面は黒色処理される。第31図-3は土師器高环で、脚部は外傾し、根部はラッパ状になると推定される。4は大型の土師器壺で、球脛の胴部から短く直立する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、中位に持つ。胴部の輪積み部分の上端には、粘土の接合を強固にするためと考えられる刻みが施される。

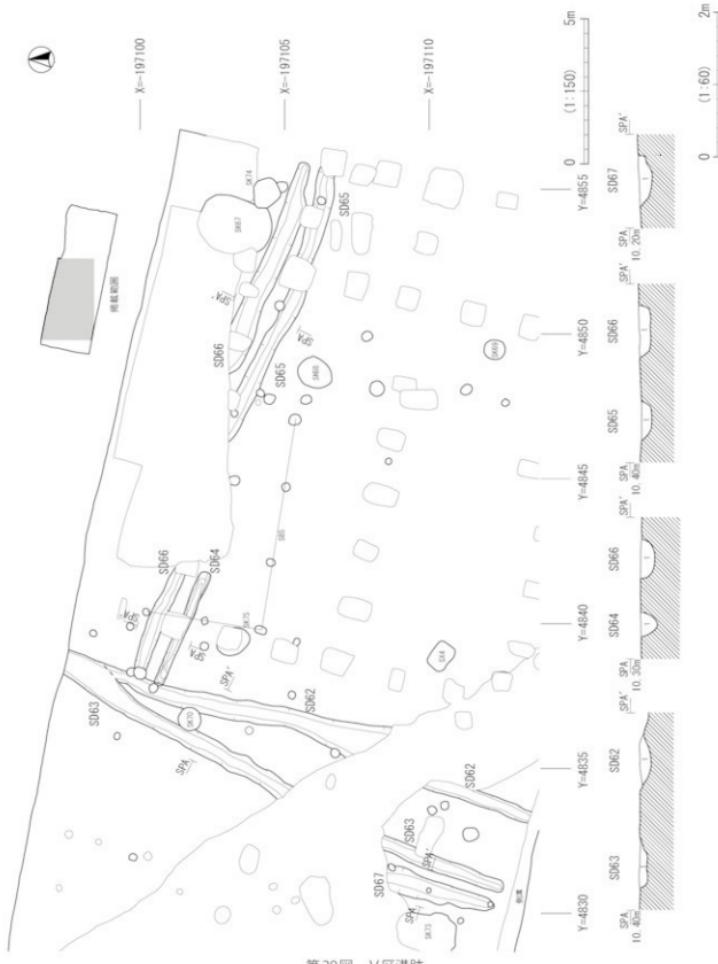
第32図-1は須恵器蓋で、カエリを持たず、口縁部は短く垂下する。第32図-2・3は須恵器壺で、部体から口縁部は外傾する。底部切り離し技法は、2は回転へら切り、3の底部の切り離し技法は不明だが手持ちへらヶ切りが施される。4は須恵器壺で、頸部から肩部は内湾して丸みを持ち、肩部と部体の境は強く屈曲する。第32図-5は小型の須恵器壺、第32図-6・7は大型の須恵器壺の口縁部と底部である。

SB9 溝跡地盤土質記述			
地層	標高	土色	土性
P1	1 10 YR4/1	褐色	シルト
	2 10 YR5/2	灰褐色	シルト
	3 10 YR6/3	にふく・黄褐色	シルト
P2	1 10 YR5/1	灰褐色	シルト
	2 10 YR4/1	褐色	シルト
P3	1 10 YR5/3	にふく・黄褐色	シルト
	2 10 YR5/2	灰褐色	シルト
	3 10 YR6/3	にふく・黄褐色	シルト
P4	1 10 YR5/1	灰褐色	シルト
	2 10 YR4/1	褐色	シルト
P5	1 10 YR5/2	灰褐色	シルト
	2 10 YR5/4	にふく・黄褐色	シルト

地層名	平面形	周囲(cm)	深さ(cm)	参考
P1	圓丸形	48×48	9	
P2	不規則円形	57×51	18	
P3	楕円形	57×45	54	
地層名	平面形	周囲(cm)	深さ(cm)	参考
P4	不整規円形	54×45	18	
P5	不規則円形	36×36	15	

第33図-1は、扁平な円錐を素材とする台石である。表裏正面に敲打痕が確認され、表面では凹痕を形成する。石材は石英安山岩質凝灰岩を使用している。

これら出土遺物は、いずれも堆積土出土で、溝跡に伴う遺物はない。



第29図 V区溝跡

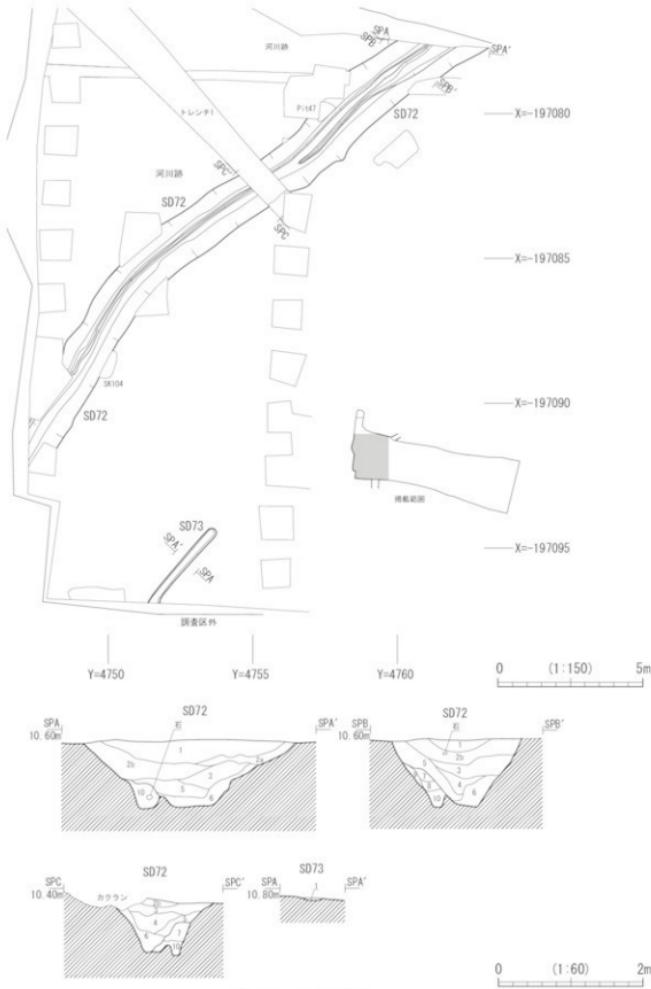
—— X=197075

—— X=197080

—— X=197085

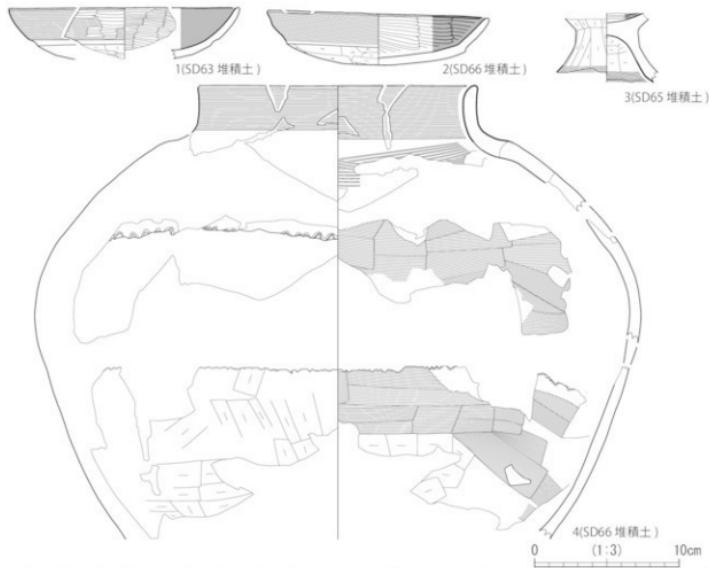
—— X=197090

—— X=197095



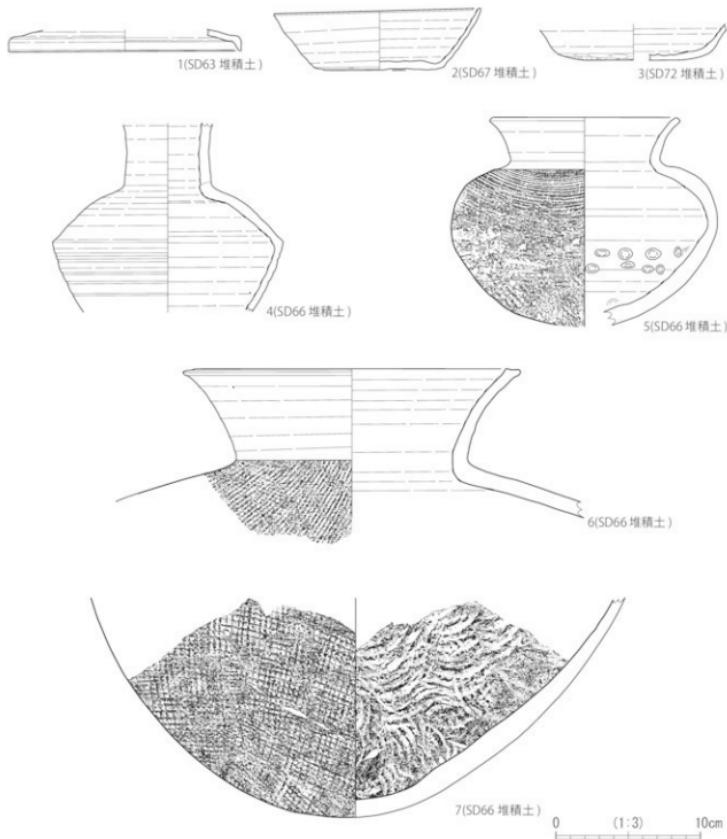
第30図 17街区溝跡

実跡(各作・中間) 施肥表										
	測定区	グリッド	方向	位置	高さ(cm)	地盤	土色	土性	備考	
SD62	V区	A-B 8-9 7-8	N-19°-E (11572)	132 90 42	1 10YR3/3	褐褐色	粘重シルト	炭化物をわずかに含む。		
SD63	V区	A-B 8-9 7-8	N-29°-E (1680)	108 93 15	1 10YR3/4	褐褐色	シルト	黒褐色上ブロックを少量、炭化物をわずかに含む。	断面限なし。	
SD64	V区	A-B 8-9	N-67°-W (426)	45 18 27	-	-	-	-	下部は黒褐色上ブロックを少量、炭化物を微量に含む。	
SD65	V区	B-C 8-9	N-67°-W (1062)	69 33 36	1 10YR3/3	褐褐色	シルト	褐色上ブロックと褐褐色上ブロック上・焼成灰層を含む。		
SD66	V区	B-C 8-9	N-68°-W (1764)	90 45 45	1 10YR2/3	褐褐色	シルト	褐色・土紅色を微層、10cm程度の間に、黒褐色上ブロックを含む。		
SD67	V区	B-C 8-9	N-12°-E (290)	- 39	1 10YR3/3	褐褐色	シルト	炭化物・土紅色を微層、10cm程度の間に、黒褐色上ブロックを含む。		
					1 10YR3/2	灰褐色	シルト	径5～10cmの小形ブロックを多量、炭化物を微量に含む。		
					2a 10YR3/4	灰褐色	シルト	径10～20cmの大型ブロックを多量、炭化物を微量に含む。		
					2b 10YR4/2	灰褐色	シルト	径5～20cmの大型ブロックを多量、小形を除く・炭化物を微量に含む。		
					3 10YR3/3	にら・黒褐色	粘土質シルト	径5～10cmの大型ブロックを少量、褐色鉄鉱・炭化物を微量に含む。		
					4 10YR3/2	灰褐色	粘土質シルト	径5～10cmの大型ブロックを少量、褐色鉄鉱を微量に含む。		
					5 10YR3/3	にら・黒褐色	シルト	径5～20cmの大型ブロックを少量、褐色鉄鉱を微量に含む。		
					6 10YR3/2	灰褐色	シルト	径5～10cmの大型ブロックを多量、炭化物を微量に含む。		
					7 10YR3/3	にら・黒褐色	粘土質シルト	径5～10cmの大型ブロックを多量含む。		
					8 10YR3/2	黒褐色	粘土	径5～10cmの大型ブロックを少量含む。		
					9 10YR3/2	灰褐色	粘土質シルト	径5～10cmの大型ブロックを微量含む。		
					10 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	径5～20cmの大型ブロックを多量、炭化物を微量に含む。		
SD72	17号 EC	U-V 7-8	N-40°-E (1218)	120 42	28					
SD73	17号 EC	V-E 9	N-40°-E (98)	98 21 12	3	1 10YR3/3	にら・黒褐色	シルト	径10～20cmの大型ブロックを多量に含む。	



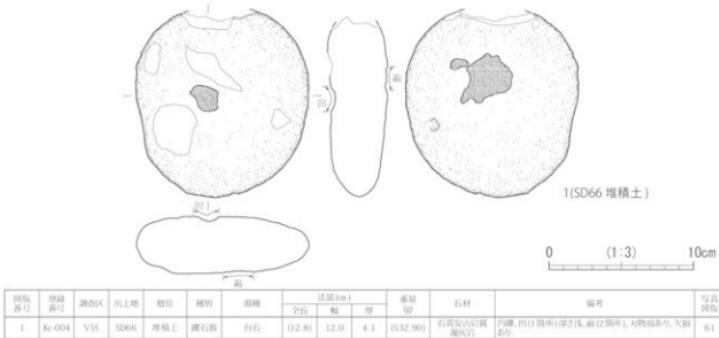
測定 番号	登録 番号	測定区	出土地	層位	種別	器種	部材	法線(cm)			外山調整	内山調整	備考	写真 番号
								口径	底径	高さ				
1	C-182	V区	SD63	堆積土	上部部	II	1.24 1.23	(16.0)	-	(0.5)	1.24×1.24×16.0cm 体-底-高さ	AV171	内部黒色処理	60
2	C-184	V区	SD66	堆積土	上部部	II	完形	15.3	-	3.8	1.24×1.24×15.3cm 体-底-高さ	AV172	内部黒色処理	60
3	C-183	V区	SD65	堆積土	上部部	高部	完-新	-	(4.9)	1.24×1.24×9.9cm 体-底-高さ	AV173	外部黒色処理 内部黒色処理	60	
4	C-185	V区	SD66	堆積土	上部部	裏	1.34 1.34	(19.4)	-	(31.2)	1.24×1.24×19.4cm 体-底-高さ	AV174	粘土質結合面に剥離、 表面黒色面、内部削除 内部黒色面	60

第31図 満跡出土遺物(1)



图号 器号	单件 器号	调查区	采集地	层位	类别	器种	部位	剖面(单位)			外圈调整	内圈调整	参考	写真 图版
								上壁	底径	高				
1	E-034	V区	SD63	堆积土	采集面	罐	残~1/4	(16.0)	-	(0.3)	0%调整	0%调整		60
2	E-039	V区	SD67	堆积土	采集面	环	断定形	14.3	7.6	4.3	0%调整	0%调整		60
3	E-098	1700K	SD72	堆积土	采集面	环	体~残	-	(0.8)	(0.5)	0%调整	0%调整		60
4	E-038	V区	SD66	堆积土	采集面	长颈瓶	瓶~体	-	(13.1)	0%调整~浅腹5类	0%调整	外面凸凹和针孔、大腹丸形外圈、体外面的凹陷部分	60	
5	E-037	V区	SD66	堆积土	采集面	罐	1/4残	(13.1)	-	(14.4)	0%调整~体平行90度	0%调整~体平行90度		60
6	E-035	V区	SD66	堆积土	采集面	罐	1/4残	23.3	-	(0.3)	0%调整	0%调整		60
7	E-036	V区	SD66	堆积土	采集面	罐	瓶~残	-	(16.8)	瓶~1/3残	青釉灰		61	

第32图 满跨出土遗物(2)



第33図 溝跡出土遺物(3)

#### (4)井戸跡(第34～36図)

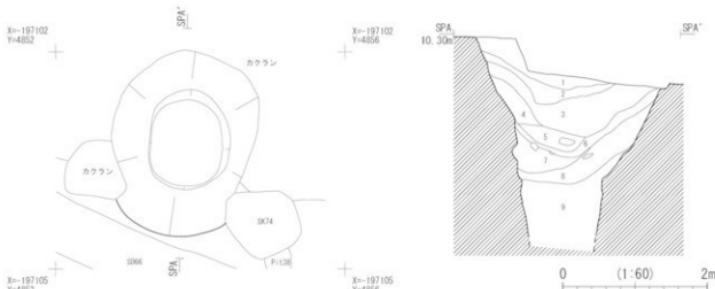
V区東半で1基、17街区西半で1基検出した。いずれも当初は土坑として調査を行っていたが、調査の途中で井戸跡と判断し、以後は井戸跡として調査を行った。

#### SK67井戸跡(第34・35図)

V区東半、B-C-8グリッドに位置する。SK74と重複関係にあり、これより古い。北側の一部は、損壊により失われている。井戸枠等を持たない素掘りの井戸跡である。なお、安全を考慮したため、底面は完掘に至っていない。

検出した規模は、上端が長軸258cm×短軸201cm、検出面からの深さ270cm以上を測る。下端の規模は、完掘していないため不明である。平面形状は楕円形を呈し、断面形状は上半部が漏斗状、下半部が筒形を呈する。堆積土は、9層に分層された。上層は黒褐色粘土質シルト、下層はオリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。

遺物は、堆積土から土器師の破片が少量出土しており、そのうちの8層出土土器器皿1点を掲載した(第35図)。1は、底部は丸底と推定され、内湾する体部から外傾する口縁部に至る器形を呈する。口縁部と体部の境は、内外面に不明瞭な段を持つ。内面は、黒色処理される。



第34図 SK67井戸跡

道横石	調査区	グリッド	平面形	断面形 (cm)		層位	土色		土性	編考	重複
				自軸× 対軸	深さ			底			
SK67	V1K	B-C-8	箱内形	258× 201	270	1	10YR2/3	暗褐色	シルト	下部に礫を少量、10YR2/2 黒褐色シルト・焼土和モザイクに	
						2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	焼土上・黒褐色ブロックを多量に、焼土斜めモザイクに含む。	
						3	10YR2/1	黒色	シルト	オリーブ黒色ブロックを多量、褐色・暗褐色・黒褐色を含む。	
						4	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	下部に 10YR2/4 黑褐色粘土シルトを多量、褐色土を微混に含む。	
						5	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	下部にオリーブ黒色土・暗褐色土ブロックを少量、且 220cm の	
						6	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	深度 200cm までモザイクに 100cm の深を含む。	
						7	5Y2/1	黒色	粘土質シルト	オリーブ黒色ブロックを多量、且 100cm の深を含む。	
						8	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	褐色土ブロックを多量、且 100cm の深を含む。	
						9	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	黒色土・灰オリーブ色土ブロックを多量、褐色土ブロックを少量 (7%)。	



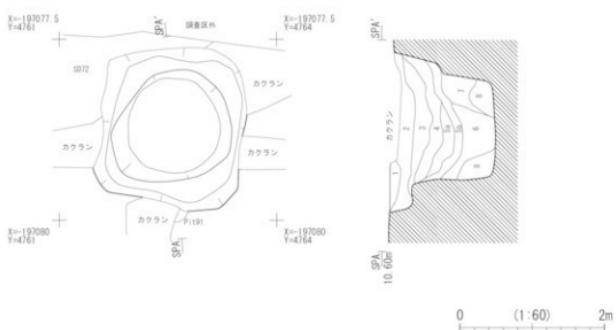
図版 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法規 (cm)	内山 調査	外山 調査	内山 調査	編考	写真 番号
1	C186	V1K	SK67	8層	上部	II	1層 全体	(15.0)	-	(4.2)	333/3	内山黒色處理、外山焼 土・厚土	61

第35図 SK67 井戸跡出土遺物

### SK124井戸跡(第36図)

17街区西半、V-7グリッドに位置する。SD72、Pit91と重複関係にあり、これより古い。北半の上面は、擾乱により失われている。井戸枠等を持たない素掘りの井戸跡である。

検出した規模は、上端が長軸225cm×短軸199cm、下端が長軸129cm×短軸127cm、検出面からの深さ144cmを測る。平面形状は上面が方形、下面が円形を呈する。断面形状は中位に段を持つ筒形で、段を境に平面形状が変化する。底面は平坦である。堆積土は、8層に分層された。灰黄褐色シルトを主体とする層が多く、IV層ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む。遺物は出土していない。



第36図 SK124井戸跡

道柄名	調査区	グリッド	平面形	面積(km <sup>2</sup> )	標高(±)	被覆	土色		土性	備考	重複	
							柱幅× 柱間	柱数				
SK124	17街区	V-7	方形	225 × 199	144		1	10YR4/2	にふい黄褐色	シルト	小磚・隙間を少量、炭化物を微量に含む。	
							2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10～20mmの黄褐色シルトブロック・小層を少量、炭化物を微量に含む。	
							3	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。	
							4	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	径10～20mmの瓦礫ブロックを少量、炭化物を微量に含む。	
							5a	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	径10～30mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。上部に細粒砂上にブロックを費量に含む。	
							5b	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10～20mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。	
							6	10YR4/1	褐色	シルト	径10～20mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。	
							7	10YR5/3	にふい黄褐色	シルト	径10～20mmの瓦礫ブロックを少量含む。	
							8	10YR6/4	にふい黄褐色	シルト	径10～20mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。	

### (5) 土坑(第37～42図)

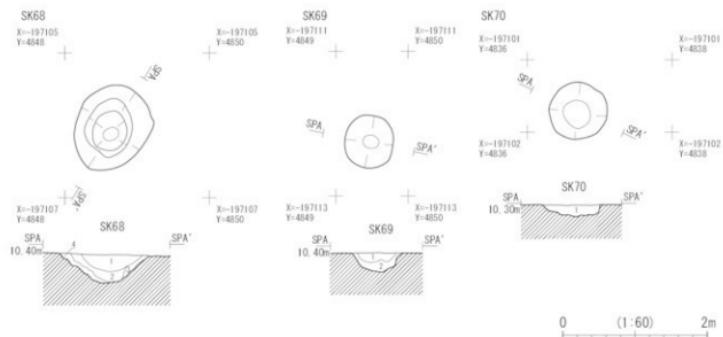
V区で8基、17街区で30基検出した。V区では中央～西半に分布し、17街区では調査区全面に広がり分布に偏りはみられない。これらの土坑は、平面形状が長方形・円形、断面形状が箱型・逆台形を基調とするものと、平面形状が円形、断面形状が筒形・「U」字形を基調とするものに大別が可能である。また、平面形状が長方形の土坑は、長軸方位が南北方向を指向するものが多くみられる。

堆積土は、黒褐色・にふい黄褐色・にふい黄橙色シルトないし粘土質シルトを主体とし、大半の土坑はIV層ブロックを含む。

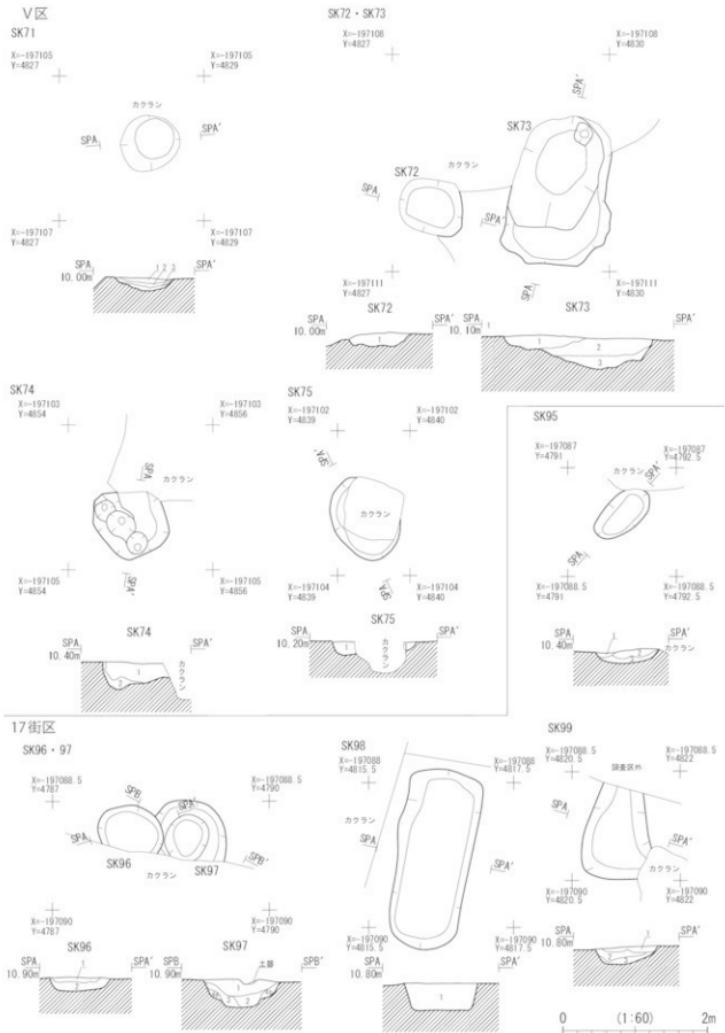
遺物は、SK 109・110・119・120・127・128を除く各土坑から土師器・須恵器・石製品の破片が少量出土しており、そのうちの土師器3点、石製品1点を掲載した(第42図)。これらの出土遺物は、SK 97の底面から出土した1を除き、理過程での流れ込みと考えられる。

1は土師器高環で、环部と脚部の境は稜を持ち、体部は外傾する。脚部は中空で、裾部に向かって緩やかに外傾する。2・3は、胸部の最大径を下位に持つ長胴の土師器甕である。2の口縁部は外傾し、口縁部と脚部の境は段を持つ。4は、扁平な碟を素材とする鋤鋒車の未完成品である。周縁部全体に調整のための敲打痕と剥離が確認される。整形により平面形は円形を呈する。器体中央には表裏両面から穿孔が行われているが、貫通はしていない。石材は石英安山岩質凝灰岩を使用している。

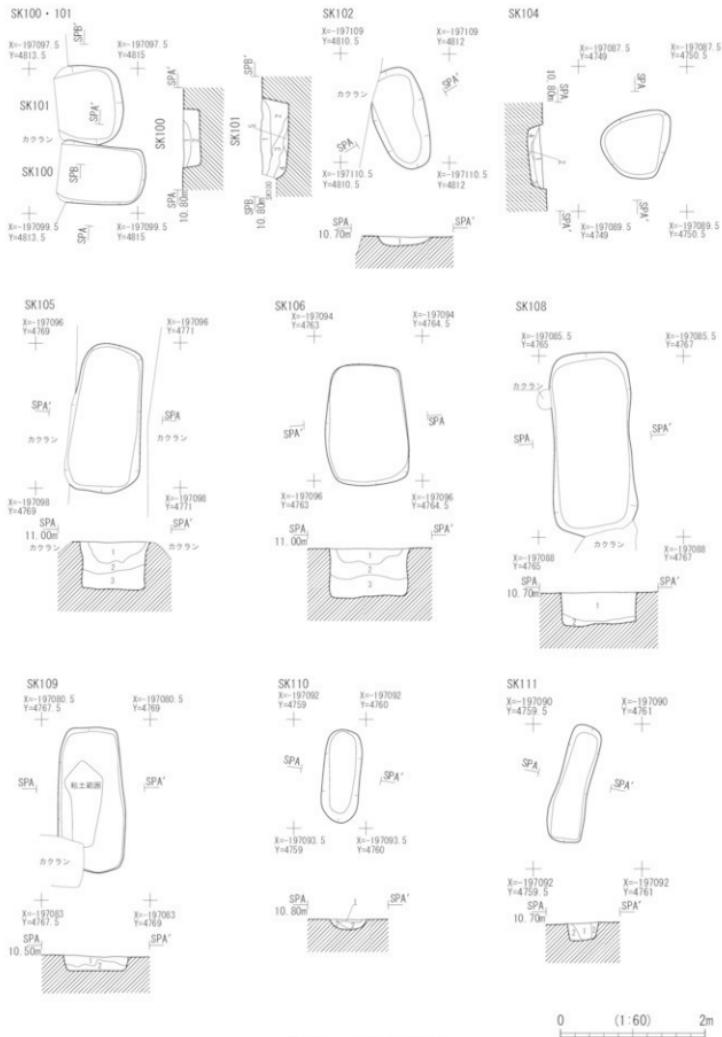
### V区



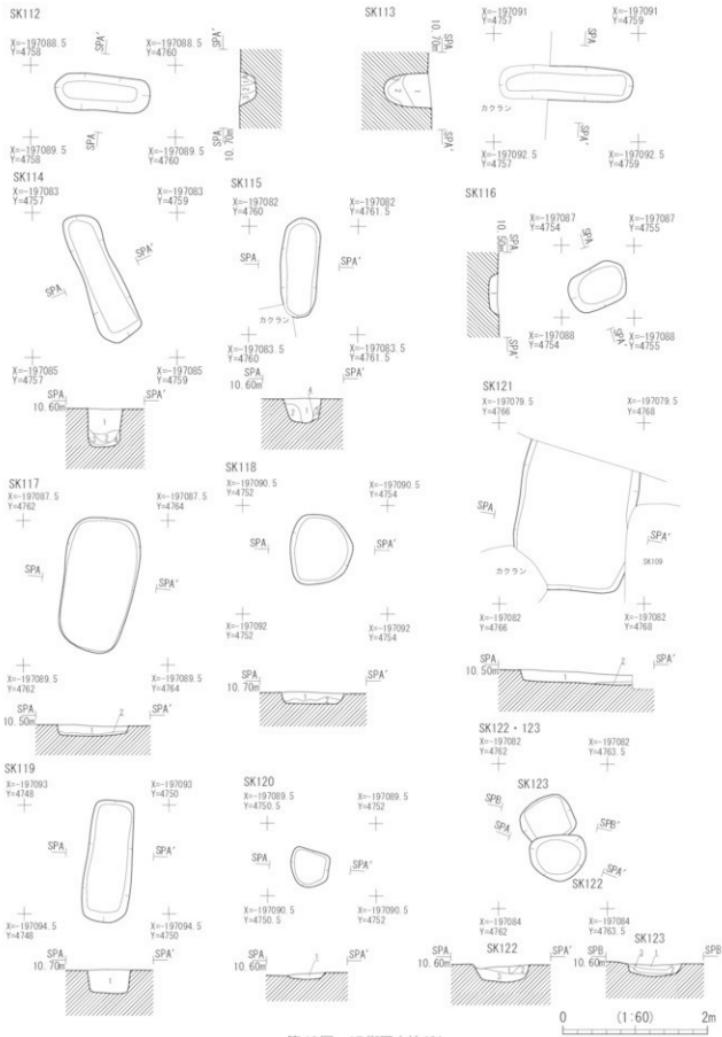
第37図 V区土坑(1)



第38図 V区土坑(2)・17街区土坑(1)

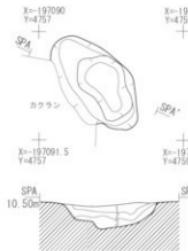


第39図 17街区土坑(2)

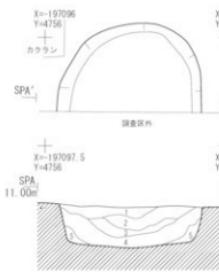


第40図 17街区土坑(3)

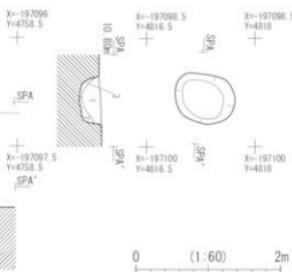
SK127



SK128



SK129



0 (1:60) 2m

第41図 17街区土坑(4)

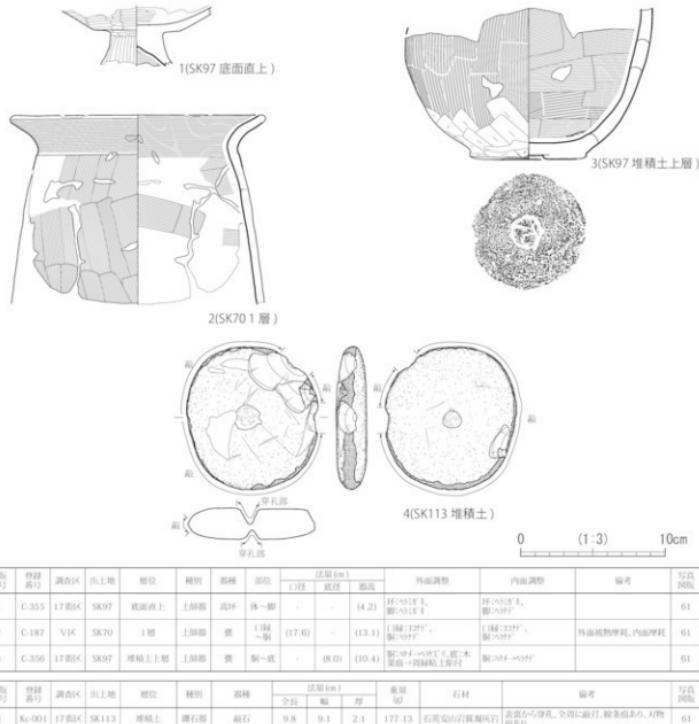
V区付近剖面

道標名	調査区	グリッド	平面形	規模(km)		層位	土色	土性	備考	査定
				台幅	深さ					
SK68	V1K	B-B	円形	126 × 102	47	1	10YR5/2	黒褐色	シルト	炭化物ブロック・硬土を少量含む。
						2	10YR5/2	黒褐色	粘土質シルト	10cm～14cmの黒褐色砂質シルトブロック・炭化物ブロック・硬土を少量含む。
						3	10YR4/4	褐色	シルト	
						4	10YR5/4	にごく淡褐色	砂質シルト	下部に10cmの黒褐色シルトブロックを少量含む。
SK69	V1K	B-B	円形	75 × 66	33	1	10YR5/1	黒褐色	シルト	硬土・炭化物を微量に含む。
						2	10YR5/3	暗褐色	シルト	硬土・炭化物を微量に含む。
SK70	V1K	A-B	円形	84 × 81	21	1	10YR4/4	暗褐色	シルト	黒褐色上・側面・底部に黄褐色土のブロックを含む。
						2	10YR4/4	褐色	シルト	径10mmの黒褐色ブロックを少量含む。
SK71	V1K	A-B	円形	84 × 81	18	1	2	10YR4/3	にごく淡褐色	シルト
						2	10YR4/3	にごく淡褐色	シルト	炭化物を微量に含む。
						3	10YR4/3	にごく淡褐色	シルト	炭化物を微量に含む。
SK72	V1K	A-B	長方形	96 × 84	13	1	10YR4/2	灰褐色地	シルト	径10mmの黒褐色ブロックを多量、堆土・硬土・炭化物を微量に含む。
						2	10YR4/2	黒褐色	シルト	粘土質シルト・硬土・炭化物を微量に含む。一部テラ化。
SK73	V1K	A-B	不整形	216 × 150	48	1	2	10YR4/4	褐色	粘土・砂質シルト
						2	10YR4/4	褐色	粘土・砂質シルト	径10mmの黒褐色ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
SK74	V1K	C-B	椭円形	114 × 96	27	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	径10mmの黒褐色シルトブロックを含む。
						2	10YR3/3	にごく淡褐色	シルト	径5mmの黑褐色シルトブロックを少量に含む。
SK75	V1K	B-B	楕円形	120 × 84	12	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黒褐色上・側面・底部にブロックを少量含む。

17街区土坑剖面表(1)

道標名	調査区	グリッド	平面形	規模(km)		層位	土色	土性	備考	査定
				台幅	深さ					
SK95	17街区	X-7	円形	94 × 48	18	1	10YR2/1	黒褐色	シルト	5塊を直角に含む。
						2	10YR2/2	灰褐色地	粘土質シルト	径5～10mmの黒褐色ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
						3	10YR4/4	にごく淡褐色	粘土質シルト	5塊を直角に含む。
						4	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	5塊を直角に含む。
SK96	17街区	X-8	円形	63 × 63	21	1	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	5塊を直角に含む。
						2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	5塊を直角に含む。
SK97	17街区	X-8	円形	95 × 84	39	1	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	5塊を直角に含む。
						2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	5塊を直角に含む。
SK98	17街区	Z-7	楕丸・長方形	249 × 108	39	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	20～40mmの黒褐色ブロックを多量に含む。
						2	10YR3/1	黒褐色	シルト	10～20mmの黒褐色ブロックを少量含む。
SK99	17街区	Z-7	不整形	120 × 96	24	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10～30mmの黒褐色ブロックを多量に含む。
						2	10YR3/2	灰褐色地	粘土質シルト	10～30mmの黒褐色ブロックを多量に含む。
SK100	17街区	Z-7	楕丸・長方形	120 × 87	24	1	10YR2/1	黒褐色	シルト	10～30mmの黒褐色ブロックを少量含む。
						2	10YR4/2	灰褐色地	シルト	黒褐色シルトを直角に多量に含む。
SK101	17街区	Z-8	楕丸・分布	108 × 93	39	1	10YR4/2	灰褐色地	シルト	白褐色・黄褐色シルトを微量に含む。
						2	10YR3/2	黒褐色	シルト	白褐色・黄褐色シルトを微量に含む。
						3	10YR3/3	暗褐色	シルト	白褐色・黄褐色シルトを微量に含む。
						4	10YR4/3	にごく淡褐色	シルト	黒褐色シルトを微量に含む。
						5	2.5YR2/3	超オリーブ褐色	シルト	10～20mmの白色シルトブロックを多量、炭化物を微量に含む。
SK102	17街区	Z-9	楕円形	141 × 75	12	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	10～10mmの黒褐色シルトブロックを少量、堆土を微量に含む。
SK104	17街区	V-8	不整形	105 × 93	18	1	10YR2/2	灰褐色地	シルト	10～20mmの黒褐色ブロックを直角に多量、炭化物を微量に含む。
						2	10YR3/4	にごく淡褐色	シルト	10～20mmの黒褐色ブロックを直角に多量、炭化物を微量に含む。
						3	10YR4/2	灰褐色地	シルト	10～20mmの黒褐色ブロックを直角に多量、炭化物を微量に含む。
						4	10YR3/2	黒褐色	シルト	10～20mmの黒褐色ブロックを直角に多量、炭化物を微量に含む。

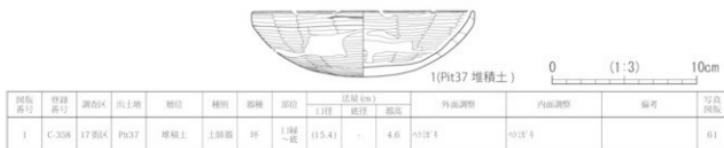
道柄名	調査区	グッド	平面形	面積(m <sup>2</sup> )	段階	被覆	土色	土性	備考		面積
									台帳× 面積	深さ	
SK105	17街区	W-8	調丸 長方形	204 × 105	11	1	10YR8/4	にふい・淡褐色	シルト	径10mmの赤褐色ブロックを多量に含む。	SK120より新しい。
						2	10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	古層ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	
SK106	17街区	W-8	調丸 長方形	168 × 114	69	1	10YR8/4	にふい・淡褐色	シルト	黒褐色ブロック・各種ブロックを含む。下部に灰白色地山を含む。	SK121より新しい。
						2	10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	古層ブロックを多量に含む。	
SK107	17街区	W-8	調丸 長方形	232 × 117	45	1	10YR8/4	にふい・淡褐色	シルト	灰褐色・褐色を含む上層ブロックを多量、炭化物を微量。下部に灰褐色地山を含む。	SK122より新しい。
						2	10YR4/4	にふい・淡褐色	粘土質シルト	古層ブロックを多量に含む。	
SK109	17街区	W-7	調丸 長方形	201 × 93	21	1	10YR8/2	灰褐色	シルト	古層ブロック・灰褐色地山を含む。	SK123より新しい。
						2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	径10 ~ 10mmの層間ブロックを多量、下部に灰褐色地山を含む。	
SK110	17街区	V-8	梢円形	129 × 51	15	1	10YR8/1	褐灰色	シルト	径10 ~ 20mmの古層ブロック・褐色鉄鉱を少量含む。	SK124より新しい。
						2	10YR8/1	褐灰色	シルト	古層ブロックを多量に含む。	
SK111	17街区	V-8	梢円形	165 × 51	24	1	10YR8/1	褐灰色	シルト	径10 ~ 20mmの層間ブロックを少量、他土種を微量に含む。	SK125より新しい。
						2	10YR8/1	褐灰色	シルト	径10 ~ 30mmの古層ブロックを多量、他土種を微量を含む。	
SK112	17街区	V-8	梢円形	132 × 51	21	1	10YR8/1	褐灰色	シルト	径10 ~ 20mmの層間ブロックを多量、炭化鉄鉱を少量含む。	SK126より新しい。
						2	10YR8/2	灰褐色	砂質シルト	径10 ~ 10mmの層間ブロックを多量含む。	
SK113	17街区	V-8	円形	186 × 48	63	1	10YR8/2	灰褐色	シルト	径10 ~ 20mmの層間ブロックを多量、径10mmの灰褐色地山アーチを少量含む。	SK127より新しい。
						2	10YR8/2	灰褐色	シルト	径10 ~ 30mmの層間ブロックを多量、径10mmの灰褐色地山アーチを少量含む。	
SK114	17街区	V-8	梢円形	186 × 60	54	1	10YR8/2	灰褐色	シルト	下部に径10 ~ 30mmの古層ブロックを少量、径5 ~ 10mmの灰褐色地山アーチを多量、炭化物類を微量に含む。	SK128より新しい。
						2	10YR8/1	褐灰色	砂質シルト	径10mmの灰褐色地山アーチを多量、炭化物類を微量に含む。	
SK115	17街区	V-8	梢円形	138 × 54	36	1	10YR8/2	灰褐色	シルト	径10mmの灰褐色地山アーチを多量、炭化物類を微量に含む。	SK129より新しい。
						2	10YR8/2	灰褐色	粘土質シルト	径20 ~ 25mmの白色・ラメ状ブロックを多量、径10 ~ 20mmの灰褐色地山アーチを微量含む。	
SK116	17街区	V-8	調丸 長方形	84 × 60	12	1	10YR8/3	にふい・淡褐色	砂質シルト	径10 ~ 20mmの古層ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK130より新しい。
						2	10YR8/3	にふい・淡褐色	砂質シルト	径10 ~ 20mmの古層ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	
SK117	17街区	V-8	調丸 長方形	186 × 102	150	1	10YR8/3	にふい・淡褐色	砂質シルト	下部に径10 ~ 20mmの古層ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK131より新しい。
						2	10YR8/4	にふい・淡褐色	粘土質シルト	径10 ~ 20mmの古層ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	
SK118	17街区	V-8	円形	102 × 87	15	1	10YR8/3	にふい・淡褐色	砂質シルト	径10 ~ 20mmの古層ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK132より新しい。
						2	10YR8/4	にふい・淡褐色	粘土質シルト	径10 ~ 30mmの古層ブロックを多量に含む。	
SK119	17街区	V-8	調丸 長方形	168 × 66	33	1	10YR8/2	灰褐色	シルト	下部に径10 ~ 20mmの古層ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK133より新しい。
						2	10YR8/2	灰褐色	砂質シルト	下部に径10 ~ 20mmの古層ブロックを多量、炭化物類を多量に含む。	
SK120	17街区	V-8	調丸 長方形	60 × 57	9	1	10YR8/3	にふい・淡褐色	砂質シルト	下部に径10 ~ 20mmの古層ブロックを多量、炭化物類を多量に含む。	SK134より新しい。
						2	10YR8/4	にふい・淡褐色	粘土質シルト	下部に白色の粘土を多量に含む。	
SK121	17街区	W-7	調丸 長方形	192 × 162	15	1	10YR8/3	にふい・淡褐色	シルト	下部に白色の粘土を多量に含む。	SK135より新しい。
						2	10YR8/4	にふい・淡褐色	粘土質シルト	下部に白色の粘土を多量に含む。	
SK122	17街区	V-8	梢円形	78 × 66	21	1	10YR8/2	灰褐色	粘土質シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK136より新しい。
						2	10YR8/2	灰褐色	粘土質シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を多量に含む。	
SK123	17街区	V-8	調丸 方形	78 × 57	15	1	10YR8/2	灰褐色	シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK137より新しい。
						2	10YR8/1	褐灰色	シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	
SK124	17街区	V-8	梢円形	126 × 90	30	1	10YR8/2	灰褐色	シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK138より新しい。
						2	10YR8/2	灰褐色	粘土質シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	
SK125	17街区	V-8	円形	201 × 120	37	1	10YR8/2	灰褐色	シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK139より新しい。
						2	10YR8/3	にふい・淡褐色	シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	
SK126	17街区	V-8	梢円形	84 × 69	30	1	10YR8/3	にふい・淡褐色	粘土質シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK140より新しい。
						2	10YR8/4	にふい・淡褐色	粘土質シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	
SK127	17街区	V-8	円形	126 × 90	30	1	10YR8/4	にふい・淡褐色	粘土質シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	SK141より新しい。
						2	10YR8/4	にふい・淡褐色	粘土質シルト	下部に耐候性ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。	



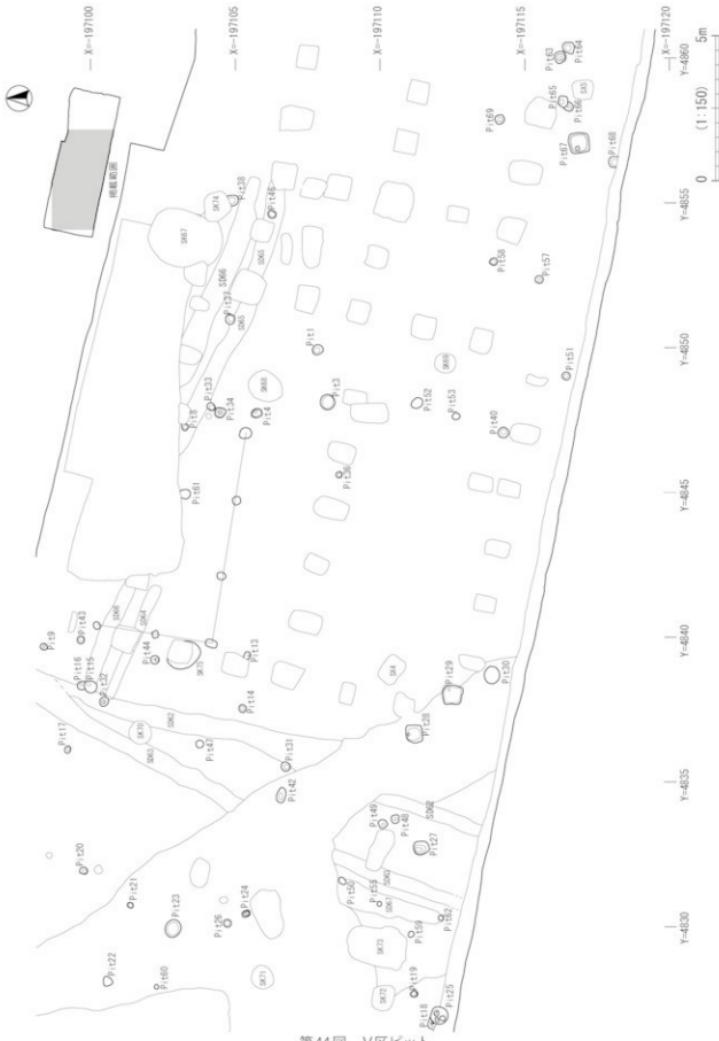
第42図 土坑出土遺物

#### (6) ピット(第43～47図)

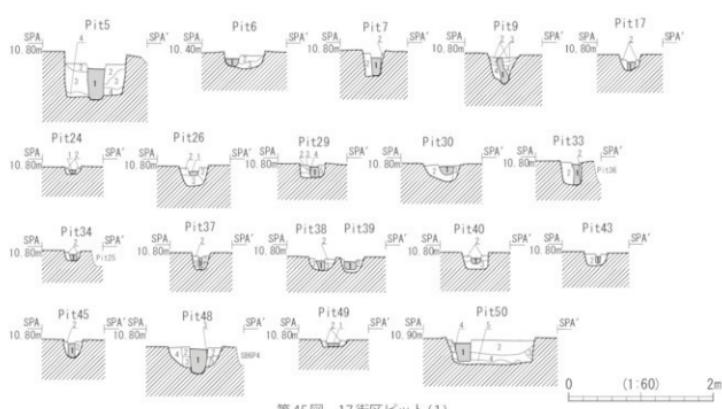
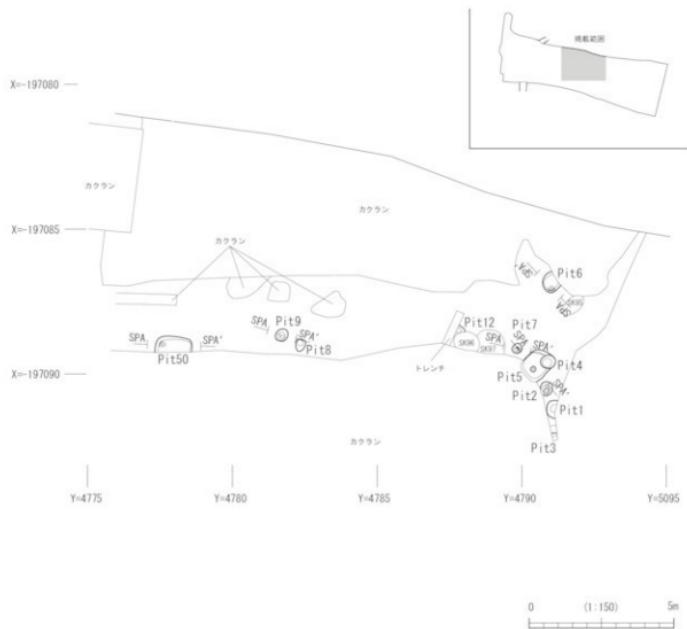
V区で60基、17街区で80基検出した。V区では土坑と同様に中央～西半に分布し、17街区では調査区東半の堅穴造構・掘立柱建物跡の周辺に分布が集中する。柱痕跡は、17街区の堅穴造構・掘立柱建物跡周辺のピットを中心



第43図 ピット出土遺物



第44図 V区ピット



第45図 17街区ピット(1)

に、V街区・17街区合わせて24基から確認された。

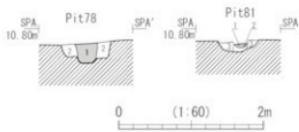
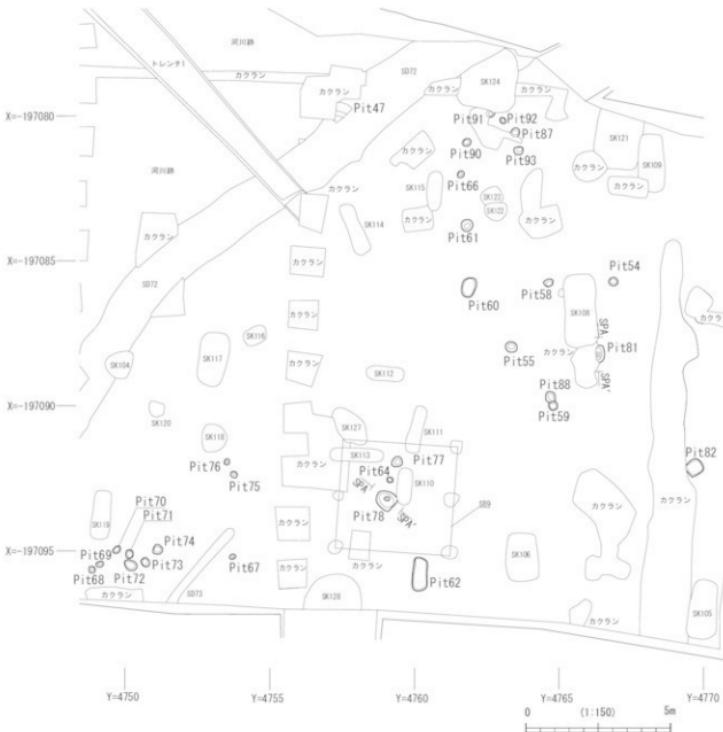
遺物は、V街区の29基、17街区の17基から、それぞれ少量の土師器・須恵器の破片が出土している。これらのうち、17街区Pit37から出土した土師器壺1点を掲載した(第43図)。1の底部は丸底で、内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、内外面ヘラミガキが施される。

X=197085 ——



第46図 17街区ピット(2)

X=197075—



第47図 17街区ピット(3)

道柄名	調査区	グリッド	平面形	地盤の状況		地位	土色	土性	備考	直積
				台幅	深さ					
Pt1	VfC	B-B	楕円形	40×40	20	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黒色土・暗褐色土ブロックを含む。 矢島。
Pt2										
Pt3	VfC	B-B	楕円形	55×30	13	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	
Pt4	VfC	B-B	楕円形	40×30	30	2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	10YR2/2 黒褐色粘土質シルト・暗色土・暗褐色土ブロックを含む。
Pt5	VfC	B-B	楕円形	45×39	36	-	-	-	-	SBI-P5に変更。
Pt6	VfC	B-B	円形	30×30	24	-	-	-	-	SBI-P6に変更。
Pt7	VfC	B-B	楕円形	33×27	15	-	-	-	-	SBI-P7に変更。
Pt8	VfC	B-B	楕円形	23×23	21	1	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	黒色土・暗褐色土ブロックを含む。
Pt9	VfC	B-B	円形	29×13	7	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロックを含む。
Pt10	VfC	B-B	円形	27×24	18	2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	SBI-P10に変更。
Pt11	VfC	B-B	不整方形	27×27	15	-	-	-	-	SBI-P11に変更。
Pt12	VfC	B-B	楕丸形	42×27	24	-	-	-	-	SBI-P12に変更。
Pt13	VfC	B-B	楕円形	25×21	11	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	暗褐色土・ブロックを含む。
Pt14	VfC	B-B	円形	30×25	18	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	暗褐色土・ブロックを含む。
Pt15	VfC	A-B	楕円形	45×45	25	-	-	-	-	直積なし。
Pt16	VfC	A-B	楕円形	33×25	30	-	-	-	-	直積なし。
Pt17	VfC	A-B	楕円形	28×20	11	1	10YR4/4	褐色	シルト	黒色土・ブロックを含む。
Pt18	VfC	A-B	円形	45×30	25	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	化物をわずかに含む。
Pt19	VfC	A-B	円形	29×20	11	1	10YR2/2	暗褐色	シルト	直積。
Pt20	VfC	A-B	半整円形	30×23	3	-	-	-	-	直積なし。
Pt21	VfC	A-B	円形	18×18	21	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黒色土・ブロックを含む。
Pt22	VfC	A-B	不整円形	35×32	36	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	直積。
Pt23	VfC	A-B	円形	60×55	13	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘土質シルト・10YR3/4暗褐色シルト・黒褐色土ブロックを含む。
Pt24	VfC	A-B	楕丸形	30×20	29	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	土間に土・炭化物を含む。
Pt25	VfC	A-B	楕円形	60×60	32	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘土質シルト・直積。
Pt26	VfC	A-B	円形	60×30	11	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘土質シルト・直積。
Pt27	VfC	A-B	楕丸形	59×45	58	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黒褐色土・ブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
Pt28	VfC	B-B	不整方形	60×60	23	1	10YR2/4	暗褐色	シルト	粘土質シルト・10YR3/4暗褐色シルト・黒褐色土ブロックを含む。
Pt29	VfC	B-B	不整方形	80×75	40	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘土質シルト・直積。
Pt30	VfC	B-B	不整円形	60×55	36	2	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘土質シルト・直積。
Pt31	VfC	A-B	円形	60×30	11	2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黒色土・ブロックを含む。黒土・ブロックを少額。
Pt32	VfC	A-B	楕円形	35×35	26	1	10YR2/4	暗褐色	シルト	黒色土・ブロックを含む。
Pt33	VfC	A-B	円形	30×28	34	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	直積。
Pt34	VfC	B-B	楕円形	30×25	47	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	明褐色土・ブロックをわずかに含む。
Pt35	VfC	B-B	不整円形	40×40	49	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	直積。
Pt36	VfC	A-B	円形	23×20	13	-	-	-	-	直積なし。
Pt37	VfC	B-B	楕円形	35×35	24	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	暗褐色土・ブロックを含む。
Pt38	VfC	C-B	不明	40×35	21	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	暗褐色土・ブロック・砂を少額。
Pt39										SK74より古い。
Pt40	VfC	B-B	円形	35×35	50	1	10YR3/4	暗褐色	シルト質粘土	黒色土・ブロック・團化物を含む。
Pt41										SD62より新しい。
Pt42	VfC	A-B	不整方形	55×30	16	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	暗褐色土・褐色土ブロック・他土を含む。
Pt43	VfC	B-B	円形	30×25	13	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	褐色土・ブロックを含む。
Pt44	VfC	B-B	円形	28×28	30	2	10YR3/4	暗褐色	シルト質粘土	褐色土・褐色土ブロックを含む。
Pt45										矢島。
Pt46	VfC	C-B	楕円形	30×28	57	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	褐色土・ブロック・無土を含む。
Pt47	VfC	A-B	円形	28×25	1	2	10YR3/0	暗褐色	シルト	直積。
Pt48										SD84-P6に変更。
Pt49										矢島。
Pt50	VfC	A-B	楕円形	30×20	1	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	SD84-P5に変更。
Pt51	VfC	B-B	円形	30×25	1	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	SD67より新しい。
Pt52	VfC	B-B	楕円形	45×35	22	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。
Pt53	VfC	B-B	不整円形	30×25	20	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を含む。
Pt54										矢島。
Pt55	VfC	A-B	円形	15×15	1	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	直積・小ブロック・炭化物を含む。
Pt56										矢島。
Pt57	VfC	C-B	円形	30×25	19	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物・10YR3/4明褐色土をわずかに含む。
					2	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR4/4褐色土・10YR4/4を少額。	
					3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト		

V面(レバート面)表面(7)

道構名	調査区	グリッド	平面形	目幅× 深さ	層位	土色		土性	備考	重複
						初期	後期			
Pt58	V1K	C.8	楕円形	30×28	20	1. E0YR2/3	暗褐色	シルト	10YR4/2灰褐色色上プロックを多量に含む。	
						2. E0YR2/4	暗褐色	シルト	10YR4/4褐色色上モザイクに含む。	
						3. E0YR2/4	暗褐色	シルト		
Pt59	V1K	A.8	円形	23×20	24	1. E0YR2/2	暗褐色	シルト		
						2. E0YR2/3	暗褐色	粘土質シルト		
						3. E0YR2/3	暗褐色	粘土質シルト		
Pt60	V1K	A.8	円形	20×18	-	-	-	-	目立たない。	
Pt61	V1K	A.8	円形	38×34	-	-	-	-	目立たない。	
Pt62	V1K	A.8	円形	22×20	-	-	-	-	目立たない。	
Pt63	V1K	C.8	楕円形	44×43	39	1. 10YR2/3	暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色色シルトプロック・木炭粒を含む。	
Pt64	V1K	C.8	楕丸方形	46×40	30	1. 10YR2/3	暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色色シルトプロック・木炭粒を含む。	
Pt65	V1K	C.8	楕丸方形	41×35	31	1. 10YR2/3	暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色色シルトプロック・木炭粒を含む。	
Pt66	V1K	C.8	楕円形	29×33	14	1. E0YR2/3	暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色色シルトプロック・木炭粒を含む。	
Pt67	V1K	C.8	楕丸方形	71×70	53	1. E0YR2/3	暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色色シルトプロック・木炭粒を含む。	
Pt68	V1K	C.8	楕丸方形	38×(29)	16	1. E0YR2/3	暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色色シルトプロック・木炭粒を含む。	
Pt69	V1K	C.8	楕円形	25×34	33	1. E0YR2/3	暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色シルトプロック・木炭粒を含む。	

17面(北)上層表面(1)

道構名	調査区	グリッド	平面形	目幅× 深さ	層位	土色		土性	備考	重複
						初期	後期			
Pt1	17面K	X.8	楕円形	61×(40)	36	1. 10YR4/4	灰黃褐色	シルト	径5～10mmのV型プロックを少額、埴土・灰化物を微量に含む。	
						2. 10YR5/4	灰褐色	シルト	ナットプロックを多量、灰褐色色上斜面。	
						3. 10YR1/1	暗褐色	シルト	径5mmのV型プロックを多量、灰褐色色灰化物を微量に含む。	
Pt2	17面K	X.8	楕円形	48×40	20	1. 10YR4/2	灰黃褐色	シルト	径5～10mmのV型プロックを多量、50mmの白色粘土	
						2. 10YR4/4	灰褐色	シルト	ナットプロックを多量、50mmの白色粘土。	
						3. 10YR4/2	灰褐色	シルト	径5～10mmのV型プロックを多量、50mmの白色粘土。	
Pt3	17面K	X.8	不明	(56)×(23)	40	1. 10YR4/2	灰褐色	シルト	径5～10mmのV型プロックを少額、50mmの白色粘土。	
Pt4	17面K	X.8	円形	52×48	25	1. 10YR2/2	暗褐色	シルト	灰化物を微量に含む、上部にナットプロックを多量に含む。	Pt5より新しい。
Pt5	17面K	X.8	楕圓形	115×88	66	1. 10YR2/3	暗褐色	シルト	径5～20mmのV型プロックを多量、50mmの白色粘土。	
						2. 10YR2/3	暗褐色	シルト	ナットプロックを多量、50mmの白色粘土。	
						3. 10YR2/1	暗褐色	シルト	ナットプロックを多量、50mmの白色粘土。	
Pt6	17面K	X.8	楕円形	62×(53)	24	1. 10YR2/3	暗褐色	シルト	ナットプロックを多量、50mmの白色粘土。	
						2. 10YR2/3	暗褐色	シルト	ナットプロックを多量、50mmの白色粘土。	
						3. 10YR2/3	暗褐色	シルト	ナットプロックを多量、50mmの白色粘土。	
Pt7	17面K	X.8	円形	35×32	21	1. 10YR2/2	暗褐色	シルト	径10mmのV型プロックを少量、50mmの白色シルトブロックを多量に含む。(柱状鉄)	
Pt8	17面K	X.8	楕円形	42×34	36	1. 10YR2/2	暗褐色	シルト	ナットプロックを多量、50mmの白色シルトブロックを多量に含む。(柱状鉄)	
Pt9	17面K	X.8	円形	44×43	41	1. 10YR2/4	灰褐色	シルト	ナットプロックを多量、50mmの白色シルトブロックを多量に含む。(柱状鉄)	
Pt10	17面K	Z.7	円形	30×28	26	1. 10YR2/2	暗褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色シルトブロックを多量に含む。(柱状鉄)	
Pt11	17面K	Z.7	円形	52×(24)	18	1. 10YR2/2	暗褐色	シルト	径10～20mmのV型プロックを少額含む。	SM2より新しい。
Pt12	17面K	X.8	楕円形	(28)×35	37	1. 10YR2/4	暗褐色	シルト	ナットプロックを多量、50mmの白色粘土。	
						2. 10YR2/4	暗褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	
						3. 10YR2/2	黑色	シルト	ナットプロックを多量に含む。	
Pt13	17面K	Z.8	円形	43×39	30	1. 10YR2/3	暗褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	
Pt14	17面K	Z.8	円形	37×35	30	1. 10YR2/3	暗褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	
						2. 10YR2/4	暗褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	
						3. 10YR2/4	暗褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	
Pt15	17面K	Z.8	楕円形	45×32	21	1. 10YR2/4	暗褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	Pt9より新しい。
Pt16	17面K	Z.8	円形	26×25	16	1. 10YR2/3	灰褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	
Pt17	17面K	Z.8	円形	22×19	30	1. 10YR2/3	暗褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	
Pt18	17面K	Z.8	円形	32×30	19	1. 10YR2/1	暗褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	
Pt19	17面K	Z.8	円形	26×25	16	1. 10YR2/2	灰褐色	シルト	ナットプロックを少額、50mmの白色粘土。	
Pt20	17面K	Z.8	円形	27×(25)	21	1. 10YR3/3	暗褐色	シルト	N型プロックを多量に含む。	Pt30より古い。

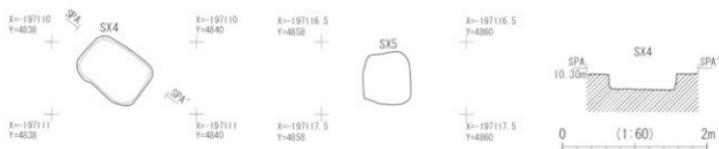
17街区シート範囲表(2)

道幅員	調査区	グリッド	平面形	面積(m <sup>2</sup> )	標高	土色	土性	備考		重複
								高さ	幅	
Pt26	17街区	Z-8	楕円形	41×32	28	1 10YR3/1 黒褐色 2 10YR3/3 剥離色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/3 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	日 10～20mmの褐色シルトブロックを少層、炭化物粒を微量に含む。 地シルトを多量に含む。(付註)		
Pt27	17街区	Z-8	円形	28×25	25	1 10YR3/1 黑褐色 2 10YR3/3 剥離色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/4 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5mmの褐色シルトブロックを多量、糖土を微量に含む。 往 5mmの褐色ブロックを多量に含む。		
Pt28	17街区	Z-8	楕円形	34×25	20	1 10YR3/3 剥離色 2 10YR3/4 剥離色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/4 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5～10mmの褐色ブロックを少層含む。 往 10mmの褐色シルトブロックを多量、炭化物粒を微量に含む。(付註)		
Pt29	17街区	Z-8	円形	35×35	20	1 10YR3/3 剥離色 2 10YR3/4 剥離色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/4 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの褐色シルトブロックを少量含む。 往 5mmの褐色シルトブロックを少量含む。 往 5mmの褐色シルトブロックを少量含む。 往 10mmの褐色シルトブロックを多量に含む。 地シルトを少量含む。		
Pt30	17街区	Z-8	円形	50×46	24	1 10YR2/1 黑色 2 10YR3/3 剥離色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/2 黑色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10～20mmの褐色シルトブロックを多量、糖土・炭化物粒を微量に含む。(付註) 地シルトを含む。(付註)		
Pt31	17街区	Z-8	円形	31×30	15	1 10YR3/3 剥離色 2 10YR3/6 黑褐色 3 10YR3/6 黑褐色	シルト シルト シルト	往 5mmの褐色シルトブロックを多量に含む。 地シルトを少量含む。		
Pt32	17街区	Z-8	楕丸方形	25×22	31	1 10YR3/3 剥離色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/3 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの褐色シルトブロックを多量に含む。 往 5～10mmの褐色ブロックを多量に含む。(付註)		
Pt33	17街区	Z-8	楕丸方形	26×25	33	1 10YR3/3 剥離色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/4 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5～10mmの褐色シルトブロックを多量に含む。 往 5～30mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。		
Pt34	17街区	Z-8	楕丸方形	24×22	15	1 10YR3/4 剥離色 2 10YR3/4 剥離色 3 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト	往 10～20mmの褐色シルトブロックを多量に含む。(付註) 往 10～30mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。		
Pt35	17街区	Z-8	楕丸方形	22×19	6	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの褐色シルトブロックを少量、炭化物粒を微量に含む。 往 5mmの褐色シルトブロックを多量に含む。(付註)		
Pt36	17街区	Z-8	円形	26×24	29	1 10YR3/1 黑褐色 2 10YR3/3 剥離色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5mmの褐色シルトブロックを多量に含む。 往 10mmの褐色シルトブロックを少量含む。(付註)	Pt25より新しい	
Pt37	17街区	Z-8	楕丸方形	25×23	25	1 10YR3/3 剥離色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5～10mmの褐色シルトブロックを多量に含む。(付註) 往 5～10mmの褐色シルトブロックを少量含む。		
Pt38	17街区	Z-8	円形	36×38	19	1 10YR3/4 剥離色 2 10YR3/4 剥離色 3 10YR3/6 黑褐色	シルト シルト シルト	往 10mmの褐色シルトブロックを少量、糖土を微量に含む。 往 10mmの褐色シルトブロックを多量に含む。		
Pt39	17街区	Z-8	円形	31×30	22	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/4 剥離色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの褐色シルトブロックを多量に含む。 往 10mmの褐色シルトブロックを少量含む。(付註)		
Pt40	17街区	Z-8	楕円形	45×38	24	1 10YR4/3 にごい剥離色 2 10YR4/3 剥離色 3 10YR4/4 剥離色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10～20mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。 往 5mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。		
Pt41	17街区	Z-8	円形	31×28	28	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10～20mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。(付註) 往 5mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。		
Pt42	17街区	Z-8	円形	22×22	17	1 10YR3/3 黒褐色 2 10YR3/3 黒褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。糖土・炭化物粒を微量に含む。 往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。(付註)		
Pt43	17街区	Z-8	楕円形	33×27	20	1 10YR3/4 剥離色 2 10YR3/4 剥離色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5mmの黒褐色シルトブロックを多量、炭化物粒を微量に含む。 往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。(付註)		
Pt44	17街区	Z-8	楕円形	38×33	18	1 10YR3/1 黑褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。(付註) 往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。		
Pt45	17街区	Z-7	円形	25×25	26	1 10YR3/1 黑褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	地シルトブロックを少量含む。		
Pt46	17街区	Z-7	楕円形	25×21	13	1 10YR3/1 黑褐色 2 10YR3/3 剥離色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	地シルトブロックを少量含む。炭化物粒を微量に含む。 往 10～30mmの褐色シルトブロックを多量に含む。		
Pt47	17街区	V-7	楕円形	69×(30)	45	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。 往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。(付註)	Sd7より新しい	
Pt48	17街区	Z-8	楕円形	76×(30)	38	1 10YR3/8 剥離色 2 10YR3/8 剥離色 3 10YR3/8 剥離色 4 10YR3/8 剥離色 5 10YR3/8 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	地シルトブロックを少量、炭化物粒を微量に含む。		
Pt49	17街区	Z-8	円形	36×35	11	1 10YR3/1 黑褐色 2 10YR3/4 剥離色 3 10YR3/4 剥離色 4 10YR3/4 剥離色 5 10YR3/4 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。(付註) 往 5mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。		
Pt50	17街区	W-8 楕丸 長方形	126×(56)	38	1 10YR3/1 黑褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/4 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの黒褐色シルトブロックを多量に含む。地シルトを微量に含む。 往 5mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。炭化物粒を微量に含む。			
Pt51	17街区	Z-7+8	楕円形	44×(33)	60	1 10YR3/4 剥離色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。(付註)	S107より新しい	
Pt52	17街区	Z-7+8	楕円形	47×38	61	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	地シルトを少量、糖土・炭化物粒を含む。	S107より新しい	
Pt53	17街区	Z-7	楕丸方形	26×25	41	1 10YR3/1 黑褐色 2 10YR3/3 にごい剥離色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 5mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。	S107より新しい	
Pt54	17街区	Z-8	円形	32×30	9	1 10YR3/3 にごい剥離色 2 10YR3/3 にごい剥離色 3 10YR3/3 にごい剥離色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/4 剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。マンゴン土を微量に含む。		
Pt55	17街区	V-8	円形	40×38	23	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。炭化物粒を微量に含む。 往 20mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。		
Pt56	17街区	V-W-8	楕円形	32×25	10	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。		
Pt57	17街区	V-W-8	円形	31×30	14	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。		
Pt58	17街区	V-W-8	楕円形	70×49	19	1 10YR3/3 にごい剥離色 2 10YR3/3 にごい剥離色 3 10YR3/3 にごい剥離色 4 10YR3/3 にごい剥離色 5 10YR3/3 にごい剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。	Pt58より新しい	
Pt59	17街区	V-W-8	楕円形	70×49	19	1 10YR3/3 にごい剥離色 2 10YR3/3 にごい剥離色 3 10YR3/3 にごい剥離色 4 10YR3/3 にごい剥離色 5 10YR3/3 にごい剥離色	シルト シルト シルト シルト シルト	往 10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。		

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模(m)	層位	上色	土性	備考		重複	
								長軸	短軸		
Pt61	17調査区	V-8	円形	40×39	17	1 10YR5/3 2 10YR6/4	にふい・黄褐色 粘土質シルト	白色粘土ブロックを多量、マンガンを少額含む。 マングル付・灰褐色粘土を帶びる。			
Pt62	17調査区	V-8	楕丸方形	115×53	22	1 10YR5/3 1a 10YR5/2 2 10YR5/2	にふい・黄褐色 砂質シルト 灰褐色	往5～30mのV型壁ブロックを多量に含む。			
Pt64	17調査区	V-8	円形	20×19	15	1b 10YR5/2 2 10YR6/3	灰褐色 砂質シルト 粘土	往10～30mのV型壁ブロックを多量に含む。 往10～30mのV型壁ブロックを多量に含む。			
Pt66	17調査区	V-7+8	円形	24×24	25	1 10YR5/2	灰褐色	往10～30mのV型壁ブロックを多量、上部に径50mmの灰白色粘土ブロックを帶びる。			
Pt67	17調査区	V-8	円形	20×18	17	1 10YR5/2	灰褐色	往10～20mのV型壁ブロックを少額含む。			
Pt68	17調査区	V-9	楕丸方形	23×23	39	1 10YR5/2 2 10YR7/6	灰褐色 粘土質シルト	往10～20mのV型壁ブロックを多量、灰褐色を微量に含む。			
Pt69	17調査区	V-9	楕円形	28×20	12	1 10YR5/2	灰褐色	往10～20mのV型壁ブロックを多量に含む。			
Pt70	17調査区	V-8+9	楕円形	30×23	7	1 10YR5/2	灰褐色	往10～20mのV型壁ブロックを多量に含む。			
Pt71	17調査区	V-8+9	楕円形	30×25	10	1 10YR5/2	灰褐色	往10～30mのV型壁ブロックを多量に含む。			
Pt72	17調査区	V-9	楕円形	47×35	11	1 10YR5/2 2 10YR6/4	灰褐色 灰褐色	往10～20mのV型壁ブロックを多量に含む。			
Pt73	17調査区	V-9	楕円形	33×26	16	1 10YR5/2 2 10YR6/4	灰褐色 粘土質シルト	往10～20mのV型壁ブロックを多量、灰褐色を微量に含む。			
Pt74	17調査区	V-8	円形	35×34	12	1 10YR5/2 2 10YR5/4	灰褐色 にふい・灰褐色	往10～20mのV型壁ブロックを多量に含む。			
Pt75	17調査区	V-8	円形	25×21	11	1 10YR5/2 2 10YR5/4	にふい・灰褐色 灰褐色	往10～20mのV型壁ブロックを多量、上部に灰褐色を微量含む。 往10～20mのV型壁ブロックを多量、下部に径30mmの灰白色粘土ブロックを帶びる。			
Pt76	17調査区	V-8	円形	21×19	9	1 10YR5/4	にふい・灰褐色	粘土質シルト	往10～100mのV型壁ブロック・灰白色粘土を少額含む。		
Pt77	17調査区	V-8	円形	37×35	18	1 10YR5/2 2 10YR5/4	灰褐色 にふい・灰褐色	往10～20mのV型壁ブロックを含む。			
Pt78	17調査区	V-8	楕円形	69×64	29	1 10YR5/3 2 10YR5/2 3 10YR5/4	にふい・灰褐色 粘土質シルト 粘土質シルト	往10～20mのV型壁ブロックを多量に含む。 往10～20mのV型壁ブロックを多量に含む。	SK1より古い。		
Pt79	-	-	-	-	-	-	-	大斜面、SBR-P5に変更。			
Pt81	17調査区	W-8	楕円形	57×30	15	1a 10YR5/2 1b 10YR4/4 2 10YR4/4	にふい・灰褐色 にふい・灰褐色 にふい・灰褐色	往10～30mのV型壁ブロックを多量、灰白色大山灰を微量に含む。 往10～20mのV型壁ブロックを多量に含む。			
Pt82	17調査区	W-8	楕丸方形	58×53	25	2 10YR4/2 3 10YR2/2	灰褐色 灰褐色	往10～30mのV型壁ブロックを少額、灰褐色を微量に含む。			
Pt87	17調査区	V-7	円形	31×30	30	1 10YR4/2 2 10YR4/2 3 10YR4/3	灰褐色 灰褐色 にふい・灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	往10～30mのV型壁ブロックを多量、灰褐色を微量に含む。 往10～30mのV型壁ブロックを多量に含む。		
Pt88	17調査区	W-8	楕円形	(40)×35	13	1 2.3Y5/1 2 10YR1/5	暗灰色 灰褐色	往20mの灰褐色粘土ブロックを多量、灰褐色物を微量に含む。 往10mの灰褐色粘土ブロックを多量、灰褐色物を微量に含む。		Pt85より古い。	
Pt90	17調査区	V-7	円形	30×28	16	1 10YR4/1 2 10YR5/3	暗灰色 にふい・灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト	往10～30mのV型壁ブロックを多量、灰褐色化を微量に含む。		
Pt91	17調査区	V-7	楕丸方形	25×23	17	1 10YR4/1	暗灰色	粘土質シルト	往10～30mのV型壁ブロックを少額、灰褐色化を微量に含む。	SK12より古い。	
Pt92	17調査区	V-7	円形	22×20	1	1 10YR5/3 2 10YR4/2	にふい・灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト	往10～30mのV型壁ブロックを多量、灰褐色物を微量に含む。		
Pt93	17調査区	V-7	円形	34×32	49	1 10YR5/3 2 10YR4/2	にふい・灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト	往10～30mのV型壁ブロックを少額、灰褐色物を微量に含む。		
Pt96	17調査区	Z-8	楕円形	(37)×32	25	1 2.3Y5/1 2 10YR4/2 3 10YR4/4	暗灰色 灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	往10mのV型壁ブロックを多量、灰褐色化を微量に含む。東側大山灰を微量に含む。	SK6 P1より古い。	
Pt97	17調査区	Z-8	円形	50×50	63	1 2 10YR3/1 3 10YR3/1	暗灰色 黑褐色	粘土質シルト 粘土質シルト	往10mのV型壁ブロックを多量、灰褐色物を微量に含む。	P17より古い。	

### (7)性格不明遺構(第48図)

V区において、2基検出した。



遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模(m)	層位	上色	土性	備考		重複
								長軸	短軸	
SX4	V-8	B-8	楕丸方形	96×69	24	1 10YR3/4	暗灰色	シルト	油土を微量、下部に灰褐色物を微量に含む。	
SX5	V-9	C-9	楕丸方形	66×74	-	-	-	-	-	新開田・土質計なし。

第48図 性格不明遺構

### SX4・5性格不明遺構(第48図)

SX4は、V区西半、B-8グリッドに位置する。

検出した規模は、上端が長軸96cm×短軸69cm、下端が長軸90cm×短軸63cm、深さ24cmを測る。平面形状は卵丸長方形を呈し、断面形状は箱形で両壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は、単層で、暗褐色を基調とするシルトで、焼土粒を微量に含み、下部には炭化物を帶状に含む。遺物は出土していない。

### (8)小溝状遺構群(第49図)

17街区で2群検出した。両群とも北側は調査区外にかかる。1群の西側は、粘土探査孔による擾乱があり、2群の東側は調査区外となる。このことから、1群は西側、2群は東側へ、本来は並がっていたと考えられる。

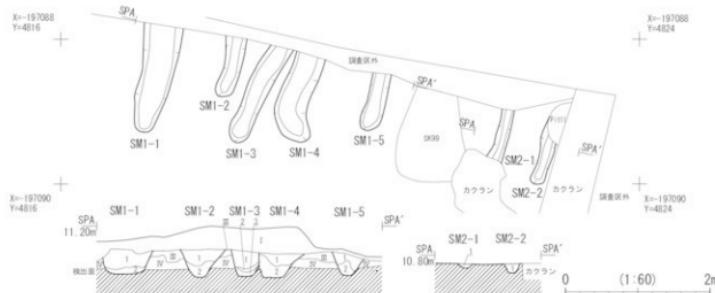
#### 1群

17街区東半、Z-7グリッドに位置する。SM1-1～5の5条で構成される。方向はN-10°～26°-Eである。検出した規模は、長さ81～150cm、上端幅27～54cm、深さ30～36cmを測る。堆積土は、上層は黒褐色シルト・砂質シルトを主体とし、下層は褐色シルト・砂質シルトを主体とする。

#### 2群

17街区東半、Z-7グリッドに位置する。SM2-1・2の2条で構成される。方向はN-13°～18°-Eである。検出した規模は、長さ69～96cm、上端幅21cm、深さ5～12cmを測る。堆積土は、にぶい黄褐色砂質シルト、暗褐色シルトを主体とする。

遺物は、両群とも土師器の破片が少量出土しているが、図化できる遺物はなかった。



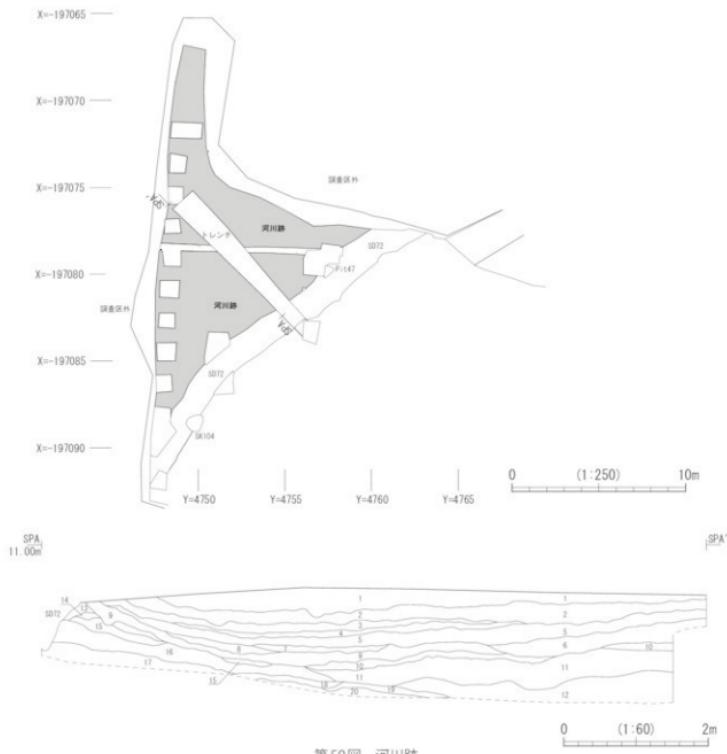
遺構名	調査区	測定点	グリッド	方向	規模(cm)			地盤	土色	土性	備考
					全長	上端幅	下端幅				
SM1	17街区	-1	Z-7	N-10°-E	150	54	33	33	1 黒褐色	砂質シルト	往5～10cmの白色ブロックを少量含む。
		-2	Z-7	N-16°-E	84	27	12	36	2 黄褐色	砂質シルト	往10cmの白色シルトブロックを少量含む。
		-3	Z-7	N-26°-E	144	30	21	36	3 黑褐色	砂質シルト	往10cmの白色ブロックを少量含む。
		-4	Z-7	N-17°-E	120	45	24	33	4 黄褐色	砂質シルト	往10cmの白色シルトブロックを多量含む。
		-5	Z-7	N-11°-E	81	30	18	30	5 黑褐色	シルト	往10cmの白色ブロックを少量含む。
SM2	17街区	-1	Z-7	N-13°-E	69	21	9	3	1 黃褐色	砂質シルト	往10～20cmの白色シルトブロックを多量に含む。
		-2	Z-7	N-18°-E	96	21	9	12	2 黄褐色	シルト	往20～30cmの白色ブロックを多量に含む。

第49図 小溝状遺構群

### (9) 河川跡(第50・51図)

17街区西端、U・V-7・8グリッドで検出した。検出した範囲は、河川跡中央から東肩にかけてであり、西肩は調査区外へかかる。河川跡埋没後に、東肩に沿ってSD 72が掘削される。調査は、東肩に直交するトレンチを設定し、掘削および断面観察を行い、河川跡全面の掘削は行っていない。また、安全を考慮したため底面は完掘にはいたっていない。検出した範囲の規模は、長さ1775cm、上端幅1487cm、深さ153cmを測り、方向はN-50°.Eである。断面形状は、皿形を呈すると推定される。堆積土は、20層に分層された。上層は灰黄褐色砂質シルトを主体とし、下層は河川の機能時に堆積したと考えられる微粒砂・細粒砂・砂礫を主体とする層が多い。また、下層の18・20層は灰白色火山灰を多量に含んでおり、10世紀前半にはすでに河川が形成されていたと考えられる。

遺物は、堆積土中から土師器・須恵器の破片が少量出土しており、そのうちの土師器高环1点を掲載した(第51図)。1の脚部は柱状中空で、中位にふくらみを持つ。握部は屈曲して、ラッパ状に外傾する。



第50図 河川跡

河川跡 鋼筋素												
遺構名	調査区	グリッド	方向	全長	上端幅	下端幅	深さ	種類	土色	土性	備考	
河川跡 17街区 U/V -7~8 N:50° E	1775 1487	153						1	10YRS/2	灰面褐色	砂質シルト	往10 ~ 20mmの明面褐色シルトブロックを多量、固化物を微量に含む。
								2	10YRS/3	灰面褐色	砂質シルト	往5 ~ 20mmの明面褐色シルトブロックを多量に含む。
								3	10YRS/2	灰面褐色	砂質シルト	往10 ~ 20mmの明面褐色シルトブロックを多量、固化物を微量に含む。
								4	10YRS/1	黒褐色	粘土質シルト	往10 ~ 50mmの灰面褐色シルトブロックを多量、多量に含む。
								5	10YRS/3	灰面褐色	粘土質シルト	往10 ~ 50mmの明面褐色シルトブロックを多量、固化物を微量に含む。下部に50mmの礫を含む。
								6	10YRS/2	灰面褐色	砂質シルト	往20mmの明面褐色シルトブロックを少量含む。下部に20 ~ 30mmの礫を含む。
								7	10YRS/1	褐褐色	粘土質シルト	往5 ~ 10mmの明面褐色シルトを互層状に含む。
								8	10YRS/2	灰面褐色	砂質シルト	往5 ~ 20mmの明面褐色シルトブロックを少量含む。
								9	10YRS/2	灰面褐色	砂質シルト	往10 ~ 20mmの明面褐色シルトブロックを多量、固化物を微量に含む。
								10	10YRS/2	灰面褐色	砂質シルト	往10 ~ 50mmの明面褐色シルトブロックを多量、固化物を微量に含む。
								11	10YRS/1	褐褐色	砂質シルト	往10 ~ 50mmの明面褐色シルトブロックを多量、固化物を微量に含む。
								12	10YRS/1	褐褐色	細粒砂	固液を少量含む。
								13	10YRS/2	灰面褐色	シルト	往10mmの明面褐色シルトブロックを微量、固化物を微量に含む。
								14	10YRS/3	灰面褐色	シルト	往10 ~ 50mmの明面褐色シルトブロックを多量、固化物を微量に含む。
								15	10YRS/4	灰面褐色	シルト	往20 ~ 50mmの明面褐色シルトブロックを多量、下部にCC色の泥炭ブロックを含む。
								16	10YRS/4	灰面褐色	砂質シルト	往10 ~ 50mmの灰面褐色シルトブロックを少量、固化物を微量に含む。
								17	10YRS/4	灰面褐色	砂質シルト	往10 ~ 50mmの灰面褐色シルトブロックを少量、固化物を微量に含む。
								18	10YRS/4	灰面褐色	細粒砂	微量含む。
								19	10YRS/6	明面褐色	砂質シルト	酸化鉄を微量に含む。
								20	10YRS/6	明面褐色	細粒砂	灰白色山砂を微量、酸化鉄を反対側に含む。



第51図 河川跡出土遺物

## 2. 古墳時代～古代の遺構と遺物(第52～248図)

本項では、基本層IV層上面で検出した遺構のうち、複重関係や遺構の観察所見等から当該期と考えられる遺構および遺構内出土遺物について報告する。該当する遺構は、竪穴住居跡52軒、区画施設と考えられる材木列1条・溝跡1条・溝跡4条・土坑15基、ピット67基、小溝状遺構群3群、性格不明遺構4基である(第52～248図)。

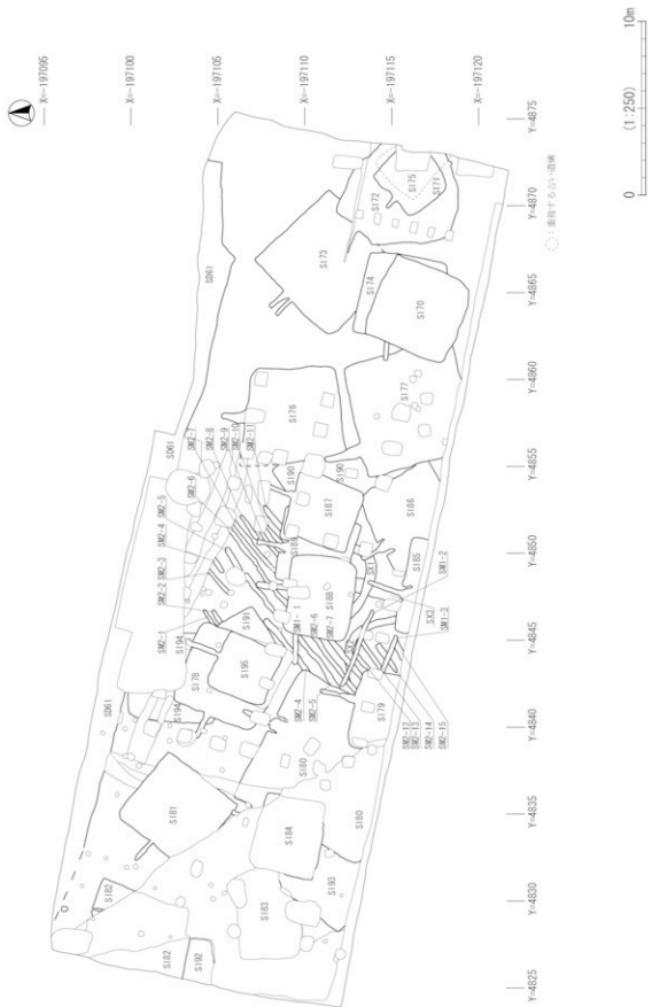
なお、各調査区において検出した区画施設と考えられるSD 61は、第3次、第4次調査において検出した範囲が溝跡の一部であったため、溝跡の堆積土の対比は困難であった。そのため本文では、V区(第3次・第4次・第5次下層調査)と17街区において調査した各調査区の堆積状況に即して記述し、出土した遺物についても各調査区ごとに掲載している。

### (1) 竪穴住居跡(第55～211図)

V区から26軒、17街区から26軒、総数52軒検査した。擾乱等の影響により、全体が検出された竪穴住居跡は少ないが、平面形状が判るものは方形ないし長方形を呈するものが殆どである。

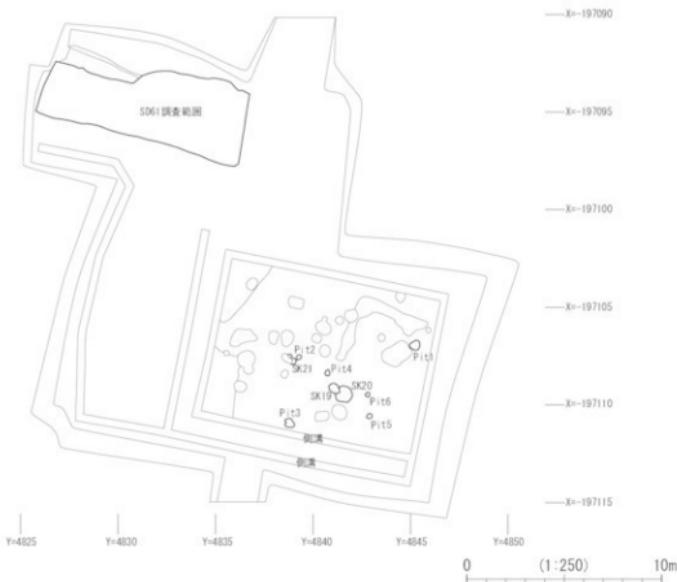
竪穴住居跡の多くは、上屋構造として4本の主柱穴を持つと推定される。17街区からは、壁柱穴を伴う竪穴住居跡を4軒検査した。カマドは、今次調査で検出された竪穴住居跡のうち、33軒から検査した。26軒が北壁、4

調査 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	柱列	部構	部位	法線(cm)	上傾 直傾	直傾 高傾	傾高	外側測量	内部測量	備考	写真 番号
1	C-339	17街区	SRI	堆積土	上傾部	高傾	傾	-	13.8	9.6	-	傾(ハイドロゲージ)	傾(ハイドロゲージ)	内側にしばり組	61



第52図 V区IV層上面構造配置図(古墳時代~古代)

第53図 17街区IV層上面遺構配置図(古墳時代～古代)



第54図 V区下層調査IVd層上面検出遺構配置図(古墳時代～古代)

軒が西壁、2軒が東壁、1軒が南壁に付設されている。袖は、大半が盛土によって構築されており、一部では土器や自然礫等が芯材として用いられている。燃焼部は壁面の内側に設けられているものと、外側に張り出すものの両方がある。煙道部は、概ね平坦な底面が多く、煙出し部はピット状に落ち込むものと、明確な落ち込みを持たずには平坦な煙道部底面がそのまま収束するものの両方がある。また、カマドではなく地床炉を持つ竪穴住居跡を2軒検出した。カマド以外の施設については、前述した柱穴のほか、周溝や間仕切り溝、位置関係からカマドに関連すると考えられる土坑がある。今次調査の竪穴住居跡の大半では、掘り方を検出している。

検出した竪穴住居跡の時期は、伴う遺物の特徴から、本書の時期区分3～5期(古墳時代前期・古墳時代後期～奈良時代)に位置づけられ、土器の特徴や遺構の重複関係から、大別3期、細別6期にわたる変遷が認められた(第6章第1節)。遺物を伴わない遺構についても、遺物を伴う遺構との重複関係から、上記の時期幅に収まると考えられる。このうち、3期(古墳時代前期)の竪穴住居跡は、今回はじめて確認されたもので、3期の段階で居住域が形成されていたことを示すものである。4・5期の竪穴住居跡については、第1～3・6次調査で確認された居住域の時期幅と合致することから、今回の第4・5・7次調査で確認された居住域は、第1～3・6次調査で確認された居住域と一連のものと考えられる。

以下、今次調査で検出した竪穴住居跡について、個別に報告する。なお、文・図中において、床面および掘り方から検出した土坑・ピットには、それぞれ「SK」・「P」の略称を付した。これらの略称は報告書作成段階で振り替えを行っているが、土坑とピットの明確な基準ではなく、比較的規模の大きいものを土坑、柱痕跡が確認されたものや小穴をピットとしている。また、重複関係にある遺構については原則として古代の遺構のみを記載したが、一部に前節で記載した古代～中世の遺構についても記載している。

## SI70 穫穴住居跡(第55～58図)

【位置・確認】 VI区東半、C-D-8・9グリッドに位置する。煙道部は、削平のため失われている。

【重複】 SI74・77と重複関係にあり、これより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北516cm、東西499cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド基準でN-16°Eである。

【堆積土】 13層に分層された。1・2層は住居堆積土で、暗褐色ないし黒褐色シルトを主体とし、木炭粒・マンガン粒を含む。3層は、周溝堆積土である。4～9層はカマド関連層位で、黒褐色・暗褐色シルトを主体とし、木炭粒や焼土を含む。10・11層はカマド袖構築土で、暗褐色シルト・粘土質シルトを主体とし、木炭粒・焼土を含む。12・13層は掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大36cmを測る。

【床面】 概ね平坦である。12・13層上面を床面としている箇所と、基本層IV層上面を床面としている箇所が認められる。

【柱穴】 床面から8基検出した。柱痕跡を確認したものは無いが、位置関係から、P 1・2は主柱穴に相当する可能性が考えられる。また、住居内土坑としたSK 1は、規模や位置関係から主柱穴に相当する可能性が考えられるが、判然としない。

【周溝】 検出した範囲においては、南壁および東西壁の南半とカマド直下を除き、壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅10～23cm、深さ6～9cmを測り、東側は西側・北側に比べ浅くなる。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面にやや西傾して付設される。袖の規模は、西袖が長さ111cm、幅83cm、東袖が長さ123cm、幅78cmを測る。北壁に対して両袖とも西傾する。

燃焼部の規模は、奥行き105cm、幅59cm、奥壁高21cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は緩やかに傾斜し奥壁側が高くなり、奥壁は外反して立ち上がる。

【その他の施設】 土坑を1基検出した。上述したとおり、主柱穴の可能性が考えられるが判然としない。

【掘り方】 住居南半部に「コ」字状に掘り込まれる。深さは、5～14cmを測る。

【出土遺物】 土師器環6点・高环1点・壺4点、須恵器蓋1点・盤1点・壺1点を掲載した(第57・58図)。

土師器環6点(第57図-1～6)は、1～3・5・6は住居堆積土、4は床面施設(P8)堆積土からの出土である。1は、鬼系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底と推定され、扁平に内湾する体部から直線的に内傾する口縁部へいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に棱を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。2は、北武藏型土師器(清水型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底と推定され、半球形に内湾する体部から「S」字形に短く直立する口縁部へいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は外面に段、内面に棱を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。3は、底部は丸底で、内湾する体部から緩く外反する口縁部へいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は段・棱を持たない。調整は、口縁部外面ヨコナデ、口縁部内面・体部内外面ヘラミガキが施される。4は、底部は丸底と推定され、やや内湾する体部から外傾する口縁部へいたる器形を呈する。体部と口縁部の境は、浅い沈線状の段を持つ。5は、底部は平底で、直線的に大きく外傾する口縁部へいたる器形を呈する。体部と口縁部の境は、外面は沈線が施され、内面は段・棱を持たない。6は、底部は平底で、底部から屈曲して直線的に外傾する口縁部へいたる器形を呈する。体部と口縁部の境は段・棱を持たず、口縁部に沈線状の段を持つ。4～6の調整は、いずれも口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラミガキが施される。6の内面は、黒色処理される。

土師器高环(第57図-7)は、床面施設(P8)堆積土からの出土である。長方形形状の透かしを4窓持ち、环部と脚部の境は屈曲する。脚部は裾部に向けて緩く外反し、裾部はラッパ状を呈する。外面の脚部と裾部の境に明瞭な段を持つ

つ。調整は、環部が内面ヘラミガキ、脚部が外表面ヘラケズリ、内面ヘラナデ、基部内外面ヨコナデが施される。環部内面は黒色処理される。また、脚部内面は、輪積み痕が明瞭に残る。

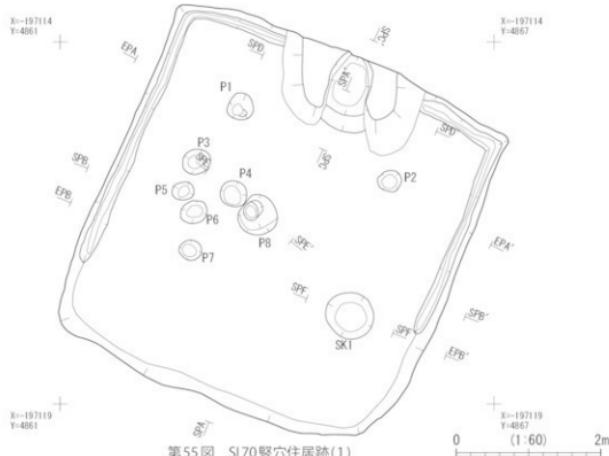
土師器甕4点(第57図-8～10、第58図-1)は、第57図-8は床面直上、第57図-9・10、第58図-1は住居堆積土からの出上である。第57図-8は、長胴の胴部から、直立気味に立ち上がり端部がやや外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と胴部の境は、段・稜を持たない。第57図-9は、内湾する胴部から外反する口縁部にいたる器形を呈する。外面の口縁部と胴部の境は、明瞭な段を持つ。第57図-8・9の調整は、いずれも口縁部内面ヨコナデ、体部内外面ヘラナデが施される。第57図-10は長胴の胴部で、胴部の最大径を中位に持つ器形を呈する。調整は、外面ハケメのち胴部下半ヘラナデ、内面ヘラナデが施される。第58図-1は、上げ底状の底部で、底部と胴部の境は屈曲し、底部は突出する。胴部は内湾して立ち上がる。調整は、胴部外面ハケメのちヘラナデ、底部と胴部内面ヘラナデが施され、底部内面には工具痕が明瞭に残る。

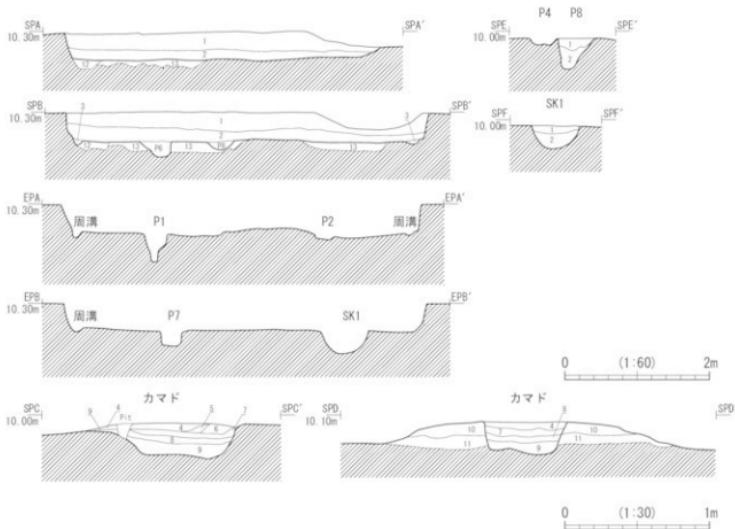
須恵器蓋(第58図-2)は、住居堆積土からの出土である。天井部は内湾し、宝珠状のつまみがつく。

須恵器壺(第58図-3)は、住居堆積土からの出土である。底部と体部の境は屈曲し、外傾する体部にいたる器形を呈する。底部切り離し技法は不明だが、布目痕が残り、手持ちヘラケズリのちヘラナデが施される。3は、体部内面中位から底部には漆が付着しており、漆壺として使用されていたと考えられる。

須恵器盤(第58図-4)は、床面施設(P3)からの出土である。柱状中空の脚部を持ち、体部は緩やかに内湾し、直線的に外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は内外面とも稜を持つ。調整はロクロ調整を基本とし、外面体部と脚部の接合部に回転ヘラケズリ、脚内面はヘラナデが施される。内面体部には、自然釉の付着と重ね焼き痕がみられた。また、内面の平坦面全体に磨面が観察された。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器甕(第57図-8)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられるが、明確な時期は導き出せない。しかし、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)の土器を作うSI 77より新しいことから、本竪穴住居跡の時期は、5a期以降と考えられる。





570 施工地図表

部位	層位	土色	土性	備考
自然	1	10YR3/2	黒褐色	シルト 木炭粒・マンゴン粒・10YR3/0 黒褐色シルトを含む。下部に炭化物を伴む。
埋積土	2	10YR3/4	暗褐色	シルト 木炭粒・マンゴン粒・10YR3/0 黒褐色シルトブロックを含む。
回溝	3	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR3/0 黒褐色のシルト・木炭粒を含む。
カマド	4	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭粒・10YR3/0 黒褐色を含む。
カマド下	5	7.5YR3/3	暗褐色	シルト 7.5YR4/0 黑褐色を含む。
	6	7.5YR3/4	暗褐色	粘土質シルト 5YR4/0 黑褐色地帯を含む。
カマド下	7	7.5YR3/1	黒褐色	シルト 5YR4/0 黑褐色地帯を含む。
	8	10YR4/3	にじいろ 黄褐色	粘土質シルト 10YR3/0 黒褐色のシルト・ラメ状ブロックを含む。7.5YR3/4 暗褐色粘土質シルトを帶状に含む。
カマド下	9	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 10YR3/0 黑褐色のシルト・小ブロックを含む。
カマド下	10	7.5YR3/3	暗褐色	シルト 7.5YR3/0 黑褐色シルト・塊・塊・木炭粒を含む。
	11	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 10YR3/0 黑褐色シルト・木炭粒・木炭粉を含む。
脚方	12	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 10YR3/0 黑褐色シルト・アラバタナイト・透水性・木炭粉を含む。
	13	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 10YR3/0 黑褐色シルトブロックを多量に含む。10YR2/2 黑褐色粘土ブロックを含む。

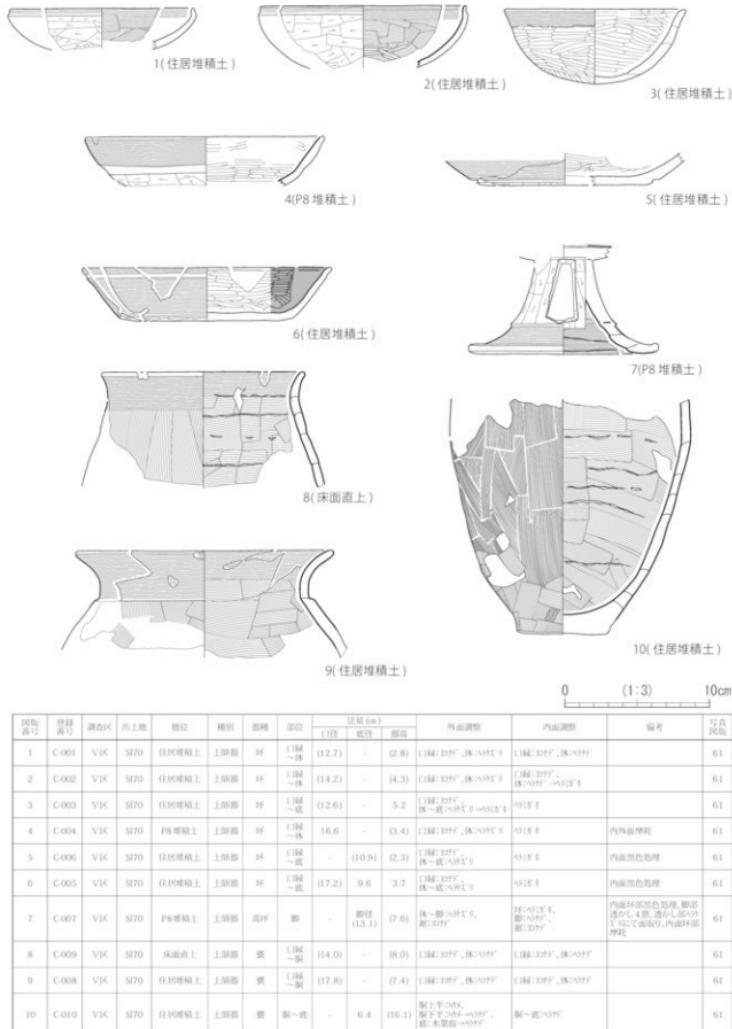
570 施工地図表(2)

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 木炭粒を含む。(断面同じ)
	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 木炭粒を含む。(断面同じ)
P2	1	2.5YR3/3	にじいろ 黄褐色	粘土質シルト 木炭粒を含む。(断面同じ)
P4	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 木炭粒を含む。(断面同じ)
P5	1	2.5YR3/3	にじいろ 黄褐色	粘土質シルト 木炭粒を含む。(断面同じ)
P6	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 木炭粒を含む。(断面同じ)
P7	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 木炭粒を含む。(断面同じ)
P8	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 10YR3/0 黑褐色のシルト・木炭粒を含む。
	2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 10YR3/0 黑褐色のシルト・木炭粒を含む。
SK1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR3/0 黑褐色地帯を多量に含む。
	2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト 10YR3/0 黑褐色地帯を多量に含む。

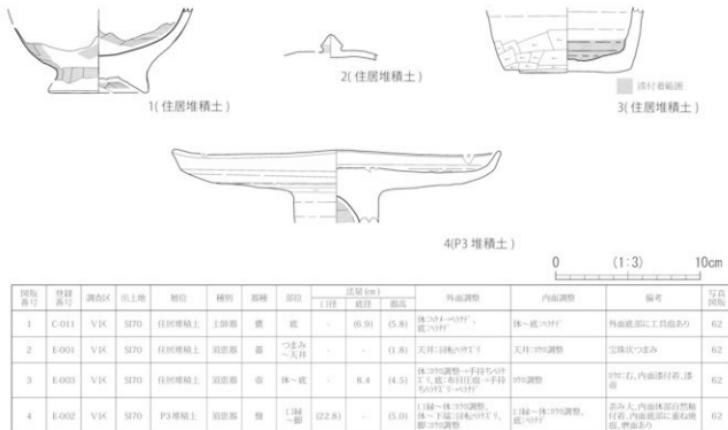
570 施工地図表(3)

透視名	平面形	幅幅(m)	深さ(m)	備考
P1	切妻形	36×33	4.1	
P2	切妻形	33×29	6	
P3	切妻形	40×33	8	
P4	切妻形	39×37	10	
P5	切妻形	31×24	2.2	
P6	楕円形	38×30	2.2	
P7	楕円形	31×27	1.9	
P8	楕円形	56×54	4.4	
P8.1	楕円形	67×63	3.2	

第56図 Si70豎穴住居跡(2)



第57圖 S170豎穴住居跡出土遺物(1)



第58図 SI70竪穴住跡出土遺物(2)

### SI71 竪穴住跡(第59図)

【位置・確認】 V区東半、D-8グリッドに位置する。南東部は、擾乱により失われている。

【重複】 SI72と重複関係にあり、これより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北328cm、東西354cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部標準でN-51°-Wである。

【堆積土】 9層に分層された。1・2層は住居堆積土で、暗褐色・黒褐色シルトを主体とする。3～6層はカマド関連層位で、暗褐色シルト・黒褐色粘土質シルトを主体とし、焼土塊・木炭粒を含む。7～9層は、カマド袖構築土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大21cmを測る。

【床面】 平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から1基検出した。

【周溝】 検出していない。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に対し直交して付設される。袖の規模は、西袖が長さ84cm、幅48cm、東袖が長さ66cm、幅36cmを測る。北壁に対し西袖は内湾して西傾し、東袖は内湾して東傾する。

燃焼部の規模は、奥行き72cm、幅48cm、奥壁高6cmを測り、奥壁は住居内に収まる。前方は、袖から円形に張り出して振り込まれ、底面は段を持ち皿状に窪む。

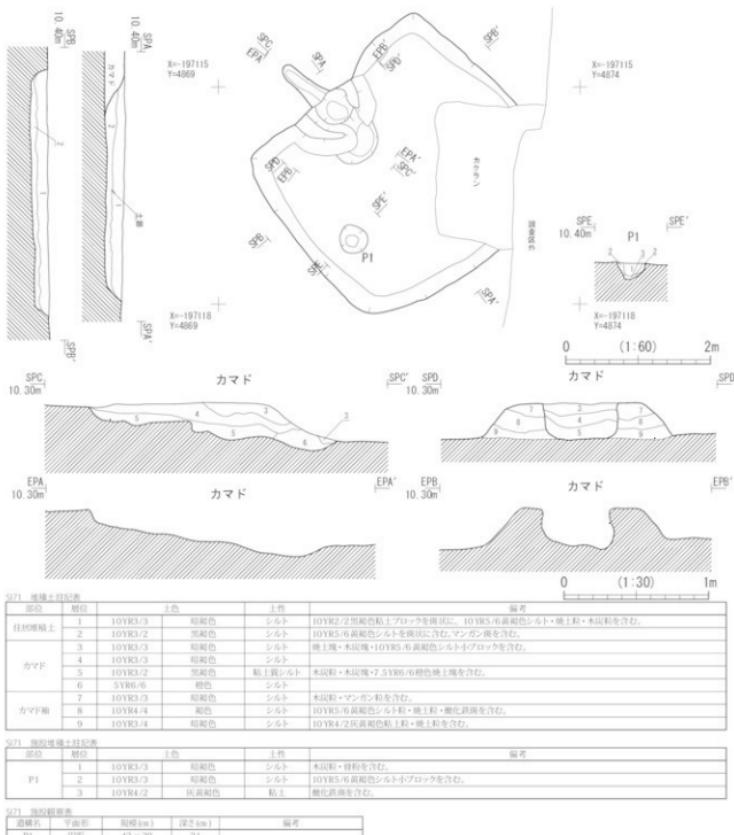
煙道部の規模は、長さ69cm、幅30cm、深さ15cmを測る。底面はほぼ平坦で、中央が浅く窪む。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 掘り方を持たない。

【出土遺物】 堆積土から、土器の破片が出土しているが、図化できる遺物はなかった。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)の土器が掘り方から出土したSI72より新しいことから、本竪穴住跡の時期は5a期以降と考えられる。



第59図 SI71・SI72縫穴住居跡

### SI72 縫穴住居跡(第60・61回)

【位置・確認】 VI区東半、D-8グリッドに位置する。東側は、重複遺構(SI71)と擾乱により失われ、調査区外へかかる。本縫穴住居跡は、調査時に2軒ないし3軒の重複する縫穴住居跡を見認り、同時に調査を行った。周溝が壁際に沿って周る西壁と南壁に対応する縫穴住居跡1軒、カマドが付設され、周溝が周らない東壁と北壁に対応する縫穴住居跡1軒のほかに、カマド袖に対して煙道部が南に振れることから煙道部に対応するカマドが付設された縫穴住居跡が1軒存在していたと考えられる。

【重複】 SI71・73・75と重複関係にあり、SI71より古く、SI73・75より新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、周溝が囲む西壁が444cm、周溝が囲まない北壁が468cmを測る。

【方向】 周溝が囲む西壁基準でN.4°W、カマド基準ではN.-35°W、煙道部基準でN.-69°Wである。

【堆積土】 8層に分層された。1～4層は住居堆積土で、暗褐色シルト・粘土質シルトを主体とし、炭化物粒・木炭粒・焼土粒を含む。5層は、周溝堆積土である。6・7層はカマド関連層位で、暗褐色シルトを主体とし、木炭粒・焼土粒を含む。8層は、カマド袖構築土である。

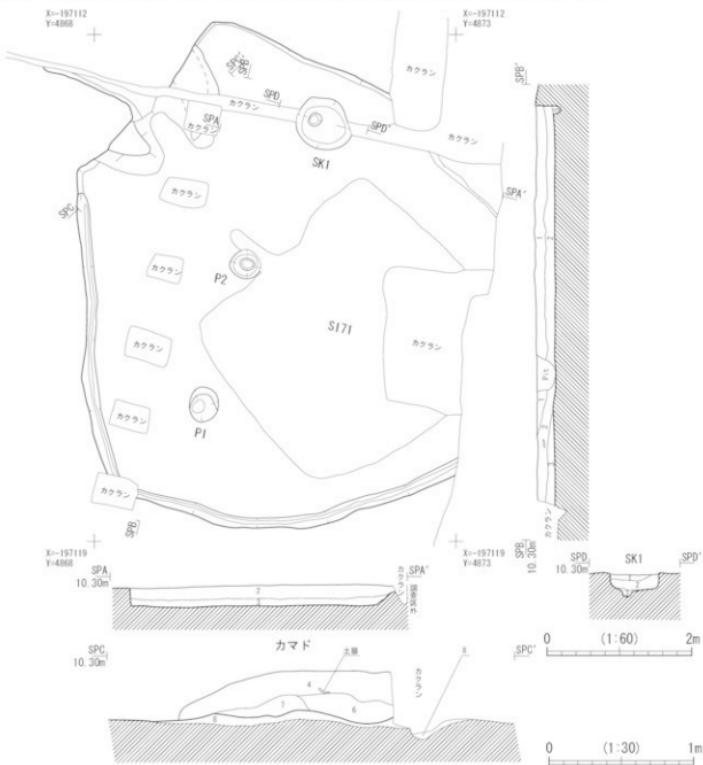
【壁面】 ほぼ直に立ち上がる。残存する壁高は、最大25cmを測る。

【床面】 平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 2基検出した。いずれも、性格は不明である。

【周溝】 床面検出時に確認した周溝の規模は、幅19cm、深さ12cmを測る。

【カマド】 積穴住居跡に付設されるカマドと煙道部はそれぞれの積穴住居跡に付設されたと考えられる。



第60図 SI72 積穴住居跡

## 9/7 墓塗付記録

部品	部位	土色	土性	備考
堆積土	1	10YR10/3	暗褐色	シルト 10YR5/6 黄褐色シルト小ブロック、炭化物和・焼土和を含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 10YR5/6 黄褐色シルト小ブロック、炭化物和・焼化鉄面を含む。
	3	-	-	計2箇所。
	4	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭和・焼土和を含む。
甃溝	5	10YR5/6	暗褐色	粘土質シルト 木炭和・焼土和を含む。
カマド	6	7.5YR5/3	暗褐色	シルト 木炭和・焼土和を含む。
	7	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭和・焼土和を含む。
	8	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 10YR5/6 黄褐色シルト小ブロック・木炭和を含む。

## 9/7 掘取堆積土目立地

部品	部位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/6	暗褐色	粘土質シルト 10YR5/2 黑褐色粘土和を含む。(焼土無なし)
F1	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト (焼土無なし)
F2	1	10YR4/2	灰暗褐色	粘土 焼化鉄面・木炭和を含む。
SK1	2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 10YR5/6 黄褐色シルトを夾間に・木炭和・焼土和を含む。
	3	10YR4/3	にじく・暗褐色	シルト 焼化鉄面を含む。

燃焼部の規模は、奥行き78cm、幅40cm、奥壁高25cmを測り、奥壁は住居内に收まる。

煙道部の規模は、長さ162cm、幅18cm、深さ14cmを測る。

【その他の施設】 土坑1基を検出した。

【掘り方】 掘り方を持たない。

【出土遺物】 土師器壺4点・鉢1点・甃3点・ミニチュア1点、土製品1点、礫石器1点を掲載した(第61図)。

土師器壺4点は、1~4は住居堆積土からの出土である。1は、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底と推定され、扁平に内湾する体部から直線的に内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデのち縦方向に放射状のヘラミガキが施される。2~4は、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、2・4は外面に段、内面に稜を持ち、3は外面に不明瞭な段、内面に稜を持つ。2・4の調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。3の調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラナデが施される。

土師器鉢は、住居堆積土からの出土である。半球形に内湾すると推定される体部から、外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ハケメのちヨコナデ、体部外面ハケメのちヘラミガキ、内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。

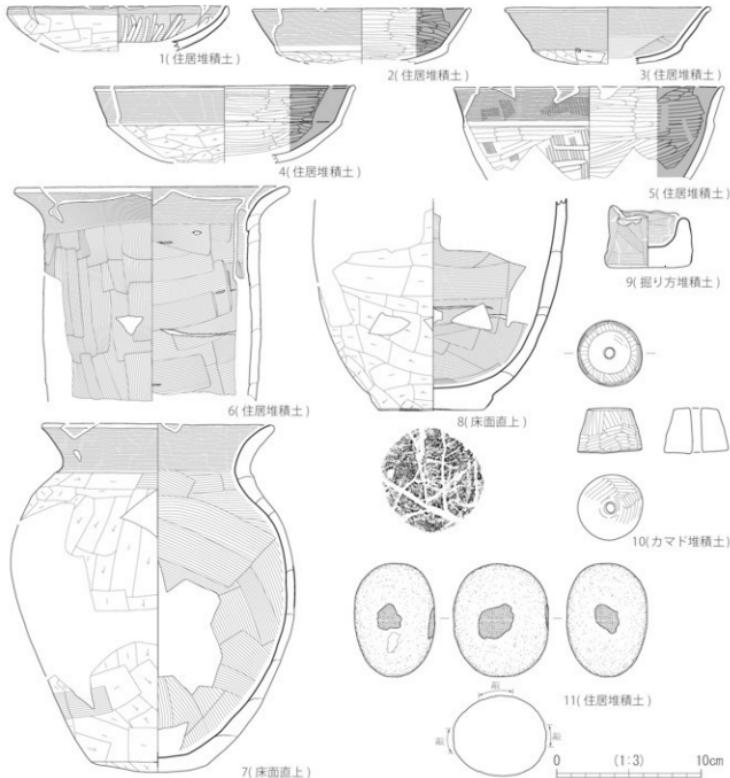
土師器甃は、6は住居堆積土、7・8は床面直上からの出土である。6は、膨らみを持たない長胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ヘラナデが施される。7は、やや胴長の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は上位に持つ。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリのち一部にヘラナデ、胴部内面ヘラナデが施される。8は、長胴の胴部である。調整は、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。

土師器ミニチュアは、手捏ねの鉢形である。

土製品は、カマド堆積土から出土した鋤頭車である。断面形は台形で、全面にヘラミガキが施される。

礫石器は、住居堆積土から出土した、円礫を素材とした敲石である。器体正面中央及び両側縁に敲打痕が確認される。敲打痕は狭い範囲に集中しており、側縁部分では使用部位が敲打により浅く窪む。石材は安山岩を使用している。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器甃(7・8)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられるが、明確な時期は導き出せない。しかし、本書の時期区分5b ii期(8世紀前葉)の土器を伴うSI 75より新しいことから、本竪穴住居跡の時期は、5b ii期以降と考えられる。



回数 番号	付録 番号	調査区	出土地	層位	種別	遺種	部位	法量(km)	外側調整	内面調整	備考	写真 回数
1	C-012	V区	SI72	住居堆積土	上部部	JF	1.04~1.46 (15.2)	(0.1) [1.04~1.30] 壁・外側	内面丸打子、体・外側	内面丸打子、外側丸打子	外面丸打子上口	62
2	C-013	V区	SI72	住居堆積土	上部部	JF	1.04~1.46 (15.2)	(0.8) [1.04~1.30] 壁・外側	内面丸打子	内面丸打子	内面丸打子	62
3	C-015	V区	SI72	住居堆積土	上部部	JF	1.04~1.46 (14.2)	3.8 [1.04~1.30] 壁・内側・外側	内面丸打子、体・底丸打子	内面丸打子、外側丸打子	内面丸打子、外側丸打子	62
4	C-016	V区	SI72	住居堆積土	上部部	JF	1.04~1.46 (16.0)	0.3 [1.04~1.30] 壁・外側	内面丸打子	内面丸打子	内面丸打子	62
5	C-018	V区	SI72	住居堆積土	上部部	JF	1.04~1.46 (16.6)	0.4 [1.04~1.30] 壁・外側	内面丸打子	内面丸打子	内面丸打子	62
6	C-018	V区	SI72	住居堆積土	上部部	JF	1.04~1.46 (19.0)	(14.8) [1.04~1.30] 壁・外側	内面丸打子、壁・外側	内面丸打子、壁・外側	内面丸打子、壁・外側	62
7	C-017	V区	SI72	床面直上	上部部	黄	1.04~1.46 16.2	8.0 24.0 [1.04~1.30] 壁・外側	内面丸打子、壁・外側	内面丸打子、壁・外側	内面丸打子、壁・外側	62
8	C-019	V区	SI72	床面直上	上部部	黄	1.04~1.46	7.2 [1.04~1.30] 壁・外側	内面丸打子、壁・外側	内面丸打子、壁・外側	内面丸打子、壁・外側	62
9	C-375	V区	SI72	住居堆積土	上部部	JF	1.04~1.47	5.5 9.8 4.3 [1.04~1.30]	内面丸打子	内面丸打子	内面丸打子	62
回数 番号	付録 番号	調査区	出土地	層位	種別	遺種	部位	法量(km)	重量(g)	特徴・備考	写真 回数	
10	P-001	V区	SI72	住居堆積土	上製品	粘土球	4.4	-	2.1 63.2 [0.14] 壁、下端面修理面、孔径 0.5cm			62
回数 番号	付録 番号	調査区	出土地	層位	種別	遺種	部位	法量(km)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
11	K-016	V区	SI72	住居堆積土	礫石堆	砾石	7.8	6.5 5.5 413.42	安山岩	内壁、最下端面	内壁、最下端面、内物也丸	62

第61図 SI72 穴空き住居跡出土遺物

### SI73 穫穴住居跡(第62～67図)

【位置・確認】 V区東半、C-D-8グリッドに位置する。南壁と西壁の一部は、重複遺構(SI 72・74)により失われている。本竪穴住居跡は、カマドの造り替えが行われたと考えられ、カマド煙道部が2基検出された。新しいものをカマド1、古いものをカマド2とした。

【重複】 SI72・74と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北588cm、東西612cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でカマド1がN-48°-W、カマド2がN-44°-Wである。

【堆積土】 27層に分層された。1～4層は住居堆積土で、黒褐色シルト・粘土質シルトを主体とし、焼土粒・焼土塊・木炭粒を含む。5層は、周溝堆積土である。6～15層はカマド1の関連層位で、黒褐色・暗褐色粘土質シルトを主体とし、焼土粒・木炭粒を含む。16～21層は、カマド袖構築土である。22～24層は、カマド2の関連層位である。25～27層は掘り方堆積土で、26層は貼床である。

【壁面】 やや外傾して直線的に立ち上がる。残存する壁高は、最大30cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。貼床である26層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から11基(P1～11)、掘り方から8基(P12～19)、総数19基検出した。床面から検出した11基のうち、P1～4は規模と位置関係から、主柱穴に相当すると考えられる。このうち、P4からは柱痕跡を確認した。また、掘り方で検出したP13は、その位置関係からカマド袖構築材の掘り方の可能性が考えられる。そのほかのピットに関しては、床面で検出したものは住居南西部に分布が偏り、掘り方で検出したものは住居北東部に分布が偏る。規模は、柱穴とを考えられるP1～4より小さいといった特徴が見られるが、性格は不明である。

【周溝】 検出した範囲においては、カマド周辺を除き壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅12～30cm、深さ6～9cmを測る。

【カマド】 カマド1と2は重複関係にあり、カマド2は煙道部を除き、カマド1の造り替えにより失われている。カマド1・2とも、北壁の中央に位置し、壁面に対して直交して付設される。カマド1の袖の規模は、西袖が長さ120cm、幅90cm、東袖は長さ135cm、幅96cmを測る。北壁に対し、両袖とも直交する。両袖とも内面は被熱をうける。

カマド1の燃焼部の規模は、奥行き111cm、幅33cm、奥壁高18cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面はほぼ平坦で、奥壁は外傾して立ち上がる。

カマド1の煙道部の規模は、長さ111cm、幅33cm、深さ14～17cmを測る。底面は段を持ち、先端部に向かって上がる。明瞭な煙出し部はもないが、先端部で格円形に括がる被熱範囲を検出した。

カマド2の煙道部の規模は、長さ117cm、幅21cm、深さ17～20cmを測る。底面は、若干起伏する。

カマド2の煙出し部の規模は、上端径18cm、煙道部からの深さ3cmを測り、ピット状に窪む。底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれ、中央が島状に高まる。深さは3～45cmを測る。

【出土遺物】 土師器壺4点・高环2点・鉢1点・甕10点・瓶1点、礫石器1点を掲載した(第64～67図)。

土師器壺4点(第64図-1～4)は、1・4はカマド構築土、2・3は掘り方堆積土からの出土である。1は、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底と推定され、扁平に内湾する体部から直線的に内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデのち縦方向の放射状ヘラミガキが施される。2・3は、底部は丸底ないし平底状の丸底で、扁平に内湾する体部から外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は強く内湾し、内外面

とも稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリが施され、体部内面は2はヘラナデ、3はヘラミガキが施される。4は、扁平に内湾する体部から緩やかに外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデが施される。

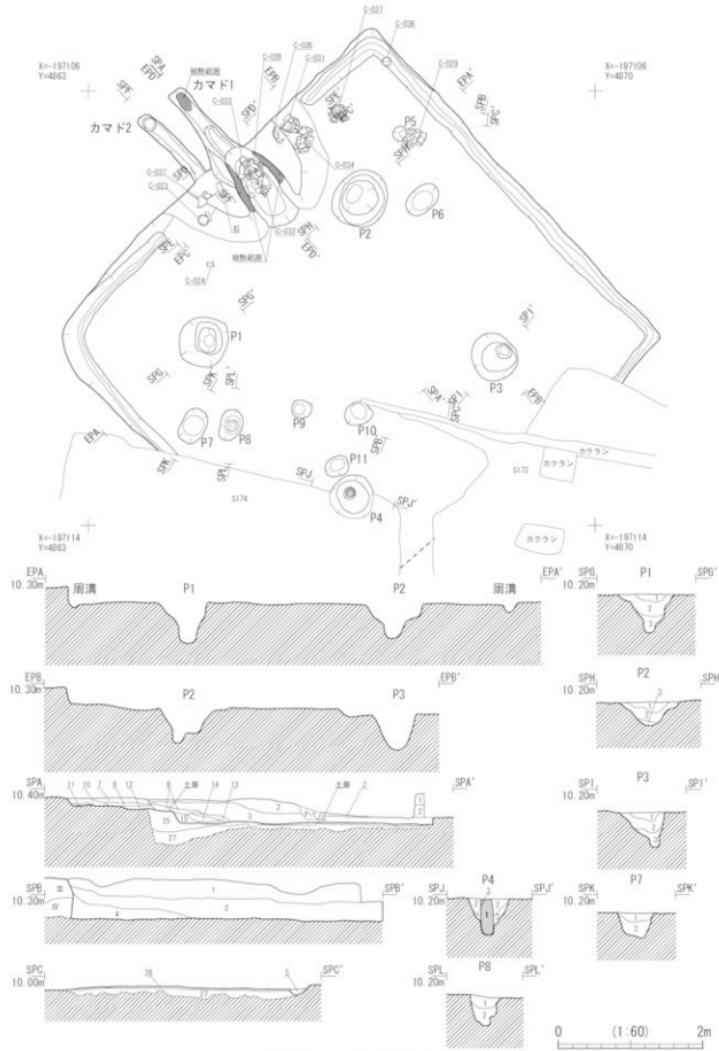
土師器環2点(第64図-5・6)は、5は床面直上、6は掘方堆積土からの出土である。5は柱状半中実、6は柱状中実で、體部はラッパ状に外反すると推定される。環部との境は、緩やかに外傾する。5の環部内面は、黒色処理される。

土師器壺9点(第64図-7～9、第65図-1・2、第66図-1～4、第67図-1・2)は、第64図-1・4・7・8、第66図-1、第67図-1はカマドおよびカマド袖構築土、第65図-1・2、第66図-2は床面直上、第64図-9、第66図-3・4、第67図-2はカマド燃焼部底面からの出土である。第64図-8・9、第65図-1は、球胴の胴部から外反する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、いずれも中位に持つ。口縁部と胴部の境は、いずれも段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデが施され、胴部外は、第64図-8はヘラナデのち一部ヘラミガキ、第64図-9はヘラケズリ、第65図-1はハケメのち下半ヘラケズリが施される。第65図-2は、球形の胴部で頭部のすぼまりは弱く、口縁部は短く外反する器形を呈する。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ハケメ、胴部内面ヘラナデが施される。第66図-1、第64図-7は、内湾して聞く胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と胴部の境は、第66図-1は段・稜を持たず、第64図-7は段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外ハケズリ、胴部内面ヘラナデが施される。第66図-2は長胴の胴部、第66図-3・4、第67図-1・2は、長胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、第66図-2は中位もしくは上位、第66図-3・4、第67図-1・2は中位に持つ。口縁部と胴部の境は、第66図-3、第67図-2は段・稜を持たず、第66図-4、第67図-1は不明瞭な段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外ヘラケズリないしヘラナデ、胴部内面ヘラナデが施される。第67図-2は、胴部内面下半にヘラケズリが残る。

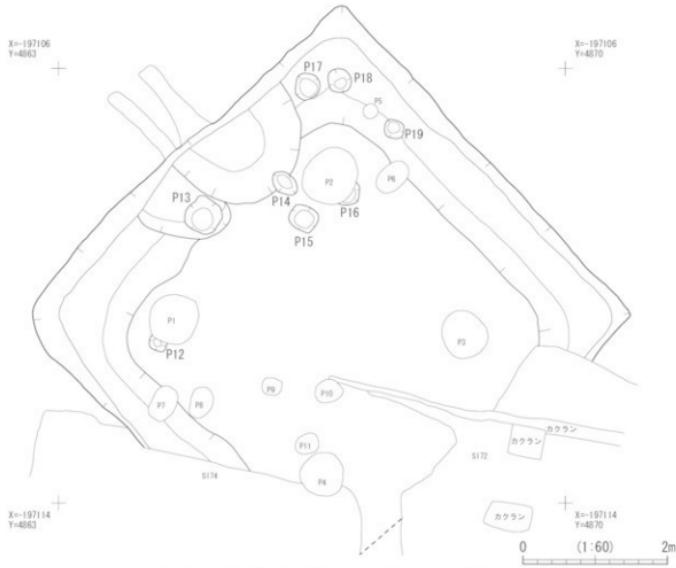
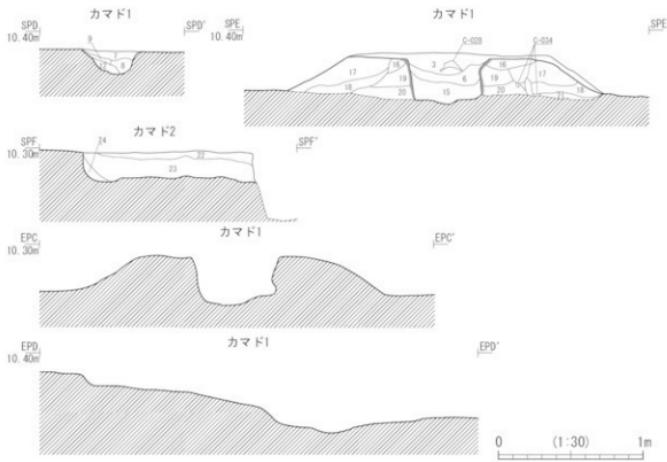
土師器壺(第67図-3)は、カマド袖構築土からの出土である。底部は単孔式で、内湾して立ち上がる胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は中位に持つ。口縁部と胴部の境は、段・稜を持たない。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデのちヘラミガキ、孔周辺はヘラケズリが施される。

礫石器(第67図-4)は、住居堆積土から出土した礫石器である。円礫を素材とし、磨面と凹痕を持つ。磨面は、器体正面下半の広範囲に形成され、顯著な線条痕及び溝状痕を作り。線条痕の方向には、いくつかのまとまりが確認される。器体中央にガスの抜けた孔があり、周辺を敲打して凹としている。磨面は、敲打痕に切られている。石材は多孔質な凝灰岩を使用している。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器高环(第64図-5)、土師器壺(第65図-1・2、第66図-2)、カマド燃焼部底面から出土した土師器壺(第64図-9、第66図-3・4、第67図-2)、カマド構築土から出土した土師器环(第64図-1・4)、土師器鉢(第64図-7)、土師器壺(第64図-8)、土師器壺(第67図-3)は、本堅穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、4a期(6世紀末葉)の土器であり、本堅穴住居跡の時期を示している。

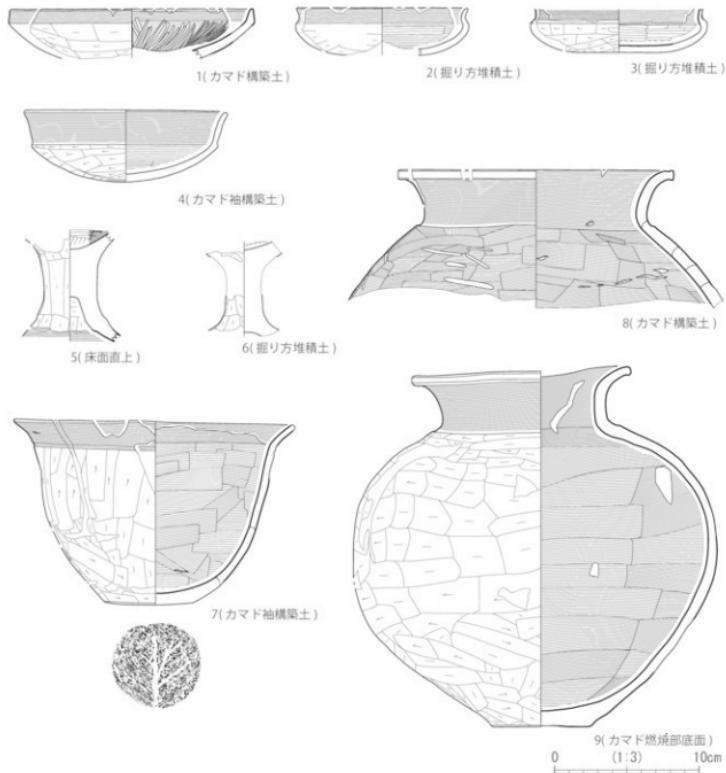


第62図 SI73竪穴住居跡(1)



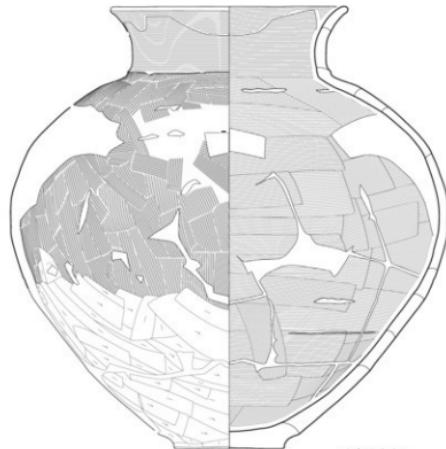
第63図 SI73竪穴住居跡(2) 掘り方完掘時施設検出状況

S73 施工上目記表									
部位	筋位	土色	土性	土作	備考				
住居構造上	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR3/6 黒褐色シルトブロック・地土粒・木炭粒・骨粉を含む。				
	2	10YR3/4	シルト	シルト	10YR3/6 黒褐色シルト小ブロック・木炭粒・無土粒を含む。				
	3	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黒褐色シルト・10YR4/4 黒褐色粘土を含む。地面上・木炭粒を含む。				
	4	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黒褐色シルト・10YR4/2 黑褐色粘土を頭張式に。地面上・木炭粒を含む。				
雨溝	5	-	-	-	目立たない。				
カマツ1	6	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黒褐色シルト小ブロック・地土粒を含む。				
	7	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR3/6 黒褐色シルト・木炭粒・無土粒を含む。				
	8	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黒褐色シルト・木炭粒を含む。				
	9	-	-	-	目立たない。				
	10	7.5YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黒褐色シルト小ブロック・地土粒を含む。				
	11	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黒褐色シルト・木炭粒を含む。				
	12	-	-	-	目立たない。				
	13	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR3/6 黒褐色シルト小ブロック・地土粒を含む。				
	14	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黒褐色シルト小ブロック・地土粒を含む。				
	15	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黒褐色シルト小ブロック・地土粒を含む。				
	16	10YR5/6	黒褐色	シルト	10YR3/2 黒褐色シルト小ブロックを含む。側面は被熱したため、SYR4/6 黒褐色に変色化。				
カマツ1横	17	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR3/6 黒褐色シルト小ブロックを含む。				
	18	10YR2/2	黒褐色	粘土	10YR3/6 黑褐色シルト小ブロックを含む。				
	19	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR3/2 黒褐色シルト小ブロックを含む。側面は被熱したため、SYR4/6 黑褐色に変色化。				
	20	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR3/6 黑褐色シルト小ブロックを含む。側面は被熱したため、SYR4/6 黑褐色に変色化。				
	21	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黑褐色シルト小ブロックを含む。				
カマツ2	22	10YR5/6	黒褐色	シルト	10YR3/6 黑褐色シルト小ブロックを含む。				
	23	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黑褐色シルト小ブロックを含む。				
	24	10YR5/6	黒褐色	シルト	10YR3/4 黑褐色シルトブロックを含む。				
脚り方	25	-	-	-	目立たない。				
	26	10YR2/2	黒褐色	粘土	10YR4/4 に於いて黒褐色粘土ブロックを含む。(堅床)				
P1	27	10YR5/4	にじ・黄褐色	粘土	10YR3/6 黄褐色シルト・地土粒・木炭粒を含む。				
	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR3/6 黑褐色シルトブロック・地土粒を含む。				
P2	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	地土粒・木炭粒を含む。				
	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	木炭粒を含む。				
P3	1	10YR4/3	にじ・黄褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黑褐色シルト・木炭粒を含む。				
	2	10YR3/2	暗褐色	シルト	10YR3/6 黑褐色シルトブロックを含む。				
P4	3	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR3/6 黑褐色シルト・木炭粒を含む。				
	1	10YR4/2	灰褐色	シルト	10YR3/2 黑褐色シルトブロック・10YR3/6 黑褐色シルト・木炭粒・礫化鉄錆を含む。(柱頭部)				
	2	10YR4/3	にじ・暗褐色	粘土	10YR3/6 黑褐色シルト・木炭粒・木炭粒を含む。				
P5	3	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/6 黑褐色シルトブロックを含む。				
	-	-	-	-	断面固なし。				
P6	-	-	-	-	断面固なし。				
P7	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	木炭粒を含む。				
P8	2	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR3/6 黑褐色シルト小ブロック・木炭粒を含む。				
P9	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR3/6 黑褐色シルト・木炭粒を含む。				
P10	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR3/6 黑褐色シルトブロック・礫化鉄錆を含む。(断面固なし)				
P11	-	-	-	-	断面固なし。				
P12	-	-	-	-	断面固なし。				
P13	-	-	-	-	断面固なし。				
P14	-	-	-	-	断面固なし。				
P15	-	-	-	-	断面固なし。				
P16	-	-	-	-	断面固なし。				
P17	1	10YR4/2	灰褐色	粘土	礫化鉄錆を含む。(断面固なし)				
P18	1	10YR4/2	暗褐色	粘土	礫化鉄錆を含む。(断面固なし)				
P19	1	10YR4/2	灰褐色	粘土	10YR3/6 黑褐色シルトブロック・礫化鉄錆を含む。(断面固なし)				
S74 施工用埋土の実測表									
品名	平面形	規格(cm)	深さ(cm)	備考	品名	平面形	規格(cm)	深さ(cm)	備考
P1	楕円形	75 × 65	54		P11	楕円形	36 × 27	10	
P2	円形	81 × 75	33		P12	楕円形	27 × 18	26	
P3	円形	66 × 63	48		P13	不規則	51 × 51	17	
P4	円形	(66) × (66)	48		P14	楕円形	36 × 27	9	
P5	円形	21 × 11	30		P15	楕円形	42 × 39	12	
P6	円形	51 × 53	18		P16	不規則	(30) × (12)	10	
P7	円形	48 × 33	33		P17	楕円形	39 × 33	18	
P8	円形	45 × 30	39		P18	楕円形	36 × 33	20	
P9	円形	27 × 27	18		P19	楕円形	30 × 27	15	
P10	不規則形	(30) × 33	44						



固有番号	登録番号	調査区	出土地	位相	種別	形状	部類	法寸 (cm)			外表面調整	内面調整	備考	写真閲覧
								(1)径	(2)径	(3)高				
1	C-020	V区	SIT3	カマド構築上	土師器	鉢	口縁一體	11.6	-	(3.4)	口縁-32径、 体-32径、 脚-32径	口縁-32径、 体-32径、 脚-32径 (火候不良)	内外面削り薄仕上げ	62
2	C-021	V区	SIT3	掘り方堆積土	土師器	鉢	口縁一級	11.9	-	(3.3)	口縁-32径、 体-32径	口縁-32径、 体-32径	外表面磨耗	62
3	C-022	V区	SIT3	掘り方堆積土	土師器	鉢	口縁一級	-	-	(3.0)	口縁-32径、 体-32径	口縁-32径、 体-32径	内外面削り薄仕上げ	62
4	C-023	V区	SIT3	カマド袖 構築上	土師器	鉢	口縁一級	14.1	-	5.0	口縁-32径、 体-32径	口縁-32径、 体-32径	内外面削り薄仕上げ	62
5	C-024	V区	SIT3	床面直上	土師器	高杯	脚	-	-	(7.8)	脚-32径、 脚-32径	脚-32径、 脚-32径	内外面削り薄仕上げ	62
6	C-025	V区	SIT3	掘り方堆積土	土師器	高杯	脚	-	-	(6.5)	脚-32径、 脚-32径	脚-32径、 脚-32径	外表面削除	62
7	C-026	V区	SIT3	カマド袖 構築上	土師器	鉢	口縁一級	19.3	6.3	12.8	口縁-32径、 体-32径、 脚-32径	口縁-32径、 体-32径、 脚-32径	内外面削除	62
8	C-030	V区	SIT3	カマド 構築上	土師器	鉢	口縁一級	19.2	-	(9.5)	口縁-32径、 体-32径、 脚-32径	口縁-32径、 体-32径、 脚-32径	内面削り薄仕上げ、 外表面削除付着	62
9	C-028	V区	SIT3	カマド焼成部 底面	土師器	鉢	円形	15.1	6.9	24.6	口縁-32径、 体-32径、 脚-32径	口縁-32径、 体-32径、 脚-32径	内外面削り薄仕上げ、 内面削除	63

第64図 S173竪穴住居跡出土遺物(1)



1(床面直上)

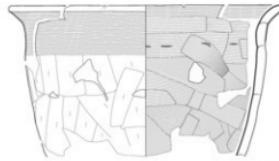


2(床面直上)

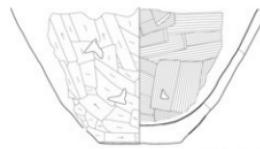
0 (1:3) 10cm

固形 器号	特征 高径	调查区	出土地	层位	横剖	纵剖	部位	法量 (cm)			外面部型	内面部型	参考	写真 图版
								(上口)	(底径)	(底高)				
1	C-027	V区	SI73	床面直上	土脚痕	腹	上口	(16.4)	(7.5)	30.5	口圆唇平扩，腹下平/外斜 底圆/外斜	口圆唇平扩， 腹内凹扩，底平		63
2	C-029	V区	SI73	床面直上	土脚痕	腹	口沿 一侧	(22.1)	-	(21.7)	口圆唇平扩， 腹内凹扩	口圆唇平扩， 腹内凹扩	内外面深凹	64

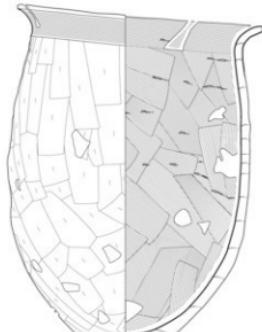
第65図 SI73竪穴住居跡出土遺物(2)



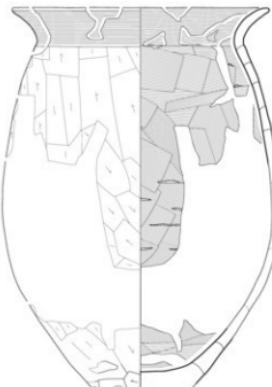
1(カマド構築土)



2(床面直上)



3(カマド燃焼部底面)

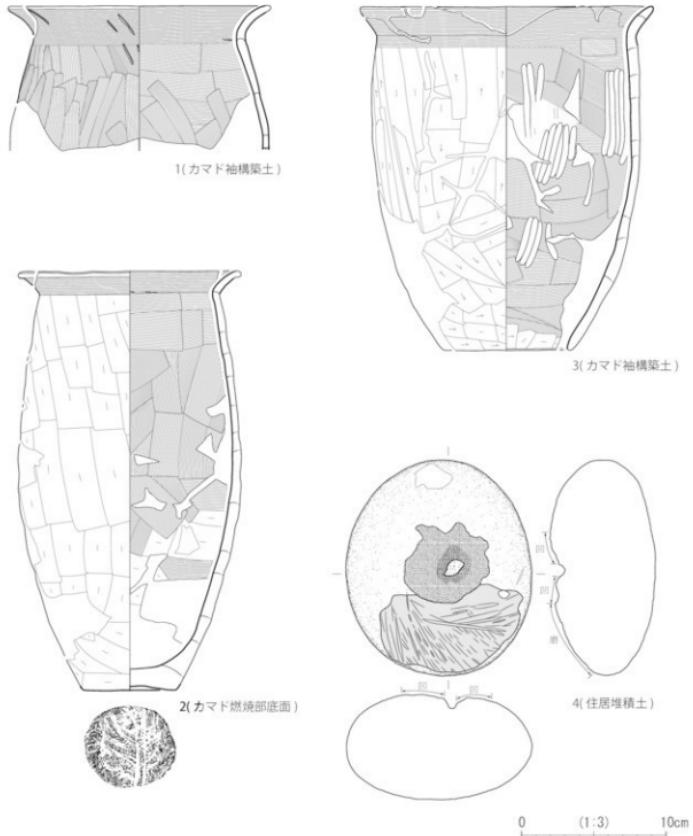


4(カマド燃焼部底面)

0 (1:3) 10cm

回数 番号	作業 番号	調査区 名	示土地 名	層位	種別	基盤	部位	法量(m³)			外寸調整	内寸調整	備考	写真 回数
								(1坪)	底径	高さ				
1	C-035	V1K	SIT3	カマド焼成土	上部部	要	1層 一倒	(18.9)	-	(10.4)	1層(22坪) 体(22坪)	1層(22坪) 体(22坪)	1層(22坪) 内面貼付あり	63
2	C-036	V1K	SIT3	床面直上	上部部	要	解~底	-	(5.7)	(9.4)	解~底(22坪)	解~底(22坪)	内面貼付あり	63
3	C-031	V1K	SIT3	カマド燃焼部 底面	上部部	要	断定形	17.0	4.6	24.1	1層(22坪) 解(22坪)~底(22坪)	1層(22坪) 解(22坪)	1層(22坪) 内面貼付あり	63
4	C-032	V1K	SIT3	カマド燃焼部 底面	上部部	要	1層 一倒	(25.2)	6.1	26.6	1層(22坪) 解(22坪)~底(22坪)	1層(22坪) 解(22坪)~底(22坪)	1層(22坪) 内面貼付あり	64

第66図 S173竪穴住居出土遺物(3)



第67図 SI73竪穴住居跡出土遺物(4)

国際 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	部種	部位	法量(cm)			外周調整	内周調整	参考	写真 頁数	
								直径	底径	高さ					
1	C-037	V区	SI73	カマド組 構築上	土脚部	甕	口縁一孔	(18.2)	-	(10.0)	口縁(2.2)->12.2cm、 底(1.0)->10.0cm	口縁(2.2)、 底(1.0)	外周削制の施熱、外表面部 に工具痕	64	
2	C-033	V区	SI73	今Y号燃焼部 底面	土脚部	甕	口縁一孔	15.4	6.4	29.0	口縁(2.2)、 底(1.0)->15.4cm、 甕(木葉窓一箇)脚部上端 引付(1.0)->15.4cm	口縁(2.2)、 底(1.0)->15.4cm、 甕(木葉窓一箇)脚部上端 引付(1.0)->15.4cm	素面大、外表面部脚部上端 付着	64	
3	C-034	V区	SI73	カマド組 構築上	土脚部	甕	口縁一孔	(20.3)	8.8	23.8	口縁(2.2)、 底(1.0)->20.3cm、 甕(1.0)->20.3cm	口縁(2.2)、 底(1.0)->20.3cm、 甕(1.0)->20.3cm	单孔	64	
測定 項目														写真 頁数	
4	Ke-034	V区	SI73	石垣 構築上	襖石部	甕	口縁一孔	14.9	12.9	7.3	-	1488.48	凝灰岩	内壁(1.0)、22.0mm深(2.0)、 外壁(1.0)、22.0mm深(2.0)、 脚部(1.0)、22.0mm深(2.0)	64

### SI74 竪穴住居跡(第68図)

【位置・確認】 V区東半、C-D-8グリット<sup>o</sup>に位置する。煙道部と北壁・東壁の二辺を検出した。カマドおよび住居中央付近は、重複遺構(SI70)により失われている。

【重複】 SI70・73・77と重複関係にあり、SI73・77より新しくSI70より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北462cm、東西470cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-86°・Wである。

【堆積土】 7層に分層された。1・2層は住居堆積土で、暗褐色・黄褐色シルトを主体とし、木炭粒・焼土粒を含む。3層は、周溝堆積土である。4～6層は煙道部堆積土で、5・6層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、木炭粒と焼土粒を多量に含む。7層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾する。残存する壁高は、最大32cmを測る。

【床面】 残存する範囲では、中央から壁面向かって緩やかに傾斜して下がる。7層上面を床面とする。

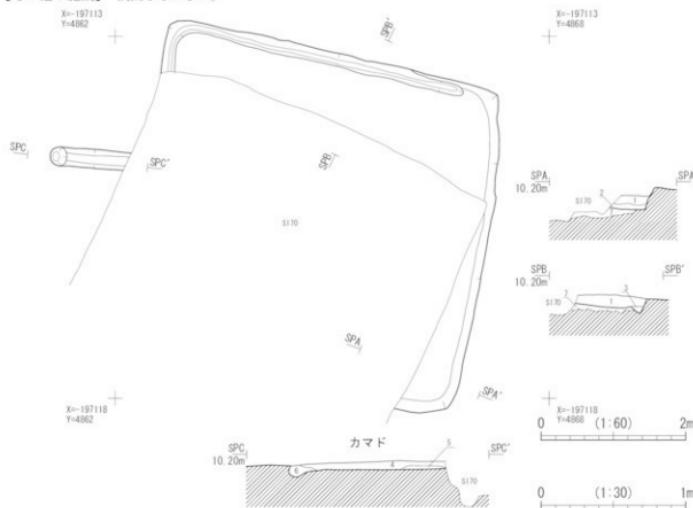
【柱穴】 検出していない。

【周溝】 検出した範囲においては、西壁と北壁の壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅14～25cm、深さ8cmを測る。

【カマド】 煙道部と煙出し部を検出した。カマドは、西壁中央に付設されていたと推定される。煙道部の規模は、長さ108cm、幅28cm、深さ6cmを測る。底面は平坦で、傾斜はみられない。

煙出し部の規模は、上端径26×23cm、煙道部からの深さ8cmを測り、ピット状に落ち込む。底面は丸みを帯び、壁面はやや内傾して立ち上がる。

【その他の施設】 検出していない。



第68図 SI74 竪穴住居跡

【掘り方】 検出した範囲においては、全面に確認された。底面は起伏がみられ、深さは12cmを測る。

【出土遺物】 堆積土中より土師器の破片が少量出土しているが、固化できるような遺物はなかった。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)以降と考えられるSI70より古く、5a期の土器が伴うSI77より新しい。このことから、本堅穴住居跡の時期は、5a期に収まると考えられる。

SI75 堆積土特記表				編号
層位	標位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR2/2	暗褐色	シルト 木炭粒・焼土を含む。
	2	10YR3/6	暗褐色	シルト 木炭粒・焼土を含む。
雨潤	3	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト 10YR3/6シルト・プロックを含む。
	4	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR3/6シルト・プロック・焼化粧画を含む。
カマド(煙道)	5	7.5YR2/2	黒褐色	シルト 木炭粒を多量に含む。
	6	7.5YR2/2	黒褐色	粘土質シルト 木炭粒・焼土を多量に含む。
掘り方	7	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 10YR3/6シルト・プロック・木炭粒・焼土を含む。

### SI75 堪穴住居跡(第69・70図)

【位置・確認】 V区東半、D-8グリッドに位置する。SI72の床面直上で検出された。住居中央は搅乱により失われ、南東部は調査区外へかかる。

【重複】 SI72と重複関係にあり、これより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北336cm、東西312cmを測る。平面形状は、長方形と推定される。

【方向】 カマド基準でN-50°-Wである。

【堆積土】 11層に分層される。1・2層は住居堆積土で、黒褐色・暗褐色シルトを主体とし、焼土粒・焼土塊・木炭粒を含む。3～7層はカマド間連層位で、黒褐色・黒褐色粘土質シルトを主体とし、木炭粒・焼土粒を含む。8・9層は、カマド袖構築塗である。10層はカマド掘り方、11層は住居掘り方堆積土である。

【壁面】 細やかに外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大9cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。11層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から3基検出した。P3は、燃焼部の前面に位置し、堆積土に焼土塊・木炭粒を多量に含むことから、カマドに関連する施設と考えられる。

【周溝】 検出していない。

【カマド】 北壁の南側に位置し、壁面に対して直交して付設される。袖の規模は、西袖が長さ72cm、幅60cm、東袖が長さ66cm、幅60cmを測る。北壁に対し両袖とも直交する。

燃焼部の規模は、奥行き72cm、幅48cm、奥壁高3cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は平坦で、奥壁側が一段低くなる。奥壁は、外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面に掘り込まれる。深さは3～15cmを測る。

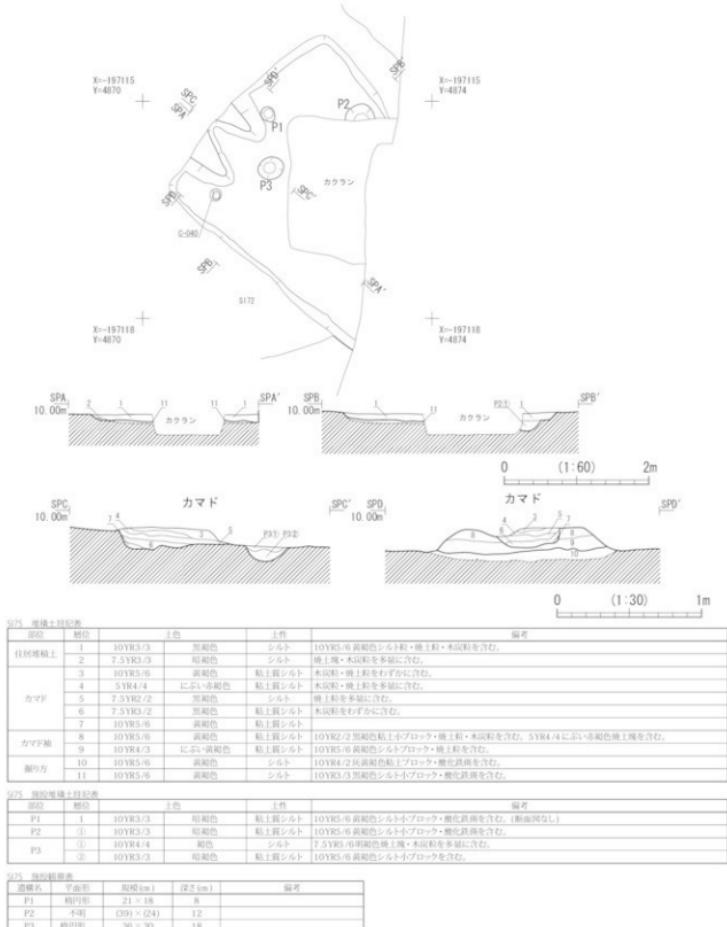
【出土遺物】 土師器壺1点・甕2点を掲載した(第70図)。

土師器壺は、カマド袖構築土からの出土である。底部は丸底と推定され、内湾する体部からほぼ直立する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、外面は強い被熱による摩耗のため不明であるが、内面はヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。

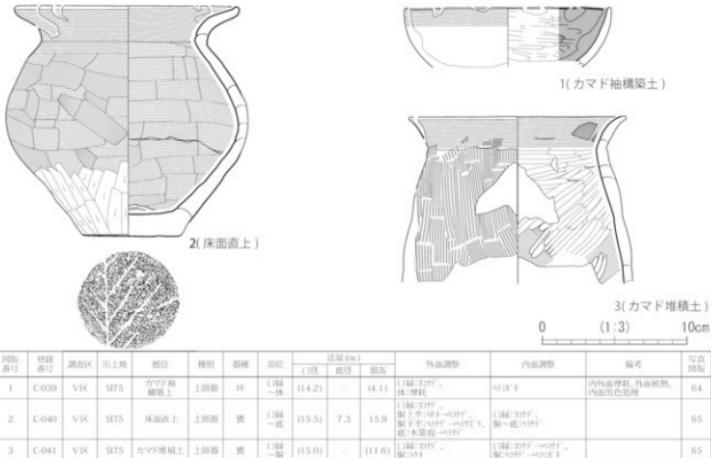
土師器甕は、2は床面上から、正位に据え置かれた状態で出土している。3は、カマド堆積土からの出土である。2は、底部は平底で、やや扁平な球胴の胴部から、強く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大形は中位に持つ。口縁部は丸みを持って口唇部にいたり、内面は受け口状になる。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデのち下半ヘラケズリ、胴部内部ヘラナデが施される。底部は、木葉痕の上からヘラナデが施される。3は、長胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大形は下位に持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、

胸部外面ハケメ、胸部内面へラナデのちヘラミガキが施される。

【時期】 上記の遺物のうち、カマド袖構築土から出土した土師器環(1)と床面直上から出土した土師器甕(2)は、本堅穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では5b ii期(8世紀前葉)の土器であり、本堅穴住居跡の時期を示している。



第69図 S175堅穴住居跡



第70図 SI75 穫穴住跡出土遺物

### SI76 穫穴住跡(第71～77図)

【位置・確認】 V区東半、C-8グリッドに位置する。北西・北東・南西コーナー付近とカマド燃焼部は、重複遺構(SI77)と搅乱により失われている。

【重複】 SI77・90と重複関係にあり、SI90より新しく、SI77より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北578cm、東西558cmを測る。平面形状は、隅丸方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-1°-Eである。

【堆積土】 12層に分層された。1・2層は住居堆積土で、暗褐色シルトを主体とし、木炭粒・焼土粒を含む。3層は、周溝堆積土である。4～7層はカマド関連層位で、暗灰黄色シルト・黒色粘土質シルトを主体とし、木炭粒・焼土塊を含む。8～10層は、カマド袖構築土である。11・12層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 やや外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大24cmを測る。

【床面】 わずかな起伏がみられる。11・12層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から8基(P1～8)、掘り方底面から8基(P9～16)、总数16基検出した。位置関係から、P1～4は主柱穴に相当すると考えられ、このうちP3・4には柱痕跡が確認された。その他のビットについては、性格は不明である。

【周溝】 検出した範囲においては、北壁と東壁の一部を除き、壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅18cm、深さ6～9cmを測る。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部および煙道部と袖の一部は、搅乱により失われている。残存する袖の規模は、西袖が長さ135cm、幅102cm、東袖が長さ126cm、幅87cmを測る。北壁に対して西袖は東傾し、東袖は西傾する。

燃焼部は、搅乱により失われており、規模は不明である。奥壁は、煙道の残存状況から、住居内に収まっていたと考えられる。

残存する煙道部の規模は、長さ135cm、幅69cm、深さ10～14cmを測る。底面は平坦で、煙出し部に向けて緩やかに下がる。堆積土中から、芯材に利用されたと考えられる自然礫が出土している。

煙出し部の規模は、上端径33cm、煙道部からの深さ5cmを測り、ピット状に窪む。底面は皿状で、壁面はやや外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。底面は、若干の起伏がみられる。深さは、3～18cmを測る。

【出土遺物】 土師器壺7点・高环2点・鉢3点・甕6点、須恵器平瓶1点、土製品2点、金属製品3点、石製品2点を掲載した(第74～77図)。

土師器壺7点(第74図-1～7)は、6は床面直上、2・4・7は掘り方堆積土、1・3・5は住居堆積土からの出土である。1は、北武藏型土師器(清水型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底で、半球形に内湾する体部から、「S」字状に緩やかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に弱い稜を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデのち上半ヘラミガキが施される。2は、扁平に内湾する体部から、ほぼ直立する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリのち下半ヘラミガキ、体部内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。3～7は、丸底もしくは平底状の丸底と推定され、内湾する体部から、外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に3・4が段、5・6が稜を持ち、7は段・稜を持たず、内面は3～5が稜をもつ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部ヘラケズリが共通で、内面は3・5・6はヘラミガキ、4は口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、7は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデが施される。このうち、5・6の内面は、黒色処理される。

土師器高环2点(第74図-8・第75図-1)は、第74図-8は床面直上、第75図-1は住居堆積土からの出土である。第74図-8は、環部は緩やかに内湾する体部からやや外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、弱い稜を持つ。脚部は短脚で、内湾しつつ大きく開き、裾部はラッパ状になる。ヘラケズリにて面取りされた長方形の透かしを2窓もつ。环部と脚部の境は、屈曲する。調整は、口縁部・裾部外面はヨコナデ、体部外面はハケメのちヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、内面は环部ヘラミガキ、脚部ヘラナデが施される。环部内面は、黒色処理される。第75図-1は、柱状空中の脚部で裾部は屈曲してラッパ状に開くと推定される。环部内面は、黒色処理される。

土師器鉢3点(第75図-2～4)は、3は床面直上、2・4は住居堆積土からの出土である。3は、底部は平底で、半球形に内湾して立ち上がる体部からわずかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、弱い稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケメのちヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。体部は、被熱による摩耗が顕著にみられる。2は、3よりも体部の開きが大きい器形を呈する。4は、台付鉢の台部である。台部は直線的に外傾し、体部と台部の境は屈曲する。

土師器甕6点(第75図-5・6、第76図-1～4)は、第75図-5は床面施設、第76図-3はカマド構築土、第75図-6、第76図-4は床面直上、第76図-1・2は住居堆積土からの出土である。第75図-5、第76図-1～3は、胴部の最大径を中位に持つ長胴形の甕である。口縁部と胴部の境は、第75図-5は外面に段、内面に稜を持ち、第76図-1・2は段・稜を持たない。第75図-6、第76図-4は、胴部の最大径を中位に持つ球胴の胴部から、第76図-4は外傾、第75図-6は外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と胴部の境は、第76図-4は段を持ち、第75図-6は段・稜を持たない。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケメのちヘラケズリ、胴部内面ヘラナデを基調とし、第75図-6、第76図-2は胴部内面ハケメ、第76図-3は胴部外面ヘラミガキ、第76図-4は、胴部外面にヘラナデが施される。

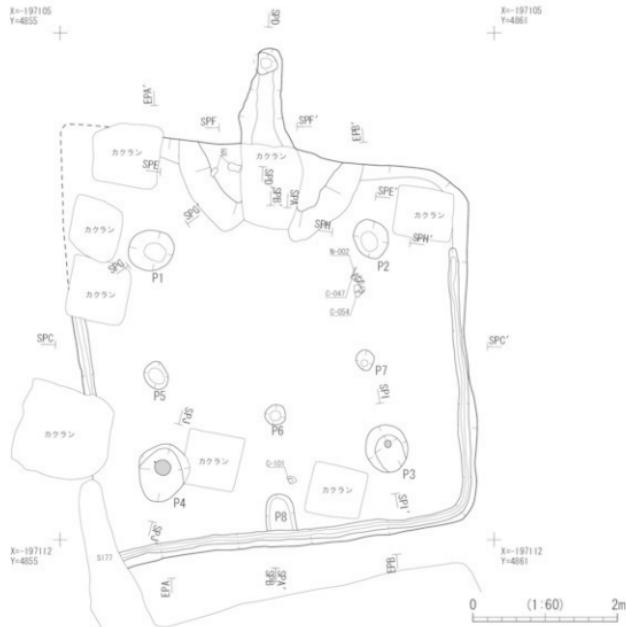
須恵器平瓶(第76図-5)は、住居堆積土からの出土である。底部は丸底で、肩部は弱い稜を持ち、頸部は外傾する器形を呈する。調整は、ロクロ調整のち、体部下半はカキ目のち回転ヘラケズリが施される。

土製品2点(第77図-1・2)は、いずれも住居堆積土からの出土である。1は支脚で、上下端が欠損する。2は羽口で、先端部に溶解物が付着する。

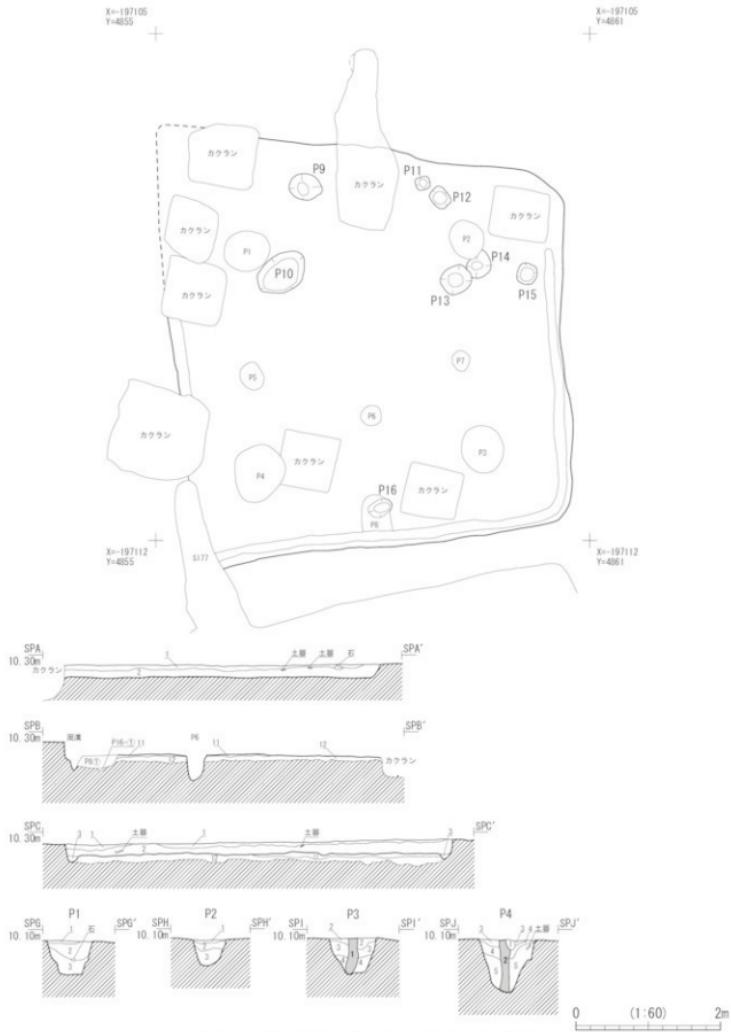
金属製品3点(第77図-3～5)は、3は床面直上、4・5は住居堆積土からの出土である。3は刀子、4は金属製の軸が残存する紡錘車、5は棒状の金属製品である。

石製品2点(第77図-6・7)は、いずれも住居堆積土からの出土である。6は、石製紡錘車である。裏面には、整形時の剥離痕が確認できる。剥離痕は研磨痕に切られており、敲打調整後に全面が研磨されたと考えられる。穿孔部は、研磨痕に切られた様子は確認できず、研磨整形後に穿孔されている。穿孔は、断面の形状から表面側より一方向で行なわれたと考えられる。表裏面共に、研磨整形時の線条痕が確認される。線条痕の方向には、部位毎に不同程度まとまりがあり、表裏共に平坦部では同方向に、稜上では放射状に、傾斜部分では周縁を巡る痕跡とそれに直行する痕跡が確認された。裏面の一部は、欠損している。石材は、粘板岩である。7は、砥石である。表裏及び両側面の4面に砥面が確認できる。砥石の粒度が荒く、線条痕は確認されない。上下両端は欠損しており、欠損面に使用痕跡は認められない。一部に刃物痕が確認される。石材はやや軟質な砂岩を使用している。

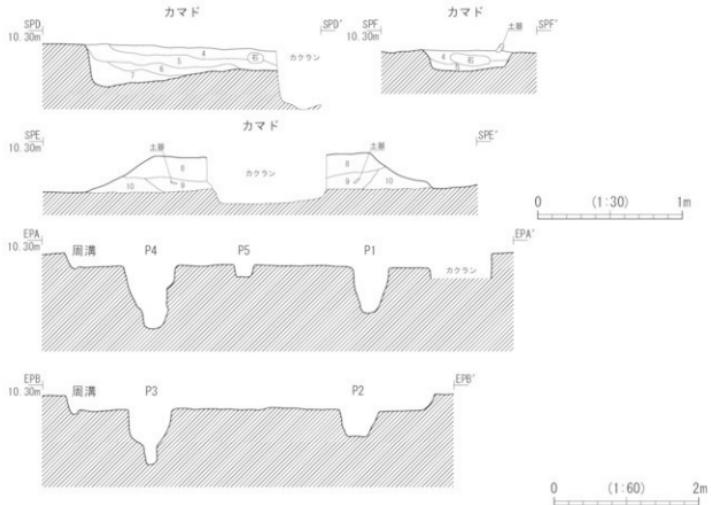
【時期】上記の遺物のうち、床面直上から出土した土器環(第74図-6)、土器高环(第74図-8)、土器器鉢(第75図-3)、土器器皿(第75図-6、第76図-4)、カマド構築土から出土した土器器皿(第76図-3)は、本堅穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では5a期(7世紀中葉～後葉)の土器であり、本堅穴住居跡の時期を示している。



第71図 SI76堅穴住居跡(1)



第72図 SI176竪穴住跡(2)-掘り方完掘時施設検出状況



73. 地質+付記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋植土	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭塊・木炭塊を多量に含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭塊・木炭塊を多量・薄・1割+10YR5/6 黄褐色シルト小ブロックを含む。
雨溝	3	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭塊を多量に含む。
カマド	4	2.5YR3/3	暗グリーン褐色	シルト 木炭塊を多量に含む。
	5	2.5YR4/2	暗褐色	シルト 木炭塊・木炭塊を多量に含む。
	6	5Y3/2	オリーブ褐色	粘土質シルト 2.5Y2/1 黄褐色土塊を多量に含む。
	7	5Y2/1	黒色	粘土質シルト 2.5Y4/2 黑褐色土塊を多量・小ブロックを含む。
	8	2.5Y4/2	暗褐色	シルト 木炭塊・消土・木炭塊を含む。
カマド下鉢	9	2.5Y4/2	暗褐色	シルト 2.5Y5/3 黑褐色粘土層シルトブロック・木炭塊・木炭塊を含む。
	10	2.5Y3/2	暗褐色	粘土質シルト 木炭塊・木炭塊・木炭塊を含む。
側面	11	10YR5/8	暗褐色	シルト 10YR4/2 黑褐色土塊・1+10YR3/2 黑褐色粘土層シルトブロックを斑状に含む。
	12	10YR5/6	暗褐色	シルト 10YR3/2 黑褐色粘土層シルトブロック・融雪鉛直面を含む。

73. 地質+付記表(1)

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト 木炭塊を含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 10YR5/6 黑褐色シルトブロックを含む。
	3	10YR3/3	に赤・黄褐色	シルト 木炭塊・消土・木炭塊を含む。
P2	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭塊・消土・木炭塊を多量に含む。
	2	10YR4/6	褐色	粘土質シルト 10YR5/6 黄褐色シルト・小シルトブロック+2.5YR7/1 黄白色粘土ブロックを含む。
	3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト 10YR5/6 黄褐色・木炭塊を含む。
P3	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭塊を多量に含む。(柱根跡)
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭塊を多量・融雪塊を含む。
	3	10YR4/3	に赤・黄褐色	粘土質シルト 10YR5/6 黄褐色シルトブロック・木炭塊を含む。
	4	10YR4/3	に赤・黄褐色	粘土 10YR5/6 黄褐色シルトブロックを含む。
P4	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭塊を多量に含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR5/6 黄褐色シルト小ブロック・木炭塊を含む。(柱根跡)
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト 木炭塊を多量・消土。
	4	10YR4/7	に赤・黄褐色	粘土質シルト 10YR5/6 黄褐色シルトブロックを含む。
	5	10YR4/3	に赤・黄褐色	粘土 10YR5/6 黄褐色シルトブロックを含む。
P5	-	-	-	削面なし。
P6	-	-	-	削面なし。
P7	-	-	-	削面なし。
P8	(1)	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト 往20mmの木炭塊を多量・融雪土を含む。(新面開なし)

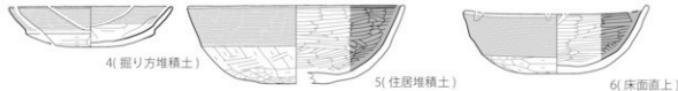
73図 S176豎穴住居跡(3)

S76 住居堆積土記録(2)

番号	部位	土色	土性	備考
P9	I	10YR5/6	黄褐色	粘土質少砂質土・表面を多少堅化し、底面を多少堅化し、(断面固く)
P10	I	10YR5/6	黄褐色	粘土質少砂質土・(断面固く)
P11	I	10YR5/6	黄褐色	粘土質少砂質土・(断面固く)
P12	I	10YR5/6	黄褐色	粘土質少砂質土・(断面固く)
P13	I	10YR5/6	黄褐色	粘土質少砂質土・(断面固く)
P14	I	10YR5/6	黄褐色	粘土質少砂質土・(断面固く)
P15	I	10YR5/6	黄褐色	粘土質少砂質土・(断面固く)
P16	I	10YR5/6	黄褐色	粘土質少砂質土・(断面固く)

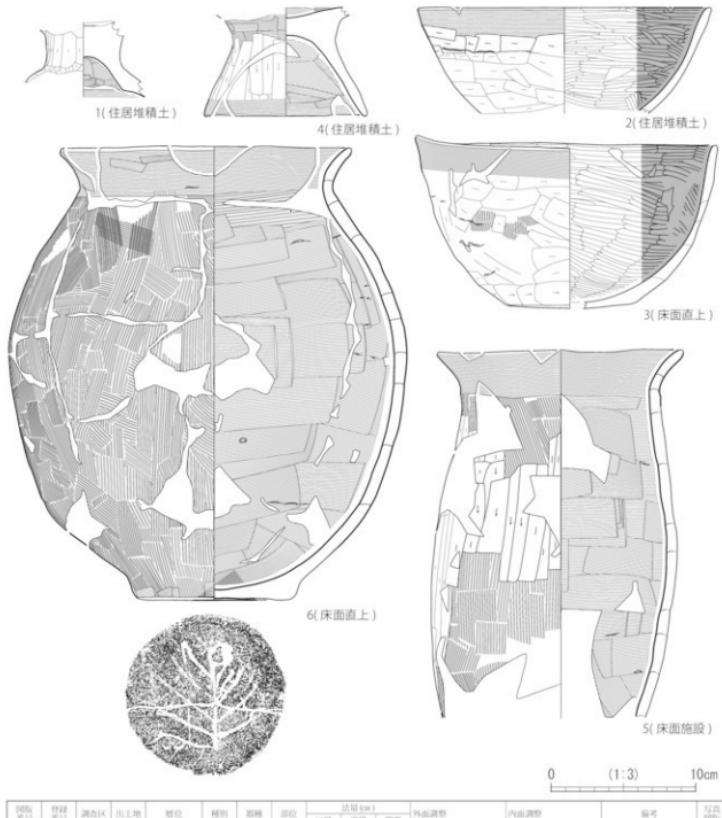
S76 地面観察表

遺構名	平面形	周囲(m)	深さ(cm)	編号	遺構名	平面形	周囲(m)	深さ(cm)	編号
P1	不規則形	6.3 × 4.5	45		P9	不整方形	47 × 31	21	
P2	不規則形	5.7 × 4.5	30		P10	不整方形	7.7 × 5.1	1	
P3	不規則形	6.6 × 5.7	48		P11	方形	24 × 21	13	
P4	不規則形	8.1 × 6.0	72		P12	長方形	30 × 24	5	
P5	不規則形	3.9 × 3.0	18		P13	不整円形	45 × 39	5	
P6	円形	3.0 × 2.7	36		P14	不整円形	39 × 33	4	
P7	円形	3.0 × 2.4	25		P15	鏡形	30 × 30	4	
P8	不明	5.1 × 4.2	18		P16	不整方形	(33) × (21)	14	



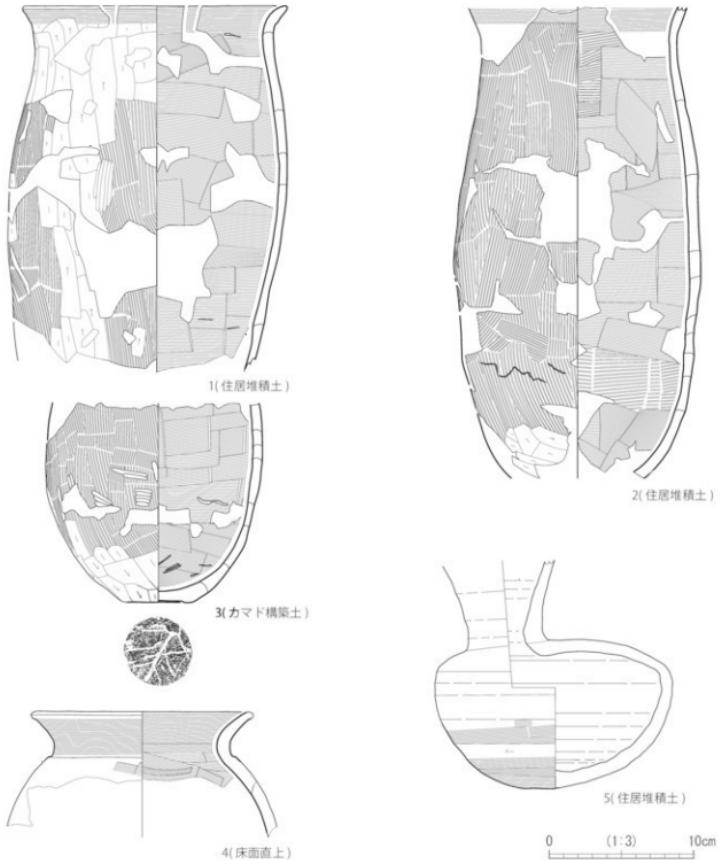
回数 番号	標符 番号	調査区	出土地	部位	種別	形態	剖面	法量(cm)			外底調整	内面調整	編号	写真 回数
								口径	底径	高さ				
1	C-043	V1K	S76	住居堆積土	土師器	坪	不定形	9.6	-	3.5	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm、 「3層」0.5cm	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm、 「3層」0.5cm	内外面被熱焼	65
2	C-044	V1K	S76	觸り方堆積土	土師器	H	1層	-	4.3	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm、 「3層」0.5cm	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm、 「3層」0.5cm	内外面被熱燒	65	
3	C-045	V1K	S76	住居堆積土	土師器	H	1層	(17.2)	-	(0.3)	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm	65	
4	C-046	V1K	S76	觸り方堆積土	土師器	H	1層	(11.0)	-	2.8	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm	内・外面被熱	65
5	C-048	V1K	S76	住居堆積土	土師器	H	1層	-	5.4	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm、 「3層」0.5cm	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm、 「3層」0.5cm	内外面被熱燒、外面部被 熱燒修理	65	
6	C-047	V1K	S76	床面直上	土師器	H	1層	(12.9)	-	4.7	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm	内・外面被熱燒	65
7	C-049	V1K	S76	觸り方堆積土	土師器	H	1層	(19.0)	-	3.6	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm	65	
8	C-050	V1K	S76	床面直上	土師器	高坪	不定形	16.5	12.4	10.5	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm、 「3層」0.5cm	「1層」2.2cm、 「2層」0.5cm、 「3層」0.5cm	内面被熱燒修理、 底部通心丸、2重 修理、内面被熱燒修理 外面部被熱燒修理	65

第74図 S176豊穴住居出土遺物(1)



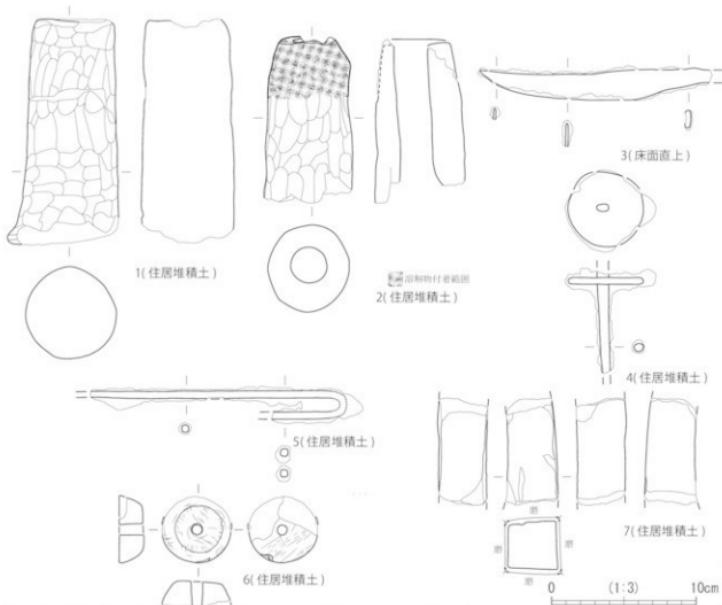
图号 器号	曾用 器名	调查区 S176	出土地 住居堆 上部	部位 上部 高环 脚	类别 脚部	部位 脚部	直径(cm)			外底调整 脚-内底 脚-外底 脚-内底	内底调整 脚-内底 脚-外底 脚-内底	参考	方格 编号
							C径	宽径	高径				
1	C-052	V1K	S176	住居堆 上部 脚部	高环	脚	-	-	(5.2)	脚-内底 脚-外底 脚-内底	脚-内底 脚-外底 脚-内底	环面内黑色处理	65
2	C-053	V1K	S176	住居堆 上部 脚部	脚	口沿 一体	(20.3)	-	(7.8)	脚-内底 脚-外底 脚-内底	脚-内底 脚-外底 脚-内底	内底黑色处理	65
3	C-054	V1K	S176	床面直上 上部 脚部	脚	口沿 一底	20.9	9.1	11.8	脚-内底 脚-外底 脚-内底	脚-内底 脚-外底 脚-内底	内底黑色处理 外底被熟料覆盖 内底擦亮	65
4	C-051	V1K	S176	住居堆 上部 脚部	台面脚 脚底 一底	-	(11.2)	(7.5)	-	脚-内底 脚-外底 脚-内底	脚-内底 脚-外底 脚-内底	环面内黑色处理	65
5	C-056	V1K	S176	床面施设 上部 脚部	脚	口沿 一底	17.0	-	(25.4)	脚-内底 脚-外底 脚-内底	脚-内底 脚-外底 脚-内底	外底烧热	65
6	C-055	V1K	S176	床面直上 上部 脚部	脚	口沿 一底	(20.2)	10.4	31.3	脚-内底 脚-外底 脚-内底	脚-内底 脚-外底 脚-内底	内底脚部刮痕	65

第75圖 S176竪穴住居出土遺物(2)



編號 番号	登錄 番号	調査区 区画	出土地 出土地	層位 層位	種別 種類	断面 断面	法量 (cm)			外ぬ調整 外ぬ調整	内ぬ調整 内ぬ調整	備考 備考	写真 写真
							(1往 既往)	(既往 既往)	既往				
1 C-057	V1K	SI76	住居堆積土上	上部層	甕	1.146 ~1cm	(0.83)	-	(25.1) 1.146×1.146×25.1 1.146×1.146×25.1	1.146×1.146×25.1 1.146×1.146×25.1	1.146×1.146×25.1 1.146×1.146×25.1	66	
2 C-058	V1K	SI76	住居堆積土上	上部層	甕	圓~瓶	-	-	(32.6) 半円形 半円形	32.6×32.6×32.6 32.6×32.6×32.6	32.6×32.6×32.6 32.6×32.6×32.6	66	
3 C-060	V1K	SI76	カマド構築土上	上部層	甕	圓~瓶	-	4.8 (13.7)	4.8 (13.7)×4.8×1.1 4.8×4.8×1.1	4.8×4.8×1.1 4.8×4.8×1.1	4.8×4.8×1.1 4.8×4.8×1.1	66	
4 C-059	V1K	SI76	床面直上	上部層	甕	1.146 ~1cm	(15.4)	-	(8.6) 1.146×1.146×8.6 1.146×1.146×8.6	1.146×1.146×8.6 1.146×1.146×8.6	1.146×1.146×8.6 1.146×1.146×8.6	66	
5 E-004	V1K	SI76	住居堆積土	頂部層	平底	圓~瓶	-	13.8 13.8×13.8×13.8 13.8×13.8×13.8	13.8×13.8×13.8 13.8×13.8×13.8	13.8×13.8×13.8 13.8×13.8×13.8	66		

第76図 SI 76 穫穴住跡出土遺物(3)



図版 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	特徴・備考	写真 図版	
							全長	幅	厚				
1	P-003	V区	SI76	住居堆積上	土製品	支脚	15.5	7.7	6.3	(783.6) 17°、下端板熱	66		
2	P-004	V区	SI76	住居堆積上	土製品	柱	11.4	6.1	6.1	(244.6) 17°、直徑2.5cm、先端部に溶解物付着	66		
3	N-002	V区	SI76	床面直上	金属	刀子	(16.1)	(2.4)	(0.4)	(32.7) 木質残存	66		
4	N-001	V区	SI76	住居堆積上	土製品	粘土車	(7.2)	6.3	0.9	(0.9) 粘土車	66		
5	N-003	V区	SI76	住居堆積上	金属	棒状	(18.9)	(2.5)	(1.1)	(55.7)	66		
図版 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			石材	備考	写真 図版	
							全長	幅	厚				
6	Kd-001	V区	SI76	住居堆積上	石製品	粘土車	(4.6)	(4.8)	1.8	(41.10)	粘土車	外径0.8cm、孔内径0.7cm、矢頭形	66
7	Kd-009	V区	SI76	住居堆積上	石製品	砾石	(7.4)	3.6	3.5	(139.01)	砾石	表面4面、矢頭あり、動物組織あり	66

第77図 SI76竪穴住居跡出土遺物(4)

### S177 竪穴住居跡(第78 ~ 82図)

【位置・確認】 V区東半、C-8・9グリッドに位置する。南東コーナー付近は重複遺構(SI70)により失われている。南北コーナーは調査区外にかかる。

【重複】 SI70・86・90と重複関係にあり、SI86・90より新しく、SI70より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北648cm、東西662cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-13°Wである。

【堆積土】 15層に分層された。1・2層は住居堆積土で、暗褐色シルト・黄褐色粘土質シルトを主体とする。3層は、

周溝堆積土である。4～9層はカマド関連層位で、いずれの層も木炭粒・焼土を含み、6～8層は焼土塊・焼土粒を多量に含む。10～13層は、カマド袖構築土である。14・15層は掘り方堆積土である。

【壁面】 基本は直線的に外傾するが、西壁は内湾する。残存する壁高は、最大18cmを測る。

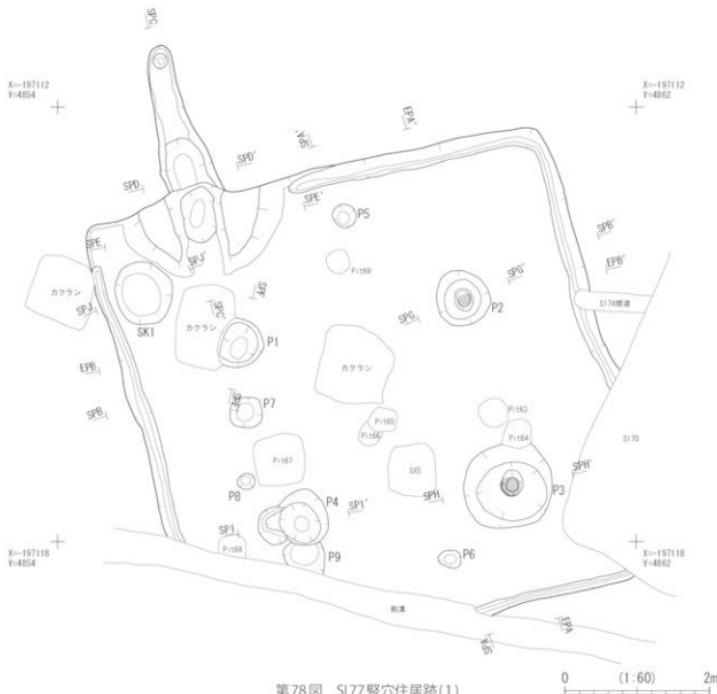
【床面】 概ね平坦である。14層上面を床面としている箇所と、基本層IV層を床面としている箇所が認められる。

【柱穴】 床面から9基(P1～9)、掘り方底面から3基(P10～12)、総数12基検出した。床面から検出した9基は規模・形態共に様々である。位置関係から、P1～4は主柱穴に相当すると考えられ、このうちP2・3では柱痕跡が確認された。掘り方底面から検出した3基からは、柱痕跡は確認されなかった。

【周溝】 検出した範囲においては、北西コーナーとカマド直下を除き、壁際に沿ってほぼ全周する。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅12～18cm、深さ4～11cmを測る。

【カマド】 北壁西側に位置し、壁面に直して付設される。袖の規模は、西袖が長さ111cm、幅86cm、東袖が長さ118cm、幅96cmを測る。北壁に対して西袖は西傾し、東袖は東傾する。

燃焼部の規模は、奥行き79cm、幅43cm、奥壁高9cmを測り、奥壁は住居から張り出す。底面は、奥壁に向かって緩やかに傾斜し、奥壁側が低くなる。奥壁は、緩やかに外傾して立ち上がり、煙道部との境にはテラス状の段を持つ。



第78図 SI177竪穴住居跡(1)

煙道部の規模は、長さ197cm、幅73cm、深さ6～38cmを測り、中央付近で段を持つ。底面は、段を境に傾斜の度合いは異なるが、煙出し部に向けて緩やかに上がる。

煙出し部の規模は、上端径21cm、煙道部からの深さ5cmを測り、ピット状に浅く窪む。底面は平坦で、壁面は大きく外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 土坑を1基検出した。SK1は、カマド西袖の直近に位置し、堆積土に木炭粒・焼土粒を含むことからカマドに関連する施設と考えられる。

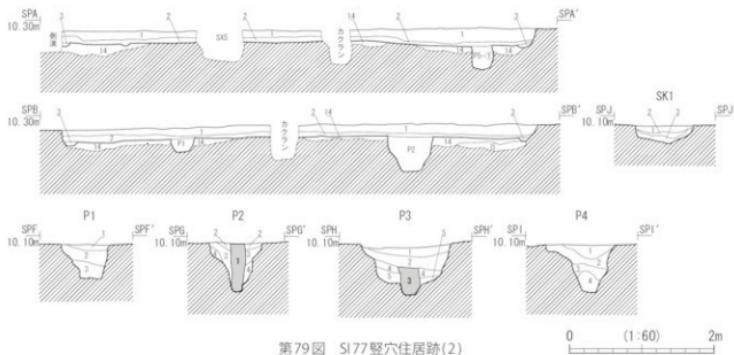
【掘り方】 全面が掘り込まれ、中央部が鳥巣状に高まる。深さは2～17cmを測る。

【出土遺物】 土師器環6点・高杯1点・壺1点、須恵器蓋1点、石製品1点を掲載した(第82図)。

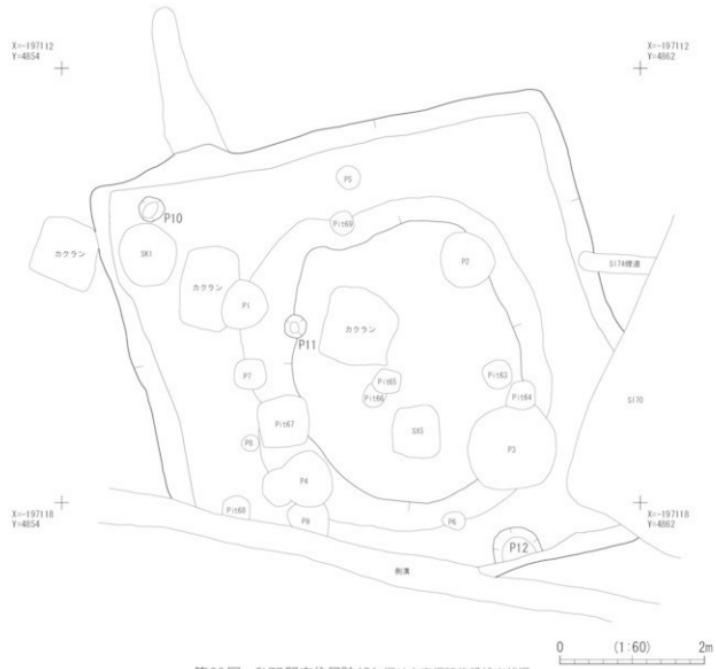
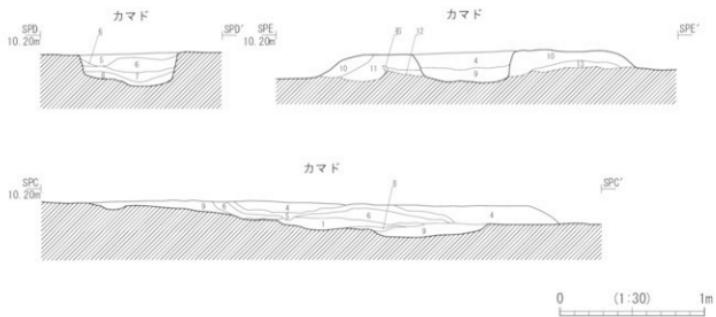
土師器環6点は、1はカマド検出面、3～5は住居堆積土、2・6は掘り方からの出土である。1は、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底で、内湾する体部から直線的に内傾する口縁部へといたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に棱を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。2は、底部は丸底と推定され、半球形に内湾する体部から稜を境にやや内湾する口縁部へといたる器形を呈する。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。3～6は、底部は丸底、もしくは丸底と推定され、緩やかに内湾する体部から外傾する口縁部へといたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に棱を持つ。4の口唇部は、丸みを持って膨らむ。調整は、3～5は口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、4は口縁部外面に部分的にヘラミガキが施される。6は内外面ヘラミガキが施される。3～5は内面、6は内外面に黒色処理される。

土師器高杯は、住居堆積土からの出土である。体部は緩やかに内湾し、口縁部は外傾もしくは外反すると推定される。环部と脚部の境は、緩やかに湾曲する。脚部は裾部に向けて外傾すると推定される。調整は、口縁部外面ヨコナデ、环部および脚部外面ヘラケズリのち环部にはヘラミガキが施される。环部内面は、ヘラミガキが施されたのち、黒色処理される。

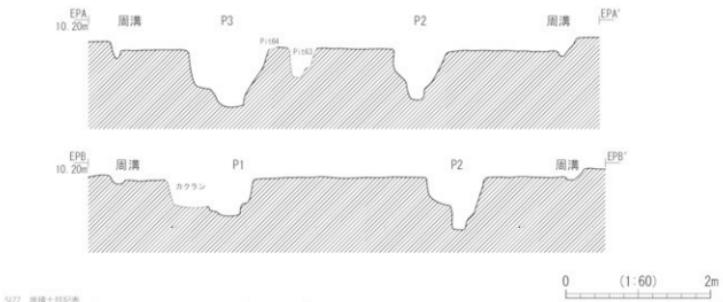
土師器壺は、カマド西袖直近の床面上からの出土である。底部は単孔式で、孔から口縁部に緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部は外反する器形を呈する。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデのち一部ハケメが施される。孔周辺は、内外面とも横方向のヘラケズリが施される。また、胴部下半の内外面には、工具痕がみられる。



第79図 SI 77 竪穴住居跡(2)



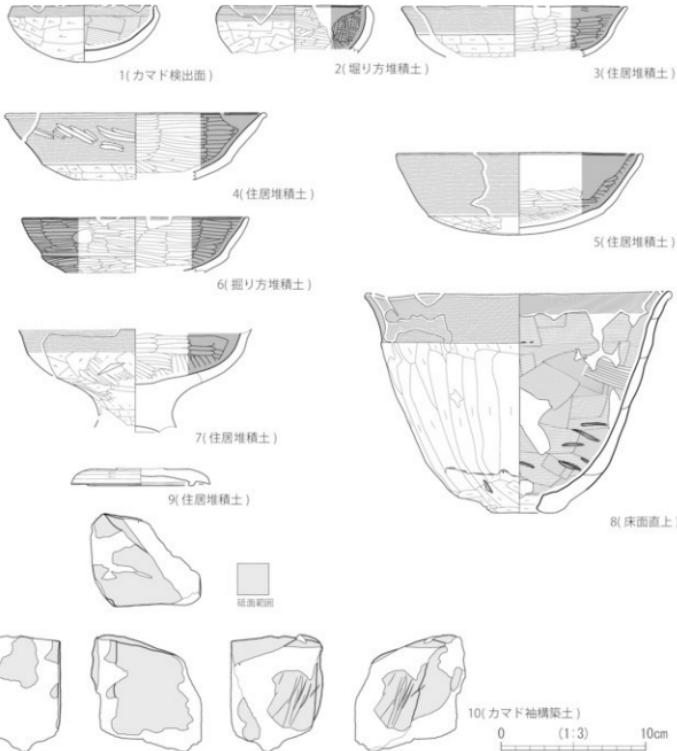
第80図 SI 77堅穴住居跡(3)-掘り方完掘時施設検出状況



SI77 周溝土質記載表				編考	
部位	層位	土色	土性		
住居場所上	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/6 黒褐色のシルトブロックを複数に含む。木炭粉・礫土和・マンガンを含む。
	2	10YR5/6	黃褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黑褐色のシルトブロックを複数に含む。木炭粉・礫土和・マンガンを含む。
周溝	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黑褐色のシルトブロックを複数に含む。木炭粉を含む。
カマ下	4	10YR5/6	黃褐色	シルト	木炭粉・礫土和を含む。
	5	7.5YR2/2	黑褐色	粘土質シルト	木炭粉・礫土和を含む。
	6	7.5YR4/1	褐灰色	シルト	往10mの7.5YR6/6黄褐色土塊を多量に含む。
	7	7.5YR4/2	褐灰色	シルト	往5mの7.5R6/6黄褐色土塊を多量に含む。
	8	7.5YR2/2	黑褐色	粘土質シルト	往30~40mの7.5YR4/4褐褐色土塊を多量に含む。木炭粉を有する所に含む。
	9	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	木炭粉・礫土和を含む。
	10	10YR3/3	暗褐色	シルト	木炭粉・10YR5/6 黄褐色シルトブロックを含む。
	11	10YR3/2	黑褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。
	12	10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	礫土和を含む。
脚り方	13	10YR5/6	黄褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。
	14	10YR3/2	黑褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黑褐色のシルトブロックを含む。
	15	10YR5/6	黄褐色	シルト	5YR4/6 黑褐色土塊・10YR3/2 黑褐色土質シルトブロック・木炭粉を含む。

SI77 断面堆積土質記載表				編考	
部位	層位	土色	土性		
P1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR4/3	にぶい 黃褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黑褐色のシルトブロック・10YR5/6 黄褐色シルトブロックを含む。
P2	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。
P3	1	10YR4/2	にぶい 黄褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。(柱直脚)
	2	10YR5/6	黄褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。
P4	3	10YR3/2	暗褐色	粘土	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。
	4	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。
	5	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。
	6	10YR3/3	暗褐色	シルト	木炭粉・礫土和を含む。
	7	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。
P5	8	10YR3/3	暗褐色	粘土	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。(柱直脚)
	9	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色のシルトブロックを含む。
P6	-	-	-	断面無なし。	
P7	-	-	-	断面無なし。	
P8	-	-	-	断面無なし。	
P9	-	-	-	断面無なし。	
P10	-	-	-	断面無なし。	
P11	-	-	-	断面無なし。	
P12	-	-	-	断面無なし。	
SK1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルトブロック・木炭粉・礫土和・マンガンを含む。
	2	7.5YR2/1	黒色	シルト	木炭粉を含む。
	3	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黄褐色シルトブロック・礫化鉄鉱を含む。

第81図 SI77 穴穴住居跡(4)-堀方完掘時施設検出状況



図面 番号	図版 番号	調査区	出土地	層位	種別	遺構	部位	法量(cm)			外縫調整	内縫調整	備考	写真 回数
								上縫	幅	厚				
1	C-061	V1K	S177	カマド焼出面	土師器	坪	上縫 一底	(10.1)	-	3.9	上縫:32mm、 体:底:5mm	上縫:32mm、 体:底:5mm	-	66
2	C-062	V1K	S177	脚力方堆積土上	土師器	坪	上縫 一底	(10.1)	-	(3.2)	上縫:32mm、 体:底:5mm	上縫:32mm、 体:底:5mm	内面黒色処理	66
3	C-064	V1K	S177	住居堆積土上	土師器	坪	上縫 一底	(15.6)	-	(3.5)	上縫:32mm、 体:底:5mm	上縫:32mm、 体:底:5mm	内面黒色処理	66
4	C-065	V1K	S177	住居堆積土上	土師器	坪	上縫 一底	(18.0)	-	(4.5)	上縫:32mm→33mm、 体:底:5mm	上縫:32mm→33mm、 体:底:5mm	内面黒色処理	66
5	C-066	V1K	S177	住居堆積土上	土師器	坪	上縫 一底	16.9	-	5.6	上縫:32mm→33mm、 体:底:5mm	上縫:32mm→33mm、 体:底:5mm	内面黒色処理、 外縫被熱帶瓦葺	67
6	C-063	V1K	S177	脚力方堆積土上	土師器	坪	上縫 一底	(15.6)	-	(3.8)	上縫:32mm→33mm、 体:底:5mm	上縫:32mm→33mm、 体:底:5mm	内面黒色処理	67
7	C-067	V1K	S177	住居堆積土上	土師器	高台 坪	上縫 一底	-	-	(7.1)	上縫:32mm、 体:底:5mm	上縫:32mm、 体:底:5mm	内面黒色処理	67
8	C-068	V1K	S177	床面直上	土師器	塗	上縫 一底	21.3	4.4	15.3	上縫:32mm、 體:底:5mm	上縫:32mm、 體:底:5mm	半径、内面削平下平に 工具痕あり	67
9	E-005	V1K	S177	住居堆積土上	須恵器	塗	天井 上縫	(9.6)	-	(1.2)	上縫:32mm、 体:底:5mm	上縫:32mm、 体:底:5mm	つまみ欠陥	67
図面 番号	図版 番号	調査区	出土地	層位	種別	遺構	部位	法量(cm)			石材	備考	写真 回数	
								全長	幅	厚				
10	Kd-015	V1K	S177	カマド袖構築上	石製品	礎石		8.1	7.7	6.4	42x4.51 重9kg	側面5面、縦条痕あり、内面白あり	-	67

第82図 S177豎穴住居跡出土遺物

須恵器蓋は、住居堆積土からの出土である。カエリを有し、天井部から口縁部へと緩やかに内湾する器形を呈し、口唇部は斜め下方を向く。カエリの形態は、端部が口縁部から突出する。調整は、クロクロ調整を基調とし、天井部外面は回転ヘラケズりが施される。

石製品は、カマド袖構築土から出土した砥石である。不整形な立方体状を呈し、底面を除く5面に砥面が確認され、一部に顯著な線条痕を伴う。全面を、砥面と欠損箇所で覆われており素材形状は不明である。石材は、やや軟質な砂岩を使用している。

【時期】 上記の遺物のうち、床面上直から出土した土師器蓋(8)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられるが、明確な時期は導き出せない。しかし、5a期(7世紀中葉～後葉)の土器を伴うSI76・86・90より新しく、同じく重複関係から5a期と考えられるSI74より古いことから、本竪穴住居跡の時期は5a期と考えられる。

### SI78 竪穴住居跡(第83～85図)

【位置・確認】 V区西半、B-8グリッドに位置する。中央から南東部と東壁・煙道部の一部は、重複遺構(SI95)と摺乱により失われている。

【重複】 SI91・94・95と重複関係にあり、SI91・94より新しく、SI95より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北537cm、東西495cmを測る。平面形状は、隅丸方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-64°-Wである。

【堆積土】 15層に分層された。1層は住居堆積土で、黒褐色シルトを主体とする。2層は、周溝堆積土である。3～11層はカマド関連層位で、暗褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含む。12・13層は、カマド袖構築土である。14・15層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大18cmを測る。

【床面】 概ね平坦である。14層上面を床面としている箇所と、基本層IV層上面を床面としている箇所がある。

【柱穴】 床面から9基検出した。規模と位置関係および柱痕跡が確認されたことから、P1～3は主柱穴に相当すると考えられる。そのほかのピットの性格は、不明である。

【周溝】 検出した範囲においては、カマドの北脇から北壁・東壁の壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅12～27cm、深さ9cmを測る。

【カマド】 西壁の中央に位置し、壁面に対して直交して付設される。煙道部の先端は、摺乱により失われている。袖の規模は、南袖が長さ54cm、幅24cm、北袖が長さ48cm、幅45cmを測る。西壁に対し、両袖は直交する。

燃焼部の規模は、奥行き54cm、幅51cm、奥壁高6cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は皿状に浅く窪み、ピット状の落ち込みが2箇所みられる。奥壁は、緩やかに外傾して立ち上がる。

煙道部の規模は、長さ138cm、幅33cm、深さ15～45cmを測る。底面はほぼ平坦で、先端に向かって緩やかに下がる。

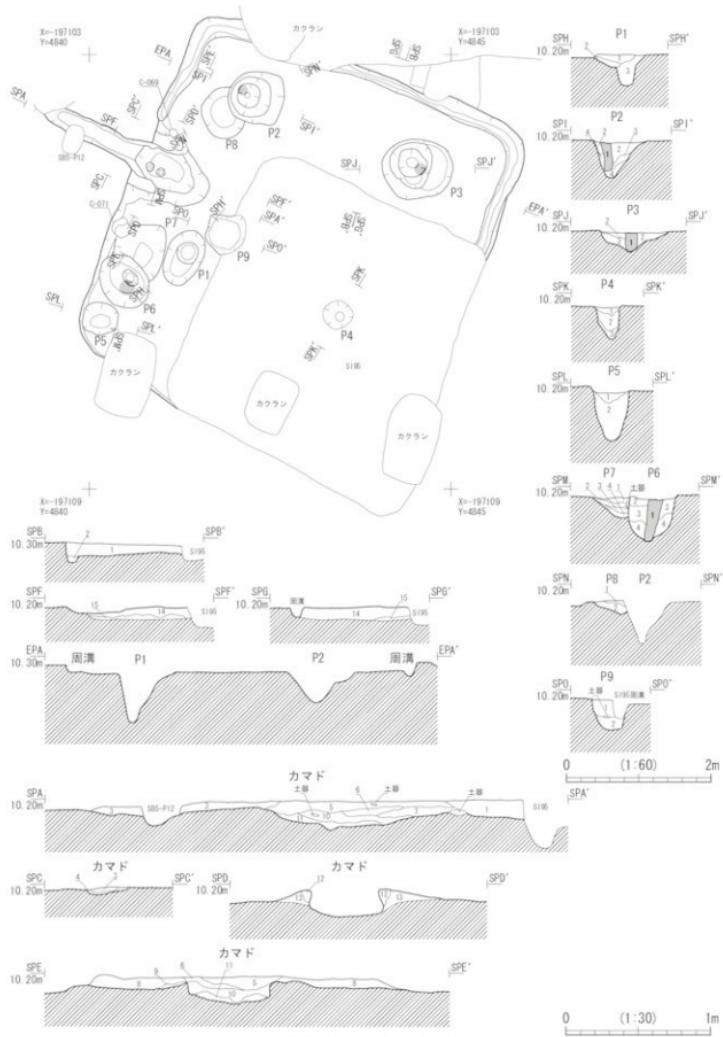
【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれ、中央は島状に高まる。深さは9～21cmを測る。

【出土遺物】 土師器蓋1点・环1点・甕2点、礫石器1点を掲載した(第84・85図)。

土師器蓋(第84図-1)は、床面施設(P7)堆積土からの出土である。体部は緩やかに内湾し、口縁部はやや外傾して垂下する器形を呈する。口縁部と体部の境は、内外面稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、天井部ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。

土師器環(第84図-2)は、カマド北袖の脇、床面上直からの出土である。底部は平底状の丸底で、口縁部は内湾して開く器形を呈する。口縁部と体部の境は、段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘ



第83図 SI78竪穴住居跡

S78 窓跡付積土					
部位	層位	土色	土性	備考	
住居積土上	1 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR3/2有機物色ノルトを幾回に亘む。	
同溝	2 -	-	-	計2cm	
カマド	3 10YR3/4	褐褐色	シルト	黒褐色土小ブロック・土手利を少量含む。	
	4 10YR3/3	褐褐色	シルト	計2cm	
	5 10YR3/4	褐褐色	シルト	壁土利をわずかに含む。	
	6 10YR3/4	褐褐色	シルト	壁利・炭化物利を微量に含む。	
	7 -	-	-	計2cm	
	8 10YR3/4	褐褐色	シルト	粘土上ブロックを少量含む。	
	9 10YR4/4	褐色	シルト	地土利・炭化物利を含む。	
古窓枠	10 10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	地土利・炭化物利を含む。	
同	11 10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	地土利を微量に含む。	
古窓枠	12 5YR3/2	褐褐色	シルト	SYRS 有機物地利を含む。	
同	13 10YR3/3	褐褐色	シルト	10YR4/4に2-3有機物上ブロックを含む。	
脚の方	14 10YR3/3	褐褐色	シルト	10YR2/2黒褐色土ブロックを少量含む。10YR4/4褐色土小ブロックを含む。	
	15 10YR4/4	褐色	シルト		

S78 窓跡付積土					
部位	層位	土色	土性	備考	
P1	1 10YR3/3	褐褐色	シルト	黒褐色土ブロックを少額含む。	
	2 10YR3/4	褐褐色	シルト	粘土上ブロックを微量含む。	
	3 10YR3/3	褐褐色	シルト	粘土上・黑褐色土ブロックを少量含む。	
P2	1 10YR2/2	黒褐色	シルト	(粘土利)	
	2 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR4/3有機物色土ブロックを含む。	
	3 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR2/2黒褐色土ブロックを含む。	
P3	1 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR4/3に2-3有機物土を微量に含む。	
	2 10YR3/2	黒褐色	シルト	(粘土利)	
	3 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR3/2有機物色土ブロックを含む。	
P4	2 10YR3/4	褐褐色	シルト	黒褐色土ブロックを微量含む。	
	3 10YR3/3	褐褐色	シルト	10YR3/2に2-3有機物土を微量に含む。	
P5	1 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR4/3に2-3有機物土を微量に含む。	
	2 10YR3/2	黒褐色	シルト	(粘土利)	
P6	1 10YR3/3	褐褐色	シルト	粘土質シルト	
	2 10YR3/3	褐褐色	シルト	粘土上ブロックを微量含む。	
	3 10YR3/3	褐褐色	シルト	粘土上・黑褐色土ブロックを微量含む。	
	4 10YR3/3	褐褐色	シルト	粘土上ブロックを微量含む。	
P7	1 10YR3/3	褐褐色	シルト	10YR4/4褐色土・10YR3/2有機物色土ブロックを少量含む。	
	2 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR4/4褐色土・10YR2/1黒褐色土小ブロックを少量含む。	
	3 10YR3/3	褐褐色	シルト	10YR4/1褐褐色土を微量に含む。	
P8	1 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	粘土質シルト	
	2 10YR3/4	褐褐色	シルト	10YR3/6有機物色土ブロックを少額含む。10YR4/6有機物土を微量に含む。	
P9	1 Z 10YR3/1	褐褐色	シルト	10YR4/3に2-3有機物土を微量に含む。	
	Z 10YR3/1	褐褐色	シルト		

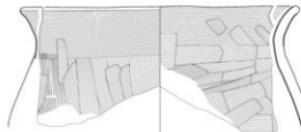
S78 窓跡付積土					
造営名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考	
P1	楕円形	81×51	48		
P2	不整円形	83×81	48		
P3	不整形	99×44	27		
P4	円形	42×39	38		
P5	楕円形	51×48	66		



1(P7 増積土)



2(床面直上)



3(床面直上)

0 (1-3) 10cm

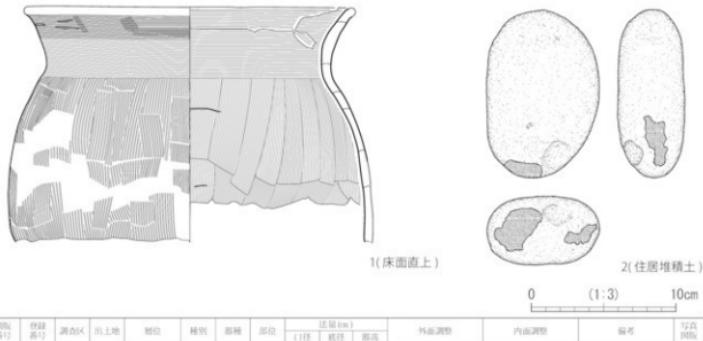
測量番号	壁厚(cm)	調査K	調査L	出土地	層位	種別	測定	部位	深度(1m)			外側調整	内側調整	備考	写真番号
									1(1.0m)	2(0.8m)	3(0.6m)				
1 C-070	VJK	SIT8	P7 増積土	上部層	蓋	10YR4/4	6.8	-	2.6	1(1.0m→1.0m)	1(1.0m→1.0m)	0.0(m)	内側表面が連続せず、外側入井孔部が粗粒土	67	
2 C-069	VJK	SIT8	床面直上	上部層	井	輪郭定義	11.3	-	3.3	1(1.0m→1.0m)	1(1.0m→1.0m)	0.0(m)	内側凹凸處理	67	
3 C-072	VJK	SIT8	床面直上	上部層	蓋	10YR4/4	11.9	-	3.8	1(1.0m→1.0m)	1(1.0m→1.0m)	0.0(m)	内側凹凸處理	67	

第84図 S178竪穴住居出土遺物(1)

ラミガキが施され、内面は黒色処理される。

土師器壺2点(第84図-3、第85図-1)は、床面直上からの出土である。いずれも長胴の胴部から、外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は中位に持つ。口縁部と胴部の境は、第84図-3は段・稜を持たず、第85図-1は不明瞭な稜を持つ。第84図-3の調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ハケメのちヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデのち胴部ヘラナデが施される。第85図-1は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ハケメ、胴部内面ヘラナデが施される。

礫石器(第85図-2)は、住居堆積土から出土した、梢円礫を素材とする鉱石である。下端部近辺に、2箇所の敲打痕範囲が確認される。硬質な石材を使用しており、敲打による原形状の変形は小さい。石材は安山岩を使用している。  
【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器壺(第84図-2)・土師器壺(第84図-3・第85図-1)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では5a期(7世紀中葉～後葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第85図 S178竪穴住居跡出土遺物(2)

### S179 竪穴住居跡(第86・87図)

【位置・確認】 V区西半、B-8・9グリッドに位置する。住居北半部を検出した。北西・北東コーナー部分と西壁は、擾乱により失われ、南半部は調査区外にかかる。

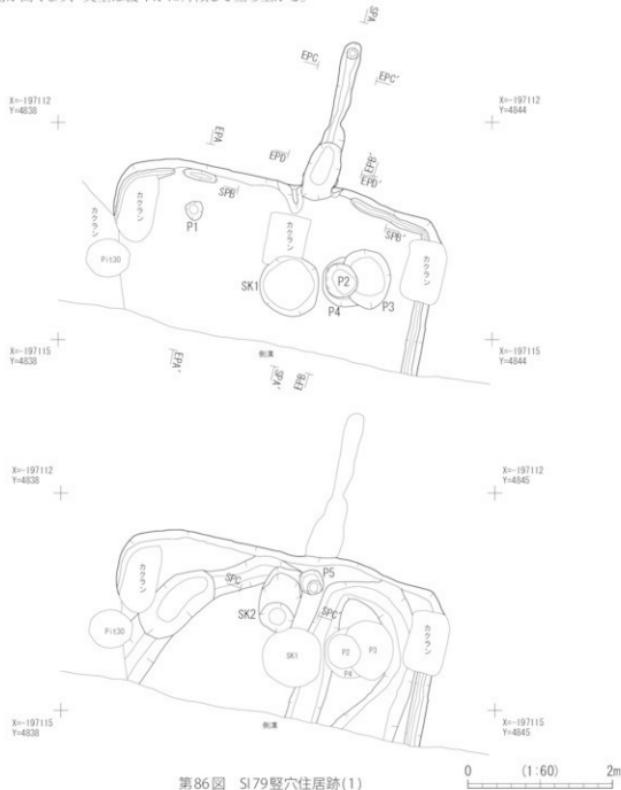
【重複】 SI80・SX2と重複関係にあり、これらより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北229cm、東西459cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

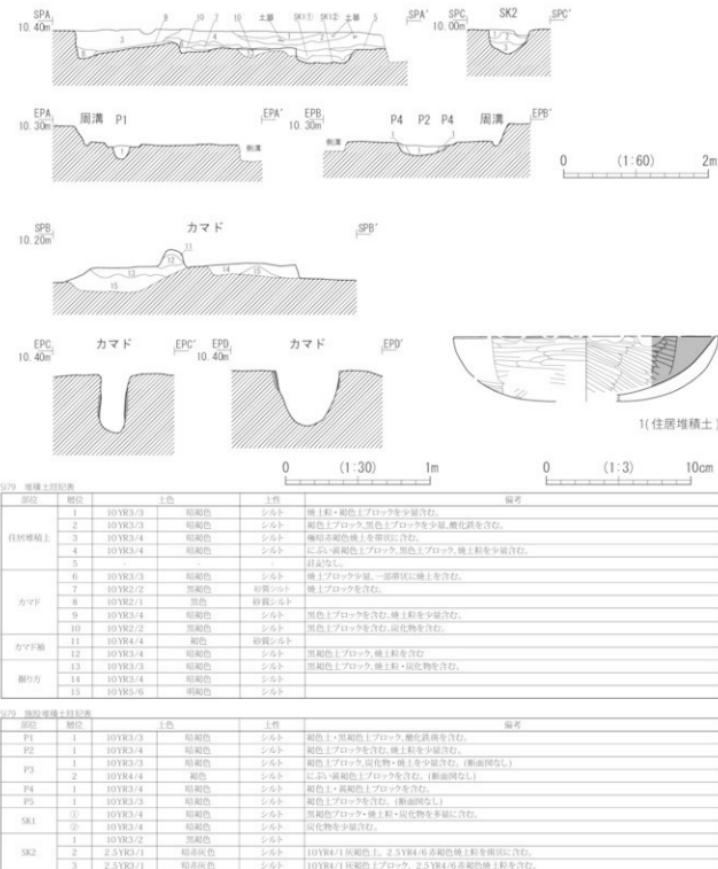
【方向】 カマド煙道部基準でN-15°-Eである。

【堆積土】 15層に分層された。1～5層は住居堆積土で、暗褐色シルトを主体とし、焼土粒を少量含む。6～10層はカマド廻連層位で、暗褐色・黒褐色シルトを主体とし炭化物・焼土粒を含む。11・12層は、カマド袖構築上である。13～15層は、掘り方堆積土である。

- 【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大24cmを測る。
- 【床面】 平坦である。12・13層上面を床面としている。
- 【柱ア】 床面から4基、掘り方から1基検出した。このうち、P3は規模と位置関係から主柱穴に相当すると考えられる。その他のピットについては、性格は不明である。
- 【周溝】 検出した範囲においては、カマド周辺を除き、断続的に壁際に沿って固る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅9～15cm、深さ6～9cmを測る。
- 【カマド】 北壁のやや東側に位置し、壁面に直交して付設される。東袖は、大半が失われている。西袖の規模は、長さ39cm、幅21cmを測る。北壁に対して、西袖は西傾する。
- 燃焼部の規模は、奥行き84cm、幅15cm、奥壁高12cmを測り、奥壁は壁面から大きく張り出す。底面は、緩やかに傾斜して奥壁側が高くなり、奥壁は緩やかに外傾して立ち上がる。



第86図 Si 179竪穴住居跡(1)



第87図 SI79堅穴住居(2)・出土遺物

煙道部の規模は、長さ141cm、幅27cm、深さ18～24cmを測る。底面はほぼ平坦で、煙出し部に向かって下がる。

煙出し部の規模は、上端径15cm、煙道部からの深さ6cmを測り、ピット状に窪む。底面は平坦で、壁面は外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 床面から1基、掘り方から1基の土坑を検出した。SK 1の平面形状は円形で、堆積土に焼土粒・炭化物を多量に含む。SK 2の平面形状は隅丸長方形で、焼土粒を含む。いずれの土坑も、性格は不明である。

【掘り方】 壁際および中央を溝状に掘り込む。深さは、8～21cmを測る。

【出土遺物】 土師器壺1点を掲載した(第87図)。

土師器壺は、住居堆積土からの出土である。底部は平底状の丸底と推定され、内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段・稜を持たない。調整は、内外面ヘラミガキで、内面は黒色処理される。

【時期】 伴う土器は無いが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)と考えられるSI 80より新しいことから、本竪穴住居跡の時期は、5a期以降と考えられる。

#### SI 80 竪穴住居跡(第88～95図)

【位置・確認】 V区西半、A-B-8・9グリッドに位置する。西壁・東壁の一部とカマド煙道部・住居南半は、重複遺構(SI79・84)と擾乱により失われている。東壁と南壁の一部は、調査区外へかかる。

【重複】 SI79・84・93、SX4と重複関係にあり、SI93より新しく、SI79・84、SX4より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北837cm、東西828cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-25°-Eである。

【堆積土】 19層に分層された。1～2層は住居堆積土で、暗褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を微量に含む。3層は、周溝堆積土である。4～11層はカマド関連層位で、暗褐色シルトを主体とし、焼土ブロック・焼土粒・炭化物を含む。12～16層はカマド袖構築土で、黒褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含む。17～19層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大42cmを測る。

【床面】 平坦である。17・19層上面を床面とする箇所と、基本層IV層上面を床面とする箇所がある。

【柱穴】 床面から15基(P 1～15)、掘り方底面から3基(P 16～18)、総数18基検出した。床面から検出した15基は、規模は様々であるが、平面形状は不整円形もしくは不整楕円形が多くみられる。このうち、P 1～3は、位置関係と柱痕跡が確認されたことから、主柱穴に相当すると考えられる。掘り方底面で検出した3基は、規模・形態共に様々である。これらのピットの堆積土は、暗褐色ないし黒褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含むものが多くみられる。

【周溝】 検出した範囲においては、北壁のカマド付近を除き、壁際に沿って周る。北東・南西コーナー部は、段を持つ。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅15～39cm、深さ15～45cmを測る。

【カマド】 北壁のやや東側に位置し、壁面に対して直交して付設される。煙道部の中央は、擾乱により失われている。袖の規模は、西袖が長さ60cm、幅48cm、東袖は長さ84cm、幅42cmを測る。北壁に対し西袖は直交し、東袖はわずかに西傾する。東袖の先端直下からは、径5cm程の円礫をまとめて検出した。これら礫群は、カマド袖の構築にかかわると考えられる。また、西袖の直近からは、カマドの芯材として使用されたと考えられる、強い被熱を受けた軟質砂岩の切石を2点検出した。

燃焼部の規模は、奥行き96cm、幅72cm、奥壁高15cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は緩やかに起伏し、奥壁に向かって若干下がる。奥壁は、外傾して立ち上がる。

煙道部の規模は、長さ171cm、幅30cm、深さ3～14cmを測る。底面は、煙出し部へ向かって下がる。

煙出し部の規模は、上端径18cm、煙道部からの深さ3cmを測り、ピット状に窪む。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

【その他の施設】 床面から土坑を2基検出した。SK2は堆積土に燒土粒・炭化物粒を多量に含む。

【掘り方】 全面が掘り込まれ中央が島状に高まる。深さは6～21cmを測る。

【出土遺物】 土師器環3点・高杯2点・鉢1点・甕5点・須恵器蓋1点・环1点・甕2点・土製品6点・金属製品1点・礫石器2点・石製品1点を掲載した(第92～95図)。

土師器環3点(第92図-1～3)は、1は床面施設(SK 1)堆積土、2は床面施設(P 13)堆積土、3は床面上から出土である。1は、底部は丸底で、半球形に内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段・稜を持つたない。調整は、外面ヘラケズリのちラミガキ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。2は、底部は丸底で、半球形に内湾する体部からわざかに内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、内外面とも稜を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。3は、底部は丸底で、内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に幅広の段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ヘラミガキ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。

高杯2点(第92図-4・5)は、4は住居堆積土、5は床面施設(P 2)からの出土である。4・5とも环部から脚上端部の個体である。4の环部は、内湾する体部から外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を持つ。脚部は4・5とも柱状で、5は二等辺三角形と推定される透かしが1窓残存する。調整は、口縁部外面ヨコナデ、环部・脚部外面ヘラケズリ、环部内部ヘラミガキが施される。环部内面は、黒色処理される。

土師器鉢(第92図-6)は、床面上から出土である。底部は丸底で、半球形に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段・内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。

土師器甕(第92図-7・8、第93図-1～3)は、第92図-7、第93図-1は住居堆積土、第93図-2は床面施設(P 2)底面、第93図-3は床面上、第92図-8は掘り方堆積土からの出土である。第92図-7・8の胴部は長胴、第93図-1は球胴で、口縁部はともに外傾する器形を呈し、口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、第92図-7は口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ハケメ、口縁部内面ハケメ、胴部内面ヘラナデ、第93図-1は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデが施される。第92図-8は被熱による摩耗のため不明瞭だが胴部内外面ナデが施される。第93図-2は、球形に内湾する胴部から内傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデが施される。第93図-3は球胴で、胴部の最大径は中位に持ち、最大径部で屈曲する。調整は、外面ハケメのち下半ヘラケズリ、内面ヘラナデのち下半ハケメが施される。

須恵器蓋(第93図-4)は、住居堆積土からの出土である。ボタン状のつまみを持つ。天井から体部は内湾する器形を呈し、口縁部はやや外傾して垂下する。カエリは、強く内傾し、端部は口縁部から突出する。

須恵器环(第93図-5)は、床面施設(P 7)堆積土からの出土である。内湾する体部から、屈曲して緩やかに内傾する口縁部にいたる碗形の器形を呈する。

須恵器甕(第93図-6・7)は、6は住居堆積土、7は床面上からの出土である。6は、口唇部の外面に凸帯を持つ。7の底部は丸底で、球胴と推定される。調整は、ロクロ調整のち、外面格子タキ目ちヘラナデ、内面青海波文が施される。

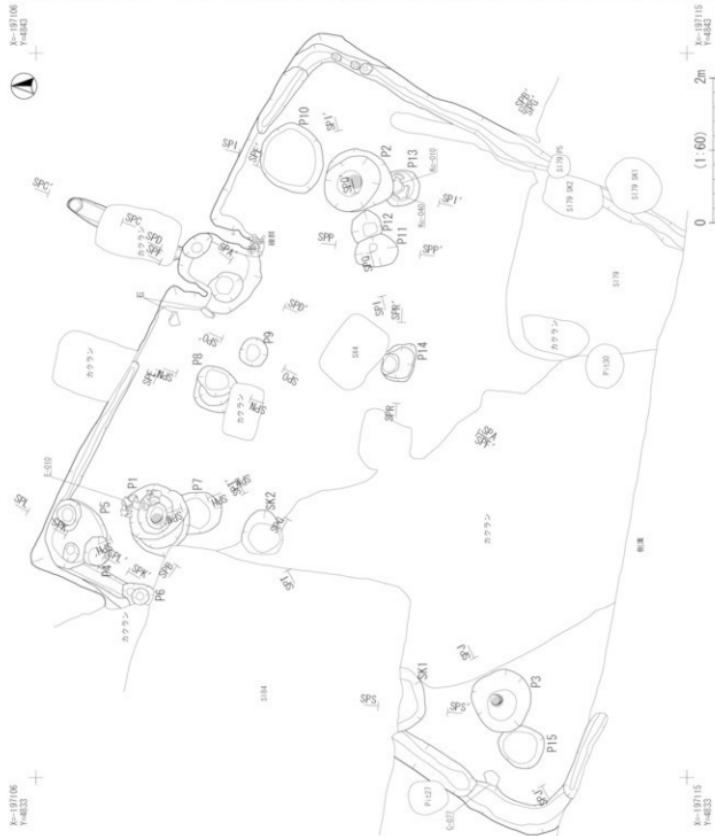
土製品(第93図-8、第94図-1～5)は、第93図-8、第94図-1・2は床面施設(P 2)堆積土から出土した管状の土錐、第94図-3は掘り方堆積土から出土した防護形の土錐である。第94図-4は住居堆積土から出土した土製円盤、

第94図-5は床面施設(P7)堆積土出土の壁材と考えられる土製品である。

金属製品(第94図-6)は、振り方堆積土から出土した刀子である。

石製品(第94図-7)は床面施設(P13)底面から出土した不整な扁平礫を素材とする砥石である。表裏両面及び一側縁に砥面が形成される。表面の磨面には、幅の広い溝状の研痕が複数確認される。表裏両面の磨面下端部は、小口面に向けて磨面が形成されており、現在の形状のまま使用されていたと考えられる。側面の磨面は、使用により弓形を呈している。器体上半の一部に被熱が確認される。石材は砂岩を使用している。

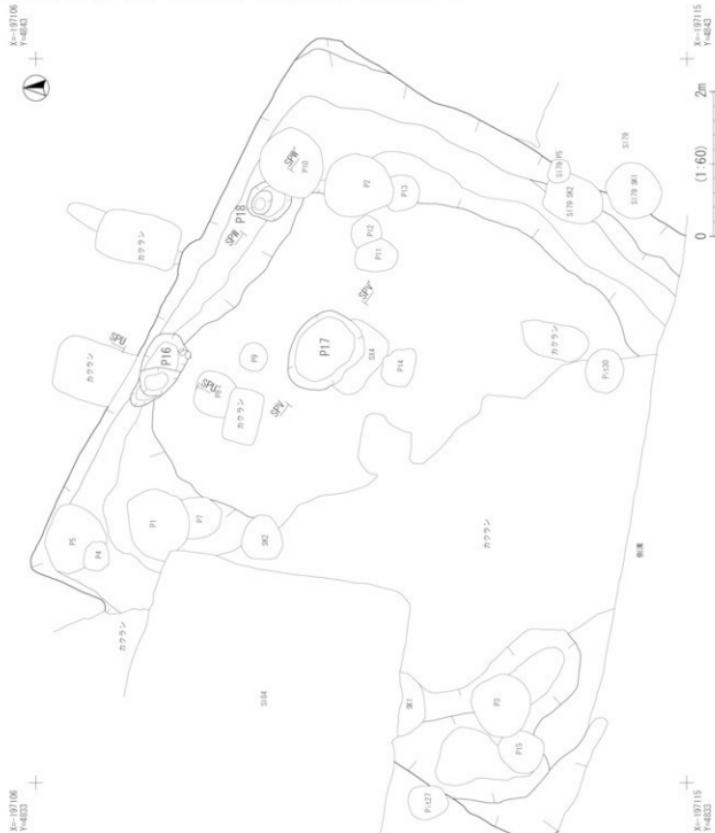
礫石器2点(第95図-1・2)は、1は床面施設(P13)底面、2は振り方堆積土からの出土である。1は、不整な円礫



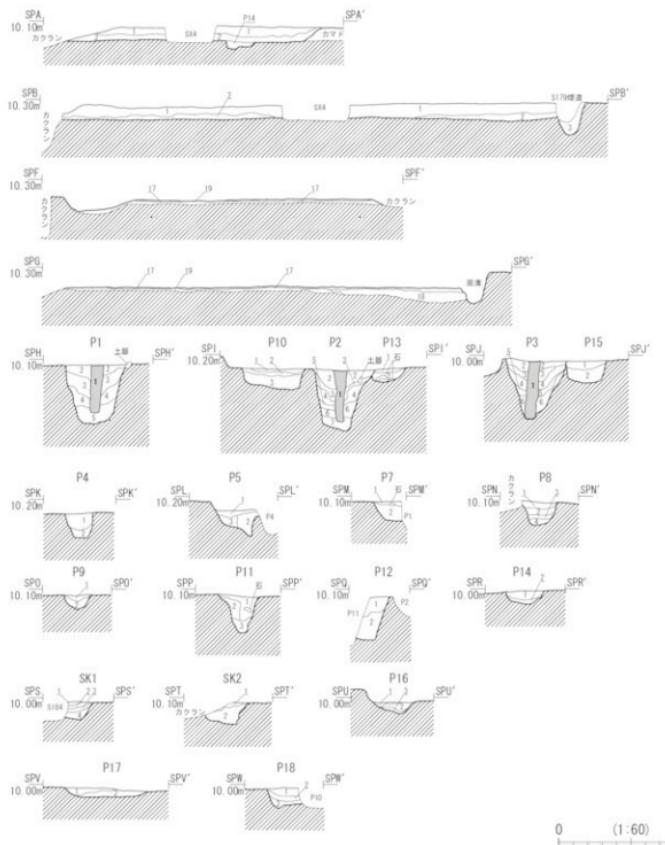
第88図 SI180豎穴住居跡(1)

を素材とする台石である。表面にのみ磨面が形成されている。磨面の範囲は広範であるが、線条痕は確認できなかった。石材は、硬質な安山岩である。2は、楕円礫を素材とする嵌石である。表面の器体上部及び側縁から下端部にかけて敲打痕が形成される。比較的硬質な石材を使用しており、原形状の変形は小さい。上半部を欠損し、欠損面に使用痕跡は認められない。石材は凝灰岩を使用している。

【時期】 上記の遺物のうち、床面上から出土した土師器環(第92図-3)、鉢(第92図-6)、須恵器甕(第93図-6)と床面施設(P2)底面から出土した土師器甕(第93図-2)は本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では5a期(7世紀中葉～後葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第89図 SI 80竪穴住居跡(2)-掘り方完掘時施設検査状況



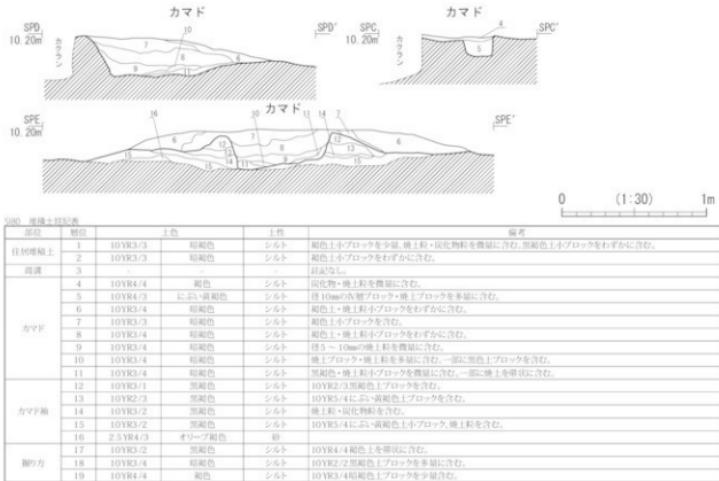
0 (1:60) 2m

S180 地盤概要表

造様名	平面形	幅員(cm)	奥行き(cm)	備考
P1	不規格四角形	102×84	81	
P2	約円形	96×90	84	
P3	約円形	87×81	78	
P4	不規形	42×36	33	
P5	不規形	96×54	36	
P6	不規形	24×24	19	
P7	不規形	(57)×48	27	
P8	約円形	60×48(8)	33	
P9	円形	39×39	18	
P10	不規形	97×87	27	

造様名	平面形	幅員(cm)	奥行き(cm)	備考
P11	約円形	60×45	48	
P12	不明	42×(39)	60	
P13	円形	54×48	18	
P14	不規格四角形	60×48	18	
P15	不規格四角形	60×48	36	
P16	不規格四角形	114×54	15	
P17	不規格四角形	117×90	12	
P18	不規格四角形	(63)×54	27	
SK1	不規形	90×36	24	
SK2	不規格四角形	(63)×(57)	30	

第90図 S180 竪穴住居跡(3)



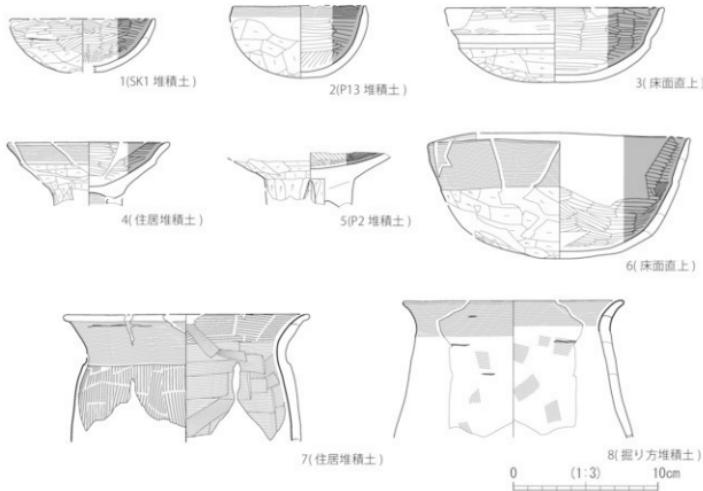
G80 施場+1切替				
部位	層位	土色	土性	備考
住居壁上	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 褐色土ブロックを少量、土と和し、炭化物を微量に含む。黒褐色土小ブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/3.5	褐褐色	シルト 褐色土ブロックを多量に含む。
雨滴	3	10YR3/3.5	褐褐色	目立たず。
カマド	4	10YR4/4	褐色	シルト 炭化物・褐色を基調に含む。
	5	10YR4/3	灰褐色	シルト 径10mmの褐色ブロックと褐色土ブロックを多量に含む。
	6	10YR3/4	褐褐色	シルト 褐色土・褐色土小ブロックをわずかに含む。
	7	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土小ブロックを含む。
	8	10YR3/4	褐褐色	シルト 褐色土・褐色土小ブロックをわずかに含む。
	9	10YR3/4	褐褐色	シルト 径5～10mmの褐色土ブロックを含む。
	10	10YR3/4	褐褐色	シルト 褐色土ブロックと褐色土ブロックを多量に含む。一部に黑色土ブロックを含む。
カマド下	11	10YR3/4	褐褐色	シルト 黒褐色・褐色土小ブロックを多量に含む。一部に褐色土ブロックを含む。
	12	10YR3/2	褐褐色	シルト 10YR3/4と同様に褐色土ブロックを含む。
	13	10YR3/2	褐褐色	シルト 褐色土・褐色土ブロックを含む。
	14	10YR3/2	褐褐色	シルト 褐色土・褐色土ブロックを含む。
	15	10YR3/2	褐褐色	シルト 10YR3/4に似る褐色土小ブロック、褐色土を含む。
	16	2.5YR4/3	オリーブ褐色	粘土 褐色土。
壁の方	17	10YR3/2	褐褐色	シルト 10YR3/4褐色土と連続する。
	18	10YR3/4	褐褐色	シルト 2.5YR4/3褐色土ブロックを多量に含む。
	19	10YR4/4	褐色	シルト 10YR3/4褐色土ブロックを少量含む。

G80 施場+1切替(1)				
部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト 褐色土ブロックを含む。(柱地脚)
	2	10YR3/4	褐褐色	シルト 褐色土・黒褐色ブロックを少量含む。
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト 褐色土ブロックを含む。
	4	10YR3/3	褐褐色	粘土質シルト 褐色土・黒褐色土を含む。
	5	10YR3/3	褐褐色	粘土質シルト 褐色土・黒褐色土を含む。
P2	1	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土・黒褐色土小ブロックを少量、塗上土を微量に含む。(柱地脚)
	2	10YR3/4	褐褐色	シルト 褐色土・黒褐色土を含む。
	3	10YR3/4	褐褐色	シルト 柱地脚を含む。
	4	10YR4/4	褐色	粘土質シルト 褐色土・黒褐色土を含む。
	5	10YR4/4	褐色	粘土質シルト 黒褐色・褐色土を連続する。
	6	10YR3/2	褐褐色	粘土質シルト 褐色土を帶びる。
	7	10YR3/2	褐褐色	粘土質シルト 褐色土・褐色土ブロックを多量に含む。
P3	1	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土・黒褐色土と褐色土ブロック・炭化物を含む。(柱地脚)
	2	10YR3/4	褐褐色	シルト 褐色土小ブロックを少量含む。
	3	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土小ブロックを多量に含む。
	4	10YR4/4	褐色	シルト 褐色土・黒褐色土ブロックを少量含む。
	5	10YR2/2	褐色	粘土質シルト 径10mmの褐色土ブロックを含む。
	6	10YR2/2	褐褐色	粘土質シルト 褐色土を帶びる。
P4	1	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土・黒褐色土と褐色土ブロック・炭化物を含む。
	2	10YR3/4	褐褐色	粘土質シルト 褐色土ブロックを含む。
	3	10YR3/4	褐褐色	粘土質シルト 柱地脚を含む。
P5	1	10YR3/2	褐褐色	シルト 褐色土を連続する。
	2	10YR2/2	褐褐色	シルト 褐色土を連続する。
	3	10YR3/2	褐褐色	シルト 10YR3/4と同様に褐色土ブロックを含む。
P6	-	-	-	褐色泥炭。
P7	1	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土小ブロックを含む。
	2	10YR3/4	褐褐色	粘土質シルト 褐色土ブロックを多量、下部に褐色土を含む。上部に径10mmの褐色土を含む。
P8	1	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土ブロックを多量、炭化物を含む。
	2	10YR3/2	褐褐色	粘土質シルト 褐色土ブロックを含む。
	3	10YR3/3	褐褐色	粘土質シルト 柱地脚を含む。
P9	1	10YR3/3	褐褐色	シルト 柱地脚を含む。
	2	10YR3/3	褐褐色	粘土質シルト 柱地脚を含む。
P10	1	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土・炭化物を含む。
	2	10YR3/4	褐褐色	シルト 褐色土ブロックを含む。塗上土を含む。
	3	10YR4/2	灰褐色	シルト 10YR3/4褐色土ブロックを多量、黒褐色土ブロック・塗土をわずかに含む。炭化物を微量に含む。
P11	1	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土・炭化物を含む。
	2	10YR3/3	褐褐色	粘土質シルト 褐色土ブロックを少量含む。
	3	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土ブロックを少量含む。
P12	1	10YR3/4	褐褐色	シルト 褐色土ブロックを少量含む。
	2	10YR3/3	褐褐色	シルト 褐色土ブロックを少量含む。

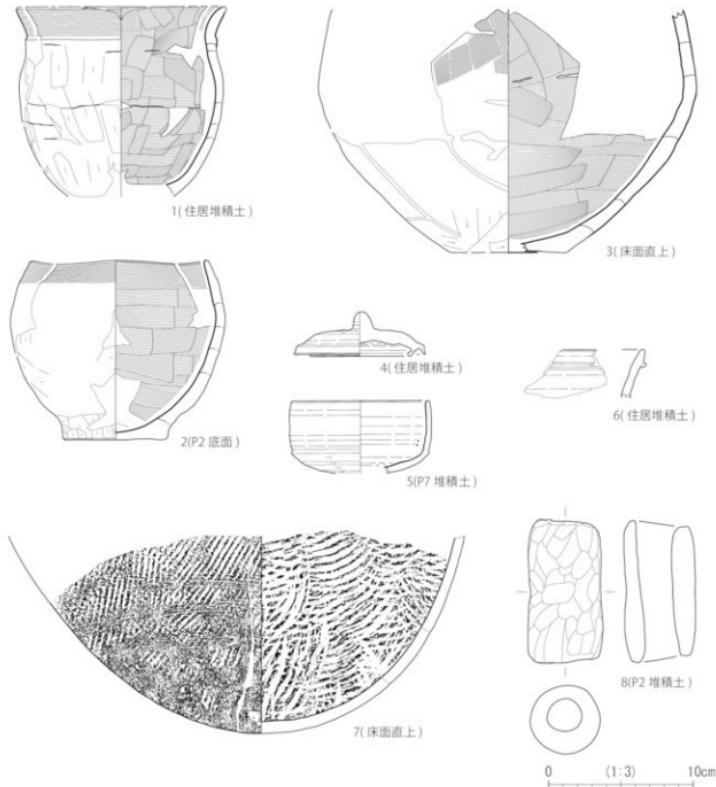
第91図 SI80豎穴住居跡(4)

G80 無段落堆土目記表(2)					
番号	層位	土色	土性	備考	
P13	1	10YR3/4	暗褐色	シルト 黒色土+ブロック多少混入・炭化物・地上物を微量に含む。(±120m)の内側を含む。	
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 黒色土+ブロック多少混入・炭化物・地上物を微量に含む。	
P14	1	10YR3/1	黒褐色	シルト 2.5YR4/4に近い赤褐色土粒・炭化物粉を含む。	
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト 5YR3/1 黑褐色土粒を含む。	
P15	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 炭化物粉を微量に、地盤上+ブロックを含む。	
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト 地盤上・黑褐色土+ブロックを含む。	
P16	1	10YR4/2	灰褐色	シルト 2.5YR4/4に近い赤褐色土粒を含む。(壁上部)	
	2	2.5YR2/1	赤褐色	シルト 2.5YR4/4に近い赤褐色土粒を含む。(壁上部)	
P17	3	2.5YR3/3	暗紅褐色	砂質シルト 2.5YR4/4に近い赤褐色土粒を含む。	
	1	10YR3/2	暗褐色	シルト 10YR3/2と10YR3/3と10YR3/4が混在する。	
P18	1	10YR3/1	黒褐色	シルト 2.5YR4/4に近い赤褐色土粒・炭化物を含む。	
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト 地盤上・炭化物を含む。	
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト 地盤上・黑褐色土+ブロックを多量に含む。	
SK1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 地盤上・黑褐色土+ブロックを多量に含む。	
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 地盤上+ブロックを多量含む。	
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト 地盤上・炭化物粉を少量含む。	
	4	10YR4/3	にじ・黄褐色	シルト 炭化物色・ブロックを多量に含む。	
SK2	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 炭化物・塊・粘土をわずかに含む。	
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト 地盤上+ブロックを多量・径15cmの地上物・炭化物を多量に含む。地盤上+砂土を含む。	



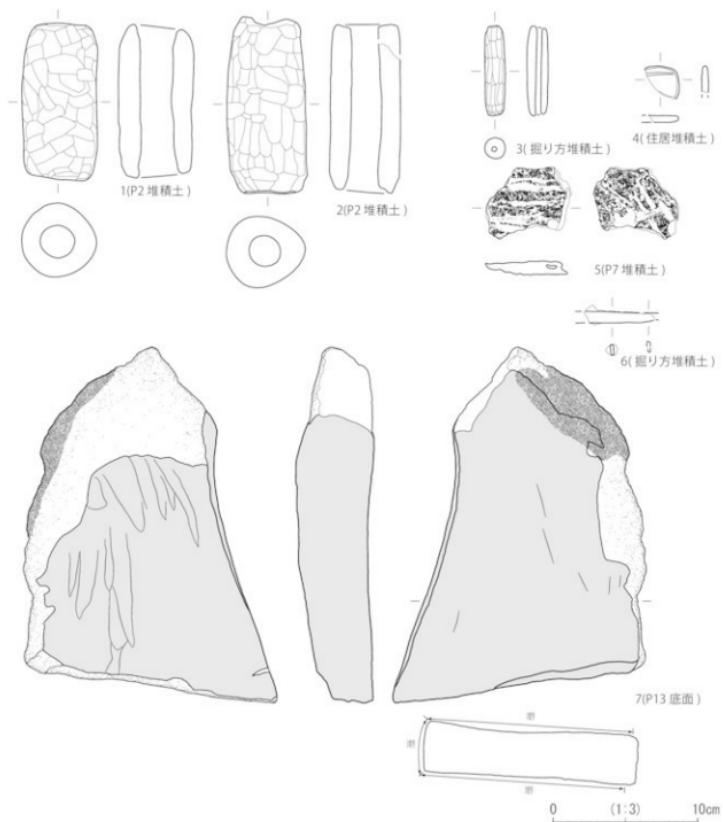
番号 通号	骨器 器物	調査区	出土場所	層位	種別	基種	剖面	法面 (top)			外面調整	内部調整	備考	寸法 mm
								(1)縦 幅	(2)横 幅	(3)高 さ				
1	C-075	V区	S80	SK1堆積上	土脚部	H	1層 一級	(10.1)	-	(3.7)	1層=全体上半部H=10.1 1級=全体下部H=6.4	SI134 ±	内面黒色処理	67
2	C-086	V区	S80	P13堆積上	土脚部	H	1層 一級	(9.2)	-	5.0	1層=2.2cm 1級=2.1cm	SI135 ±	内面黒色処理、内面摩耗	67
3	C-076	V区	S80	床面直上	土脚部	H	1層 一級	(15.2)	-	5.2	1層=6.2cm 1級=5.0cm	SI134 ±	内面黒色処理	67
4	C-079	V区	S80	日焼け堆積上	土脚部	H	(11.2)	-	(4.3)	1層=3.2cm 1級=2.9cm	SI136 ±	透=3.9cm、内面黒色処理	67	
5	C-078	V区	S80	P2堆積上	土脚部	H	1層 一級	-	-	(3.7)	1級=0.9cm 1級=0.8cm	SI137 ±	1層=内面黒色処理、透=2.9cm 1級=1.1cm、削内面工具当たらず	67
6	C-077	V区	S80	床面直上	土脚部	H	1層 一級	18.1	-	8.7	1層=3.2cm 1級=3.0cm	SI138 ±	内面黒色処理	67
7	C-080	V区	S80	日焼け堆積上	土脚部	H	1層 一級	(17.0)	-	(8.8)	1層=3.2cm 1級=3.0cm	SI139 ±	内面黒色処理	67
8	C-083	V区	S80	剥り方堆積上	土脚部	H	1層 一級	(15.2)	-	(9.5)	1層=3.2cm 1級=3.0cm	SI140 ±	内外面黒色処理	67

第92図 SI80豎穴住居跡出土遺物(1)



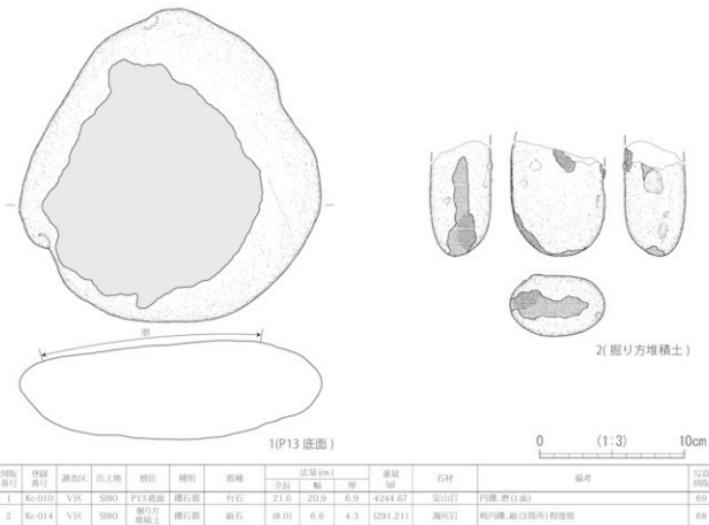
图版 番号	器種 器名	調査区	出土地	部位	種別	断面	剖面	法量(cm)			外周調整	内面調整	備考	写真 枚数
								上径	底径	高さ				
1	C-082	V区	SB0	住居堆積上	上部部	壺	上縁	14.4	(14.5)	-	(13.1)	口縁-内側-底付、 側-内側-底付	口縁-内側-底付、 側-内側-底付	67
2	C-085	V区	SB0	P2底面	上部部	壺	上縁	12.3	7.7	12.4	口縁-内側-底付、 側-内側-底付	口縁-内側-底付、 側-内側-底付	外曲面熱線、 口縁底のみ有り	67
3	C-084	V区	SB0	床面上	上部部	壺	側-底	-	(7.9)	(16.7)	側上平-内側-底付下平付、 側上平-内側-底付下平付	側上平-内側-底付下平付、 側上平-内側-底付下平付	内外面摩耗	68
4	E-008	V区	SB0	住居堆積上	泥芯部	壺	つまみ	9.0	-	3.3	口縁-内側-底付	口縁-内側-底付	外周調整	68
5	E-007	V区	SB0	P2堆積上	泥芯部	壺	上縁	(9.6)	-	(5.0)	口縁-内側-底付	側下平-内側-底付	外周調整	68
6	E-009	V区	SB0	住居堆積上	泥芯部	壺	上縁	-	-	(3.4)	口縁-内側-底付	側下平-内側-底付	外周調整	68
7	E-010	V区	SB0	床面上	泥芯部	壺	側-底	-	(3.6)	(5.5)	側上平-内側-底付-側下平付	側上平-内側-底付-側下平付	外周調整-直角底或 側成凹	68
图版 番号	器種 器名	調査区	出土地	部位	種別	断面	剖面	法量(cm)			特徴・備考	写真 枚数		
								外径	内径	厚				
8	P-006	V区	SB0	P2堆積上	上部部	土壺	9.8	5.1	4.8	25.4	外-孔径2.4cm、質硬、完形	-	-	68

第93図 SI80豎穴住居跡出土遺物(2)



固形 番号	骨器 番号	調査区	出土地	層位	種別	測定	法長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	特徴・備考	写真 図版
1	F007	V16	S80	P2堆積土上	上製品	上縫	10.8	5.2	5.1	3024.4	平行2.4cm, 齐次, 完形	68
2	F008	V16	S80	P2堆積土上	上製品	上縫	12.2	5.4	5.4	(333.7)	平行2.1cm, 齐次, 略完形	68
3	F009	V16	S80	掘り方堆積土上	上製品	上縫	6.2	1.4	1.4	(4.3)	平行0.3cm, 略洞形	68
4	P010	V16	住居堆積土上	上製品	内縫	(2.3)	(2.4)	0.5	(2.7)	平行, 表面に繊維	68	
5	P011	V16	S80	P7堆積土上	上製品	堅材	(0.0)	(0.5)	(0.0)	(20.4)		68
固形 番号	骨器 番号	調査区	出土地	層位	種別	測定	法長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	特徴・備考	写真 図版
6	N004	V16	S80	掘り方堆積土上	合制	刀子	(4.9)	(1.4)	(0.25)	(0.7)		68
固形 番号	骨器 番号	調査区	出土地	層位	種別	測定	法長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	写真 図版
7	Ke-040	V16	S80	P13底面	漂石	砾石	24.5	17.6	5.0	2252.06	砂岩	68

第94図 SI80豎穴住居跡出土遺物(3)



第95図 SI80 穫穴住居跡出土遺物(4)

### SI81 穫穴住居跡(第96～104図)

【位置・確認】 V区西半、A・B-8グリッドに位置する。南壁付近は、擾乱により失われている。

本竪穴住居跡の掘り方底面からは、ピット1基と土坑3基のほか、断続的に周囲の周溝と、間仕切り溝と考えられる溝跡を検出した。このことから、本竪穴住居跡は建て替えが行われたと考えられるが、床面を確認したのは1面のみのため、以下では新段階・古段階と区別せず、一括して記載する。

【重複】 検出した範囲においては、他遺構との重複関係は無い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北479cm、東西504cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部標準でN-48°-Wである。

【堆積土】 36層に分層された。1～15層は住居堆積土で、暗褐色・黒褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含む層が多くみられる。16～36層は、周溝堆積土である。17～24層はカマド関連層位で、大半の層に焼土粒・炭化物粒を含む。25～31層はカマド袖構築土で、黒褐色・ぶい黄褐色シルトを主体とする。32～35層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 やや外反して立ち上がる。残存する壁高は、最大42cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦だが、北東コーナー付近が若干低くなる。32・33層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から5基、掘り方から1基検出した。床面から検出したP1～4は、柱痕跡は確認されなかったが、位置関係と、底面に円形の落ち込みがみられたことから、主柱穴に相当すると考えられる。P4からは、検出面および掘り方から多量の遺物が出土した。P5・6に関しては、性格は不明である。

**【周溝】** 検出した範囲においては、カマド直下を除く北壁と東壁、南壁は壁際に沿って周り、西壁は、壁からやや離れた位置を周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅18～32cm、深さ13cmを測る。

また、掘り方で検出した周溝は、北壁東半と東壁は壁際に沿って、北壁西半と南西コーナーは壁からやや離れた位置で周る。

**【カマド】** 北壁中央に位置し、壁面に対して直交して付設される。袖の規模は、西袖が長さ89cm、幅34cm、東袖が長さ84cm、幅34cmを測る。北壁に対して、西袖は東傾、東袖は直交する。両袖の末端からは、芯材と考えられる自然礫を検出した。これら自然礫には、掘り方が認められ、下部を掘り方に据えられ直立した状態で検出した。西袖の自然礫は、燃焼部側の側面が被熱しており、カマド使用時に露呈していた可能性が考えられる。

燃焼部の規模は、奥行き116cm、幅53cm、奥壁高7cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は皿状に窪み、中央はピット状に落ち込む。奥壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

煙道部の規模は、長さ149cm、幅28cm、深さ4～24cmを測り、煙出し部に向かって緩やかに上がる。

煙出し部の規模は、上端径22cm、煙道部からの深さ8cmを測り、ピット状に浅く窪む。底面は皿状で、壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

**【その他の施設】** 床面から2基(SK1・2)、掘り方から4基(SK3～6)の土坑と、掘り方から間仕切り溝と考えられる溝跡を検出した。土坑は、円形もしくは梢円形を呈する。規模は様々で、深さは概ね15cm前後を測る。SK6の底面からは、円礫を検出した。間仕切り溝の規模は、幅10～31cm、深さは、5～11cmを測る。

**【掘り方】** 東西方向では、断面が台形状に掘り込まれる。深さは6cm～19cmを測る。

**【出土遺物】** 土師器環10点・高环3点・鉢2点・甕11点、ミニチュア1点、須恵器平瓶1点・横瓶1点、土製品5点、礫石器8点を掲載した(第98～104図)。

土師器環10点(第98図-1～10)は、5・9は床面直上、6は床面施設(P4)、1～3・7・8・10は住居堆積土からの出土である。4は、カマド燃焼部堆積土から高环(13)と重なった状態で出土している。1・2は、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。底部は、丸底、もしくは丸底と推定される。1は、扁平に内湾する体部から内傾する口縁部にいたる器形を呈する。2は、緩やかに内湾する扁平な体部から直線的に外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に3・4・6は段、5は沈線状の段を持ち、内面はいずれも稜を持つ。調整は、いずれも口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデのち、2は縦方向のヘラミガキが施される。2の外面は黒色塗仕上げされる。3～6は、底部は丸底と推定され、内湾する体部から内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に3・4・6は段、5は沈線状の段を持ち、内面はいずれも稜を持つ。調整は、いずれも口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、5は内面、6は外面黒色処理される。7・8は、底部は丸底と推定され、緩く内湾する扁平な体部から強く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に明瞭な稜を持つ。調整は、口縁部外面が、7はヘラミガキ、8はヨコナデで異なるが、そのほかの部位に関しては、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキと同様の調整が施される。いずれも、内面黒色処理される。9は、底部は丸底と推定され、半球形に内湾する体部から「」字状の口縁部が内傾する器形を呈する。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内外面は黒色処理される。外面は、被熱している。10は、底部は平底状の丸底と推定され、緩やかに内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部外面ヘラミガキ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内外面は、黒色処理される。

土師器高环3点(第98図-11～13)は、11は床面直上、12はカマド東側の北壁際床面直上から、13はカマド燃焼部堆積土から环(4)と重なった状態で出土した。11・12は、脚部のみの出土である。11は柱状中実、12は柱状中空で、唇部はラップ状に開くと推定される。調整は、外面ヘラケズリ、内面は环部ヘラミガキ、脚部ヘラナデが施され、环部内面は黒色処理される。13は、环部は緩やかに内湾する体部から外反して開口口縁部にいたる。口縁部と体部の

境は明瞭な段を持つ。脚部は柱状空中で、ラッパ状に聞く裾部へといたる。环部と脚部の境は、屈曲する。調整は、口縁部外面ヨコナデ、环体部外面から脚部内外面ヘラケズリ、裾部外面ヨコナデ、环部内面ヘラミガキが施される。

土師器鉢2点(第99図-1・2)は、1は掘り方で検出した間仕切り溝堆積土、2は住居堆積土からの出土である。1は、底部は丸底と推定され、内湾する体部から、緩く外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段を持つ。2は、内湾して体部から口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段を持つ。2点とも調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデが施される。

土師器壺11点(第99図-3～6、第100図-1～5、第101図-1・2)は、第99図-4・5、第100図-1～3は床面直上、第99図-3・6は住居堆積土、第100図-4は床面施設(P2)、第101図-1は床面施設(P3)、第100図-5、第101図-2は床面施設(P4)からの出土である。このうち、第99図-5は床面施設(P4)堆積土出土遺物と、第100図-5、第101図-1・2は床面出土遺物との接合関係がみられた。第99図-3～6、第100図-1～4は、長胴を呈する土師器壺である。第99図-3・4は、胴部の最大径を下位に持ち、第99図-5・6、第100図-1～4は中位に持つ。口縁部と体部の境は、第99図-3・5・6、第100図-1・2・4は段を持ち、第99図-4、第100図-3は段・棱を持たない。口縁部は、第99図-3・4、第100図-2は外反、第99図-5・6、第100図-1・3は外傾、第100図-4は直立する。第100図-5、第101図-1・2は、球腹を呈する土師器壺で、胴部最大径を中位に持つ。第101図-1は、最大径部を境に胴部下半は急激にすぼまる。口縁部は、外反・外傾し、口縁部と胴部の境は、いずれも段を持つ。これら壺の調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデを基準とする。第100図-2・4、第101図-2の胴部外面には、部分的なヘラミガキが施される。第101図-1は、摩耗が著しいが胴部外面にナデが観察される。

土師器ミニチュア(第101図-3)は、鉢形で、外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。

須恵器2点(第101図-4・5)は、いずれも堆積土からの出土である。4は平瓶の肩部、5は横瓶の体部と推定される。

土製品5点(第101図-6～10)は、6は掘り方で検出した間仕切り溝堆積土、7は住居堆積土から出土した土製勾玉である。8～10は住居堆積土から出土した土玉である。

礫石器8点(第102図-1～4、第103図-1～3、第104図-1)は、第102図-1～4、第103図-1・2、第104図-1は住居床面、第103図-3は掘り方底面からの出土である。

第102図-1は、楕円礫を素材とする凹痕・敲打痕の残る礫石器である。表裏両面器体上部に凹痕が確認され、敲打痕は一側縁及び下端部に確認される。上端部は欠損しており、欠損面に使用痕跡は確認されない。比較的軟質な石材を使用しており、凹痕・敲打痕が形成された部位は、いずれも原形状が変形している。多孔質な石英安山岩質凝灰岩を使用している。

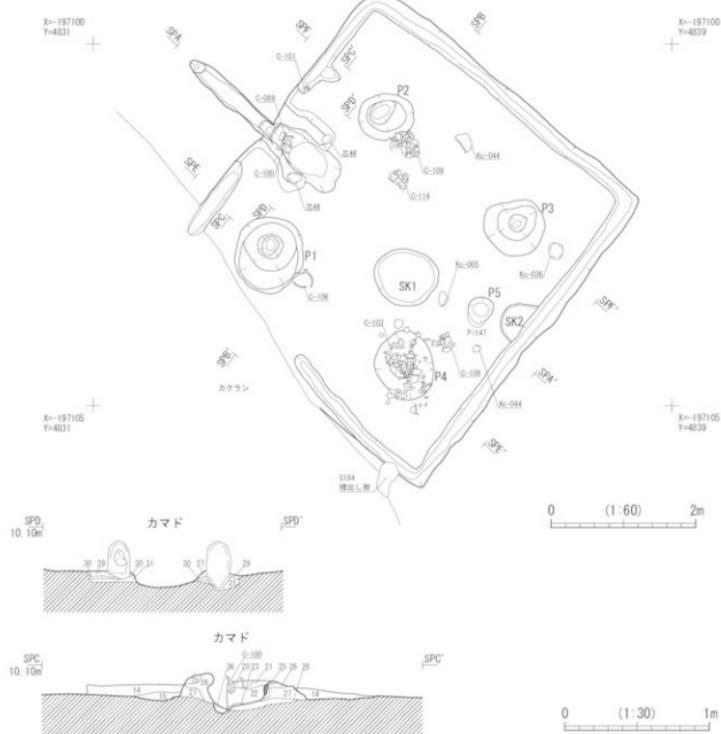
第102図-2は円礫を素材とする磨石である。表側器体中央に線条痕を伴う磨面が確認される。線条痕は概ね左上部から右下部の方向に形成されている。上端部を欠損しており、欠損面に使用痕跡は認められない。石材は硬質な安山岩を使用しており、原形状の変形は見られない。

第102図-3は楕円礫を素材とし、表側器体中央に線条痕及び溝状痕が確認されるが、磨面は形成されていない。痕跡は僅かではあるが、長軸に対し左上部から右下部方向へ傾いている。一部に刃物痕が確認される。石材は、凝灰岩を使用している。

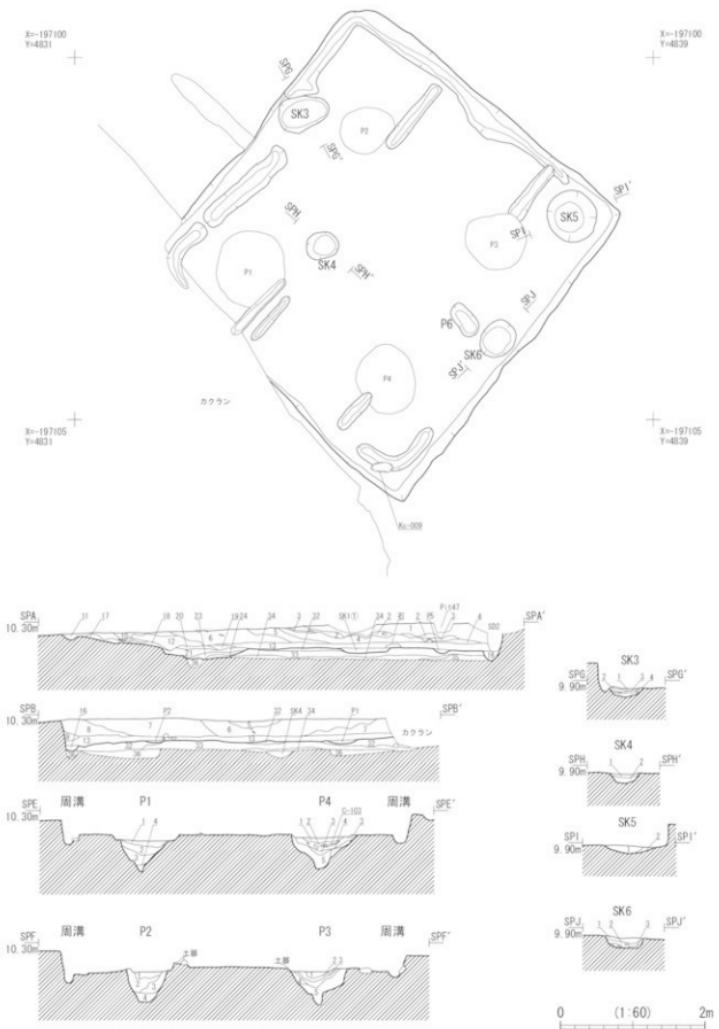
第102図-4、第103図-1～3、第104図-1は、台石である。第102図-4は扁平な楕円礫を素材とし、表裏両面に敲打痕が確認され、表面上部には凹痕も形成される。裏面には短軸方向の線条痕が確認されるが、磨面は形成されていない。上端部は、欠損する。下半部の一帯に被熱が確認される。石材は、石英安山岩質凝灰岩を使用している。第103図-1は扁平な円礫を素材とし、表裏両面の器体中央に磨面が形成されており、裏面は線条痕を伴う。磨面は、表面の方が範囲も広く磨痕も頗る著である。石材は、安山岩を使用している。第103図-2は楕円礫を素材とし、表裏両面の器体中央に磨面が形成され、線条痕及び溝状痕を伴う。表側では長軸方向の線条痕及び溝状痕と、直行して短軸

方向に形成される痕跡が顕著に確認される。石材は、石英安山岩質凝灰岩を使用している。第103図-3は、楕円窓を素材とし、器体中央に敲打痕が確認される。石材は、多孔質な石英安山岩質凝灰岩である。第104図-1は不整な円窓を素材とし、表面下半には顕著な磨面が発達し、微細な線条痕が伴う。表面上半は、敲打痕が発達し、広範囲に広がるが凹痕となる箇所はない。裏面には線条痕及び溝状痕が顕著に確認されるが、磨面は形成されていない。裏面にも敲打痕が確認されるが、表面に比べ範囲は狭い。上半は欠損する。表裏両面に被熱痕跡が認められ、被熱範囲が欠損面に及ぶことから欠損後に被熱したと考えられる。石材は、凝灰岩を使用している。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器杯(第98図-5・9)、土師器高环(第98図-11・12)、土師器甕(第99図-4・5、第100図-1~3)、土師器ミニチュア(第101図-3)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。また、床面施設から出土した土師器甕(第100図-5、第101図-1・2)は、床面出土遺物と接合関係がみられたことから、同様に本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、4a期(6世紀末葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。

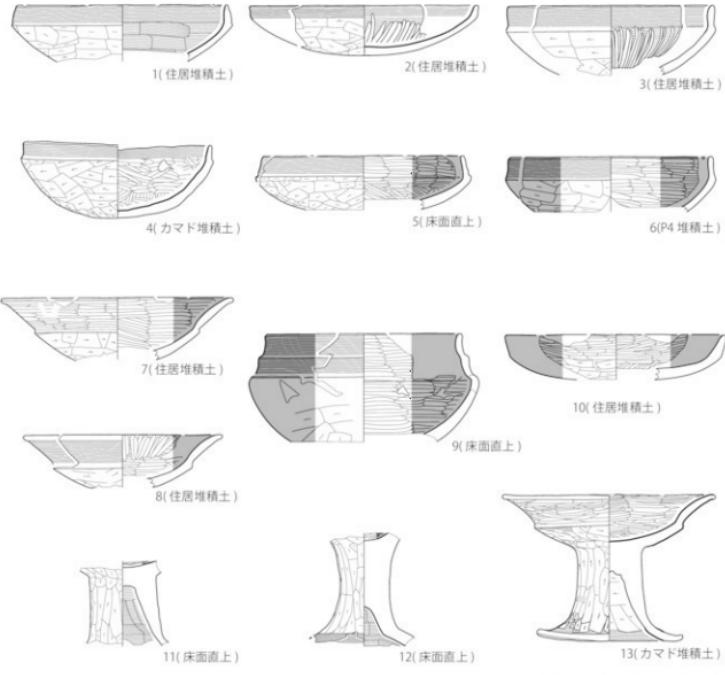


第96図 SI81竪穴住居跡(1)



第97図 SI 81堅穴住居跡(2)-掘り方完掘時施設検査状況

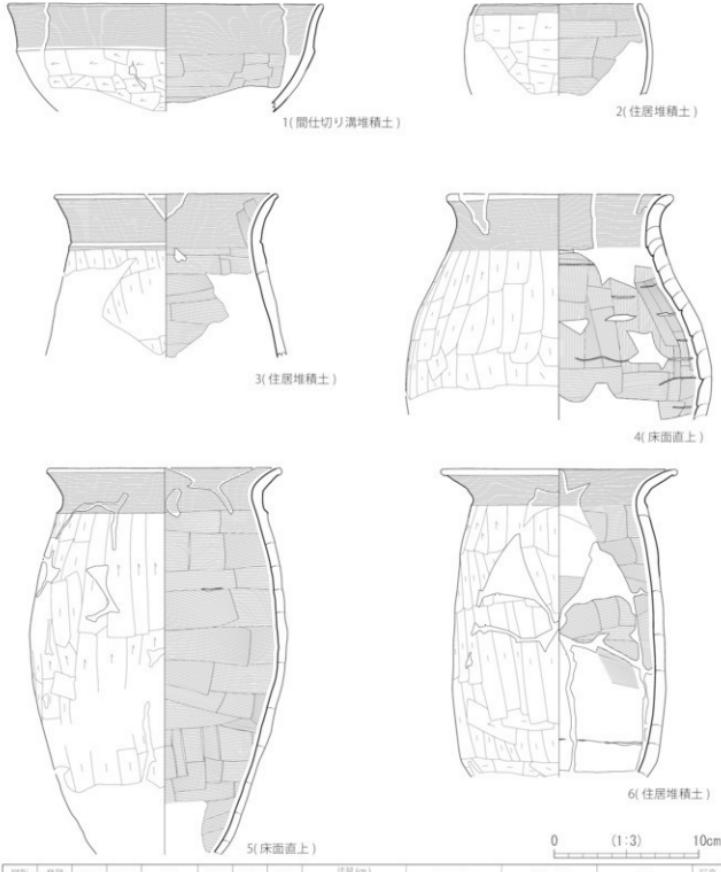
S81 施設土壤付記表						
部位	樹位	土色	土性	備考		
住居構築上	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色・化物物を少量含む。	
	2	10YR2/3	黒褐色	シルト	褐色・化物物・呑水ブロックを少量含む。	
	3	10YR1 7/1	黒色	シルト	化物物を多量、土粒と少量含む。	
	4	10YR3/3	暗褐色	シルト	化物物を多量、土粒と少量含む。	
	5	10YR3/4	暗褐色	シルト	呑水ブロックを多量に含む。	
	6	10YR3/4	にじみ・暗褐色	シルト	呑水ブロックを多量に含む。	
	7	10YR4/2	にじみ・暗褐色	シルト	呑水ブロックを多量に含む。	
	8	10YR4/3	にじみ・暗褐色	シルト	呑水ブロックを多量に含む。	
	9	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	透50mmの砂層ブロックを少量に含む。	
	10	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	透50mmの砂層ブロックを少量に含む。	
	11	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	透10mmの砂層・土粒を多量に含む。	
	12	10YR4/4	暗褐色	シルト	黒褐色土・ブロックを含む。土粒・化物物を少量含む。	
	13	-	-	-	計測なし。	
	14	10YR3/3	黒褐色	シルト	10YR5・赤褐色土・ブロッケ・褐色・粘土・化物物を含む。	
	15	5YR2/1	黒褐色	シルト	2.5YR5・赤褐色土・褐色・粘土・化物物を含む。	
透溝						
ガマ下	17	10YR1 7/1	黒褐色	シルト	透50mmの砂層・ブロックを少量に含む。	
	18	10YR2/1	褐色	シルト	褐色・化物物・呑水土・ブロックを含む。	
	19	10YR4/4	褐色	シルト	褐色・化物物を少量化する。	
	20	10YR3/3	暗褐色	シルト	黒褐色土・ブロックを多量、土粒をわずかに含む。	
	21	2.5YR4/4	にじみ・赤褐色	シルト	被植物による変色。	
	22	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	被植物を含む。黒褐色土を稍量に含む。	
	23	10YR2/1	暗褐色	粘土質シルト	被植物を多量に含む。	
	24	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	被植物・化物物を含む。一部に土を含む。	
	25	10YR6/4	にじみ・暗褐色	シルト	透50mmの砂層・化物物を含む。	
	26	2.5YR3/3	暗褐色	シルト	透50mmの砂層・化物物を含む。	
カマ下植	27	10YR6/4	にじみ・暗褐色	シルト	透50mmの砂層・化物物を含む。	
	28	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5・赤褐色土・ブロックを含む。	
	29	5YR2/1	黒褐色	シルト	2.5YR5・赤褐色土・褐色・化物物を含む。	
	30	10YR4/5	にじみ・暗褐色	シルト	透50mmの砂層・化物物を含む。	
	31	10YR3/2	暗褐色	シルト	透50mmの砂層・化物物を含む。	
樹木下	32	10YR3/2	暗褐色	シルト	褐色土・黒褐色土・少量化ブロックを少量含む。	
	33	10YR3/3	暗褐色	シルト	黒褐色土・ブロックを多量に含む。黒褐色土・ブロックを全体に微量に含む。	
	34	10YR2/1	黒褐色	シルト	灰褐色土・ブロックを帶状に含む。黒褐色土・粘土を含む。	
	35	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	にじみ・暗褐色土・灰褐色土・土帶状に含む。	
透溝						
P1	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黒褐色土・ブロックを含む。土粒と少量含む。	
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色土・ブロックを含む。褐色土を少量含む。	
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色土にじみ・黒褐色土・ブロックを含む。	
	4	10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色・泥炭を含む。	
	5	10YR3/4	暗褐色	シルト	黒褐色土・褐色土・ブロックを含む。	
	6	10YR3/4	暗褐色	シルト	黒褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	7	10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	8	10YR3/2	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	9	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	10	10YR3/2	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
P2	1	10YR4/4	褐色	シルト	褐色土・褐色土・ブロックを含む。	
	2	10YR2/3	黒褐色	シルト	褐色土・褐色土を少量含む。	
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土を含む。	
	4	10YR3/2	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土を含む。	
	5	10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土を含む。	
P3	1	10YR2/1	褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土を含む。	
	3	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	4	10YR3/2	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土を含む。	
	5	10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
P4	1	10YR4/4	褐色	シルト	褐色土・褐色土・ブロックを含む。炭酸物を少量含む。	
	2	10YR2/3	黒褐色	シルト	10YR5・赤褐色土を液状に含む。	
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5・赤褐色土・ブロックを多量に含む。	
	4	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5・赤褐色土・ブロックを多量に含む。	
	5	10YR2/3	暗褐色	シルト	10YR5・赤褐色土・ブロックを多量に含む。	
P5	-	-	-	-	計測なし。	
P6	-	-	-	-	計測なし。	
SK1	(1)	-	-	-	計測なし。	
SK2	-	-	-	-	計測なし。	
SK3	1	10YR2/1	黑色	粘土質シルト	にじみ・赤褐色土・褐色土・灰褐色土・ブロックを少量。径5 - 20mmの土粒・炭酸物を多量に含む。	
	2	10YR3/2	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土を少量含む。	
	3	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	褐色土・褐色土・ブロック・炭酸物を含む。	
	4	10YR3/2	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土を少量含む。	
SK4	1	10YR4/4	褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	3	10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	4	10YR4/4	褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
SK5	1	10YR4/4	褐色	シルト	褐色土を液状に含む。	
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土を少量化。	
	3	10YR2/3	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土を少量化。	
SK6	1	10YR3/2	暗褐色	シルト	褐色土・褐色土・泥炭を含む。	
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	褐色土・褐色土・泥炭を少量化。	
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	透50 - 70mmの液を含む。	
S81 施設土壤剖面表						
部位	樹位	土色	土性	透視	剖面	備考
P1	104 × 89	53		SK1	80 × 77	7
P2	75 × 63	47		SK2	56 × (33)	5
P3	80 × 80	53		SK3	72 × 50	13
P4	95 × 80	46		SK4	44 × 33	13
P5	37 × 34	5		SK5	70 × 68	11
P6	50 × 26	12		SK6	35 × 44	14



0 (1:3) 10cm

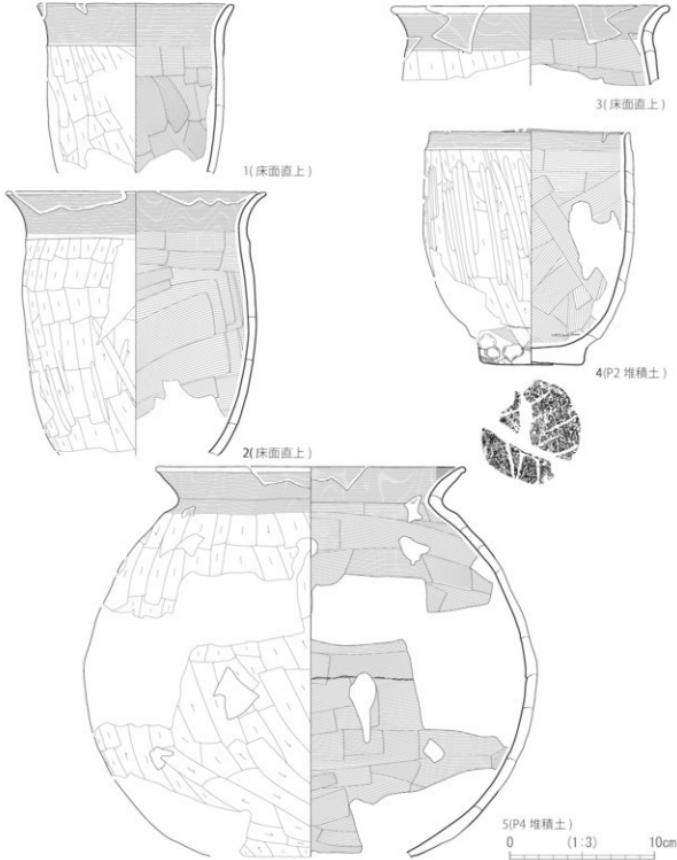
回数 番号	分類 番号	調査区 名	出土地 名	層位	種別	断面	断面 形	足幅 (cm)	外縫調整	内縫調整	参考	写真 番号
1 C-090	V/K	SIR1	住居堆積土	土師器	瓶	14	1脚 一体	(14.7)	-	(0.9)	口縫32行、体26行	69
2 C-091	V/K	SIR1	住居堆積土	土師器	瓶	14	1脚 一足	(15.9)	-	(0.4)	口縫32行、体~底~口 縫32行(底付)	69
3 C-098	V/K	SIR1	住居堆積土	土師器	瓶	14	1脚 一体	(14.2)	-	(4.8)	口縫32行、体26行	69
4 C-089	V/K	SIR1	カマド堆積土	土師器	瓶	14	1脚 一足	13.1	-	5.3	口縫32行、体~底~口 縫32行(底付)	69
5 C-092	V/K	SIR1	床面直上	土師器	瓶	14	1脚 一足	(13.9)	-	(3.7)	口縫32行、体26行	69
6 C-094	V/K	SIR1	P4堆積土	土師器	瓶	14	1脚 一足	(14.1)	-	(3.8)	口縫32行、体26行	69
7 C-096	V/K	SIR1	住居堆積土	土師器	瓶	14	1脚 一足	(16.0)	-	(4.3)	口縫32行、一足23行、 体26行	69
8 C-097	V/K	SIR1	住居堆積土	土師器	瓶	14	1脚 一足	(13.8)	-	(3.6)	口縫32行、体26行	69
9 C-095	V/K	SIR1	床面直上	土師器	瓶	14	1脚 一足	(13.6)	-	(7.3)	口縫32行、体26行	69
10 C-093	V/K	SIR1	住居堆積土	土師器	瓶	14	1脚 一体	(15.2)	-	(3.1)	口縫32行、体26行	69
11 C-102	V/K	SIR1	床面直上	土師器	高杯	脚	-	-	(5.9)	脚32行	H-102(4), 脚32行	69
12 C-101	V/K	SIR1	床面直上	土師器	高杯	脚底 脚	-	-	(7.8)	脚32行(4), 脚32行	H-101(3), 脚32行	69
13 C-100	V/K	SIR1	カマド堆積土	土師器	高杯	断定形	14.7	10.1	10.2	口縫32行、一足23行、 体26行	口縫32行、1足23行、 脚32行(4), 脚32行	69

第98図 SI 81豎穴住居出土遺物(1)



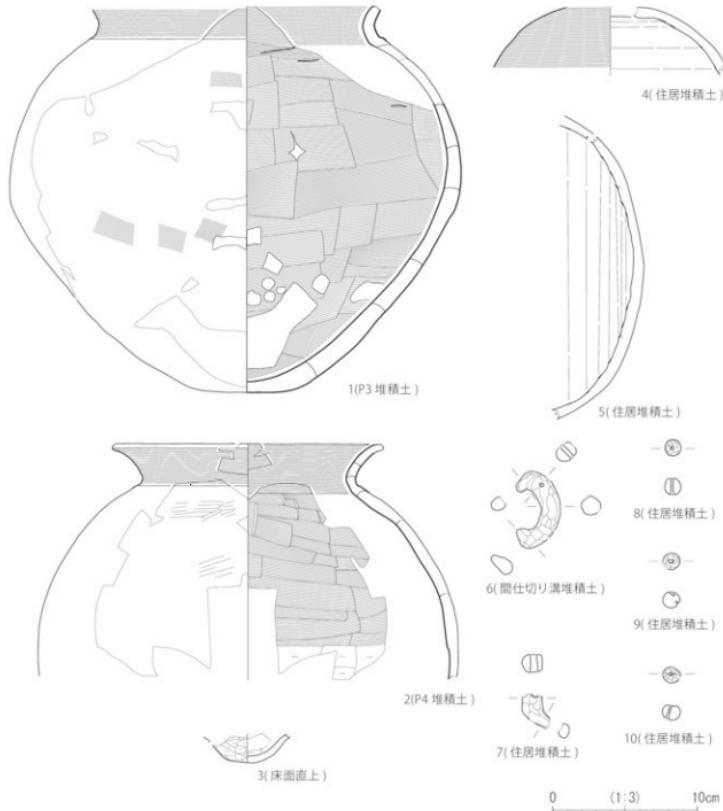
固施 番号	登録 番号	調査区	示上地	部位	種別	施構	部位	正規 (cm)			外面調整	内面調整	参考	写真 回数
								(1)径	(2)径	(3)高さ				
1	C-099	V1K	SB1	居住空間 通路	土師器	鉢	口縁 一体	(21.8)	-	(7.4)	口縁:2.5径、体:2.5径	口縁:2.5径、体:2.5径	-	69
2	C-113	V1K	SB1	住居堆積上	土師器	鉢	口縁 一部	(11.4)	-	(6.3)	口縁:2.5径、体:2.5径	口縁:2.5径、体:2.5径	-	69
3	C-107	V1K	SB1	住居堆積上	土師器	甕	口縁 一部	(15.4)	-	(11.3)	口縁:2.5径、 底:3.0径、 高さ:9.5	口縁:2.5径、 底:3.0径	-	69
4	C-106	V1K	SB1	床面直上	土師器	甕	口縁 一部	15.7	-	(15.5)	口縁:2.5径、 底:3.0径、 高さ:9.5	口縁:2.5径、 底:3.0径	-	69
5	C-103	V1K	SB1	床面直上	土師器	甕	口縁 一部	16.2	-	(26.7)	口縁:2.5径、 底:3.0径	口縁:2.5径、 底:3.0径	外面摩耗	69
6	C-104	V1K	SB1	住居堆積上	土師器	甕	口縁 一部	(16.4)	-	(21.2)	口縁:2.5径、 底:3.0径	口縁:2.5径、 底:3.0径	外面摩耗	70

第99図 SI 81豎穴住居出土遺物(2)



图号 器物 商代 青铜器	器物 商代 青铜器	调查区 SIK	出土地 SI81	层位 床面直上	类别 土质器	部位 腹	法量 (cm)			外面调整	内面调整	参考	写真 图版	
							上壁	厚度	底径					
1 C-105	V1K	SI81		床面直上	土质器	腹	口缘 一周	(13.6)	-	(11.7)	口缘:12.7, 腹:10.7	口缘:12.7, 腹:10.7	外面摩耗	70
2 C-114	V1K	SI81		床面直上	土质器	腹	口缘 一周	(18.0)	-	(18.2)	口缘:12.7, 腹:10.7 腹下部:10.7-10.3	口缘:12.7, 腹:10.7	外面磨耗	70
3 C-108	V1K	SI81		床面直上	土质器	腹	口缘 一周	(19.2)	-	(5.5)	口缘:12.7, 腹:10.7	口缘:12.7, 腹:10.7	外面磨耗	70
4 C-112	V1K	SI81	P2堆積土	土质器	腹	口缘 一周	13.9	7.1	16.2	腹下部:10.7-10.3 腹下部:10.7-10.3	口缘:12.7, 腹:10.7 腹下部:10.7-10.3	外面磨耗	70	
5 C-109	V1K	SI81	P4堆積土	土质器	腹	口缘 一周	(21.4)	-	(26.9)	口缘:12.7, 腹:10.7 腹下部:10.7-10.3	口缘:12.7, 腹:10.7	外面磨耗	70	

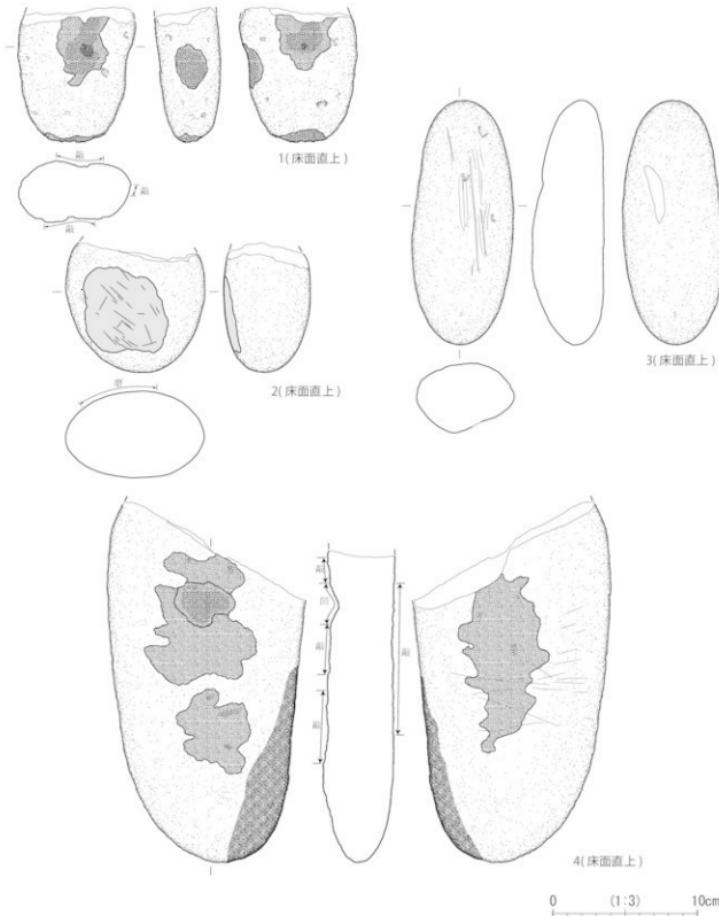
第100図 SI 81竪穴住居出土遺物(3)



0 (1:3) 10cm

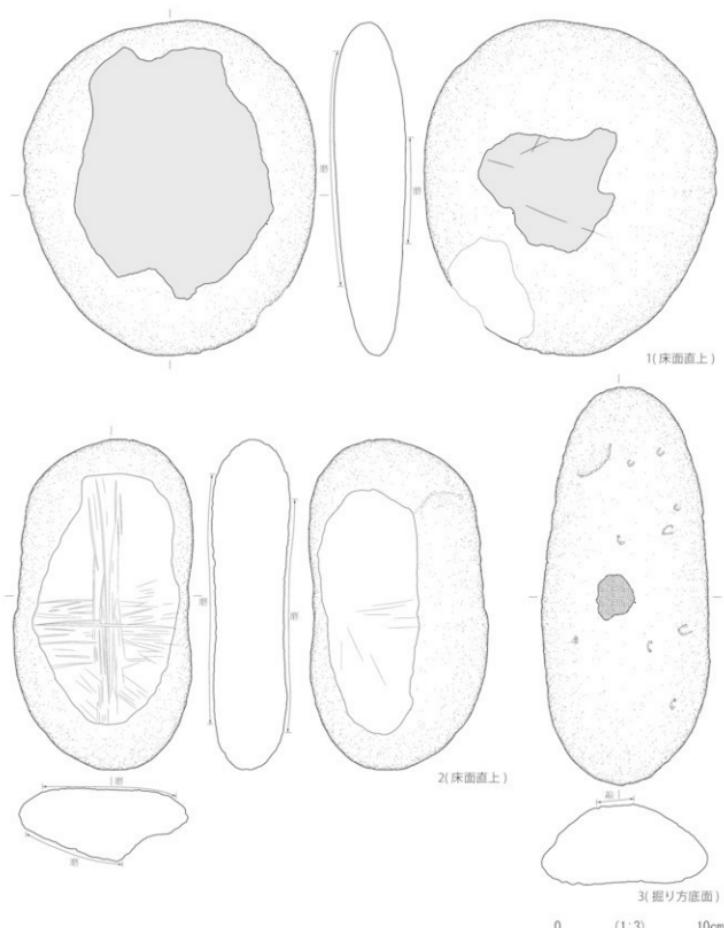
回数 番号	標目 番号	調査区	出土地	部位	種別	形状	部位	法規(cm)			外周調整	内面調整	備考	写真 図版
								上径	底径	厚				
1	C-110	V/K	S081	P3堆積土	土器底	盤	口縁	(19.8)	-	(26.6)	口縁(27.7), 脚(27.7),底(27.7)	口縁(27.7), 脚(27.7),底(27.7)	外周補削部	70
2	C-111	V/K	S081	P4堆積土	土器底	盤	口縫	1.04	(18.8)	(16.2)	口縁(27.7), 脚(27.7),底(27.7)	口縁(27.7), 脚(27.7),底(27.7)	外周補削	70
3	C-376	V/K	S081	床面直上	土器底	口縫	-	-	(2.5)	-	口縫(2.5)	口縫(2.5)	内面黒色化	71
4	E-012	V/K	S081	日向焼場上	底部底	平盤?	脚	-	(4.3)	-	口縫調整・脚目	口縫調整	外周自然剥付着	71
5	E-013	V/K	S081	日向焼場上	底部底	碗?	脚	-	(19.4)	-	口縫調整・脚目	口縫調整	外周自然剥付着	71
回数 番号	標目 番号	調査区	出土地	部位	種別	形状	部位	全径	幅	厚	重量(g)	特徴・備考	写真 図版	
6	P-012	V/K	S081	間仕切り溝	土器底	盤	底素	5.3	1.3	1.3	14.9 重:0.3kg			71
7	P-013	V/K	S081	日向焼場上	土器底	底素	(2.3)	(2.3)	1.2	(0.9) 重:0.5kg			71	
8	P-014	V/K	S081	日向焼場上	土器底	底素	1.1	1.1	1.0	1.4 重:0.5kg			71	
9	P-015	V/K	S081	日向焼場上	土器底	底素	1.1	1.1	1.0	1.3 重:0.1kg(芯抜通)			71	
10	P-016	V/K	S081	日向焼場上	土器底	底素	1.2	1.0	0.9	1.2 重:0.15kg(芯かくし)太芯焼付底			71	

第101図 SI81竪穴住跡出土遺物(4)



第102図 Si81竪穴住居跡出土遺物(5)

回数 番号	登録 番号	調査区	出土地	部位	種別	形状	法量(㎝)			重量(g)	石材	参考	写真 回数
							全長	幅	厚				
1	Kr-003	V区	SB1	床面直上	砾石器	四+敲打	8.1	4.5	(250.67)	石英砂岩質 敲打器	柳原理, 沢(21開所)深底床, 敵(21開所)利度魚, 火船丸	71	
2	Kr-018	V区	SB1	床面直上	砾石器	四+敲打	9.8	5.9	(716.58)	安山岩	伊藤, 墓(19), 破表直角刀, 大船丸	71	
3	Kr-027	V区	SB1	床面直上	砾石器	敲打器 石子器	16.9	7.1	5.0	698.27	輝灰岩	柳原理, 敵直角刀, 深底直角刀, 物直角刀	71
4	Kr-005	V区	SB1	床面直上	砾石器	台石	(24.8)	13.7	5.0	(1527.30)	石英砂岩質 敲打器	柳原理, 敵(31開所)程度強, 網条直角刀, 被熟直角刀, 火船丸	71



第103図 SI 81竪穴住居跡出土遺物(6)

回数 番号	分類 番号	調査区	出土地	層位	種別	形状	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 回数
							全長	幅	厚				
1 Ke-036	V区	S8R1	床面直上	礫石層	台石	23.2	20.3	5.0	3566.61	白山石	扁平円錐、側面斜め、縦溝あり、火照れあり	71	
2 Ke-038	V区	S8R1	床面直上	礫石層	台石	22.8	12.5	5.5	1340.00	石英安山岩質 柱状節理	柱状節理、側面斜め、側面斜めあり、縦溝あり	72	
3 Ke-009	V区	S8R1	側方底面	礫石層	台石	21.5	11.7	5.9	1377.56	石英安山岩質 柱状節理	柱状節理、側面斜めあり	72	



第104図 Si81竪穴住居跡出土遺物(7)

## SI82 穫穴住居跡(第105～108図)

【位置・確認】 V区西端、A-8グリッドに位置する。北西から南東コーナーにかけては擾乱により失われている。西側は調査区外にかかる。煙道部は、煙出し部を除いて失われている。

【重複】 SI92と重複関係にあり、これより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は東西453cm、南北606cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマド煙道部基準でN-10°・Eである。

【堆積土】 11層に分層された。1・2層は住居堆積土で、暗褐色砂質シルトないしにぶい黄褐色シルトを主体とし、焼土・炭化物を少量含む。3層は、周溝堆積土である。4～7層はカマド関連層位で、黒褐色・暗褐色シルトを主体とし、焼土を多量に含む。8～10層はカマド構築土で、明黃褐色・黒褐色シルトを主体とする。11層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾する。残存する壁高は、最大27cmを測る。

【床面】 平坦である。11層上面を床面とする箇所と、基本層IV層上面を床面とする箇所が認められる。

【柱穴】 床面から9基(P 1～9)、掘り方底面から1基(P 10)検出した。P 1は、位置関係から主柱穴に相当する可能性がある。

【周溝】 検出した範囲では、カマド周辺から東壁にかけてと南壁際の一部で壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅15～30cm、深さ6～9cmを測る。

【カマド】 北壁東側に位置し、壁面に対し直交して付設される。袖の規模は、西袖が長さ66cm、幅30cm、東袖が長さ81cm、幅30cmを測る。北壁に対し西袖は直交し、東袖は西傾する。

燃焼部の規模は、奥行き72cm、幅48cm、奥壁高12cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は平坦で、奥壁は直線的に立ち上がる。奥壁際からは長さ15cm程度の被熱した棒状跡を2点検出しており、出土位置と跡の状態から支脚として機能していた可能性がある。

煙出し部の規模は、上端径30cm、深さ24cmを測り、ピット状に窪む。底面は傾斜し、壁面は外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 土坑1基を検出した。北東コーナーに位置する。平面形状は不整形で、底面からは扁平礫を検出した。

【掘り方】 検出した範囲全体が掘り込まれる。深さは9～11cmを測る。

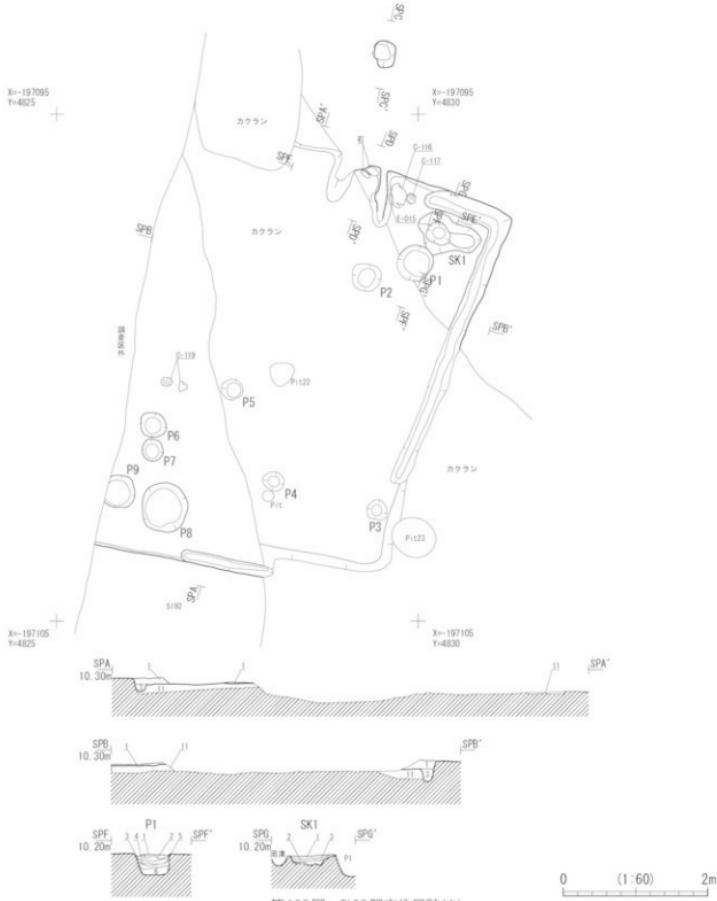
【出土遺物】 土師器甕6点、須恵器環4点を掲載した(第107・108図)。このうち土師器甕(第107図-1・第108図-1)と須恵器環(第108図-4)は、カマド東袖直近の床面上から一括で出土している。

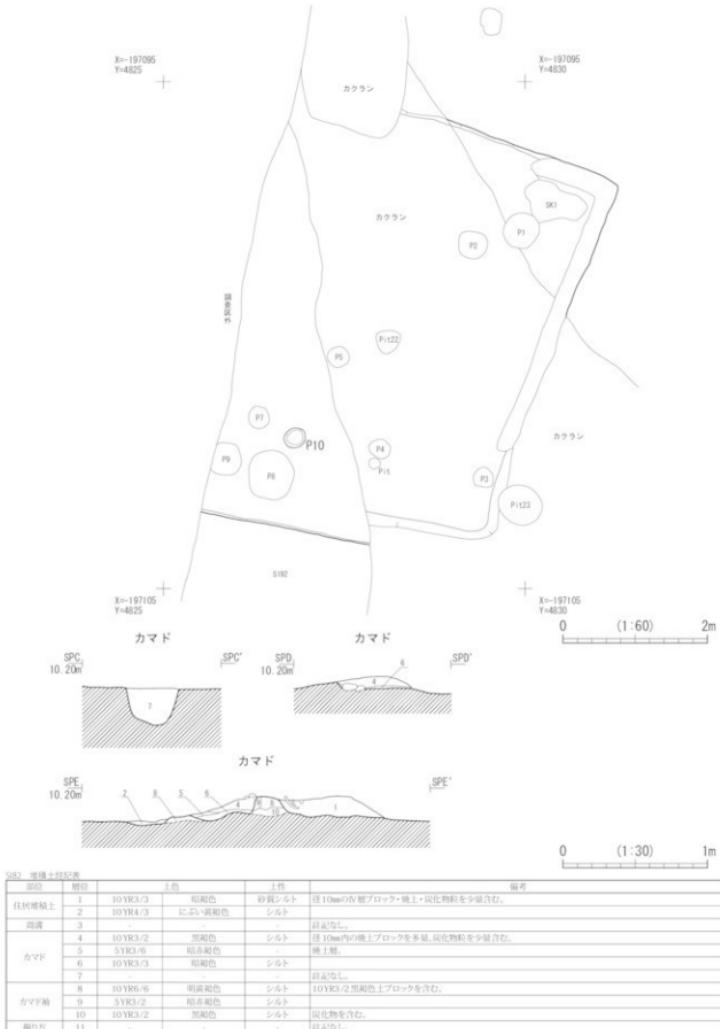
土師器甕(第107図-1～4、第108図-1・2)は、いずれも床面上からの出土である。第107図-3・4は、同一個体の可能性がある。第107図-1は、内湾する胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と胴部の境は、段・棱を持たない。第107図-2～4、第108図-1は、長胴の胴部から、第107図-2は外反、第107図-3、第108図-1は外傾する口縁部にいたる器形を呈する。このうち、第108図-1の口縁部内面は、端部が折り返される。第108図-2は、長胴の胴部である。胴部の最大径は、第107図-2・4、第108図-2は中位もしくは下位に持ち、第107図-3、第108図-1は上位に持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケメを基調とし、第107図-4の胴部下半はヘラナデが施される。胴部内面は、第107図-2はヘラナデ、第107図-3・4、第108図-2はハケメ、第108図-1はハケメのちヘラナデが施される。

須恵器環4点(第108図-3～6)は、3は住居堆積土、4・5は床面上、6はカマド燃焼部堆積土からの出土である。いずれも、底部は平底で、体部から口縁部へ直線的に外傾する器形を呈する。法量は、口径12.2～16.6cm、底径8.0～10.4cm、高さ3.4～4.5cmに収まる。調整は、ロクロ調整ののち、5は体部下端に手持ちハラケズギが施

される。3～5の底部切り離し技法は、回転ヘラ切りである。6は、底部切り離し技法は不明だが、回転ヘラケズリが施される。5の口縁部内外面には、タル状物質の付着がみられた。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器甕(第107図-1～4、第108図-2・3)、須恵器甕(第108図-4・5)は、本堅穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、5b ii期(8世紀前葉)の土器であり、本堅穴住居跡の時期を示している。

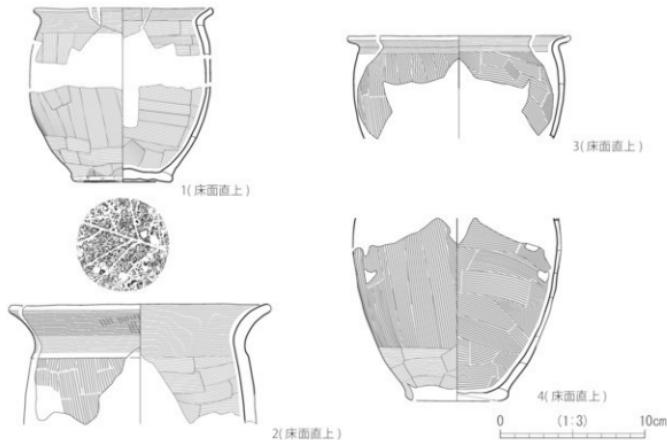




第106図 SI182豎穴住居跡(2)-掘り方完掘時施設検出状況

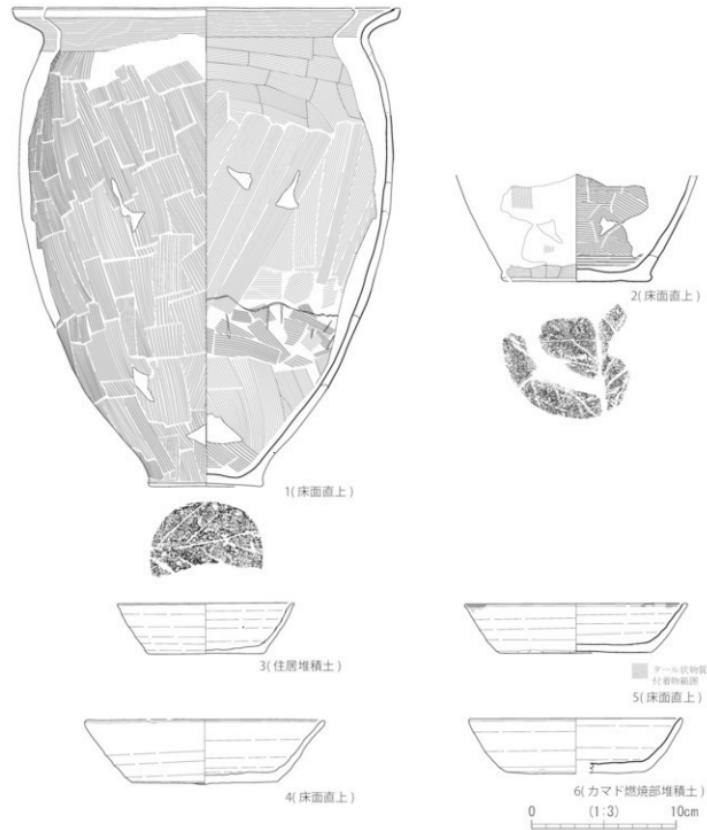
502 掘立堆積土記録					
面積	標位	土色	土性	参考	
P1	1 10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色上ブロックを含む。	
	2 10YR4/6	褐色	シルト	に淡い褐色上ブロッケ少量、暗褐色上ブロックを含む。	
	3 10YR3/3	暗褐色	シルト	泥質物・褐色上ブロックを含む。	
	4 10YR4/4	褐色	シルト	褐色物を含む。	
	5 10YR3/3	暗褐色	砂質粘土	褐色上ブロックを含む。	
	6 10YR3/4	暗褐色	砂質粘土	褐色上ブロックを含む。	
P2	1 10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色地を少額、褐色上ブロック・暗褐色上ブロック・白色上ブロックを含む。	
P3	1 10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色上ブロック地と粘土を含む。(断面凹なし)	
P4	1 10YR4/4	褐色	シルト	褐色地上ブロック地と粘土を含む。(断面凹なし)	
P5	1 10YR4/4	褐色	シルト	褐色地上ブロック地と粘土を含む。(断面凹なし)	
P6	1 10YR4/6	褐色	シルト	10YR3/1 暗褐色上ブロックを多量に含む。(断面凹なし)	
P7	1 10YR2/3	暗褐色	シルト	褐色上ブロック・暗褐色上ブロックを含む。(断面凹なし)	
P8	1 10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色上ブロック・暗褐色上ブロックを含む。(断面凹なし)	
P9	2 10YR4/4	褐色	シルト	褐色地上ブロックを複数、褐色上ブロック・暗褐色上ブロックを含む。(断面凹なし)	
P10	1 10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色地を少額、暗褐色上ブロック・褐色上ブロックを含む。(断面凹なし)	
SK1	1 10YR2/2	暗褐色	シルト	5YR5.0明示褐色地上ブロックを含む。	
	2 10YR3/2	暗褐色	シルト	5YR5.0明示褐色地上ブロックを含む。	
	3 5YR3/3	暗褐色	シルト	5YR5.0明示褐色地上ブロックを含む。	

502 掘立堆積土記録表			
面積	平面形	断面(㎝)	参考
P1	円形	(51) × 48	30
P2	不整形	(42) × (39)	25
P3	不整形	30 × 27	19
P4	不整形	(30) × (27)	27
P5	円形	(30) × (30)	24
P6	円形	39 × 33	11
P7	円形	30 × 27	43
P8	不整形	69 × 66	16
P9	不明	48 × 45	20
P10	円形	30 × 27	30
SK1	不整形	90 × (54)	18



面積 名	標識 番号	調査区	出土地	層位	種別	部種	部位	断面(㎝)			外面調整	内面調整	参考	写真 番号
								上壁	底壁	側面				
1 C117 C118	V1K S1B2	床面直上	上部層	裏	上部層	裏	上壁	(12.5)	6.8	(12.0)	1044-1049/1 壁-1047→ 壁手前1049/2, 壁-1047→ 木棧道-1047/1	1044-1049/1 壁-1047→ 壁手前1049/2, 壁-1047→ 木棧道-1047/1	外曲面, 壁手前, C117-1118同一直体	72
2 C115	V1K S1B2	床面直上	上部層	裏	上壁	裏	上壁	(16.2)	-	(8.3)	1044-1049/2 壁-1047→ 壁-1049/2	1044-1049/2 壁-1047→ 壁-1049/2	外曲面, 壁-1047→	72
3 C119 -1	V1K S1B2	床面直上	上部層	裏	上壁	裏	上壁	(15.4)	-	(7.1)	1044-1049/1 壁-1047→ 壁-1049/1	1044-1049/1 壁-1047→ 壁-1049/1	外曲面, 内面(隣に現付岩, C119-2と同一固体)	72
4 C119 -2	V1K S1B2	床面直上	上部層	裏	上壁	裏	側面	(7.4)	(12.6)	(10.5)	1044-1049/2 壁-1047→ 壁-1049/2	側面(?)	外曲面(隣岩, 破面剥落, 119-1と同じ固体)	72

第107図 SI82豊穴住居出土遺物(1)



回数 番号	登録 番号	調査区	出土地	部位	種別	断面	部位	法量(cm)			外底調整	内底調整	参考	写真 回数
								(1)径	(2)径	(3)高さ				
1	C-116	V1K	SIR2	床面直上	土器部	甕	口縁 ~底	(26.8)	8.0	33.0	口縁:2.0cm, 底:3.5cm, 下部:1.5cm×2.0cm×4.5cm, 下部:3.0cm×4.0cm×3.0cm 底:2.0cm	口縁:2.0cm, 底:3.5cm, 下部:1.5cm×2.0cm×4.5cm, 下部:3.0cm×4.0cm×3.0cm 底:2.0cm	73	
2	C-120	V1K	SIR2	床面直上	土器部	甕	胸~底	-	(10.4)	(7.3)	第1フタ:~2.0cm, 底:木炭斑:~0.5cm 底:2.0cm	第1フタ:~2.0cm, 底:木炭斑 底:2.0cm	72	
3	E-014	V1K	SIR2	住居構土	泥炭部	H6	口縁 ~底	(12.2)	(8.0)	3.5	0.0cm調整, 底:木炭斑:~0.5cm 底:2.0cm	0.0cm調整 底:木炭斑:~0.5cm 底:2.0cm	73	
4	E-015	V1K	SIR2	床面直上	泥炭部	H6	口縁 ~底	(11.6)	10.0	4.5	0.0cm調整, 底:木炭斑:~0.5cm 底:2.0cm	0.0cm調整 底:木炭斑:~0.5cm 底:2.0cm	73	
5	E-016	V1K	SIR2	床面直上	泥炭部	H6	口縁 ~底	(15.4)	10.4	3.4	0.0cm調整, 底:木炭斑:~0.5cm 底:2.0cm	0.0cm調整 底:木炭斑:~0.5cm 底:2.0cm	73	
6	E-013	V1K	SIR2	カマド燃焼部 堆積土	泥炭部	H6	口縁 ~底	(14.8)	(9.6)	3.8	0.0cm調整, 底:木炭斑:~0.5cm 底:2.0cm	0.0cm調整 底:木炭斑:~0.5cm 底:2.0cm	73	

第108図 SI82竪穴住居跡出土遺物(2)

### SI83 穫穴住居跡(第109・110図)

【位置・確認】 V区西半、A-8グリッドに位置する。住居床面は擾乱により削平され、掘り方のみを検出した。北側・東側・南側は、重複遺構(SI84・93、SK71～73)により失われている。

【重複】 SI84・93、SK71～73と重複関係にあり、いずれよりも古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北366cm、東西531cmを測る。掘り方の平面形状は、長方形を呈する。

【方向】 西壁基準でN-2°-Wである。

【堆積土】 単層である。1層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 残存する掘り方壁面は非常に緩やかに立ち上がる。

【床面】 削平により、残存していない。

【柱穴】 掘り方から3基検出した。P2からは、柱痕跡が確認された。

【周溝】 検出していない。

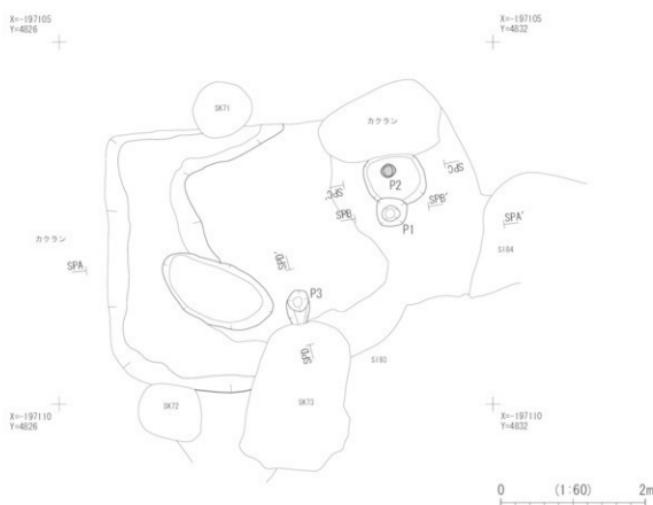
【カマド】 検出していない。

【その他の施設】 検出していない。

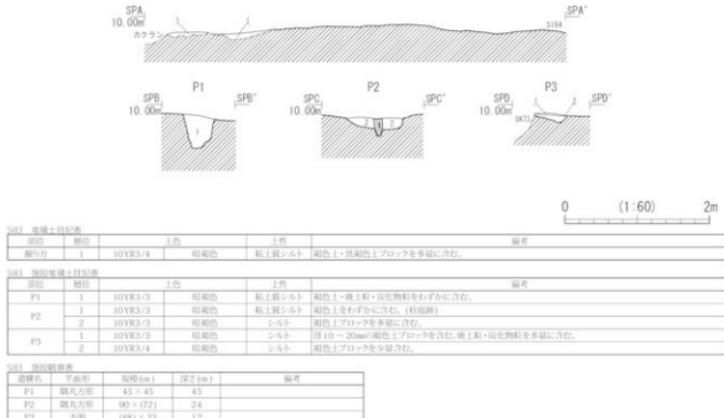
【掘り方】 北・南・西側が「コ」字状に掘り込まれる。深さは、9cmを測る。

【出土遺物】 掘り方堆積土およびP1・2から、土師器の破片が少量出土しているが、図化できるような遺物はなかった。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)と考えられるSI84より古いことから、本竪穴住居跡の時期は、5a期以前と考えられる。



第109図 SI83竪穴住居跡(1)



第110図 SI83 窪穴住居跡(2)

#### SI84 窪穴住居跡(第111~113図)

【位置・確認】 V区西半、A-8グリッドに位置する。カマド煙道部の一部と北東コーナー、住居南西部を検出した。北西部から南東部にかけては、撹乱により失われている。

【重複】 SI80・83・93と重複関係にあり、これらより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北546cm、東西450cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部標準でN-17°-Eである。

【堆積土】 9層に分層された。1~3層は住居堆積土で、暗褐色・黒色・ぶい黄褐色シルトを主体とし、IV層ブロック・炭化物・焼土粒を含む。4層は、周溝堆積土である。5~6層はカマド間連層位で、6層は焼土ブロックを多量に含む。7~9層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大18cmを測る。

【床面】 若干起伏する。7~9層上面を床面とする。

【柱穴】 床面から6基検出した。規模と位置関係から、P1~3は主柱穴に相当すると考えられる。P4~6の性格は、不明である。

【周溝】 検出した範囲においては、西壁では壁からやや離れた位置を周り、南壁では壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅12~21cm、深さ5~7cmを測る。

【カマド】 煙道部の一部と煙出し部を検出した。煙道部の大半は、撹乱により失われているが北壁に付設されていたと推定される。

残存する煙道部の規模は、幅21cm、深さ24cmを測る。

煙出し部の規模は、上端幅24cm、煙道部からの深さ9cmを測り、ピット状に窪む。底面は先端に向かって下がり、壁面は外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは33~36cmを測る。

【出土遺物】 土師器環2点・鉢1点・甕1点、須恵器環1点、土製品1点を掲載した(第112・113図)。

土師器環2点(第112図-1・2)は、1は床面直上、2は住居堆積土からの出土である。1は、底部は丸底で、内湾する体部から、外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段・稜を持たない。調整は、外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。2は、半球形に内湾する体部から、ほぼ直立する口縁部にいたる器形を呈する。口唇部は、弱く外傾し、口縁部と体部の境は、段・稜を持たない。調整は、口縁部外面ヨコナデのちヘラミガキ、体部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキが施される。

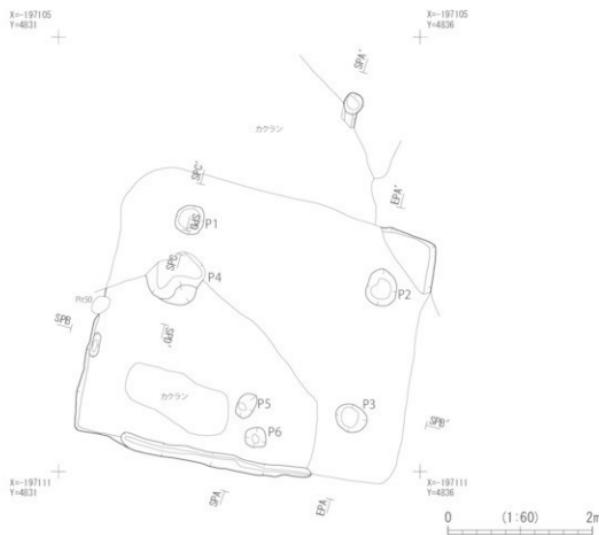
土師器鉢(第112図-3)は、掘り方堆積土からの出土である。長胴の体部から、外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は中位に持つ。口縁部と体部の境は、外面に段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。

土師器甕(第113図-1)は、床面直上からの出土である。長胴の胴部から、緩く外反する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、中位ないし下位に持つ。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。

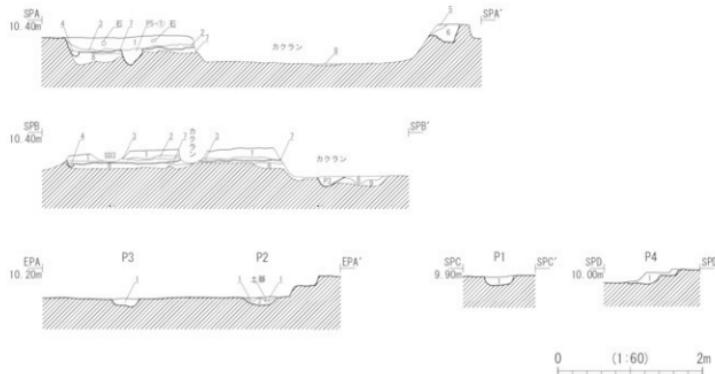
須恵器環(第113図-2)は、住居堆積土からの出土である。底径が大きく、底部と体部の境は屈曲する。

土製品(第113図-3)は、住居堆積土から出土した紡錘形の土鍾である。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器環(第112図-1)・甕(第113図-1)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、5a期(7世紀中葉~後葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第111図 SI84竪穴住居跡(1)



584 室内堆積土記載表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	IOYR3/4	褐色	シルト 径10mmのV層ブロックを少量、炭化物・焼土粒を微量に含む。
	2	IOYR2/1	黒色	シルト 炭化物を多量、焼土粒を少量含む。
	3	IOYR5/3	に赤い黄褐色	シルト 焼土粒を多量に含む。
周溝	5	IOYR4/3	に赤い黄褐色	砂質シルト 径30mmのV層ブロックを微量に含む。
	6	IOYR2/1	黒色	シルト に赤い黄褐色のブロック・焼土粒を多量に含む。
掘り方	7	IOYR5/4	に赤い黄褐色	砂質シルト 灰質ブロック・焼土粒を多量に含む。下部に赤IC赤シルトを夾層付に含む。
	8	IOYR4/2	灰褐色	シルト V層ブロック・焼土粒を多量に含む。
	9	IOYR5/4	に赤い黄褐色	シルト 径30mmのV層ブロック・黒褐色ブロックを多量に含む。

584 室内堆積土記載表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	IOYR3/4	褐色	シルト 径50mmのV層ブロックを多量に含む。
P2	1	IOYR4/3	に赤い黄褐色	砂質シルト 径50mmの地上ブロックを微量、炭化物粒を微量に含む。
P3	1	IOYR4/4	褐色	砂質シルト 径50mmのV層ブロック・壁上・壁下10mmの炭化物粒を多量含む。
P4	1	IOYR3/3	褐色	粘土質シルト 径50mmのV層ブロック・壁上・炭化物粒を微量に含む。
P5	(1)	-	-	計量なし。
P6	-	-	-	断面図なし。

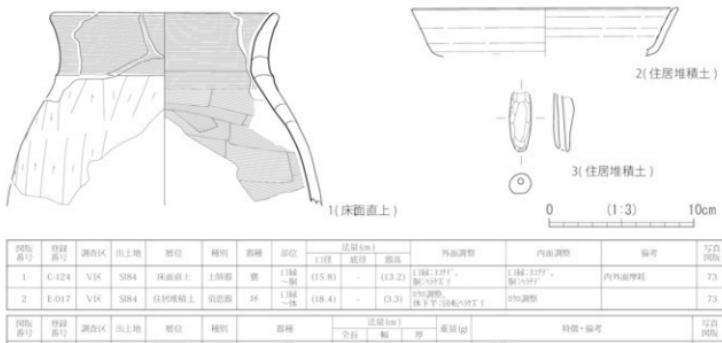
584 断面観測表

断面名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	45×42	12	
P2	楕円形	51×42	12	
P3	楕円形	45×36	12	
P4	半円	80×40(72)	12	
P5	楕円形	36×24	21	
P6	半楕円形	33×30	48	



第112図 SI84竪穴住居跡(2)出土遺物(1)

回数 番号	標高 高さ	調査区	市土地	層位	種別	器種	部位	法規(cm)			外表面	内部調整	備考	写真 写真
								上段	中段	下段				
1	C-122	V1K	SIR4	床面直上	上部	土	1層	14.2	-	(3.6)	火葬土	火葬土	内面黑色処理	73
2	C-121	V1K	SIR4	住居堆積土	上部	土	1層	-	(10.4)	-	火葬土	火葬土	外表面処理	73
3	C-123	V1K	SIR4	脚力堆積土	上部	土	1層	-	(20.6)	-	火葬土	火葬土	内面黑色処理、赤みあり	73



第113図 SI84堅穴住居出土遺物(2)

### SI85 堅穴住居跡(第114・115図)

【位置・確認】 V区中央、B-C-8・9グリッドに位置する。カマドと北壁周辺のみを検出した。北壁の一部は擾乱により失われている。南側は、調査区外にかかる。

【重複】 SI86、SX2・3と重複関係にあり、これらより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北137cm、東西558cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマド煙道部基準でN-18°.Eである。

【堆積土】 10層に分層された。1～3層は住居堆積土で、暗褐色・黒褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。4層は、周溝堆積土である。5～8層は、カマド関連層位で、暗褐色・黒褐色シルトを主体とする。9層は、カマド袖構築土である。10層は、カマド掘り方堆積土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大15cmを測る。

【床面】 平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から3基検出した。位置関係からP2は主柱穴に相当すると考えられる。P1・3の性格は不明である。

【周溝】 検出した範囲においては、北西コーナー部分を壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅15～27cm、深さ22cmを測る。

【カマド】 北壁のやや西側に位置し、壁面に直交して付設される。西袖は大半が失われている。東袖の規模は、長さ69cm、幅27cmを測る。北壁に対して、東袖は西傾する。西袖の直近からは、カマドの芯材として使用されたと考えられる自然礫を検出した。

燃焼部の規模は、奥行き84cm、幅63cm、奥壁高6cmを測り、奥壁は壁面から張り出す。底面は、奥壁側に向かって緩やかに傾斜して奥壁側が高くなり、壁面は外傾して立ち上がる。

煙道部の規模は、長さ177cm、幅27cm、深さ9～15cmを測る。底面は起伏があり、北半部は煙出し部に向かって緩やかに傾斜して下がる。

煙出し部の規模は、上端幅18cm、煙道部からの深さ12cmを測り、ピット状に窪む。底面は皿状で、壁面は外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 カマド掘り方を検出した。底面は起伏する。

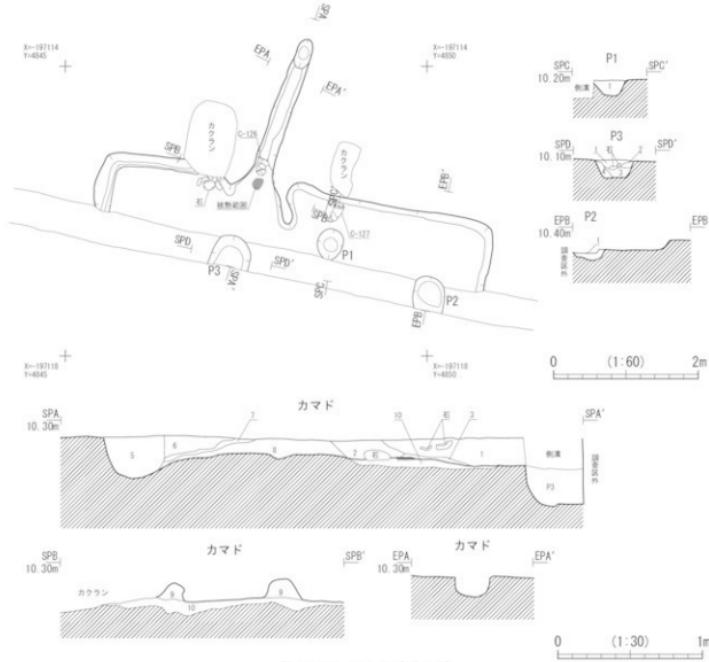
【出土遺物】 土師器環1点・甕2点、金属製品1点を掲載した(第115図)。

土師器環は、住居堆積土からの出土である。底部は丸底で、やや扁平に内湾する体部から、内湾して聞く口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、内外面とも段・稜を持たない。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。

土師器甕2点は、2はカマド堆積上、3はカマド東袖脇の床面直上からの出土である。2は、長胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径を上位に持つ。口縁部と胴部の境は、段・稜を持たない。3の胴部は長胴で、胴部の最大径を中位に持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデが施される。

金属製品は、煙道部堆積土から出土した刀金具である。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器甕(3)は、本堅穴住居跡に伴うと考えられるが、胴部資料であり明確な時期は不明である。本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)と考えられるSI 86より新しいことから、本堅穴住居跡は、5a期以降と考えられる。

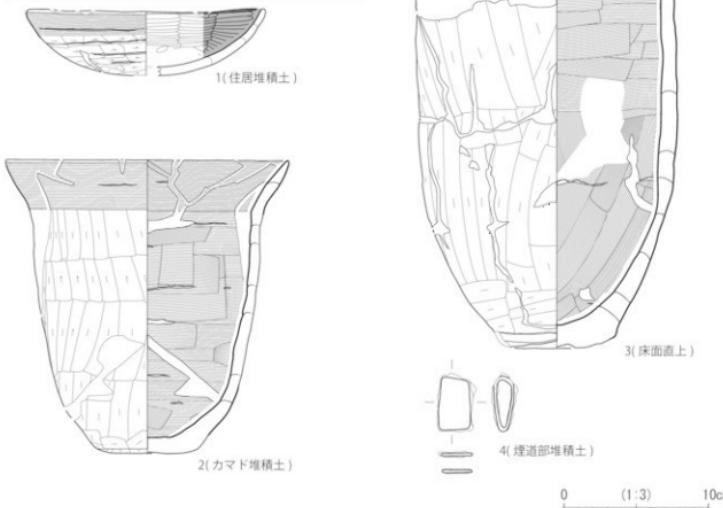


第114図 SI 85 竪穴住居跡

505. 墓積土柱記述表				備考
層序	層位	土色	土性	
住居堆積土	1	10YR3/4	暗褐色	シルト 褐色上ブロックを少量、炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	褐色上ブロックを多量、炭化物・礫土粒をわずかに含む。
	3	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト 炭化物を僅量、礫土粒を全くに含む。 動物歯なし。
圓溝	4	-	-	10YR3/3
カマド	5	-	-	褐色上ブロックを少量、炭化色上小ブロックを含む。
	6	10YR3/3	暗褐色	シルト 褐色上を少量、炭化物・礫土粒をわずかに含む。
	7	10YR2/2	暗褐色	シルト 褐色上をわずかに、黒土・褐色上ブロックを含む。
カマド跡	8	10YR3/4	暗褐色	シルト 径30~50mmの黒褐色上・褐色・褐色上小ブロックをわずかに含む。
	9	10YR3/3	暗褐色	シルト 褐色上大ブロックを多量に含む。
	10	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 褐色上大ブロックを多量に含む。

205. 住居堆積土柱記述表				備考
層序	層位	土色	土性	
P1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 径20~30mmの褐色地土大ブロック・炭化物を多量に含む。
P2	1	10YR3/4	暗褐色	シルト 褐色上を少量、炭化物・礫土粒をわずかに含む。
P3	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 褐色上・炭化物を含む、径50~100mmの礫を含む。
	2	10YR4/4	褐色	シルト 褐色地土を帶びる含む。
	3	10YR4/3	暗褐色	シルト 炭化物を少量、褐色土大ブロックを含む。
	4	10YR3/3	暗褐色	シルト 炭化物をわずかに、褐色土大ブロックを含む。

505. 墓積土柱記述表				備考
通標名	平面形	周縁(cm)	深さ(cm)	
P1	約円形	(42) × 36	21	
P2	不明	(57) × 51	12	
P3	不明	(54) × 48	24	



開拓 番号	資料番 号	調査区	出土地	層位	種別	認種	部位	法積(m)		外面調整	内面調整	備考	写真 現地	
								上	下					
1	C-125	V/K	SIB5	住居堆積土	上部層	土	II	1.34m	-	1層(1.34m) 底(0.45m)	1層(1.34m) 底(0.45m)	505-E	内面削出修理 内外面修理	
2	C-126	V/K	SIB5	カマド 堆積土	上部層	土	II	1.34m -底	0.43	20.2	1層(1.34m) 底(0.45m)	1層(1.34m) 底(0.45m)	505-F	内面削出修理 内外面修理
3	C-127	V/K	SIB5	床面直上	上部層	土	II	-	8.1	(25.8)m 底(8.1m)	1層(8.1m) 底(8.1m)	505-G	外側削出修理 内面修理	
4	N-005	V/K	SIB5	煙道部 堆積土	全層	合成 陶器 骨	II	4.0	1.8	1.6	14.6			

第115図 S185竪穴住居跡出土遺物

## SI86 穫穴住居跡(第116～119図)

【位置・確認】 V区中央、B-C-8・9グリッドに位置する。北西・北東・南東コーナーと東壁・カマド煙道部の一部は、重複遺構(SI77・87)と擾乱により失われている。南西部は、調査区外にかかる。

本竪穴住居跡の掘り方底面から、床面で検出した周溝の内側を周る周溝を検出した。このことから、本竪穴住居跡は建て替えが行われたと考えられる。

【重複】 SI77・85・87・90と重複関係にあり、SI90より新しく、SI77・85・87より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北477cm、東西521cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部標準でN-29°-Wである。

【堆積土】 29層に分層された。1・2層は住居堆積土で、暗褐色シルトを主体とし、炭化物粒・焼土粒を微量に含む。3層は、周溝堆積土である。4～19層はカマド関連層位で、黒褐色・褐色シルトを主体とする層が多く、多くは炭化物・焼土粒を含む。8層は、壁面の崩落上である。燃焼部および煙道部底面の直上に堆積した10・11・15層は、焼土層である。20～29層はカマド袖構築土で、暗褐色・褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含む。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大27cmを測る。

【床面】 中央がわずかに高くなる。掘り方堆積土上面を床面としている。

【柱穴】 床面から9基検出した。P1～4は、規模と位置関係および、P1・3では柱痕跡が検出されたことから、主柱穴に相当すると考えられる。P5～9のうちP7・8では柱痕跡を検出したが、性格は不明である。

【周溝】 床面検出時と掘り方底面で検出した。床面検出時に確認した周溝は、カマド直下を除き、断続的に壁際に沿って周る。規模は、幅27cm、深さ6～12cmを測る。掘り方底面で確認した周溝は、北東コーナーと東側・南側を「L」字状に周る。規模は、幅24cm、深さ4～6cmを測る。

【カマド】 北壁西侧に位置し、壁面に直交して付設される。煙道部の一部は、擾乱により失われている。残存する袖の規模は、西袖が長さ72cm、幅57cm、東袖が長さ45cm、幅45cmを測る。北壁に対し両袖とも直交する。西袖からは、芯材に使用されたと考えられる土師器環・甕・轍が出土している。

燃焼部の規模は、奥行き102cm、幅39cm、奥壁高15cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は起伏し、南側はピット状に陥る。奥壁はやや外傾して立ち上がる。燃焼部の前面には、平面形状は不整円形で、深さ9cmの土坑状の落ち込みを作り。また、燃焼部の中央や北側からは、支脚に転用された土師器甕が、ほぼ原位置を保った状態で出土している。

煙道部の規模は、長さ123cm、幅18cm、深さ20～24cmを測る。底面は、平坦である。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 底面は、ほぼ平坦である。

【出土遺物】 土師器環3点・甕2点・轍1点を掲載した(第119図)。

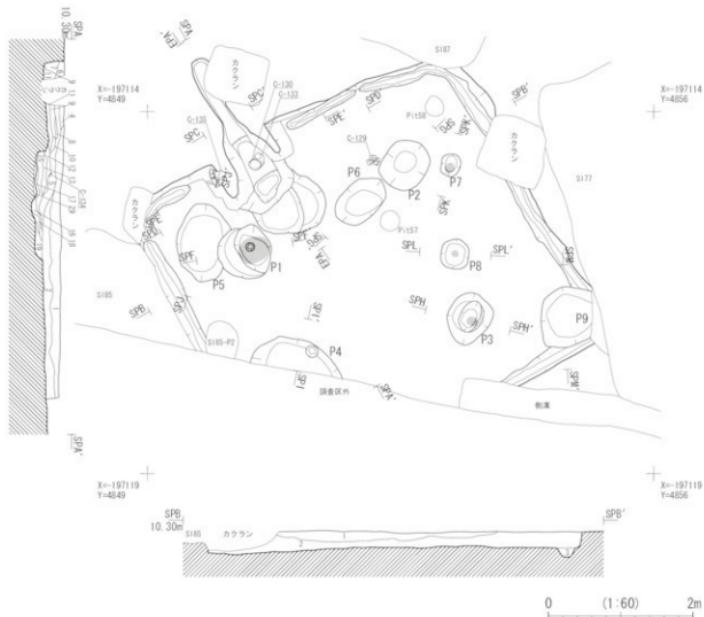
土師器環3点は、1は床面上からの出土で、2はカマド西袖構築土から土師器甕(5)に立てかけた状態で出土した。3は、カマド燃焼部から支脚に転用された土師器甕と共に併せて出土した。1は、底部は平底状の丸底で、内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段を持つ。内面は黒色処理される。2は、底部は丸底で、内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面は沈線によって段を形成し、内面は緩やかな稜を持つ。調整は、口縁部～体部外面はハケメを施したのち、口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズりのちヘラミガキ、内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。底面には、「×」字状の刻書が施される。3は、底部は平底状の丸底で、内湾する体部から外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、内外面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部ヘラケズり、内面ヘラミガキが施される。内面は黒色処

理される。

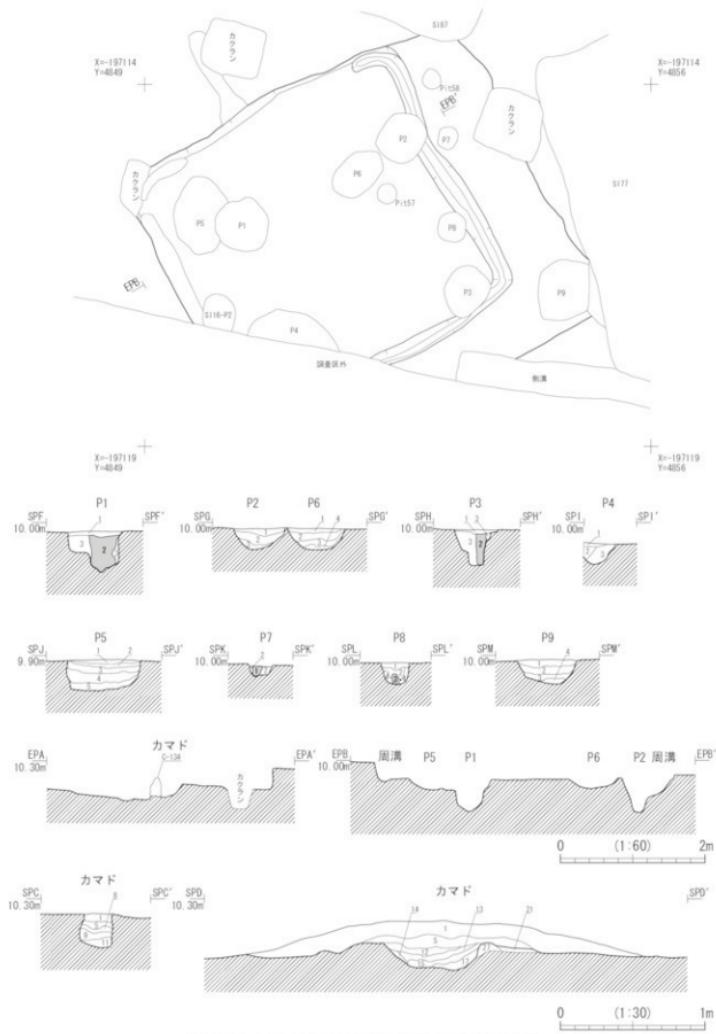
土師器裏2点は、4は、カマド燃焼部から倒立した状態で出土しており、支脚に転用されたと考えられる。5は、カマド西袖構築土からやや傾いた状態で、土師器环(2)と隣接して出土した。4は、胴部は長胴で、底部との境は括れを持ち底部が突出した器形を呈し、胴部最大径を中位に持つ。口縁部は、緩やかに外反して立ち上がり、口縁端部は強く外傾する。口縁部と胴部の境は、明瞭な段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ヘラナデが施される。外面全面は、強い被熱を受ける。成形はいわゆる粗製と呼ばれる範疇に入り、胎土は、石英および小礫を多く含む。色調は被熱を受ける外面が橙色、内面は明赤褐色を呈す。5は、内湾する胴部から内傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部と底部の境は括れを持ち、底部は突出する。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケメのち下平ヘラナデ、胴部内面にはヘラナデが施される。

土師器棚は、カマド西袖からの出土である。底部は単孔式で、胴部は直線的に外傾して立ち上がり、緩やかに外反する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケズリ、胴部内面ヘラナデが施される。

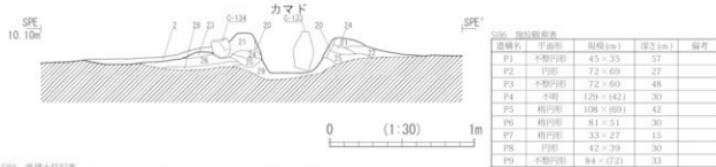
【時期】 上記の遺物は、すべて床面直上、カマド袖、カマド燃焼部から出土しており、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、5a期(7世紀中葉～後葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第116図 SI86竪穴住居跡(1)



第117図 SI 86 積穴住居跡(2)-掘り方完掘時施設検出状況



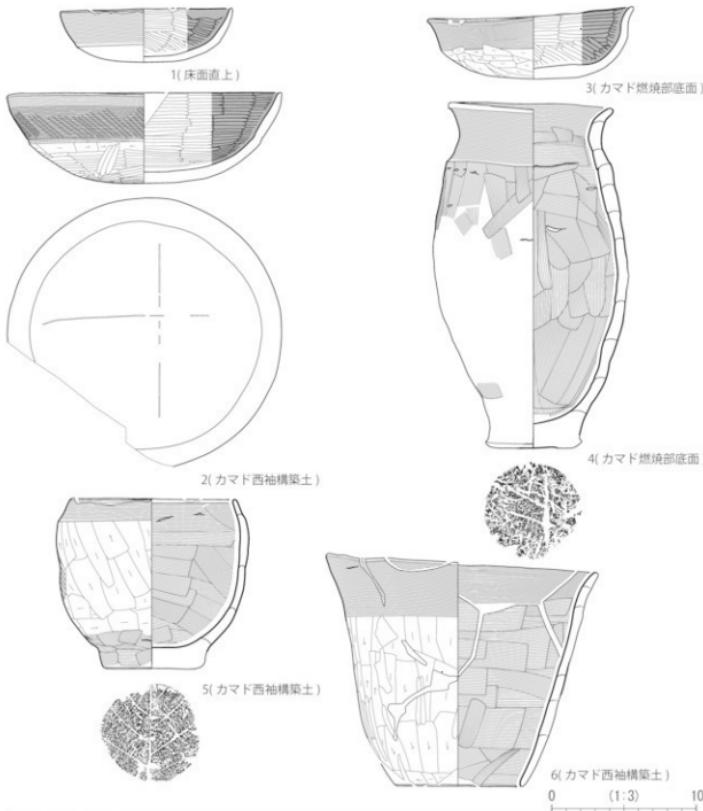
506 実測土質記号

部位	層位	土色	土性	備考
住居構造上	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 1-部に褐色土ブロックを多量、炭化物類・焼土を微量に含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	炭化物類を微量に、褐色土ブロックをわずかに含む。
	3	-	-	詳しく述べなし。
カマド	4	10YR3/1	暗褐色	シルト 焼土粒・炭化物類を含む。
	5	10YR3/2	暗褐色	シルト SYR4/4に下に、赤褐色土層と・炭化物類を含む。
	6	10YR4/4	褐色	シルト SYR4/4と同様の褐色土層と・炭化物類を含む。
	7	2.5YR4/4	褐色	シルト SYR4/4と同様の褐色土層と・炭化物類を含む。
	8	2.5YR3/3	暗褐色	シルト 10YR4/2は高褐色土ブロックを含む。(壁面削落上)
	9	7.5YR3/1	暗褐色	シルト 焼土・炭化物類を含む。
	10	5YR4/3	にじみ・赤褐色	焼土層。
	11	2.5YR2/3	赤褐色	SYR4/4C-5に下に赤褐色土層を含む。焼土層。
	12	5YR3/2	暗褐色	2.5YR3/6明るい褐色土ブロックを含む。
	13	5YR3/1	暗褐色	SYR4/4C-5に赤褐色土ブロックを含む。
	14	10YR2/1	褐色	SYR4/4C-5に赤褐色土層とを含む。
	15	5YR3/2	暗褐色	焼土層。
	16	10YR2/1	褐色	SYR4/4C-5に赤褐色土層とを含む。
	17	2.5YR3/2	暗褐色	焼土粒・5YR3/2層とを含む。
	18	5YR3/4	にじみ・褐色	10YR2/2は褐色土ブロックを少量に含む。
	19	10YR3/2	暗褐色	SYR4/4C-5に赤褐色土層とを含む。
方型炉	20	10YR3/4	暗褐色	シルト
	21	10YR3/4	暗褐色	7.5YR3/3暗褐色土ブロックを含む。
	22	10YR3/3	暗褐色	7.5YR2/3褐色土層と焼土を少量含む。
	23	10YR4/4	褐色	シルト
	24	10YR4/4	褐色	シルト
	25	10YR3/4	暗褐色	シルト
	26	10YR3/4	暗褐色	シルト SYR5/6褐色土層と・炭化物類をわずかに含む。
	27	2.5YR3/3	暗褐色・赤褐色	シルト
	28	10YR3/3	暗褐色	シルト SYR5/8明るい褐色土層とをわずかに含む。
掘り方	29	10YR3/4	暗褐色	10YR3/4褐色土層上・10YR3/2は褐色土ブロックを多量、5YR4/8赤褐色・7.5YR3/4褐色土層上・炭化物類を含む。
同溝	-	-	-	断面図なし。
(掘り方検出)	-	-	-	断面図なし。

506 実測土質記号

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 焼土粒・炭化物類をわずかに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR3/1と赤褐色土層とを重複する。(柱根跡)
	3	10YR3/4	褐色	シルト 10YR3/1と赤褐色土層とを重複する。SYR4/4褐色土ブロック含む。
P2	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 炭化物・焼土粒・10YR5/6 黄褐色土ブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR3/3と赤褐色土層とを重複する。SYR4/4褐色土ブロックを少量含む。
	3	10YR3/3	暗褐色	粘土層シルト 炭化物を少量含む。
P3	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 炭化物・焼土粒を少量含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	SYR2/1黒褐色土ブロックを少量、10YR4/4褐色土小ブロックを少量含む。(柱根跡)
	3	10YR3/4	暗褐色	SYR3/2黒褐色土ブロックを少量、10YR4/4褐色土小ブロックを含む。
P4	1	10YR3/2	暗褐色	シルト 炭化物・焼土粒を少量含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	SYR4/4C-5に褐色土ブロックを多量に含む。
	3	10YR3/2	暗褐色	10YR4/4灰褐色土・10YR3/2は褐色土を少す。SYR4/8赤褐色土層と・炭化物類をわずかに含む。
P5	1	10YR3/4	暗褐色	シルト SYR4/4褐色土・10YR3/2は褐色土を少す。SYR4/8赤褐色土層と・炭化物類をわずかに含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト SYR4/4褐色土・10YR3/2は褐色土を少す。
	3	10YR3/4	暗褐色	SYR4/4褐色土・10YR3/2は褐色土を少す。
P6	1	10YR3/3	暗褐色	シルト SYR5/6褐色土・10YR5/6 黄褐色土ブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR3/3褐色土・10YR3/2は褐色土を少す。SYR5/6褐色土ブロックを少量含む。
	3	10YR3/2	黒褐色	粘土層シルト 焼土粒をわずかに含む。
P7	4	10YR3/3	暗褐色	焼土粒をわずかに含む。
	1	10YR4/2	炭化物類	シルト 上部に炭化物類を多量に含む。(柱根跡)
	2	10YR4/3	にじみ・暗褐色	上部に SYR4/4炭化物類シルトを少量。10YR4/6褐色土層をわずかに含む。
P8	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR3/2は褐色土を少す。
	2	10YR3/3	暗褐色	10YR3/2は褐色土を少す。
	3	10YR3/3	暗褐色	焼土粒をわずかに含む。(柱根跡)
P9	4	10YR3/4	暗褐色	シルト SYR6/6褐色土層と小ブロック・炭化物類をわずかに含む。
	1	10YR3/3	暗褐色	SYR6/6褐色土層と小ブロック・炭化物類をわずかに含む。
	2	10YR3/2	黒褐色	SYR6/6褐色土層と小ブロック・炭化物類をわずかに含む。
	3	10YR3/3	暗褐色	SYR6/6褐色土層と小ブロック・炭化物類をわずかに含む。
	4	10YR3/4	暗褐色	SYR6/6褐色土層と小ブロック・炭化物類をわずかに含む。

第118図 Si-86豎穴住居跡(3)



回数 番号	登録 番号	調査ID	出土地	層位	種別	断面	部位	正量 (kg)			外側調整	内側調整	備考	写真 関係
								上付	横付	高さ				
1	C-129	VJK	S186	床面直上	上部層	H	定形	11.9	-	3.7	上付: 2.2kg, 横付: 4kg	外付: 5kg	内面黒色処理、外面厚朴 塗装	74
2	C-131	VJK	S186	カマド西袖 構築土上	上部層	H	1段目 一底	(18.9)	-	(6.3)	上付: 0.4+1.2kg → 沈殿, 横付: 1kg → 塗装	外付: 5kg	内面黒色処理、底面: X 削落	74
3	C-130	VJK	S186	カマド燃焼部 底面	上部層	H	1段目 一底	(14.2)	-	5.0	上付: 2.2kg, 横付: 5kg	外付: 5kg	内面黒色処理、内面体部 に剥離	74
4	C-133	VJK	S186	カマド燃焼部 底面	上部層	裏	定形	11.4	6.6	23.9	上付: 2.2kg, 横付: 2kg, 底: 6kg	外付: 2.2kg, 横付: 2kg	内面剥離物質剥離面再 生、外付: 1kg → 上半側(1 kg)、下半側(1kg)、剥離物質部分 剥離(2kg)	74
5	C-134	VJK	S186	カマド西袖 構築土上	上部層	裏	定形	11.5	6.7	11.8	上付: 2.2kg, 横付: 2kg, 底: 5kg	上付: 2.2kg	内面剥離物質剥離面再 生、外付: 1kg → 上半側(1 kg)、下半側(1kg)、剥離物質部分 剥離(2kg)	74
6	C-135	VJK	S186	カマド西袖 構築土上	上部層	裏	1段目 一孔	18.8	(8.8)	16.0	上付: 2.2kg, 横付: 2kg	上付: 2.2kg, 横付: 2kg	内面剥離物質剥離面再 生、外付: 1kg → 上半側(1 kg)、下半側(1kg)、剥離物質部分 剥離(2kg)	74

第119図 S186竪穴住居跡出土遺物

### SI87 穫穴住居跡(第120～124図)

【位置・確認】 V区中央、B-C-8グリッドに位置する。北西・北東コーナーおよび西壁南東、カマド燃焼部・煙道部の一部は、擾乱により失われている。

【重複】 SI86・89・90と重複関係にあり、これらより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北396cm、東西378cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-21°・Eである。

【堆積土】 21層に分層された。1～3層は住居堆積土で、暗褐色シルトを主体とする。4層は、周溝堆積土である。5～17層は、カマド関連層で、黒褐色・暗褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物を含む。このうち、5層は壁面崩落土、9層は煙道部天井崩落土である。18・19層は、カマド袖構築土である。20・21層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 やや外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大27cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。20層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から6基検出した。P1は、位置関係および、柱痕跡が確認されたことから、主柱穴に相当すると考えられる。P2～6は、堆積土中に焼土粒・炭化物を含むものが多いが、性格は不明である。

【周溝】 検出した範囲においては、西壁は壁際沿って周り、南壁西半部は壁からやや離れた位置を周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅24cm、深さ24～27cmを測る。

【カマド】 北壁中央やや東寄りに位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部および東袖の大半と煙出し部は、擾乱により失われている。残存する袖の規模は、西袖が長さ84cm、幅39cm、東袖が長さ27cm、幅24cmを測る。両袖とも、壁面に対して直交する。

燃焼部は、南北部は擾乱により失われており残存する規模は、幅41cm、奥壁高17cmを測る。奥壁は、緩やかに外傾して立ち上がり、壁面から張り出す。煙道部との境にはテラス状の段を持つ。

煙道部の規模は、長さ108cm、幅24cm、深さ12～15cmを測る。底面は平坦である。

【その他の施設】 土坑を1基検出した。平面形状は不整形で、堆積土は炭化物を多量、焼土粒をわずかに含む。SK1堆積土出土遺物と床面直上出土遺物に接合関係がみられた。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。底面は平坦である。深さは、15～24cmを測る。

【出土遺物】 土師器環2点・甕3点・壺1点、須恵器環5点、土製品1点、金属製品1点、礫石器2点を掲載した(第122～124図)。

土師器環2点(第122図-1・2)は、いずれも床面直上からの出土である。1は、底部は平底状の丸底で、内湾する体部から直線的に外傾する口縁部にいたる器形を呈する。2は、底部は丸底で、内湾する体部から弱く外反する口縁部にいたる器形を呈する。1・2とも口縁部と体部の境は、外面に不明瞭な段を持ち、内面は段・棱を持たない。調整は、1は外側へラミガキ、2は口縁部外側ヨコナデ、体部外側ヘラケズリのちヘラミガキ、内面ヘラミガキが施される。2の底部外側には、「×」字状を含む複数の刻書が施される。

土師器甕3点(第122図-3～5)は、3・4は床面直上、5は床面施設(SK1)堆積土からの出土である。このうち3は、住居北東部から一括で出土している。3～5の胴部はいずれも長胴で、胴部の最大径は、3・4は上位、5は中位に持つ。口縁部は、強く外傾し、口縁部と胴部の境は段・棱を持たない。3の調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外側ハケメのち下半ヘラナデ、胴部内側ハケメのち下半ヨビナデが施される。ハケメ工具は2種使用されている。4・5の調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外側ナデないしハケメ、胴部内側ヘラナデが施される。

土師器壺(第123図-1)は、床面直上からの出土である。底部は単孔式で、胴部は孔から緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部は外傾する器形を呈する。口縁部と胴部の境は、段・棱を持たない。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、

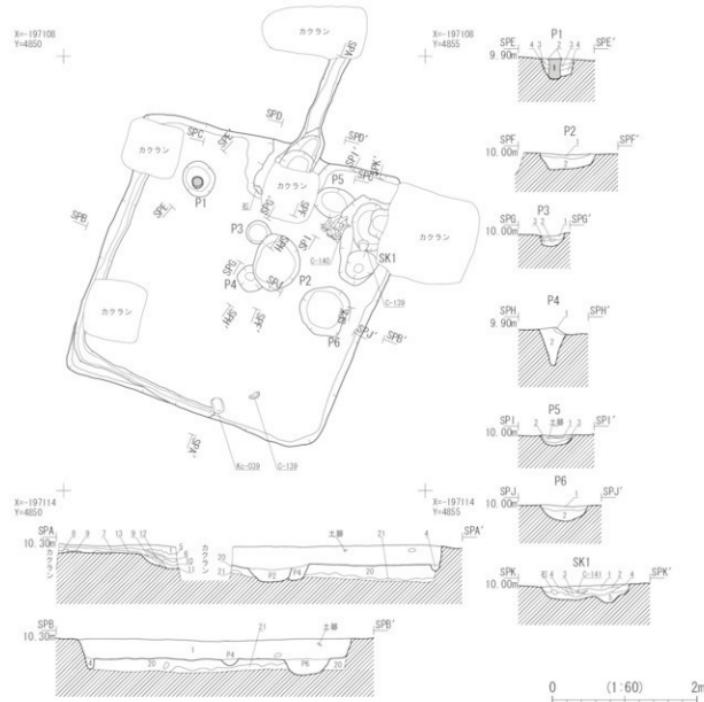
胸部外面へラケズリのちヘラミガキ、胸部内面へラナデで、孔周辺はヘラケズリが施される。

須恵器环5点(第123図・2~6)は、2・3・6は床面直上、4・5は住居堆積土からの出土である。このうち、2は、床面施設(SK1)出土遺物と接合関係がみられる。2・3は同一の器形で、法量に違いがみられる。底部切り離し技法は、共に回転へラ切りである。4は、底径がやや小さく、体部の開きが大きい器形を呈し、器厚が薄い。5は、器形は2・3と似るが、底部切り離し技法は静止系切りである。6は高台付环、高台は外傾し、外面はカエリ状となる。

土製品(第123図・7)は、床面直上から出土した土玉である。

金属製品(第123図・8)は、住居堆積土から出土した鎌である。

礫石器2点(第124図・1・2)は、いずれも床面直上からの出土である。1は、扁平な円礫を素材とする台石である。器体中央の広範囲に敲打痕が確認できる。下半部に線条痕が確認できるが、磨面は確認できない。石材は、多孔質な石英安山岩質凝灰岩を使用している。上半部分は欠損している。2は、扁平な梢円礫を素材とする台石である。表面裏面及び周縁部に敲打痕が確認され、一部に剥離を作り。敲打痕は一箇所で大きく発達せず、小規模で散在している。



る。やや大型であることから台石としたが、周縁部には敲打痕が確認され、敲石として使用した可能性がある。石材は、安山岩を使用している。

**【時期】** 上記の遺物のうち床面直上から出土した土器師環(第122図-1・2)・甕(第122図-3・4)・瓶(第123図-1)、須恵器环(第123図-2・3・6)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、5b 1期(7世紀末葉~8世紀初頭)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。

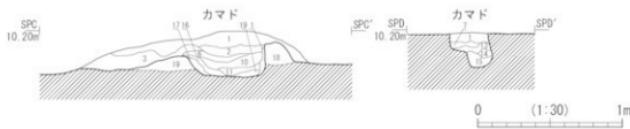


図127 施設土器記録表

部位	層位	色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR3/2 黒褐色ブロックを少量、径15mmの砂上粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR4/6暗褐色上ブロック・砂・粘土を少量含む。
	3	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR4/6暗褐色上ブロックを多量に含む。
雨溝	4	-	-	計6なしだ。 (壁面削落土)
カマド	5	10YR2/1	赤褐色	シルト 10YR2/1 黒褐色上を微弱に、砂上粒を微量に含む。
	6	10YR2/3	赤褐色	シルト 10YR2/3 黒褐色上を微弱に、径10mmの砂上粒を微量に含む。
	7	10YR3/2	赤褐色	シルト 10YR2/1 黑褐色上ブロック・砂・粘土を含む。
	8	10YR3/1	赤褐色	シルト 10YR2/1 黑褐色上ブロックを多量に含む。
	9	10YR2/1	赤褐色	シルト (壁面削落土)
	10	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR2/1 黑褐色上を微弱に、砂上粒を微量に含む。
	11	10YR2/3	暗褐色	シルト 10YR2/1 黑褐色上を微弱に、砂・粘土・炭化物類を微量に含む。
	12	10YR4/3	にじみ・暗褐色	シルト 5YR3/3 暗褐色上を微弱に、砂上粒を微量に含む。
	13	10YR3/1	暗褐色	シルト 10YR2/4 にじみ・暗褐色上ブロックを含む。
	14	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR2/2 黑褐色上を微量に含む。
	15	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR2/2 黑褐色上を微量に含む。
	16	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR2/2 黑褐色上を微量に含む。
	17	10YR3/3	暗褐色	シルト 下部の10YR2/2 黑褐色上を微量に含む。
	18	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR2/1 黑褐色上・砂上を含む。
	19	10YR3/4	暗褐色	シルト 上部の10YR4/4暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上ブロックを少量含む。
	20	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR4/6暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上・砂上を少量含む。
	21	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR2/2 黑褐色上を微弱にわずかに含む。

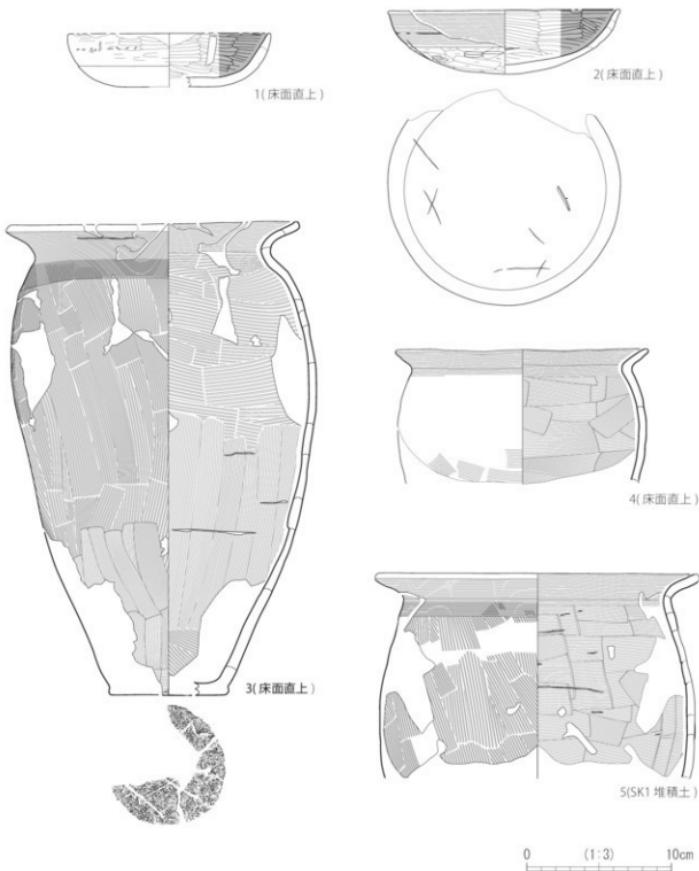
図128 施設堆積土記録表

部位	層位	色	土性	備考
P1	1	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR4/4暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上ブロックを含む。(和田鉢)
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR2/6暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上ブロックを多量に含む。
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR2/6暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上ブロックを含む。
P2	4	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上を含む。
	1	10YR3/2	黒褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上・砂上を含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	粘質シルト 10YR2/4 暗褐色上・砂上を含む。
	3	10YR3/3	赤褐色	シルト 2.5YR4/1赤褐色上を含む。
P3	4	2.5YR3/2	暗褐色	シルト 2.5YR4/1赤褐色上を含む。
	1	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上を含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上を含む。
P4	3	2.5YR3/2	暗褐色	シルト 2.5YR4/1赤褐色上を含む。
	1	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上・砂上を含む。
	2	10YR3/2	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上・砂上を含む。
P5	1	2.5YR3/1	赤褐色	シルト 2.5YR4/1赤褐色上を含む。
	2	10YR3/1	暗褐色	シルト 2.5YR4/1赤褐色上・砂上を含む。
	3	2.5YR3/2	暗褐色	シルト 2.5YR4/1赤褐色上・砂上を含む。
P6	1	10YR3/2	黒褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上・砂上を含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上・砂上を含む。
	3	10YR2/1	黑色	シルト 10YR2/4 暗褐色上・10YR2/2 黑褐色上・砂上を含む。
SK1	4	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上を含む。
	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上を含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上を含む。
	3	10YR2/1	黑色	シルト 10YR2/4 暗褐色上を含む。
	4	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上を含む。
SK2	5	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR2/4 暗褐色上を含む。

図129 施設堆積土記録表

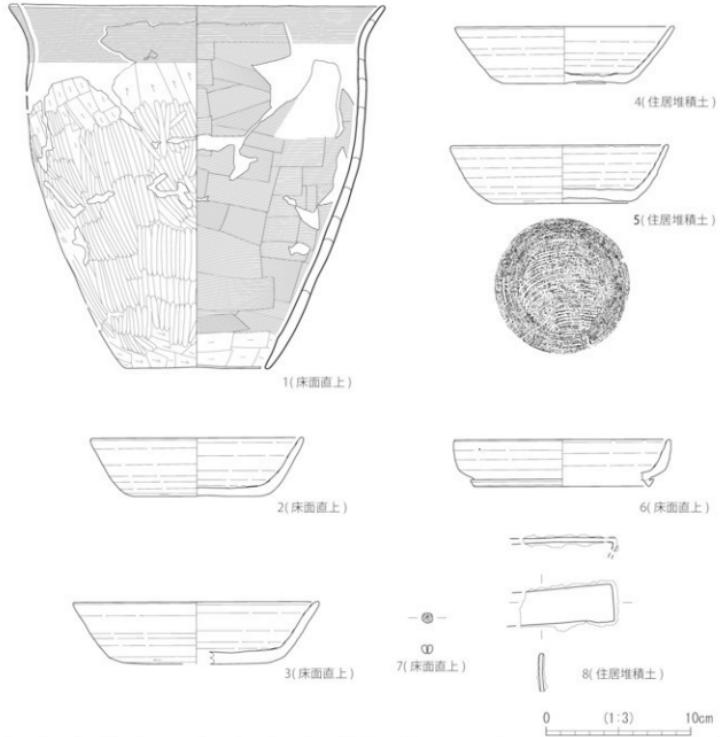
遺構名	平面形	規模(cm)	深度(cm)	備考
P1	円形	48 × 45	27	
P2	円形	78 × 63	21	
P3	円形	(36) × 33	12	
P4	円形	36 × (30)	34	
P5	楕円形	(42) × 42	12	
P6	不規則形	72 × 69	21	
SK1	不規則形	120 × (63)	24	

第121図 SI87竪穴住居跡(2)



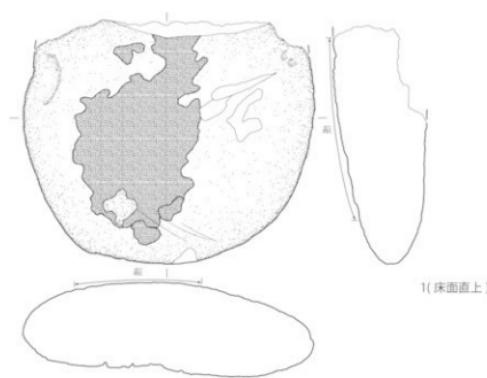
第122図 SI-87竪穴住居跡出土遺物(1)

固形 番号	登録 番号	調査区	出土地	部位	種別	断面	部位	法量 (cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 図版
								上縁	下縁	底				
1	C-136	V1C	SB87	床面直上	土師器	环	上縁	(14.0)	-	(3.7)	上縁-底(3.3) 底-底(3.3)	内底(3.3)	内底黑色包理、外表面 粗造	74
2	C-139	V1C	SB87	床面直上	土師器	环	断定形	(16.1)	-	4.5	上縁-3.3cm 底-底(3.3)×3.3cm	内底(3.3)	内底黑色包理、外表面 粗造	74
3	C-140	V1C	SB87	床面直上	土師器	環	上縁	20.0	8.0	32.8	上縁-3.3cm 底-底(3.3)×3.3cm	内底(3.3)	内底調整用工具2種使用 用?	74
4	C-142	V1C	SB87	床面直上	土師器	環	上縁	(17.4)	-	(9.3)	上縁-3.3cm 底-底(3.3)×3.3cm	内底(3.3)	外表面磨利器、歪み刃 用?	74
5	C-141	V1C	SB87	SK1堆積上	土師器	環	上縁	(22.4)	-	(14.1)	上縁-3.3cm 底-底(3.3)×3.3cm	内底(3.3)	外表面削削刃用	74

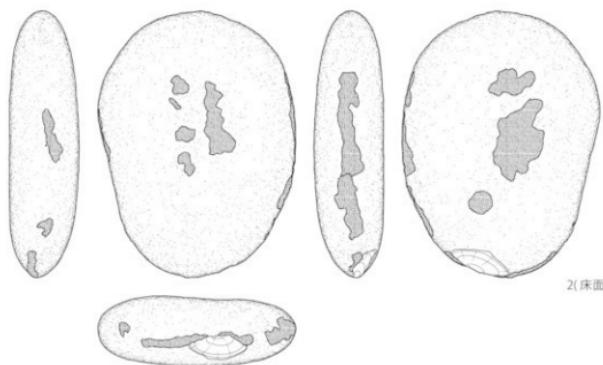


回数 番号	登錄 番号	調査区	出土地	層位	種別	部種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
								上野	底径	高さ				
1	C-145	V1K	SB7	床面直上	上部破片	瓶	上縁	(26.0)	(9.8)	25.1	上縁:2.7cm, 幅:(9.8)→(9.3), 孔底径:6.5cm	上縁:2.7cm, 幅:(9.8)→(9.3), 孔底径:6.5cm	75	
2	E-021	V1K	SB7	床面直上	須恵器	瓶	上縁	14.7	8.7	4.1	底:1.8cm(内切り一分け) 口縁:1.2cm	9%調整	9%:右	75
3	E-022	V1K	SB7	床面直上	須恵器	瓶	上縁	(17.0)	(10.3)	4.3	9%調整 底:1.8cm(内切り一分け)	9%調整		75
4	E-023	V1K	SB7	住居堆積上	須恵器	瓶	上縁	(15.1)	(8.5)	3.9	9%調整 底:1.8cm(内切り一分け)	9%調整	9%:右	75
5	E-020	V1K	SB7	住居堆積上	須恵器	碗	略完形	15.1	9.5	4.1	9%調整 底:1.8cm(内切り一分け) 底:2.0cm(内切り一分け)	9%調整 内外面大差無 内:外:1.2cm		75
6	E-024	V1K	SB7	床面直上	須恵器	瓶	上縁	(14.9)	(12.0)	3.3	9%調整、底:1.8cm 底:2.0cm(内切り一分け)	9%調整		75
回数 番号	登錄 番号	調査区	出土地	層位	種別	部種	部位	法量(cm)			特徴・備考	写真 図版		
								全長	幅	厚				
7	P-019	V1K	SB7	床面直上	上鉢部	土器	上玉	0.6	0.7	0.2	内:外:1.4, 底:0.1cm, 実際			75
回数 番号	登錄 番号	調査区	出土地	層位	種別	部種	部位	法量(cm)			特徴・備考	写真 図版		
								全長	幅	厚				
8	N-006	V1K	SB7	住居堆積上	金属製品	鍔		(6.8)	(2.5)	(0.8)	(29.1)			75

第123図 SI187竪穴住居跡出土遺物(2)



1(床面上)



2(床面上)

0 (1:3) 10cm

图版 图号	登錄 器号	調查區	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	寫真 圖版
							全長	幅	厚				
1	Kr-039	VIC	S8R7	床面直上	鐵石器	石石器	10.8	20.2	0.5	(1619.89)	石英岩(10塊 總重1.7kg 火燒石少)	火燒 鐵石器(5塊) 鐵石器少	75
2	Kr-043	VIC	S8R7	床面直上	鐵石器	石石器	18.4	13.7	4.8	(583.51)	安山岩 細砂礫半埋, 嵌(15個所)程度變	細砂 鐵石器半埋, 嵌(15個所)程度變	75

第124圖 SI87豎穴住居跡出土遺物(3)

### SI88 積穴住居跡(第125～127図)

【位置・確認】 V区中央、B-8グリッドに位置する。カマド燃焼部および北西コーナー付近は、擾乱により失われている。

【重複】 SI89、SX2・3、SM2と重複関係にあり、これらより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北386cm、東西474cmを測る。平面形状は、隅丸方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-7°-Eである。

【堆積土】 7層に分層された。1・2層は住居堆積土で、褐色・にほい黄褐色シルトを主体とし、IV層ブロックを含む。3層は周溝堆積土である。4・5層は、カマド関連層位で、褐色シルトを主体とし、焼土を含む。6・7層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾する。残存する壁高は、最大23cmを測る。

【床面】 東西方向に12cmほどの高低差がみられる。6・7層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から4基検出した。このうち、P3では柱痕跡を確認した。P1・2については、柱痕跡は確認していないが、規模や位置関係から、P1～3は主柱穴に相当するものと考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、壁際に沿って周溝する。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅17～30cm、深さ17cmを測る。北東コーナー部分は、テラス状に一段高くなる。

【カマド】 燃焼部および煙道部の一部が、擾乱により失われている。残存する煙道部からの推定では、北壁中央やや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されたと考えられる。

煙道部の規模は、残存する部分で長さ180cm、幅38cm、深さ28cmを測る。底面は平坦で、煙出し部に向かって下がる。

煙出し部の規模は、上端径40cm、煙道部からの深さ30cmを測り、ピット状に落ち込む。

【その他の施設】 土坑を1基検出した。SK1は、推定されるカマド燃焼部のやや南に位置する。堆積土3層は、焼土・炭化物粒を含む。

【掘り方】 ほぼ全面が掘り込まれる。底面は概ね平坦で、部分的に浅く窪む。深さは、4～20cmを測る。

【出土遺物】 土師器環1点・甕3点・壺1点、須恵器盤1点・甕1点を掲載した(第126・127図)。

土師器環(第126図-1)は、住居堆積土からの出土である。1は、底部は平底状の丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。体部内面は、黒色処理される。

土師器甕(第126図-2・3、第127図-1)は、第126図-2・3はカマド東袖脇、第127図-1は北東コーナー部分から、正位もしくは横位で潰れた状態で、床面直上から出土している。第126図-2は、底部は突出し、内湾する胴部から緩やかに外傾する口縁部にいたる器形を呈し、胴部の最大径を中位に持つ。口縁部と体部の境は段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデが施され、外面は被熱を受ける。第126図-3は、長胴の胴部から外反する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、中位に持つ。口縁部と胴部の境は不明瞭な段を持つ。第127図-1は、上げ底状の底部に強く内湾して球胴となる器形を呈する。調整は、第126図-3・第127図-1とも胴部外面ハケヌ、胴部内面ヘラナデを基調とし、第127図-1はハケヌのちヘラナデ、ヘラケズリが部分的に施される。

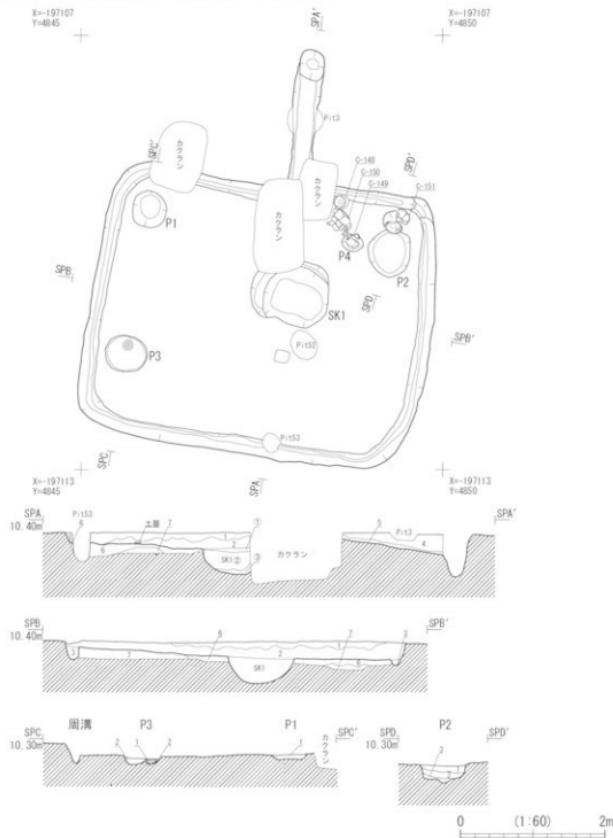
土師器壺(第127図-2)は、カマド東袖脇床面直上からの出土である。底部は平底で、内湾する胴部から直線的に外傾する口縁部にいたる器形を呈し、胴部の最大径を下位に持つ。底部は、焼成後に穿孔される。口縁部と体部の境は段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデが施され、外面は被熱を受け

る。内面には、棒状工具による工具痕がみられる。

須恵器甕(第127図-3)は、堆積土からの出土である。体部は緩やかに内湾し、やや内湾しながら立ち上がる口縁部にいたる器形を呈する。

須恵器甕(第127図-4)は、口縁部は外反し、頸部内面にヘラナデが施される。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器甕(第126図-2・3、第127図-1)・甕(第127図-2)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、4b期(7世紀初頭～前葉)～5a期(7世紀中葉～後葉)に位置づけられることから、本竪穴住居跡もこの時期幅を持つと考えられる。

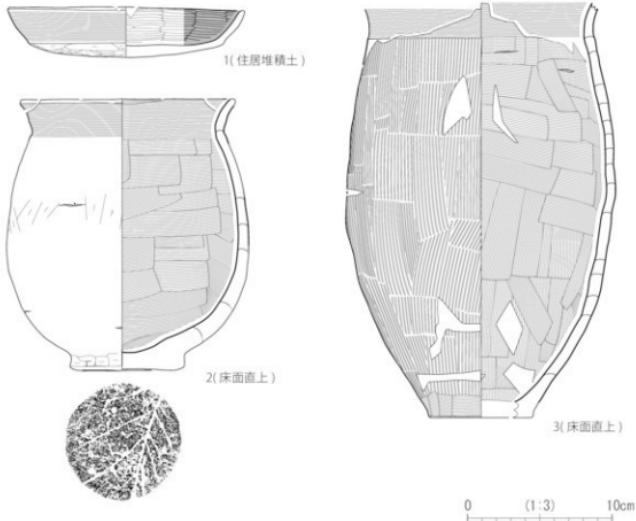


第125図 SI88竪穴住居跡

508 墓場+3井記録						
部段	層位	土色	土性	備考		
住居堆積上	1 10YR4/4	褐色	シルト	径30mmのV型ブロックを多量に含む。		
	2 10YR4/3	にじみ・褐色	シルト	径10mmのV型ブロックを多量に、炭化物・焼土粒を少量含む。		
床溝	3 10YR4/4	褐色	シルト	無		
	4 10YR4/4	褐色	シルト	径10mmのV型ブロック・焼土粒を少量含む。		
カマド	5 10YR3/2	黒褐色	シルト	径30mmのV型ブロック・炭化物を少量含む。		
	6 10YR3/3	褐色	シルト	褐色土ブロックを含む。		
掘り方	7 10YR4/4	褐色	シルト	褐色土小ブロックを少額含む。		

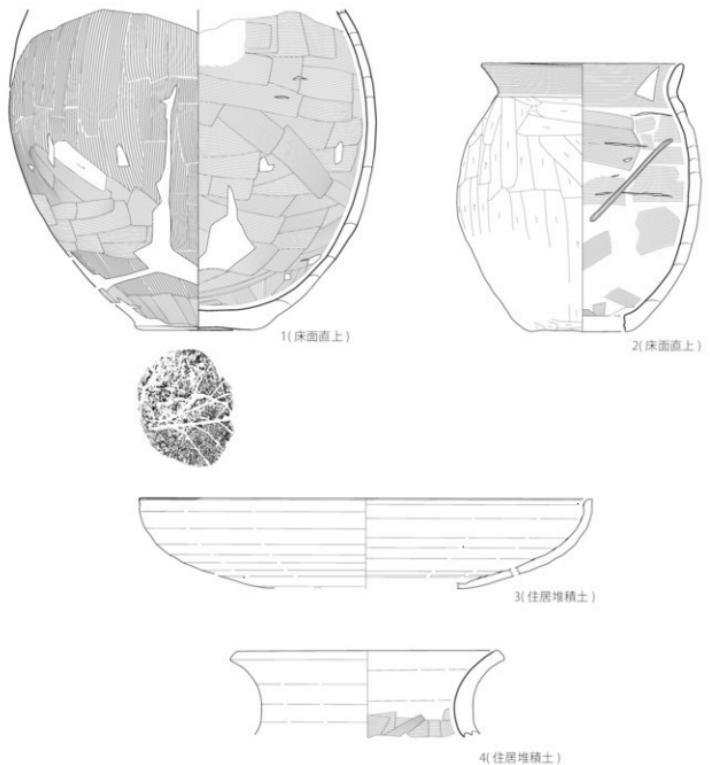
508 墓場堆積土+3井記録						
層位	層位	土色	土性	備考		
P1	1 10YR4/3	にじみ・褐色	シルト	径30mmのV型ブロックを多量に含む。		
	2 10YR3/4	褐色	シルト	褐色土ブロック・炭化物を少額含む。		
P2	2 10YR4/6	褐色	砂質シルト	炭化物を少額含む。		
	3 10YR4/4	褐色	砂質シルト	無		
P3	1 10YR3/3	褐色	シルト	径30mmのV型ブロックを含む。(木柱跡)		
	2 10YR3/3	褐色	シルト	径30mmのV型ブロックを多量に含む。		
P4	1 10YR3/3	褐色	シルト	黒色土ブロック・焼土粒を多量に含む。		
SK1	① 10YR3/3	褐色	シルト	炭化物を微量に含む。		
	② 10YR3/3	褐色	シルト	径30mmのV型ブロックを多量に含む。		
	③ 10YR4/4	褐色	シルト	径10mmの焼土ブロックを多量に含む。		

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	52 × 47	7	
P2	不整形円形	67 × 58	25	
P3	楕円形	59 × 50	12	



番号 器名	質地	調査区	出土地	層位	種別	測定	直徑(cm)	横径(cm)	高さ(cm)	外側調整	内側調整	備考	写真 類別
1 C-145	VTK	SB88	住居堆積上	上部敷	灰	1.0mm	16.4	-	3.5	上縁-下縁、底-底、内側	内側-外側	75	
2 C-148	VTK	SB88	床溝直上	上部敷	灰	1.0mm	(14.9)	7.9	18.7	上縁-下縁、底-木製枠、内側-外側	上縁-下縁、底-底、内側	75	
3 C-150	VTK	SB88	床溝直上	上部敷	灰	0.5mm	(7.2)	(28.6)	1.5mm	上縁-下縁、底-木製枠上、内側-外側	上縁-下縁、底-底、内側	75	

第126図 Si 88豎穴住居跡出土遺物(1)



第127図 SI88竪穴住跡出土遺物(2)

固施 番号	骨器 番号	調査区	出土地	部位	種別	都種	部位	法量(cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 回数
								(1)件	(2)件	(3)件				
1	C-151	V区	SB88	床面上	土師器	甕	側～底	-	(8.7)	(22.1)	側(8.7→14.0) 底(22.1→27.7) 底(木製底→50.0)	側～底(27.7) 底(50.0)	76	
2	C-149	V区	SB88	床面上	土師器	甕	略定形	14.0	6.5	18.5	口幅(14.0) 側(20.0→50.0)	口幅(14.0) 側(20.0→50.0)	76	
3	E-026	V区	SB88	住居堆積土	泥芯器	甕	口幅	(31.3)	-	(6.2)	口幅調整	内外面自然黏付着	76	
4	E-027	V区	SB88	住居堆積土	泥芯器	甕	口幅	(18.9)	-	(6.0)	口幅調整	口幅調整、側(5.0)	76	

0 (1:3) 10cm

### SI89 穫穴住居跡(第128～130図)

【位置・確認】 V区中央、B-C-8ゲートに位置する。西壁・東壁と南壁の西半は、重複造構(SI 87・88)と擾乱により失われている。

【重複】 SI87・88、SX1と重複関係にあり、SI87・88より古く、SX1より新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北438cm、東西431cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-9°-Eである。

【堆積土】 21層に分層された。1・2層は住居堆積土で、暗褐色シルトを主体とする。3～14層はカマド関連層位で、暗褐色・黒褐色シルトを主体とする層が多く、焼土粒・焼土ブロックを含む。14層は、被熱による変色と硬化がみられる。15～21層はカマド袖構築土で、15・16層は被熱による変色と硬化がみられる。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大15cmを測る。

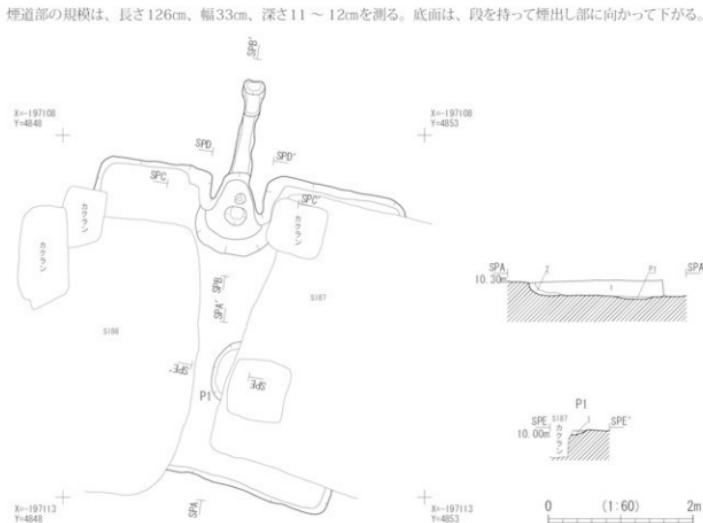
【床面】 ほぼ平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から1基、カマド袖先端部の直下で2基検出した。P2・3はカマド袖構築材の掘り方と考えられる。

【周溝】 検出していない。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に対して直交して付設される。袖の規模は、西袖が長さ60cm、幅45cm、東袖が長さ72cm、幅48cmを測る。北壁に対し両袖とも直交する。袖の内面には、被熱による変色と硬化が認められる。また、両袖の先端部直下から、芯材の掘り方と考えられるピットを2基検出した。

燃焼部の規模は、奥行き114cm、幅99cm、奥壁高14cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は皿状に窪み、中央はピット状に落ち込む。奥壁は、外傾して立ち上がる。



第128図 SI89竪穴住居跡(1)

煙出し部の規模は、上端径30cm、煙道部からの深さ6cmを測り、ピット状に窪む。底面は、北側に下がり、壁面は垂直に立ち上がる。

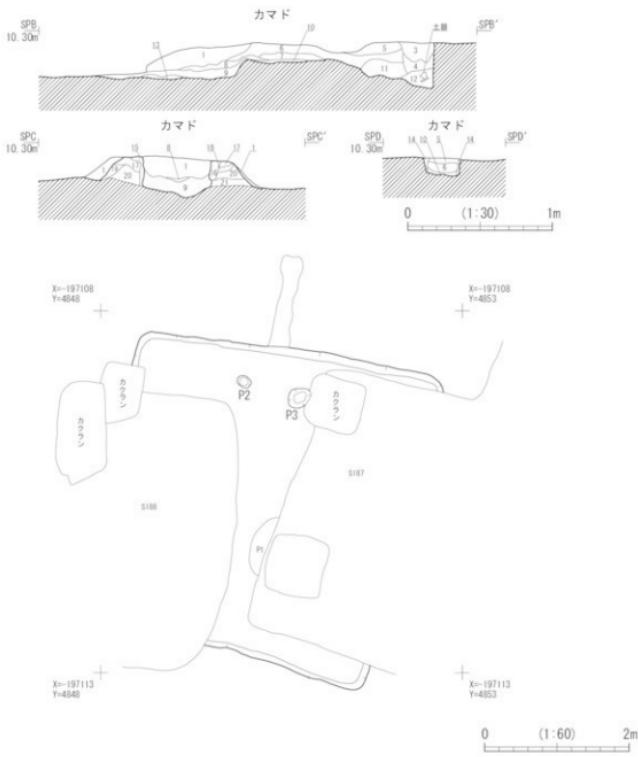
【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 掘り方を持たない。

【出土遺物】 堆積土中より出土した石製品1点を除き、図化できるような遺物はなかった(第130図)。

石製品は、不整な長方形を呈する不明石製品である。縁辺に、急角度な剥離を施し形状を整えている。裏面は、加工と考えられる研磨により平滑になっている。比較的軟質な石材を使用しており、刃物痕が多数観察される。石材は、石英安山岩質凝灰岩を使用している。

【時期】 伴う土器は無いが、本書の時期区分4b期(7世紀初頭～前葉)～5a期(7世紀中葉～後葉)と考えられる。SI88より古いことから、本竪穴住居跡の時期は、4b～5a期と同時期かそれ以前と考えられる。



第129図 SI89竪穴住居跡(2)-掘り方完掘時施設検出状況

SI89 黒褐色+3152系						
部位	層位	土色	土性		備考	
住居堆積上	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR4/4 黒色土・10YR2/3 黒褐色ブロックを多量に含む。	
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR4/4 黑色土・ロック含む。	
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色ブロックを多量に含む。	
	4	10YR2/1	黑色	シルト		
	5	10YR3/3	暗褐色	シルト		
	6	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	5YR5/8 明る褐色土・粘土質多量に含む。	
	7	10YR3/4	暗褐色	シルト		
	8	10YR2/3	黒褐色	シルト	5YR5/8 明る褐色土・粘土質多量に含む。	
	9	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を確認し、7.5YR5/8 明る褐色土・粘土質多量に含む。	
	10	10YR3/2	黒褐色	シルト	2.5YR5/3 明る褐色土・5YR3/1 黒褐色土・粘土質多量に含む。	
カマド下	11	10YR2/2	黒褐色	シルト	7.5YR4/4 黑褐色土・粘土質多量に含む。	
	12	10YR4/4	黒色	粘土質シルト	10YR2/1 黑色土・粘土質多量に含む。	
	13	-	-	-	計測なし。	
	14	2.5YR3/1	暗褐色	シルト	過剰により 2.5YR4/6 黑褐色に変色退化。	
	15	2.5YR4/4	にじく赤褐色	シルト	過剰により硬。	
	16	3YR5/2	暗褐色	シルト	2.5YR4/6 黑褐色土・炭化物を含む。	
	17	10YR3/2	暗褐色	シルト	10YR4/2 灰褐色土・ブロックを含む。	
	18	10YR3/2	灰褐色	シルト		
	19	10YR3/2	暗褐色	シルト	10YR4/2 灰褐色土・ブロックを多量に含む。	
	20	10YR3/2	暗褐色	シルト		
	21	10YR4/3	にじく黄褐色	シルト		
SI90 重複堆積上付近						
部位	層位	土色	土性		備考	
P1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR4/4 にじく黄褐色土・ブロックを少額、下部に炭化物・土塊を確認に含む。	
P2	-	-	-	-	計測無なし。	
P3	-	-	-	-	計測無なし。	

SI90 重複堆積上付近				
測量名	平面形	周縦(m)	深さ(cm)	備考
P1	不規	87(24)	6	
P2	楕円形	33 × 27	8	
P3	楕円形	(21) × 15	15	



第130図 SI89豎穴住居跡出土遺物

### SI90 豊穴住居跡(第131・132図)

【位置・確認】 V区中央・C-8グリッドに位置する。北壁コーナー付近と南西部を除き、重複遺構(SI76・77・86・87)と搅乱により失われている。南壁は、重複遺構により失われており、南壁際を周ると考えられる周溝のみ検出した。

【重複】 SI76・77・86・87と重複関係にあり、これより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北474cm、東西420cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 北壁基準でN-55°-Eである。

【堆積上】 4層に分層された。1～3層は住居堆積土で、黒褐色シルトを主体とする。4層は、周溝堆積土である。

【壁面】 やや内湾して立ち上がる。残存する壁高は、最大24cmを測る。

【床面】 北壁付近が6cmほど高くなる。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から4基検出した。規模と位置関係からP1は、主柱穴に相当するものと考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、幅12～15cm、深さ6cmを測る。

測量名	平面形	周縦(m)	深さ(cm)	備考	写真 回数
1 Kd-006	VK	SB89	住居堆積土	石製品 木製品 全長 幅 厚 3.5 4.6 1.7 20.39 石製品山の頂 海貝灰 木材形状不明、複数枚目に二次加工あり、御酒(2面) 漆喰(2面)あり、漆喰(2面)あり	76

【カマド】 検出されなかった。元より付設されなかつたのか、重複造構により失われたのか不明である。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 掘り方を持たない。

【出土遺物】 土師器壺1点・甕2点、土製品1点、金属製品1点を掲載した(第132図)。

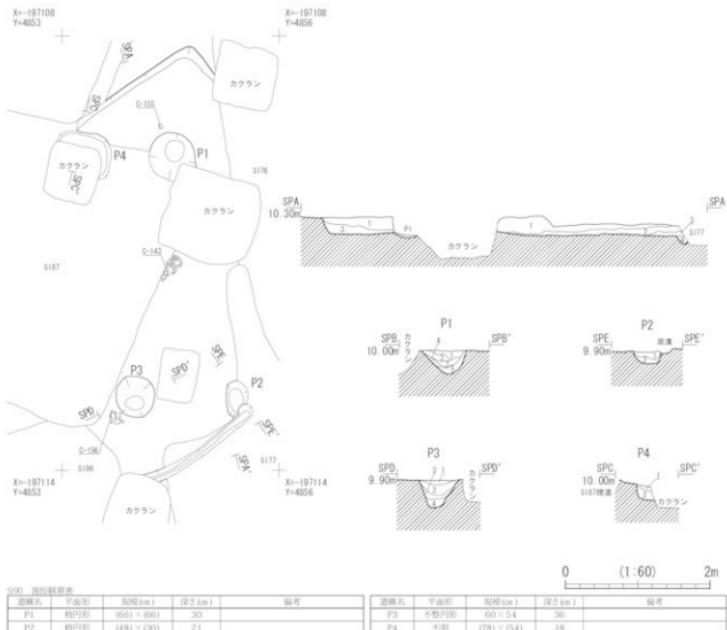
土師器壺は、床面直上から出土した小型の壺である。底部は平底で、わずかに上げ底状になる。球形に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部外面ヘラミガキ、体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ、体部内面ヘラナデが施され、内面は、黒色処理される。1の内面には、赤色顔料の付着がみられた。

土師器甕2点は、床面直上からの出土である。2・3の胴部は長胴で、胴部の最大径は、2は中位、3は上位に持つ。3の口縁部は外反する。口縁部と胴部の境は、共に段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデが施される。

土製品は土製勾玉で、住居堆積土からの出土である。

金属製品は楔で、住居堆積土からの出土である。

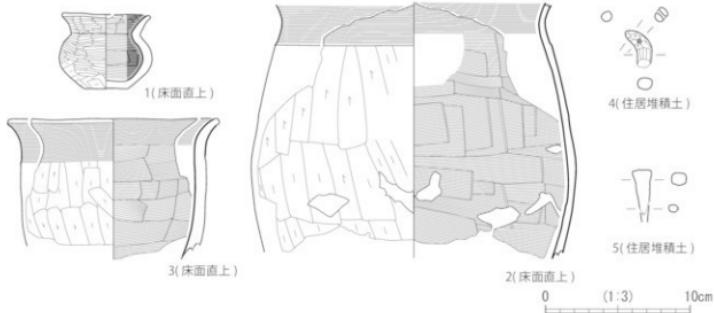
【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器壺(1)・土師器甕(2・3)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、5a期(7世紀中葉～後葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第131図 S190竪穴住居跡

590. 実機+特記表					
部位	層位	土色	土性	備考	
住居堆積土	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR5/布と黒褐色シルトブロックを多量。
	2	10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土ブロックを多量。
	3	10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色シルトブロックを多量。下部に 10YR5/5 黒褐色シルトを含む。
斑端	4	-	-	-	計量なし。

590. 実機+特記表					
部位	層位	土色	土性	備考	
P1	1	10YR3/3	黒褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土ブロックを多量。10YR4/4 黒褐色土ブロックを少量。7.5YR5/5 黒褐色砂土をわずかに含む。
	2	10YR3/3	黒褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土ブロックを多量。10YR4/4 黒褐色土ブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR4/4 黒褐色土ブロックをわずかに含む。
P2	4	10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR2/1 黒褐色土を少額含む。
	5	10YR3/2	黒褐色	粘性シルト	10YR1/4 黑褐色土ブロックを少額含む。
P3	1	10YR3/3	黒褐色	シルト	10YR2/1 黑褐色土ブロックを少額含む。
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR2/2 黑褐色土ブロックを少額含む。
	3	10YR3/3	黒褐色	シルト	10YR4/3 ごく少額の瓦礫や陶器片を含む。
P4	4	10YR3/3	黒褐色	粘性シルト	10YR4/4 黑褐色土ブロックを少額含む。
	5	10YR4/3	灰青・黒褐色	粘土質シルト	10YR5/1 黑褐色土ブロックを多量。10YR4/4 黑褐色土ブロックを少額含む。



回数 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	基盤	部位	法量(cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 回数
								(上)	(中)	(下)				
1	C-155	V区	S90	床面直上	土解剖	面	完形	6.1	2.9	5.3	10YR2/2 10YR4/4 黑褐色土ブロックを多量。10YR5/5 黑褐色土を少額含む。	10YR2/2 10YR4/4 黑褐色土ブロックを多量。10YR5/5 黑褐色土を少額含む。	内面黑色處理、体部内面に朱色染付	76
2	C-143	V区	S90	床面直上	土解剖	面	第一解	-	-	(17.3)	10YR2/2 10YR4/4 黑褐色土ブロックを多量。10YR5/5 黑褐色土を少額含む。	10YR2/2 10YR4/4 黑褐色土ブロックを多量。10YR5/5 黑褐色土を少額含む。	内面黑色處理、体部内面に朱色染付	76
3	C-156	V区	S90	床面直上	土解剖	面	第一解	(14.6)	-	(9.7)	10YR2/2 10YR4/4 黑褐色土ブロックを多量。10YR5/5 黑褐色土を少額含む。	10YR2/2 10YR4/4 黑褐色土ブロックを多量。10YR5/5 黑褐色土を少額含む。	内面黑色處理	76

回数 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	基盤	部位	法量(cm)			重量(g)	特徴・備考	写真 回数
								(全長)	(幅)	(厚)			
4	F-020	V区	S90	住居堆積土	土解剖	塊玉	-	(2.6)	1.0	0.7	(2.9)	円、孔径1.5cm	76
5	N-007	V区	S90	住居堆積土	沙漬	陶器	(3.1)	1.3	0.9	(0.4)	-	-	76

第132図 SI90 穴穴住居跡出土遺物

### SI91 壁穴住居跡(第133図)

【位置・確認】 V区西半、B-8グリッドに位置する。大半を重複構造(SI78・94)と搅乱により失われており、住居南東部のみを検出した。

【重複】 SI78・94と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北231cm、東西257cmを測る。平面形状は、不明である。

【方向】 東壁基準でN-28°Wである。

【堆積土】 褐色シルトの単層で、暗褐色土ブロックを少量含む。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大6cmを測る。

【床面】 平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から3基検出した。P1では柱痕跡が確認されたが、これら柱穴の性格は不明である。

【周溝】 検出していない。

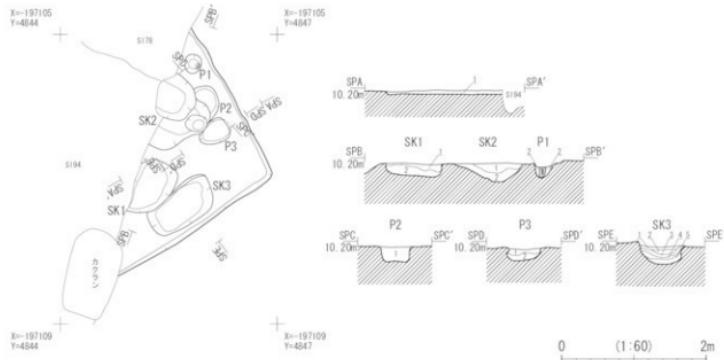
【カマド】 検出していない。

【その他の施設】 床面から土坑3基を検出した。平面形状は、SK1が不整梢円形、SK2が不整形、SK3が長方形である。堆積土は黒褐色土を主体とし、にぶい黄褐色土ブロックを含む。

【掘り方】 掘り方を持たない。

【出土遺物】 堆積土から、土器師の破片が少量出土しているが、図化できるような遺物はなかった。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)と考えられるSI 78より古いことから、本竪穴住居跡の時期は、5a期以前と考えられる。



SI 91 堆積土目録表				備考
部位	層位	土色	土性	
付近堆積土	1	IOYR4/4	褐色	シルト 10YR3/1暗褐色土ブロックを少量含む。
SI 91 堆積土付近	1	IOYR3/2	黒褐色	泥炭物質を微量に含む。(柱跡跡)
	2	IOYR4/2	灰褐色	シルト 10YR3/4にぶい黄褐色土ブロックを含む。
P1	1	-	-	柱穴なし。
	2	IOYR3/2	黒褐色	シルト 10YR3/2暗褐色土ブロックを含む。
P2	1	-	-	柱穴なし。
	2	IOYR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/3にぶい黄褐色土ブロックを含む。
P3	1	IOYR5/3	にぶい黄褐色	シルト 10YR5/1黒褐色土ブロックを含む。
	2	IOYR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/3にぶい黄褐色土ブロックを含む。
SK1	1	IOYR5/1	黒褐色	シルト 10YR5/1にぶい黄褐色土ブロックを含む。
	2	IOYR3/1	黒褐色	シルト 10YR3/2にぶい黄褐色土ブロックを含む。
SK2	1	IOYR2/1	黒褐色	シルト 10YR3/1にぶい黄褐色土ブロックを含む。
	2	IOYR3/2	にぶい黄褐色	シルト 10YR3/1にぶい黄褐色土ブロックを含む。
SK3	1	IOYR3/2	黒褐色	シルト 10YR3/4にぶい黄褐色土ブロックを含む。
	2	IOYR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/4にぶい黄褐色土ブロックを含む。
SK4	3	IOYR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/4にぶい黄褐色土ブロックを含む。
	4	IOYR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/4にぶい黄褐色土ブロックを含む。
SK5	5	IOYR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/4にぶい黄褐色土ブロックを含む。

SI 91 地盤試験表				
地盤名	平面形	周縁(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	27 × 21	30	
P2	不規	48 × 27	21	
P3	梢円形	42 × 30	15	
SK1	不整梢円形	90 × 60	7.5	
SK2	不整形	108 × 72	27	
SK3	長方形	102 × 54	24	

第133図 SI 91 竪穴住居跡

### SI92 竪穴住居跡(第134・135図)

【位置・確認】 V区西端、A-8グリッドに位置する。北側・南側は、重複遺構(SI82)と擾乱により失われている。西側は調査区外にかかる。

【重複】 SI82と重複し、これより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は南北174cm、東西261cmを測る。平面形状は、不明である。

【方向】 東壁基準でN-4°-Eである。

【堆積土】 2層に分層された。1層は住居堆積土で、暗褐色砂質シルトである。2層は、周溝堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾する。残存する壁高は、最大9cmを測る。

【床面】 概ね平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 4基検出した。いずれも、性格は不明である。

【周溝】 検出した範囲では、壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は幅12～21cm、深さ6cmを測る。

【カマド】 検出していない。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 掘り方を持たない。

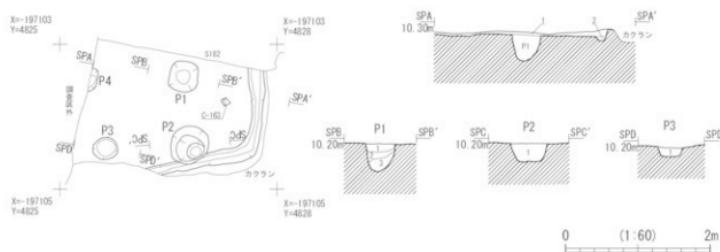
【出土遺物】 土師器環2点・壺1点・甕1点を掲載した(第135図)。

土師器環2点は、いずれも住居堆積土からの出土である。1は、内湾する体部から、わずかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面へラミガキ、体部外面へラケズリ、内面へラミガキが施される。2は、内湾する体部から屈曲して外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部内外面ヘラナデ、体部外面ヘラナデが施される。

土師器壺は、住居堆積土からの出土である。頸部と体部の境は屈曲し、頸部は外傾して立ち上がる。調整は、外面ヘラミガキ、内面ヘラナデのち一部ヘラミガキが施される。

土師器甕は、床面直上からの出土である。胴部と底部の境は括れを持ち、底部は突出する。調整は、胴部外面ハケメのちヘラナデ、内面ヘラナデが施される。底部の突出部分は、ヘラケズリが施される。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器甕(4)は本竪穴住居跡に伴うと考えられるが、明確な時期は導き出せない。しかし、本書の時期区分5b ii期(8世紀前葉)の土器を伴うSI82より古いことから、本竪穴住居跡の時期は5b ii期以前と考えられる。

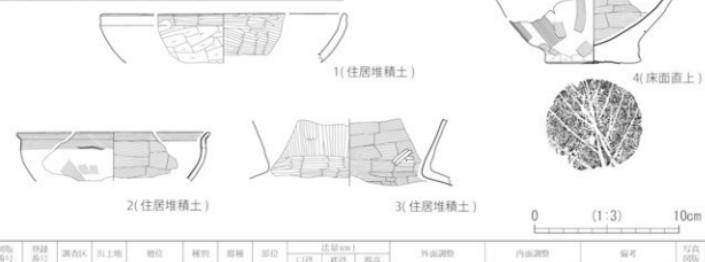


第134図 SI92竪穴住居跡

部位	層位	土色	土性	備考
(住居堆積上)	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト
面溝	2	-	-	日本ならし。

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 灰白色粘土ブロックを微量、炭化物を少混合。
	2	10YR2/3	黒褐色	粘性シルト 褐色土ブロックをわずかに含む。
	3	10YR2/3	黒褐色	粘性シルト 焼土をわずかに含む。
P2	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト 炭化物をわずかに含む。
P4	1	-	-	粘性シルト 灰白色粘土ブロックを多量、炭化物を少混合。
P4	2	-	-	粘性シルト 断面均等。

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 灰白色粘土ブロックを微量、炭化物を少混合。
P2	1	10YR2/3	黒褐色	粘性シルト 褐色土ブロックをわずかに含む。
P2	2	10YR2/3	黒褐色	粘性シルト 焼土をわずかに含む。
P4	1	10YR3/3	暗褐色	シルト 炭化物をわずかに含む。
P4	2	10YR3/3	暗褐色	粘性シルト 灰白色粘土ブロックを多量、炭化物を少混合。



第135図 SI 92竪穴住居跡出土遺物

### SI93 竪穴住居跡(第136・137図)

【位置・確認】 V区西半、A-8・9グリッドに位置する。西壁・カマドの一部と北壁・東壁は、重複構造(SK 7、SI80・84)により失われている。南側は、調査区分外にかかる。

【重複】 SI80・83・84、SK7と重複関係にあり、SI83より新しく、SI80・84、SK7より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北640cm、東西408cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマド基準でN-58°Wである。

【堆積土】 3層に分層された。1層は住居堆積土で、暗褐色粘土質シルトを主体とし、黒褐色土を多量に含む。2・3層はカマド関連層位で、黒褐色粘土質シルトを主体とし、焼土粒を含む。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大15cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から2基検出した。位置関係と柱跡痕を確認したことから、P1は主柱穴に相当すると考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、南西コーナー付近を壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅27cm、深さ5cmを測る。

【カマド】 西壁中央に位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部の一部と煙道部は、重複構造により失われている。

残存する袖の規模は、南袖が長さ60cm、幅45cm、北袖が長さ75cm、幅36cmを測る。西壁に対して両袖ともほぼ直交する。

燃焼部の規模は、奥行き66cm、幅48cm、奥壁高6cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は奥壁に向かって下がり、奥壁は外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 床面から土坑1基を検出した。SK1は、北袖の直近に位置し、炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。

【掘り方】 掘り方を持たない。

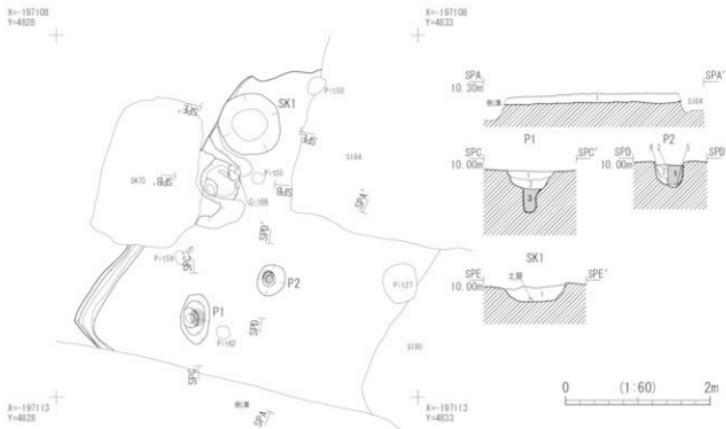
【出土遺物】 土師器壺1点・甕1点、石製品1点を掲載した(第137図)。

土師器壺は、住居堆積土からの出土である。底部は丸底で、扁平に内湾する体部から、外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。

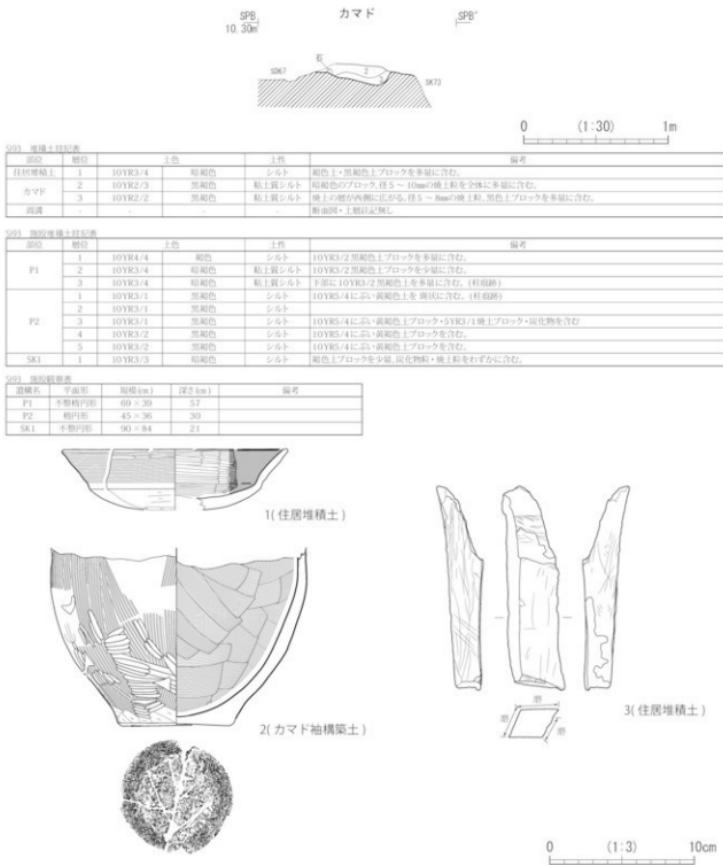
土師器甕は、カマド北袖構築土からの出土である。胴部は長財で、胴部の最大径を下位に持つ。底部の周縁には、粘土の貼付がみられる。調整は、胴部外面ハケメのち一部ヘラミガキ、下端ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。

石製品は長方形状を呈する砥石で、住居堆積土からの出土である。表面及び両側面に砥面が形成されており、線条痕を作り。線条痕の多くは砥行為に伴うと考えられるが、左側縁の痕跡の一部は不規則に蛇行し、傷も深く付けられていることから、研ぎに伴う痕跡とは異なる可能性がある。表面では器体上半の素材面にも砥面が形成されている。石材は粘板岩を使用している。

【時期】 上記の遺物のうち、カマド袖構築土から出土した土師器甕(2)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられるが、胴部資料であり明確な時期は不明である。遺構の重複関係では、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)と考えられるS180・84より古いことから、本竪穴住居跡は、5a期以前と考えられる。



第136図 SI93竪穴住居跡(1)



固施 施号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	層種	部位	法厚(cm)			外面部調整			内部調整			写真 図版
								(上)壁	(中)柱	(下)底	(上)壁	(中)柱	(下)底	(上)壁	(中)柱	(下)底	
1	C-164	V1K	S93	住居堆積上	土解離	灰	1.14m ～底	(15.6)	-	(4.2)	1.14m(12.7) ～底(11.5)	-	0.93m(4)	内面凹凸化、外面摩耗	76		
2	C-166	V1K	S93	カマド 袖構築上	土解離	灰	1.14m ～底	-	7.9	(12.3)	1.14m(12.7) ～底(11.5)	～底(6.6)	0.93m(4)	内面凹凸化、外面摩耗	76		

固施 施号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	層種	部位	法厚(cm)			石材	重量(g)	编考	写真 図版	
								(上)壁	(中)柱	(下)底					
3	Kd-008	V1K	S93	住居堆積上	石剥離	砾石	14.1	4.3	3.2	140.72	粘土質	0.93m(3)	縦条痕あり	76	

第137図 SI93豎穴住居跡(2)-出土遺物

### SI94 竪穴住居跡(第138・139図)

【位置・確認】 VI区西半、B-8グリッドに位置する。住居西半部と東壁の一部を検出した。中央から東半部は、重複遺構(SI78、SD64・65)と擾乱により失われている。

【重複】 SI78、SD64・65と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北498cm、東西516cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 西壁基準でN.5°-Eである。

【堆積土】 3層に分層された。1・2層は住居堆積土で、暗褐色シルトを主体とする。3層は、周溝堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大9cmを測る。

【床面】 平坦である。基本層IV層上面を床面としている。

【柱穴】 床面で4基検出した。このうちP3は、位置関係と柱痕跡が確認されたことから、主柱穴に相当すると考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、断続的に壁際に沿って固る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅9~24cm、深さ9cmを測る。

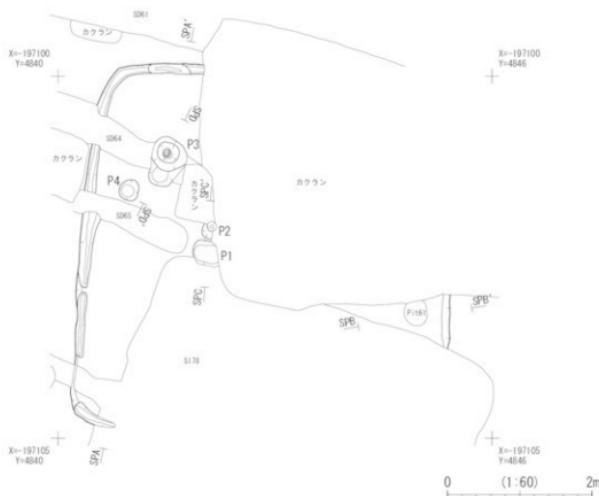
【カマド】 検出されなかった。元より付設されなかつたのか、擾乱により失われたのか不明である。

【その他の施設】 検出していない。

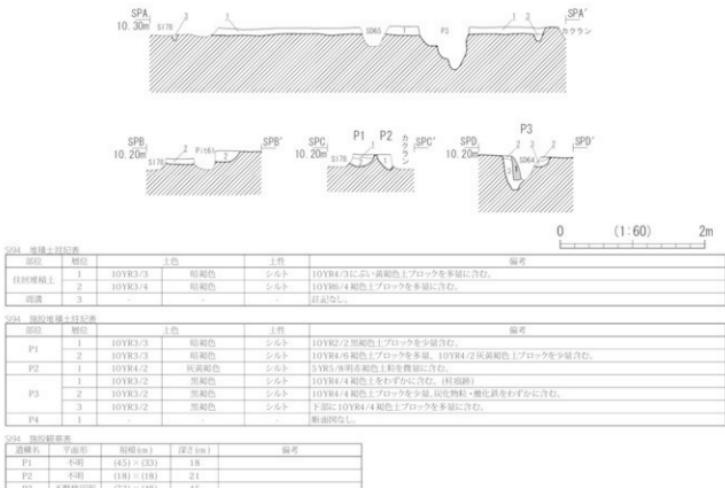
【掘り方】 掘り方を持たない。

【出土遺物】 堆積土から、土器師の破片が少量出土しているが、図化できるような遺物はなかった。

【時期】 作る土器はないが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉~後葉)と考えられるSI78より古いことから、本竪穴住居跡の時期は、5a期以前と考えられる。



第138図 SI94竪穴住居跡(1)



第139図 SI94豎穴住居跡(2)

### SI95 豊穴住居跡(第140～142図)

【位置・確認】 V区西半、B-8グリッドに位置する。南東コーナーと南壁の一部は、擾乱により失われている。本豎穴住居跡では、住居南側で建て替えの痕跡を確認した。新段階では、南壁を最大60cmほど縮小して建て替えが行われており、古段階で検出したのは南壁と西壁・東壁の一部および周溝である。ここでは新段階をSI 95A、古段階をSI 95Bとして記述する。

【重複】 検出した範囲においては、SI78・91・94と重複関係にあり、これらより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、SI 95Aは南北336cm、東西348cm、SI 95Bは南北395cm・東西372cmを測る。平面形状は、SI 95Aは方形で、SI 95Bは長方形と推定される。

【方向】 カマド煙道部基準でN-19°-Eである。

【堆積土】 9層に分層された。1～3層は住居堆積土で、暗褐色・黒褐色シルトを主体とし、炭化物・焼土粒を含む。4・5層は、周溝堆積土である。6層はカマド間連層位で、暗褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物を含む。燃焼部前面の床面上には、炭化物範囲が拭がる。7・8層はカマド構築上で、暗褐色シルトを主体とする。9層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大18cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦で、南半部が若干高くなる。9層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から1基検出した。規模と位置関係から、P1は主柱穴に相当すると考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、SI 95Aはカマド直下と南壁中央を除き壁際に沿って周る。SI 95Bは、南壁と西壁は壁際に沿って周り、東側は壁からやや離れた位置を周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、SI 95Aが幅12～

27cm、深さ15cm、SI95Bが幅9～15cm、深さ9cmを測る。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に対して直交して付設される。袖の規模は、西袖が長さ66cm、幅39cm、東袖が長さ54cm、幅27cmを測る。北壁に対して、西袖は東傾、東袖は西傾する。燃焼部の中央やや西側からは、支脚と考えられる自然礫が直立した状態で検出された。

燃焼部の規模は、奥行き60cm、幅51cm、奥壁高9cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面はほぼ平坦で、奥壁は外傾して立ち上がる。

煙道部の規模は、長さ204cm、幅33cm、深さ6～18cmを測る。底面は、緩やかな起伏があり、奥壁側にテラス状の段を持つ。

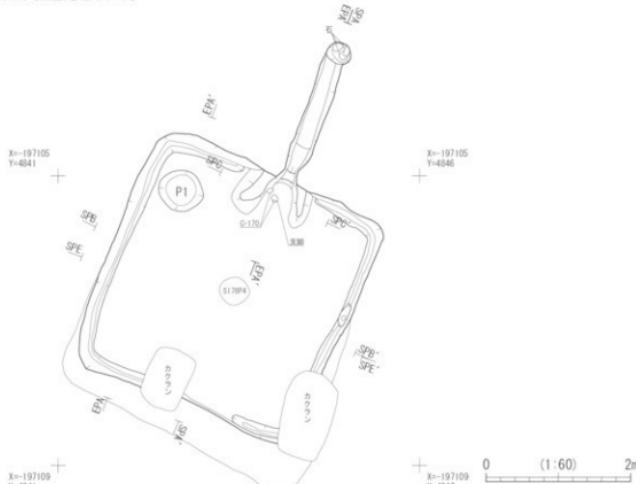
煙出し部の規模は、上端径33cm、煙道部からの深さ9cmを測り、ピット状に窪む。底面は皿状で、壁面は直線的に外傾して立ち上がる。底面からは、自然礫を検出した。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 深さ2～15cmを測る。

【出土遺物】 土師器環4点・甕1点を掲載した(第142図)。

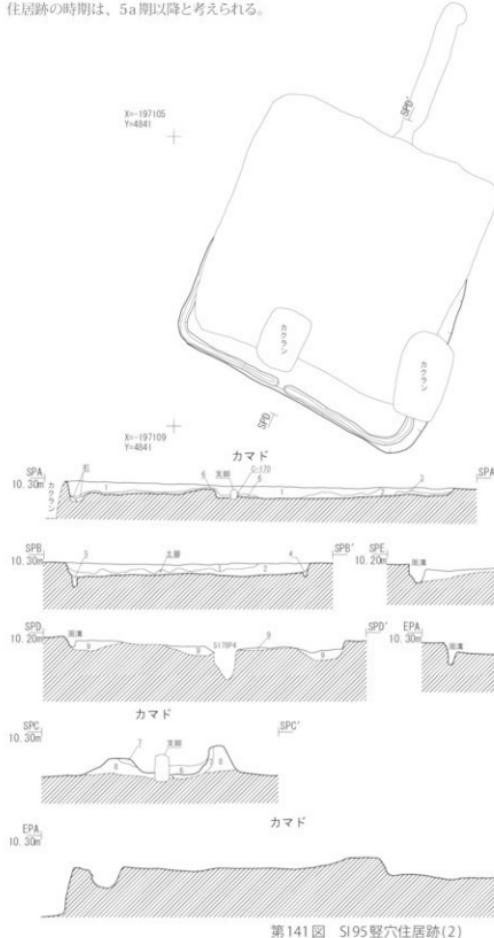
土師器環4点は、1・3はカマド堆積土、2・4は住居堆積土からの出土である。3は燃焼部から浮いた状態で、支脚によりかかって出土した。1は、底部は丸底と推定され、半球形に内湾して体部から口縁部にいたる器形を呈する。調整は外面へラケズリのちヘラミガキ、内面へラミガキが施される。内面は、黒色処理される。2～4は、底部は丸底もしくは丸底と推定され、扁平に内湾する体部から、外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に2は不明瞭な段、3・4は段を持ち、内面はいずれも稜を持つ。調整は、2は内外面へラミガキ、3は口縁部外面ヨコナデ、体部外面および内面へラミガキ、4は口縁部ヨコナデ、体部外面へラケズリ、内面へラミガキが施される。3・4の内面は、黒色処理される。



第140図 SI95 縦穴住居跡(1)

土師器表は、煙出し部からの出土である。長胴の胴部から外反する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大形を下位に持つ。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケメのち下半ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)と考えられるSI78より新しいことから、本堅穴住居跡の時期は、5a期以降と考えられる。



第141図 SI95堅穴住居跡(2)

## 595 窓棊土目記表

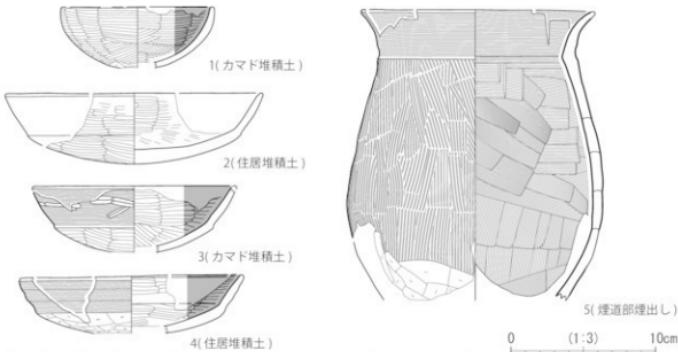
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	IOYR3/4	暗褐色	シルト 炭化物・焼土を含む。標面に黑色上ブロックを含む。
	2	IOYR3/4	暗褐色	シルト 褐色上ブロック・炭化物・焼化粧土を含む。
	3	IOYR2/3	黒褐色	シルト 炭化物を含む。焼化粧土を含む。
窓溝	4	IOYR3/4	暗褐色	シルト 炭化物を含む。焼化粧土を含む。
	5	IOYR3/4	暗褐色	シルト 窓溝上を窓溝土層に含む。
カマド	6	IOYR3/4	暗褐色	シルト 標面に上部窓溝上ブロックを斑状に、燃焼部は焼土層・同化物を含む。
	7	IOYR3/3	暗褐色	シルト 窓溝を瓦礫層に含む。
カマド植	8	IOYR3/4	暗褐色	シルト 窓溝を瓦礫層に含む。
	9	IOYR3/4	暗褐色	シルト 上部の IOYR3/2 黒褐色土を標面に、IOYR4/4 暗褐色上ブロックを多量に含む。

## 595 窓棊土目記表

部位	層位	土色	土性	備考
PT	1	IOYR3/4	暗褐色	シルト 褐色上ブロックを含む。
	2	IOYR4/4	褐色	シルト 褐色上ブロックを少量含む。
	3	IOYR3/3	暗褐色	シルト 褐色上ブロックを含む。
	4	IOYR3/4	暗褐色	シルト 褐色上ブロックを含む。

## 595 3D断面図表

断面名	平面形	高さ(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	63 ± 57	15	



第142図 SK95 窓棊土目記表

## SI101 積穴住居跡(第143図)

【位置・確認】 17街区中央、X-7・8グリッドに位置する。北西コーナーおよび北壁・カマドの一部と南半部は、重複遺構(SK95、Pit5)と搅乱により失われている。

【重複】 SK95、Pit5と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北135cm、東西324cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマド基準でN-44°Wである。

【堆積土】 大別12層、細別15層に分層された。1～4層は住居堆積土で、灰黄褐色シルトを主体とし、焼土・炭化物粒を含む。5層は、窓溝堆積土である。6・7層はカマド関連層位で、6層は天井崩落土、7b層は炭化物・灰・焼土

を互層状に含む。8・9層はカマド袖構築土である。10～12層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大9cmを測る。

【床面】 やや起伏する。10・11層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から3基検出した。P1・2は、規模と位置関係、柱痕跡が確認されたことから、主柱穴に相当すると考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、カマド直下を除き壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅12～21cm、深さ4～13cmを測る。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に対して直交して付設される。東袖の一部は、擾乱により失われている。また、煙道部は検出していない。西袖の規模は、長さ60cm、幅24cm、東袖の規模は、長さ48cm、幅30cmを測る。北壁に対して、両袖とも直交する。両袖の先端から、カマド袖の芯材として使用されたと考えられる自然礫を検出した。

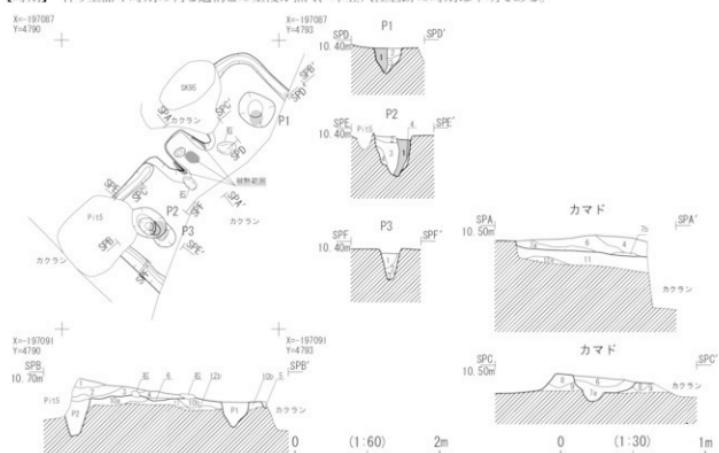
燃焼部の規模は、奥行き60cm、幅33cm、奥壁高8cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は平坦で、奥壁寄りにピット状の落ち込みを持ち、奥壁に向かって緩やかに上がる。奥壁は、外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは6～21cmを測る。

【出土遺物】 堆積土中より土師器の破片が少量出土しているが、図化できるような遺物はなかった。

【時期】 伴う土器や時期の判る遺構との重複が無く、本竪穴住居跡の時期は不明である。



S1101 地質土工記載表

部位	種別	土色	土性	備考
住居構成土	1	10YR4/2	灰褐色	シルト 径10mmのIV級ブロックを多量に含む。下部に径10～20mmの砂が薄く埋在。
	2	10YR4/3	に赤い黄褐色	シルト 径5mmのIV級ブロックを多量含む。
	3	10YR4/2	灰褐色	シルト 径5mmのIV級ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	4	10YR4/4	褐色	シルト 径10～20mmのIV級ブロックを多量、砂粒・炭化物を微量に含む。
周溝	5	10YR3/2	灰褐色	シルト 径5mmのIV級ブロックを多量含む。
	6	10YR5/3	に赤い黄褐色	粘土質シルト 径5mmのIV級ブロックを多量、炭化物、砂粒を微量に含む。(天井崩落上)
	7a	N2/0	褐色	シルト 炭化物・灰を微量・種々量に含む。
カマド	7b	10YR3/2	灰褐色	シルト 炭化物・灰を微量・種々量に含む。(カマド壁引き出し土)

第143図 S1101竪穴住居跡